

病院年報 第39号(令和4年度)

令和4年度 第39号

病院年報

桐生地域医療組合
桐生厚生総合病院



巻 頭 言

院 長 加 藤 広 行

皆様、こんにちは。平素より大変お世話になっております。

このたび、桐生厚生総合病院の令和4（2022）年度の年報を上梓いたしましたので、謹んでお届けいたします。ご笑納いただければ幸甚に存じます。



さて、2022年を振り返りますと、2000年から引き続き、新型コロナウイルス感染症に振り回された1年であり、感染状況は7月からの「第7波」、11月からの「第8波」と多数の感染者が発生しました。しかし2023年5月8日より感染症法において新型コロナウイルスの「5類移行」に伴い、これまでの「全数把握」による毎日の感染者数の発表が中止となり、

「定点把握」による発表となりました。2023年夏ごろ、群馬県内で感染者が微増しておりますが、医療機関の逼迫状態には達していない状況であります。今後もコロナ感染対策の必要性が続きますので、関係者ならびに医療従事者にはご理解とご協力をお願い申し上げる次第であります。

また、2022年2月末に勃発したロシアのウクライナ侵攻は、現在もなお戦争が続いている状況で、エネルギー問題や食糧問題などで世界中を巻き添えにしています。2023年夏においても紛争は終わりが見えない状況となり、政治的、経済的、軍事的な戦いとして長期化し続けるであろう。今世紀では、核なき世界的な平和を望む限りです。

一方では地球温暖化および異常気象について改めて検討すべき時機であろうと思います。国内では、2022年2月に各地で記録的大雪が発生し、一部の町では観測史上最高の積雪になり、6月には東京で観測史上最長になる猛暑日や8月に東北で発生した豪雨災害など、各地で異常気象が発生し続けています。2023年になっても自然災害は増え続けており、観測史上最大の降水量や観測史上最高の気温などの異常気象が頻回に起こっております。以前に人類滅亡の脅威として、核の脅威、気候変動、感染症の猛威、資源の枯渇などが示されていましたが、近年にそれぞれの脅威が身近に近づいている気がいたします。

さて、当院では一昨年に引き続き、米国週刊誌「Newsweek」による、世界基準の優良な医療機関を評価したランキング「World's Best Hospitals 2023」の日本版に3年連続で選出されました。この評価は、当院の職員一人ひとりの尽力の賜物であり、大変光栄なことで心より職員全体に感謝申し上げたいと考えております。

今後も、地域における少子高齢化、人口減少などの課題が山積みではありますが、これらに対応できる病院機能を確保しつつ、かつ持続可能な医療提供体制を目指したいと考えております。皆様のご支援、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

最後に令和4年度に群馬県医師会、桐生市医師会の皆様、および群馬大学附属病院をはじめとする県内医療機関の各関係者に格別なるご指導とご支援を頂戴しましたことに衷心より感謝し御礼申し上げます。

目 次

まえがき

I	病院の現況と沿革	1
1	病院の現況	1
(1)	病院の概況	1
(2)	組合構成団体の地勢と位置	5
2	病院の沿革	6
II	組 織	14
1	組 織 図	14
2	管理職員氏名	15
3	職員数の推移	20
4	年度別職種別職員数	21
5	歴代管理者・副管理者及び院長	22
6	組合議会の現況	23
(1)	議会の開会経過	23
(2)	議会議員氏名等	24
(3)	議会議決事項等	25
7	管理者・副管理者会議	26
8	医療組合各種委員氏名等	26
9	会計監査開催状況	27
10	公平委員会開催状況	27
11	病院倫理委員会開催状況	27
12	医師確保対策事業について	27
III	会 議 等	28
1	委員会組織図	28
IV	教育研修	29
1	病院実習	29
2	医師臨床研修制度	33
V	経営状況	36
1	比較損益計算書	36
2	比較貸借対照表	37
VI	重要な成果	38
1	The World's Best Hospitals 3年連続受賞	38
2	外来番号制の導入	38
3	合同シンポジウムの開催	39

VII	業務概要	40
1	診療圏患者受診状況	40
2	入院・外来患者状況	41
3	科別入院患者数	42
4	科別外来患者数	43
5	科別時間外受診患者状況	44
5-1	小児科時間外受診患者状況（再掲）	44
5-2	科別時間外診察費特別料金徴収対象患者状況	45
5-3	月別時間外診察費特別料金徴収対象患者状況（再掲）	45
6	科別救急搬送患者状況	46
7	年齢別患者年報（年度別）	46
8	死亡・剖検数の疾病分類	47
	退院患者疾病大分類統計	53
9	手術	54
	（1）科別・麻酔別手術件数	54
	（2）科別・疾患別手術件数	55
10	内視鏡患者数	61
11	分娩件数・内訳	63
12	新生児未熟児センター	63
13	ICU・CCU入室患者数	64
	ICU・CCU稼働率	64
14	腎センター	65
	（1）慢性透析の概要	65
15	人間ドック・健康診断等	65
	（1）人間ドック・健康診断利用者数	65
16	薬剤部	66
	（1）処方箋枚数と院外処方箋発行率	66
	（2）医薬品使用状況	66
	（3）麻薬施用状況	66
	（4）薬事審議委員会審議医薬品件数	67
	（5）DIへの項目別問合せ件数	68
	（6）特殊調剤・特殊製剤	69
	（7）注射薬セット	70
	①入院注射（TPN含む）件数	70
	②がん化学療法件数	70
	（8）薬剤管理指導業務	70
	①服薬指導件数	70
	②がん化学療法件数	71
	③病棟業務実施加算1	71
	④病棟業務実施加算2	71

(9) 持参薬報告件数	71
(10) 無菌製剤調製	72
17 リハビリテーション科	73
(1) 理学療法	73
(2) 作業療法	73
(3) 言語療法	74
18 放射線科・放射線技術科	75
(1) 部門別年度別総件数	75
(2) 一般撮影部門	75
(3) マンモグラフィ部門	75
(4) ポータブル撮影部門	76
(5) CT部門	76
(6) MRI部門	76
(7) 循環器部門	77
(8) 透視(X-TV)部門	78
(9) RI部門	78
(10) 放射線治療部門	79
(11) 骨密度検査部門	79
(12) 画像入出力部門	79
19 中央検査部・病理診断科	80
(1) 検査種目別件数の推移	80
(2) 検査種目別件数の構成比	80
(3) 年度別検査項目別件数	81
(4) 剖検件数	82
(5) 細胞診件数	82
(6) 細菌同定検査情報	83
(7) 外部委託検査件数	84
(8) 血液製剤使用状況	85
(9) 血液製剤購入・廃棄状況	86
(10) 自己血採血状況	87
(11) お手軽けんさ	87
20 栄養管理科	89
(1) 患者延食数	89
(2) 個人指導件数	90
(3) 選択食延食数	91
(4) お祝い膳延食数	91
21 臨床工学科	92
(1) 医療機器管理	92
(2) 臨床技術提供	92

22	通院治療センター	94
23	再診電話受付受診件数	95
	(1) 診療科別	95
	(2) 市町村別	96
24	診断書文書作成件数	96
25	専門外来件数	97
26	医療の質（臨床指標：クリニカル・インジケーター）	97
	(1) 病院全体のクリニカル・インディケーター	97
	① 病床利用率、平均在院日数	97
	② 救急車搬入患者数	97
	③ 退院後6週間以内の緊急入院率	97
	④ 24時間以内の再手術率	97
	⑤ 年間退院患者に占めるがん患者の割合	98
	⑥ 2週間以内の退院サマリー作成率	98
	⑦ 剖検率	98
	⑧ ワーファリン服用患者における出血傾向モニタリング(INR)	99
	⑨ 輸血製剤廃棄率	100
	⑩ 意見箱投書(感謝の占める割合)	101
	⑪ 褥瘡発生率	101
	(2) 感染のクリニカルインディケーター	102
	① 血液培養での表皮ブドウ球菌コンタミネーション率	102
	② 血液培養のボトルが複数提出された患者の割合	103
	③ MRSA検出状況	104
	(3) 医療安全のクリニカルインディケーター	105
VIII	チーム医療	106
1	医療安全対策委員会	106
2	病院感染対策委員会・感染対策室・ICT（・AST）	107
3	褥瘡対策委員会	108
4	クリニカルパス委員会	110
5	NST委員会	111
6	呼吸器サポートチーム(RST)委員会	112
7	医療ホスピタリティ推進委員会	114
8	輸血療法委員会	116
IX	地域医療連携室	117
1	医療相談業務	117
2	科別紹介患者数・入院	119
3	科別紹介患者数・外来	119
4	地域別紹介患者数・入院	120
5	地域別紹介患者数・外来	120

6	科別戻し・逆・新規紹介患者数	121
7	地域別戻し・逆・新規紹介患者数	121
8	科別紹介患者数(当日救急対応分)	122
9	科別事前予約患者数	123
10	オンライン検査予約	123
11	母体搬送・新生児搬送受入れ数	124
12	在宅医療未熟児等一時受入事業	124
13	退院調整患者数	124
X	地域がん診療連携拠点病院	125
1	がん相談支援センター	125
2	院内がん登録	126
3	化学療法委員会	126
4	緩和ケアチーム	127
5	がん患者サロン（サロンあおぞら）	128
6	キャンサーボード	128
XI	地域支援活動	129
1	地域講演会	129
2	地域への情報提供	131
3	母親学級	135
4	職場体験受入	135
5	極低出生体重児の親の会「クラブ・プリミー」	136
6	桐生市堀マラソン大会の支援	136
7	リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2022ぐんま	136
8	令和4年度（第4回）桐生厚生総合病院連携登録医大会	136
XII	研修業績	137
1	学会及び院外研修会	137
2	学会発表・講演・論文	147
3	主な講演会・研修会	162
4	研修実績	164
XIII	災害拠点病院	176
1	指定要件	176
2	群馬県の災害拠点病院	176
3	DMA T	176
XIV	各部署の紹介	177

XV	病院施設及び医療機器	210
1	建設改良工事等	210
2	病院施設設備の概要	211
3	主な医療機器購入一覧表	215
XVI	図 書	216
1	受入図書	216
2	購入雑誌	220
XVII	病院行事	223
1	主な行事	223
2	職員健康管理	223
3	職員共済会	224
XVIII	付属施設等	225
1	群馬県立赤城特別支援学校桐生厚生総合病院内教室	225
2	感染症病床	227
XIX	編集委員・部員名簿	228

《基本理念》

信頼され、心が通う地域医療

《基本方針》

- 1 患者さんの権利を尊重します。
- 2 患者さん自身で治療を選べるよう、わかりやすく十分に説明します。
- 3 地域の急性期医療を担います。
- 4 地域の医療・介護機関と緊密に連携します。
- 5 診療の質を高めるため、研鑽・研修に努めます。
- 6 医療の安全確保に努めます。
- 7 効率的で健全な病院経営を目指します。
- 8 職員が誇りを持って働ける病院を目指します。

《患者さんの権利》

- 1 個人として尊重され、適切で良質な医療を平等に受けられます。
- 2 プライバシー・個人情報保護が保たれます。
- 3 診療に関して、わかりやすい説明を受けられます。
- 4 検査・治療について、自らの意思で選択できます。
- 5 他の医師の意見（セカンドオピニオン）を聞くことができます。
- 6 診療記録の開示を請求することができます。

《患者さんの責務》

- 1 自身の健康に関する情報を正確に伝えてください。
- 2 納得できるよう、わからないことは質問してください。
- 3 自身の医療に積極的に参加してください。
- 4 他の患者さんの診療に支障を来さないよう配慮してください。
- 5 院内の規則や医療者の指示を守ってください。
- 6 教育病院として多くの実習生が研修していますので、ご理解ください。
- 7 診療費は適切にお支払いください。

I 病院の現況と沿革

1 病院の現況（令和4年3月31日現在）

（1）病院の概況

名称	桐生厚生総合病院
所在地	〒376-0024 群馬県桐生市織姫町6番3号 電話番号 (0277) 44-7171 代表 FAX番号 (0277) 44-7170 U R L https://www.kosei-hospital.kiryu.gunma.jp/ E-mail webmaster@kosei-hospital.kiryu.gunma.jp
開設者	桐生地域医療組合（桐生市とみどり市で共同設置）
管理者	荒木 恵 司（桐生市長）
副管理者	須藤 昭 男（みどり市長）
病院長	加藤 広 行
標榜科目	内科、精神科、神経内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、血管外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓外科、乳腺外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、麻酔科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、救急科、緩和ケア内科、歯科・歯科口腔外科
施設	敷地面積 17,220.57 m ² 建物面積 34,088.69 m ² 〔地下1階（一部地下2階）・地上8階・養護学校 582.710 m ² 含む〕
病床数	一般病床 429床 感染症病床 4床 計 433床
病院機能評価認定	一般病院2（3rdG:Ver.1.1）
診療指定	保険医療機関 国保療養取扱機関 労災保険指定病院 指定難病指定医療機関 救急告示指定病院 短期人間ドック 生活保護法指定病院 養育医療機関指定病院 群馬県エイズ診療協力病院 第二種感染症指定医療機関 地域がん診療連携拠点病院 災害拠点病院（地域災害医療センター） 災害派遣医療チーム群馬 DMAT 指定病院 群馬県地域周産期母子医療センター 原爆被爆者一般疾患医療取扱病院 指定小児慢性特定疾病医療機関 肝疾患専門医療機関 指定自立支援医療機関（育成・更生医療・精神通院医療） 母体保護法指定医 身体障害者福祉医療指定医 地域医療支援病院
教育指定	臨床研修病院（平成14年4月1日厚生労働省指定） 日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定施設（内科系） 日本呼吸器学会認定施設 日本小児科学会専門医研修施設 日本周産期・新生児医学母体・胎児認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本外科学会認定医制度修練施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本乳癌学会認定医・専門医制度関連施設 日本呼吸器外科学会専門医制度関連施設 日本消化器外科学会専門医制度修練施設 日本脈管学会認定研究関連施設 日本整形外科学会認定医制度研修施設

日本脳神経外科学会専門医認定制度指定訓練場所
 日本脳卒中学会研修教育病院認定
 日本皮膚科学会認定専門医研修施設
 日本泌尿器科学会専門医教育施設
 日本産科婦人科学会認定医制度卒後研修指導施設
 日本眼科学会専門医制度研修施設
 日本耳鼻咽喉科学会専門研修施設
 日本麻酔科学会麻酔指導病院
 日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
 日本病理学会研修認定施設
 日本臨床細胞学会認定施設
 日本臨床腫瘍学会認定研修施設
 日本静脈経腸栄養学会実地修練認定教育施設
 日本栄養療法推進協議会NST稼動施設
 日本口腔外科学会専門医制度関連研修施設認定
 日本輸血・細胞治療学会I & A認定施設
 日本臨床衛生検査技師会精度保証施設
 認定臨床微生物検査技師制度研修施設
 認定輸血検査技師制度指定施設

施設基準

- 基本診療科の施設基準等に関する届出
 - ・急性期一般入院基本料1 ・入退院支援加算1(地域連携診療計画加算・入院時支援加算・総合機能評価加算)
 - ・ハイケアユニット入院医療管理料1 ・新生児特定集中治療室管理料2
 - ・小児入院医療管理料3
 - ・地域歯科診療支援病院歯科初診料 ・歯科外来診療環境体制加算2
 - ・歯科診療特別対応連携加算 ・臨床研修病院入院診療加算(基幹型)
 - ・医師事務作業補助体制加算1(25対1)
 - ・栄養サポートチーム加算
 - ・医療安全対策加算1(地域連携加算)
 - ・感染対策向上対策加算1(地域連携加算・抗菌薬適正使用加算)
 - ・診療録管理体制加算1 ・がん診療連携拠点病院加算
 - ・病棟薬剤業務実施加算1、2 ・後発医薬品使用体制加算1
 - ・救急医療管理加算 ・超急性期脳卒中加算
 - ・妊産婦緊急搬送入院加算 ・データ提出加算
 - ・患者サポート体制充実加算 ・急性期看護補助体制加算(25対1)
 - ・療養環境加算 ・重症者等療養環境特別加算
 - ・報告書管理体制加算
 - ・ハイリスク妊娠管理加算 ・ハイリスク分娩管理加算
 - ・呼吸ケアチーム加算 ・認知症ケア加算2
 - ・せん妄ハイリスク患者ケア加算 ・排尿自立支援加算
 - ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算 ・地域医療体制確保加算
 - ・地域包括ケア病棟入院料2 ・回復期リハビリテーション病棟入院料3
- 特掲診療料の施設基準等に関する届出
 - ・薬剤管理指導料
 - ・検体検査管理加算(I) ・検体検査管理加算(IV)
 - ・小児科外来診療料 ・小児食物アレルギー負荷検査
 - ・喘息治療管理料 ・糖尿病合併症管理料
 - ・がん性疼痛緩和指導管理料 ・がん患者指導管理料イ・ロ・ハ・ニ
 - ・がん治療連携計画策定料 ・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
 - ・外来腫瘍化学療法診察料1 ・連携充実加算 ・無菌製剤処理料

- ・乳がんセンチネルリンパ節加算 1 及びセンチネルリンパ節生検 (併用)
- ・糖尿病透析予防指導管理料 ・ 二次性骨折予防継続管理料 1
- ・二次性骨折予防継続管理料 2 ・ 二次性骨折予防継続管理料 3
- ・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定
- ・肝炎インターフェロン治療計画料
- ・夜間休日救急搬送医学管理料の注 3 に掲げる救急搬送看護体制加算
- ・療養・就労両立支援指導料の注 3 に規定する相談支援加算
- ・開放型病院共同指導料
- ・医療機器安全管理料 1 ・ 医療機器安全管理料 2
- ・H P V 核酸検出及びH P V 核酸検出 (簡易ジェノタイプ判定)
- ・遺伝子学的検査 ・ 神経学的検査
- ・脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)
- ・運動器リハビリテーション料 (I)
- ・呼吸器リハビリテーション料 (I)
- ・摂食機能療法の注 3 に規定する摂食嚥下機能回復体制加算 1
- ・がん患者リハビリテーション料
- ・人工腎臓 (慢性維持透析 1) (導入期加算 1) (透析液水質確保加算)
- ・一酸化窒素吸入療法 ・ C A D / C A M 冠
- ・ニコチン依存症管理料 ・ 内服・点滴誘発試験
- ・外来排尿自立指導料 ・ 下肢末梢動脈疾患指導管理加算
- ・ヘッドアップティルト試験 ・ 悪性腫瘍病理組織標本加算
- ・補聴器適合検査 ・ C T 透視下気管支鏡検査加算
- ・C T 撮影及びM R I 撮影 ・ 大腸C T 撮影加算
- ・医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 に掲げる手術
- ・輸血管管理料 I (輸血適正使用加算)
- ・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
- ・麻酔管理料 (I) ・ 放射線治療専任加算 ・ 外来放射線治療加算
- ・高エネルギー放射線治療 ・ 経皮的冠動脈形成術
- ・経皮的冠動脈ステント留置術
- ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
- ・大動脈バルーンパンピング法 (I A B P 法)
- ・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術 ・ 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
- ・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術 ・ 人工尿道括約筋植込・置換術
- ・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術 ・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
- ・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術 ・ 病理診断管理加算 1
- ・歯科疾患管理料の注 11 に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料
- ・クラウン・ブリッジ維持管理料 ・ 地域連携診療計画加算
- ・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
- ・強度変調放射線治療 (I M R T) ・ 1 回線量増加加算
- ・画像誘導放射線治療 (I G R T) ・ 体外照射呼吸性移動対策加算
- ・定位放射線治療
- ・心臓ペースメーカー指導管理料の注 5 に掲げる遠隔モニタリング加算
- ・婦人科特定疾患治療管理料 ・ B R C A 1 / 2 遺伝子検査
- ・先天性代謝異常症検査 ・ 小児運動器疾患指導管理料
- ・椎間板内酵素注入療法
- ・精密触覚機能検査 ・ 腹腔鏡下仙骨腫固定術
- ・医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則の 16 に掲げる手術
- ・胃瘻造設時嚥下機能評価加算 ・ 外来栄養食事指導料の注 2

診 療 時 間
人 間 ド ッ ク
腎 セ ン タ ー
通 院 治 療 セ ン タ ー
救 急 体 制
高 度 医 療 機 器

リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 科
新 生 児 未 熟 児 施 設
特 定 集 中 治 療 室
病 理 組 織 検 査 施 設
職 員 数

○入院時食事療養の基準等に関する届出

・入院時食事療法(I)…1食につき・特別食加算…1食につき・食堂加算
午前8時45分から午後5時30分まで

1日ドック週5回

ベッド数 13床 定数 25名

ベッド数 12床

救急治療室、救急指定、第二次救急病院群輪番制

ライナック、全身用マルチスライスCT(128列)2台、

連続血管撮影装置、MRI(1.5T・3T)2台

リハビリテーション室、言語療法室、水治療法室

ベッド数 27床(NICU12床、GCU15床)

ベッド数 6床(ICU3床、CCU3床)

病理組織検査室、解剖室、標本室

総数 572人(令和5年3月31日現在)

(2) 組合構成団体の地勢と位置

当組合の構成市は、関東地方の北西部、群馬県の東端にあり、栃木県と隣接します。中央部を渡良瀬川が流れ県境とほぼ平行するように桐生川が流れています。やがて合流して関東平野へと続いて行きます。平成18年3月27日から桐生市とみどり市の2市から構成されており、人口は約15万人、面積は484km²でその75%以上が山林に占められていて典型的な盆地の地形と気象を呈しています。

医療組合構成団体の地勢



市名	人口(人)	世帯数
桐生市	102,018	44,577
みどり市	48,678	19,673
合計	150,696	64,250

令和 5. 3. 1 現在『群馬県移動人口調査』



交通 ● J R 桐生駅(南口)から徒歩約10分
● 東武新桐生駅から車で5分

2 病院の沿革

昭和 9年 2月11日	桐生市諏訪町(現東一丁目)881-1番地において、桐生医療購買利用組合立の「桐生組合病院」として病床数20床で発足した (診療科4科 医師4名 病床20床)
昭和16年12月26日	同年5月末日にさかのぼって群馬県購買販売利用組合連合会の経営となり、病院の名称も「桐生組合病院」から「桐生厚生病院」となる
昭和18年 2月	群馬県購買連は県信連と総合して群馬県信用販売購買利用連合会となる
昭和19年 1月	利用組合連合会が群馬県農業会に改組となる
昭和23年 8月16日	県農業会が解散したため群馬県生産農業共同組合連合会に委譲となる
昭和23年12月	桐生地方国民健康保険団体連合会が設立され、同年8月にさかのぼって生産農業協同組合連合会から一切を譲り受けた
昭和25年12月26日	診療科7科、外科・内科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・歯科及び理学診療科
昭和26年 4月 5日	地方自治法第284条による地方公共団体の組合として、桐生市外十二箇町村医療事務組合(構成市町村は、桐生市、大間々町、梅田村、相生村、川内村、福岡村、毛里田村、黒保根村、東村、新里村、笠懸村、藪塚本町及び強戸村)が設置され国保連合会から引き継がれた
昭和26年11月 1日	小児科標榜(8科)
昭和27年 4月 2日	2箇町村(栃木県小俣町と菱村)加入により桐生市外十四箇町村医療事務組合となる
昭和27年 8月18日	一般病床100床、結核病床60床、計160床
昭和29年 7月28日	一般病床108床、結核病床102床、計210床
昭和30年 8月 2日	梅田・相生・川内村が桐生市に、川内村の一部と福岡村が大間々町にそれぞれ合併になり桐生市外十箇町村医療事務組合となる
昭和32年度～ 昭和35年度	4箇年継続事業として、厚生年金保険積立金還元融資を受け、桐生市織姫町6番3号に鉄筋コンクリート6階建(延6,185.58㎡)を新築
昭和33年 9月16日	開設許可(群馬県指令医 第198号)
昭和34年11月 7日	町村合併(強戸村が太田市に、菱村が桐生市に合併した)により桐生市外八箇町村医療事務組合となる
昭和35年 6月14日	一般病床216床(2類看護)、結核病床71床(3類看護)、計287床
昭和35年 6月20日	諏訪町から現在地に移転
昭和35年 6月20日	開設届出(群馬県指令医 第112号)
昭和35年 9月30日	「総合病院」として承認され名称も「桐生厚生総合病院」となる 診療科10科、内科・小児科・外科・整形外科・皮膚泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・歯科及び理学診療科
昭和37年10月 6日	看護婦宿舎2階建新築(延1,207.50㎡)
昭和38年 7月29日	町村合併(坂西町「旧小俣町」が足利市に合併した)により桐生市外七箇町村医療事務組合(昭39.3.19)となる
昭和39年 9月28日	病棟、鉄筋コンクリート4階建(延1,264.64㎡)を増築、この病床数105床、全病床数は一部使用変更により一般病床314床、結核病床71床、計385床

昭和40年	1月26日	歯科診療廃止(9科となる)
昭和40年	4月26日	町村合併(毛里田村が太田市に合併した)により桐生市外六箇町村医療事務組合となる
昭和44年	3月24日	新病棟、鉄筋コンクリート2階建(延918.72㎡)を増築、この病床にコバルト室・ラジウム病床・手術室4室・リハビリテーション室等を設置した 病床数は377床(うち結核病床71床)となる
昭和44年	6月26日	病床数は383床(うち結核病床71床)となる
昭和45年	8月1日	脳神経外科を新設、診療科は10科となる
昭和46年	1月18日	結核病床を71床から32床減床し、一般病床に振り替えた 病床数は一部使用変更により一般病床348床、結核病床32床、計380床となり、結核病棟は6階から4階に移動した
昭和46年	5月20日	皮膚泌尿器科は皮膚科と泌尿器科に分かれ診療科は11科となる
昭和47年	8月14日	診療棟、3階建(延844.32㎡)を増築、小児科・脳神経外科・泌尿器科・皮膚科・眼科検査室・図書室・研究室などが入る 小児病棟、3階建(延411.42㎡)を増築、小児病棟は34床増えて一般病床382床、結核病床32床、合わせて414床となる
昭和48年	3月5日	独協医科大学研究室、2階建(延476.38㎡)を新築 病床数は一部使用変更により一般病床362床、結核病床32床、計394床
昭和48年	3月10日	一部使用変更により一般病床360床、結核病床32床、計392床となる
昭和48年	12月6日	看護婦宿舎・鉄筋コンクリート6階建(延2,954.64㎡)を新築した 定員:170人 所在地:織姫町5番43号
昭和48年	12月10日	看護婦宿舎の一部に院内託児所(桐の子保育所)を開設し、看護婦の幼児の保育を始めた
昭和49年	4月9日	桐生市立昭和小学校病弱学級を旧看護婦宿舎内に開設した
昭和49年	5月29日	伝染病隔離病舎・鉄筋コンクリート2階建(延669.86㎡)を病院敷地内に新築、伝染病舎の病床数は30床、一般360床・結核32床、計422床
昭和49年	8月27日	人工腎臓装置・循環器系X線装置等を設置し、小児病棟を10床増床して一般病床は370床となる(結核・伝染病床は変わらず)
昭和49年	9月28日	6階病棟が2床減床となり一般病床368床となる
昭和50年	11月17日	結核病床を15床減床して17床とした一般病床は12床増床して380床となり、合わせて病床数は427床となる(伝染病床数は30床のまま)
昭和53年	5月18日	独協医科大学研究室に3階(238.19㎡)を増築した
昭和54年	4月1日	病弱学級が群馬県立東毛養護学校桐生厚生総合病院分室となり、小・中学部を設置した
昭和55年	3月22日	中庭に管理・診療棟(223.487㎡)を増築、ギプス室・水治療室(ハバートタンク)・中央注射室・小会議室などを設置した
昭和55年	4月1日	養護学校分教室が東毛養護学校桐生分校に昇格した
昭和55年	4月7日	放射線科を標榜、診療科は12科となる
昭和56年	10月28日	一般病床380床、結核病床11床、伝染病床30床、合わせて421床となる。
昭和58年	6月11日	結核病床を廃止
昭和58年	7月4日	一般病床398床、伝染病床30床、合わせて428床となる
昭和59年	5月23日	桐生厚生総合病院開院50周年記念式典並びに祝賀会を開催(桐生市産業文化会館にて)

昭和59年10月1日	第101回定例議会終了後の全員協議会において病院増改築計画案が原案で了承された
昭和61年3月1日	第105回定例議会で病院増改築事業費(継続費)が承認された
昭和61年6月14日	病院増改築事業のため伝染病床30床の廃止が許可される
昭和61年10月30日	病院増改築第1期工事(病棟工事)に着手
昭和62年5月19日	中国陝西省人民医院と友好病院締結の調印式が行われた
昭和63年8月1日	神経内科を標榜、診療科は13科となる
昭和63年10月28日	病院増改築第1期工事(病棟工事)完成 新病棟は鉄骨鉄筋コンクリート造、地下1階(一部地下2階)地上8階建てで一般病床510床、伝染病床20床となる
昭和63年11月1日	心臓血管外科を標榜、診療科は14科となる
昭和64年1月1日	新病棟完成に伴い、看護基準・基準給食・寝具基準を再申請する
平成2年1月26日	病院増改築第2期工事(外来棟工事)完成
平成2年2月1日	麻酔科及び歯科を標榜、診療科は16科となる
平成2年5月7日	病院増改築第3期工事(外構工事)完成 病院増改築工事竣工
平成2年5月23日	病院増改築落成式
平成3年10月25日	中国陝西省人民医院との「友好病院締結に関する覚書」延長の調印式が行われた(中国西安)
平成6年5月16日	磁気共鳴断層撮影装置(MRI)の運用を開始する
平成6年6月1日	精神科と呼吸器外科を標榜、診療科は18科となる
平成8年7月31日	骨密度測定装置導入
平成8年7月31日	ICUの3床を2床に、NICU・新生児未熟児センターの16床を17床に変更
平成8年10月1日	中国陝西省人民医院との「盟約書及び盟約書に基づく友好病院締結に関する覚書」の調印式が行われた(中国西安)
平成9年3月27日	災害拠点病院として指定
平成9年4月1日	特定療養費に係る療養の提供実施(1,050円)
平成9年4月1日	標榜診療科変更届出(理学療法科からリハビリテーション科、歯科から歯科・歯科口腔外科へ変更)
平成9年8月18日	NICU改修工事着工
平成9年11月30日	NICU改修工事完成
平成11年3月31日	伝染病床20床廃止
平成11年4月1日	一般病床510床、感染症病床4床、合わせて514床となる
平成11年11月1日	オーダーリングシステム導入
平成12年11月1日	診療録等開示を開始
平成13年3月31日	院内保育所及び看護婦宿舎廃止
平成13年5月1日	桐生厚生総合病院のホームページを開設
平成14年4月1日	臨床研修病院として厚生労働省から指定
平成14年6月21日	院外広報誌<ほほえみ>創刊号発刊(以降3ヵ月毎に刊行)
平成14年11月18日	病院機能評価(一般病院種別B)の認定
平成15年1月23日	中国陝西省人民医院との「友好病院締結に伴う調印式」及び「人民医院院長へ名誉顧問称号の贈呈式」を行う

平成15年	2月	3日	感染症病棟の改修工事が完了し、感染症病棟4床及び人間ドック待合室・会議室等の使用を開始する
平成15年	4月	1日	回復期リハビリテーション病棟を6階東病棟に36床設置する
平成15年	4月	1日	地域医療連携室新設
平成15年	5月	1日	地域医療連携室を外来棟2階に移設し、外来棟1階に精神科を移設し、病棟1階に移設した中央注射室にて外来化学療法も開始した
平成15年	12月	1日	女性専用外来の開始(毎週月曜日午後、完全予約制)
平成16年	2月	9日	急性期患者への高度医療提供としてMRIを増設し、2基の運用を開始する
平成16年	3月	11日	コバルト照射治療を廃止し、放射線発生装置(ライナック)の施設検査の合格を受け運用を開始する
平成16年	5月	1日	循環器科を標榜、診療科は19科となる
平成16年	7月	1日	回復期リハビリテーション病棟を6階西病棟へ移設、11床増床し、43床とした
平成16年	8月	1日	亜急性期入院医療管理料(36床)の施設基準
平成16年	9月	1日	全館禁煙の実施
平成16年	10月	1日	放射線発生装置の運用により高エネルギー放射線治療等の施設基準
平成17年	3月	28日	藪塚本町が、新設合併により組合を脱退。(構成団体:1市2町3村)
平成17年	3月	31日	看護婦宿舎の解体工事により70台分の駐車場が整備された。
平成17年	4月	1日	亜急性期入院医療管理料(36床→30床)
平成17年	4月	1日	病院図書室開放
平成17年	6月	1日	お見舞いメールお届けサービス開始
平成17年	6月	1日	群馬県地域周産期母子医療センター
平成17年	6月	13日	桐生市、新里村、黒保根村編入合併により桐生市を形成 (構成団体:1市2町1村)
平成17年	12月	1日	再診電話当日受付開始
平成18年	3月	27日	笠懸町、大間々町、(勢多)東村新設合併によりみどり市を形成 (構成団体:2市)
平成18年	3月	27日	組合名称を「桐生地域医療組合」に変更し、2市で運営することとなる
平成18年	4月	1日	医療安全対策室を新設
平成18年	5月	1日	褥瘡対策室を新設
平成18年	6月	1日	敷地内禁煙
平成18年	7月	1日	禁煙外来を開設
平成18年	11月	1日	一般病棟入院基本料(7対1)施設基準 (特定集中治療室管理料及び新生児入院医療管理加算取下げ)
平成19年	1月	1日	亜急性期入院医療管理料(30床→24床)
平成19年	1月	31日	地域がん診療連携拠点病院として厚生労働省から指定
平成19年	2月	2日	患者さんの権利・責務制定
平成19年	3月	1日	亜急性期入院医療管理料(24床→6床)
平成19年	3月	1日	電子レセプト運用開始
平成19年	4月	1日	NICU病棟(6床→9床)、GCU病棟(11床→12床)に増床した
平成19年	4月	1日	入院基本料等(7対1看護)の施設基準(一般入院)第78号 457床から419床(休床35床+NICU3床)に変更
平成19年	4月	1日	医事システム入れ替え(HOPE WIN)

平成19年	4月	1日	がん相談支援センター開設
平成19年	7月	1日	DPC準備病院認定
平成19年	11月	18日	病院機能評価(Ver. 5.0)の更新認定
平成19年	11月	26日	病院情報システム(含電子カルテ)
平成20年	1月	7日	セカンドオピニオン外来開設
平成20年	4月	1日	臨床工学科設置
平成20年	4月	1日	初診に係る保険外併用療養費の改正(1,580円)
平成20年	6月	9日	地域医療連携室移設拡充工事完了
平成20年	11月	1日	回復期リハビリテーション病棟入院料(6階西病棟43床)を辞退
平成20年	12月	1日	6階西病棟を亜急性期病床37床・一般病床6床に移行 亜急性期入院医療管理料I(6階西病棟37床)を取得
平成21年	3月	31日	桐生厚生総合病院改革プラン策定
平成21年	3月	31日	日本輸血・細胞治療学会I&A認定施設
平成21年	4月	1日	お手軽けんさ開設
平成21年	5月	1日	オンライン検査(CT・MRI)予約システム(C@Rna:カルナ)導入
平成21年	7月	1日	DPC対象病院に移行
平成21年	7月	1日	乳腺外来開設
平成21年	7月	7日	フットケア外来開設
平成21年	10月	1日	バナー広告開設・患者サロン開設
平成22年	1月	6日	助産師外来開設
平成22年	3月	25日	ESCO事業者選定(H23.3.31 工事完了引渡)
平成22年	4月	1日	感染対策室新設
平成22年	6月	1日	亜急性期入院医療管理料I(37床→36床)
平成22年	8月	1日	小児時間外受診体制の新たな取組
平成23年	2月	1日	時間外診療費特別料金(3,360円)の徴収
平成23年	4月		群馬県の要請に基づき、医療救護班(医師1名・看護師2名・事務1名)派遣 【宮城県南三陸町・志津川中学校 3日～6日(4日間)】
平成23年	7月	12日	厚生労働省より、災害派遣医療チーム群馬DMAT病院に指定 【医師1名・看護師2名・薬剤師1名・事務1名】
平成23年	10月		地域医療再生基金補助金によるMRI(3.0T)、DSA(多目的血管撮影装置)導入
平成23年	12月		地域医療再生基金補助金による障害者歯科のための外来診療室改修工事等
平成24年	3月		地域医療再生基金補助金による小児周産期医療拡充整備事業 【NICU・GCU各3床増床、母児同室等の施設機器整備】
平成24年	4月	1日	地域再生基金実施に伴い、一般病床502床、感染症病床4床、計506床
平成24年	4月	1日	亜急性期入院医療管理料I(36床→35床)
平成24年	4月	1日	感染防止対策加算1の施設基準
平成24年	7月	1日	亜急性期入院医療管理料I(35床→29床)
平成24年	11月		ハッピー健康相談室(新規)
平成24年	11月	1日	病理診断部を中央検査部から分離
平成24年	12月	7日	病院機能評価(Ver. 6.0)の更新認定
平成25年	2月	1日	初診に係る保険外併用療養費の改正(2,100円)
平成25年	3月	1日	1階正面玄関横旧喫茶コーナーを「情報コーナー」として改装

平成25年	3月29日	第2期桐生厚生総合病院改革プラン策定
平成25年	4月1日	臨床研修病院入院診療加算(協力型から基幹型へ変更)
平成25年	7月1日	療養環境加算(75床)の施設基準
平成25年	7月1日	亜急性期入院医療管理料(29床→23床)
平成25年	12月1日	医師事務作業補助体制加算区分(25対1→30対1へ変更)
平成26年	2月1日	地域医療連携室だより「きずな」を発刊する
平成26年	2月1日	透析液水質確保加算(加算1→加算2へ変更)
平成26年	3月31日	桐生厚生総合病院ホームページ リニューアル
平成26年	4月1日	病理診断科を標榜、診療科は20科となる
平成26年	4月1日	循環器科を循環器内科に耳鼻咽喉科を耳鼻いんこう科に名称変更
平成26年	4月1日	消費税率改正に伴う使用料・手数料の料金改定
平成26年	4月1日	小児外来診療料の施設基準
平成26年	4月1日	HPV核酸同定検査(簡易ジェノタイプ)の施設基準
平成26年	4月1日	経皮的冠動脈形成術の施設基準
平成26年	4月1日	経皮的冠動脈ステント留置術の施設基準
平成26年	4月1日	腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術の施設基準
平成26年	4月1日	貯血式自己輸血管理体制加算の施設基準
平成26年	4月1日	腹腔鏡下肝切除術の施設基準の辞退
平成26年	6月18日	地域医療支援病院の承認
平成26年	7月1日	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術の施設基準
平成26年	7月1日	開放型病院共同指導料の施設基準
平成26年	7月1日	CAD/CAM冠の施設基準
平成26年	8月1日	小児食物アレルギーの施設基準
平成26年	8月1日	がん患者指導管理料2・3の施設基準
平成26年	9月1日	ハイケアユニット入院医療管理料1の施設基準
平成26年	9月30日	亜急性期入院医療管理料1(23床)終了
平成26年	10月1日	糖尿病透析予防指導管理料の施設基準
平成26年	10月23日	地域医療勉強会を桐生地域の医療機関等の従事者を対象に開催する
平成26年	12月20日	日本輸血・細胞治療学会I&Aの更新認定
平成27年	1月10日	病院情報システムの更新拡充
平成27年	2月21日	多数傷病者受入訓練の実施
平成27年	3月2日	地域医療再生基金補助金により非常用発電装置拡充更新事業完工
平成27年	4月1日	心臓血管外科を心臓外科に変更し、血管外科、救急科、緩和ケア内科を標榜、診療科は23科となる
平成27年	5月1日	持続血糖測定器加算の施設基準
平成27年	5月1日	皮下連続式グルコース測定の施設基準
平成27年	7月1日	CT透視下気管支鏡検査加算の施設基準
平成27年	12月2日	院外骨塩定量(骨密度)検査の実施
平成28年	3月1日	病棟薬剤業務実施加算1の施設基準
平成28年	4月1日	乳房MRI撮影加算の施設基準
平成28年	7月1日	総合評価加算の施設基準
平成28年	8月1日	病棟薬剤業務実施加算2の施設基準
平成28年	9月1日	下肢末梢動脈疾患指導管理加算の施設基準

平成28年10月	1日	地域包括ケア病棟入院料1の施設基準
平成28年11月	1日	認知症ケア加算2の施設基準
平成29年	1月1日	呼吸ケアチーム加算の施設基準
平成29年11月	18日	病院機能評価 3rdG:Ver1.1 更新認定
平成30年	4月1日	感染防止対策加算1(抗菌薬適正使用支援加算)の施設基準 後発医薬品使用体制加算1の施設基準
平成30年	5月1日	入退院支援加算1(地域連携診療計画加算・入院時支援加算)の施設基準
平成30年	6月1日	悪性腫瘍病理組織標本加算および遺伝子学的検査の施設基準
平成30年	7月1日	強度変調放射線治療 (IMRT) の施設基準 診療録管理体制加算1(加算2→加算1)の施設基準 医療安全対策加算1(医療安全対策地域連携加算1)の施設基準 夜間休日救急搬送医学管理料(救急搬送看護体制加算)の施設基準
平成30年	8月1日	回復期リハビリテーション病棟を6階西病棟に31床設置する 回復期リハビリテーション病棟入院料6の施設基準 地域包括ケア病棟を6階西病棟から4階東病棟へ移設(44床)
平成30年10月	1日	平成30年4月の診療報酬改定で、紹介状なしで400床以上の地域医療支援病院を受診した患者等へ定額負担を徴収することに伴い次に係る保険外併用療養費の改正を行う 初診に係る保険外併用療養費の改正(2,160円→5,400円) 再診に係る保険外併用療養費の設定(2,700円) 時間外診療費特別料金の改正(3,460円→5,400円)
平成30年11月	1日	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術の施設基準
平成31年	2月1日	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術の施設基準
平成31年	3月1日	回復期リハビリテーション病棟入院料3(入院料6→入院料3)施設基準
平成31年	3月7日	日本輸血・細胞治療学会輸血機能評価認定制度(I&A)の更新認定
令和元年	9月1日	急性期看護補助体制加算 25対1(50対1→25対1) セカンドオピニオン外来無料化
令和元年10月	1日	消費税率改正に伴う使用料・手数料の料金改定
令和2年	4月1日	一般病床429床、感染症病床4床、合わせて433床となる 通院治療センター(9床)開設 医師事務作業補助体制加算1(30対1→25対1へ変更)の施設基準 せん妄ハイリスク患者ケア加算の施設基準 排尿自立支援加算の施設基準 地域医療体制確保加算の施設基準 入退院支援加算1(総合機能評価加算)の施設基準 心臓ペースメーカー指導管理料 がん患者指導管理料ニの施設基準 婦人科特定疾患治療管理料の施設基準 BRCA1/2 遺伝子検査の施設基準 先天性代謝異常症検査の施設基準
令和2年	5月1日	小児運動器疾患指導管理料の施設基準 椎間板内酸素注入療法の施設基準
令和2年10月	1日	新生児特定集中治療室管理料2(12床→9床)の施設基準

令和	3年	4月	1日	小児入院医療管理料3(管理料2→管理料3)の施設基準 連携充実加算の施設基準 外来栄養食事指導料の注2に規定する施設基準 通院治療センター増床(9床→12床)
令和	3年	8月	1日	小児入院医療管理料3(15床→9床)の施設基準
令和	3年	9月	1日	精密触覚機能検査の施設基準
令和	3年	10月	1日	新生児特定集中治療室管理料2(9床→6床)の施設基準
令和	4年	2月	1日	医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術の施設基準 胃瘻造設時嚥下機能評価加算の施設基準
令和	4年	3月	1日	腹腔鏡下仙骨腫固定術の施設基準
令和	4年	3月	14日	電子カルテシステムの更新
令和	4年	4月	1日	外来腫瘍化学療法診察料1の施設基準 摂食機能療法の注3に規定する摂食嚥下機能回復体制加算1の施設基準
令和	4年	6月	1日	栄養サポートチーム加算の施設基準 二次性骨折予防継続管理料1の施設基準 二次性骨折予防継続管理料2の施設基準 二次性骨折予防継続管理料3の施設基準
令和	4年	7月	1日	補聴器適合検査の施設基準
令和	4年	10月	1日	看護職員処遇改善評価料の施設基準
令和	5年	1月	1日	貯血式自己血輸血管管理体制加算の施設基準の辞退 療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算の施設基準 小児入院医療管理料4の施設基準の辞退 報告書管理体制加算の施設基準

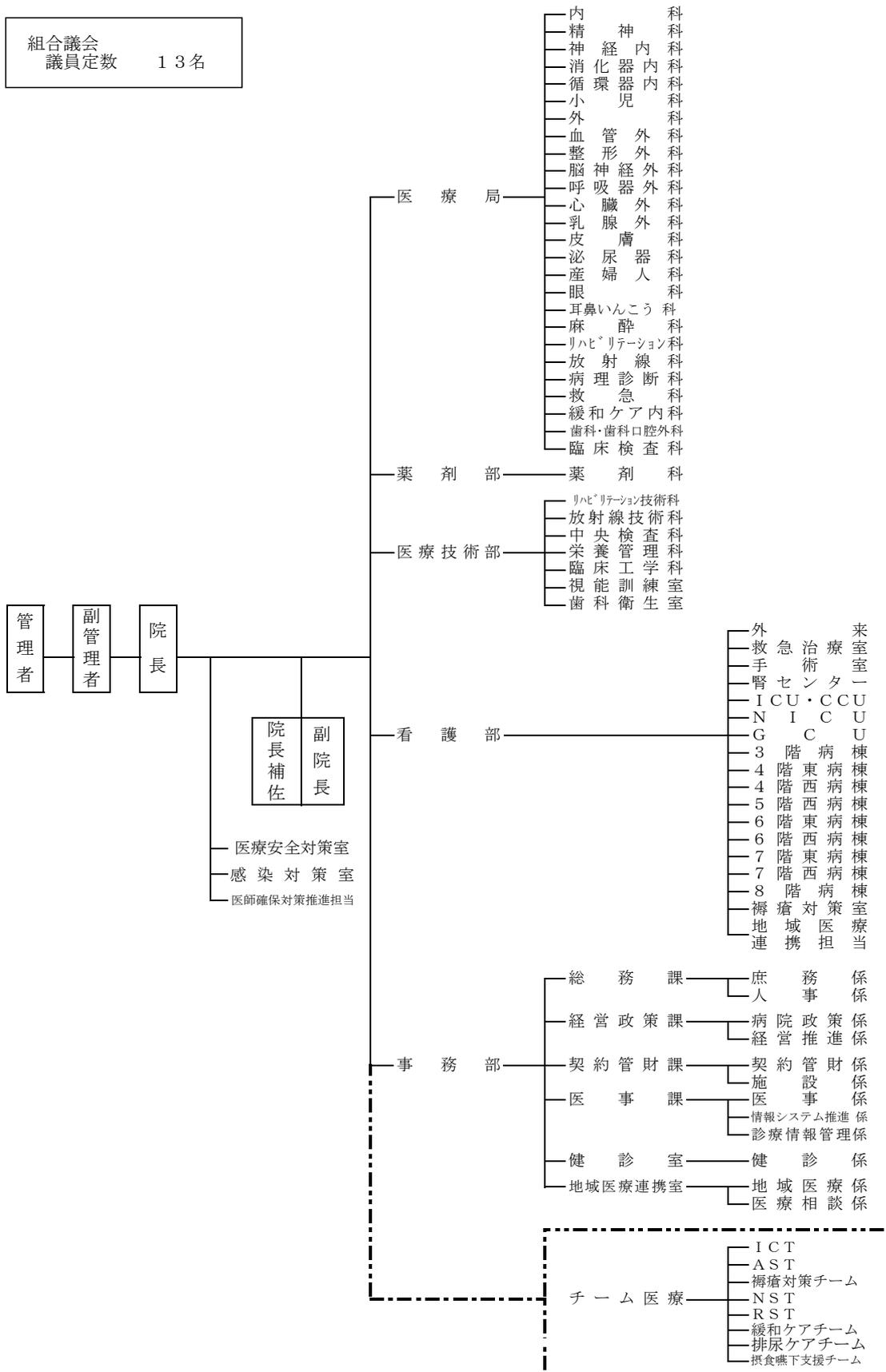
II 組織

1 組織図

桐生地域医療組合院
桐生厚生総合病院

(令和5年3月31日現在)

組合議会
議員定数 13名



2 管理職員氏名

(令和5年3月31日)

管理者 荒木 恵司 (桐生市長)

副管理者 須藤 昭男 (みどり市長)

所 属	役 職 名	氏 名	摘 要
	院 長	加 藤 広 行	兼外科部長
	院 長 補 佐	高 橋 満 弘	兼副院長兼放射線科部長兼健診室長
	副 院 長	曲 澤 聡	兼脳神経外科部長兼医療技術部長 兼地域医療連携室長
	〃	森 永 暢 浩	兼外科部長兼感染対策室長
	〃	岡 田 克 之	兼皮膚科部長兼医療安全対策室長
	医 療 局 長	飯 田 智 広	兼内科部長
医 療 局 (内 科)	部 長	飯 田 智 広	兼医療局長
	〃	加 嶋 耕 二	
	〃	小 野 昭 浩	
	〃	野 中 真 知	
	〃	菅 間 一 乃	
	医 長	大 澤 翔	
	〃	堀 口 英 孝	
	〃	竹 原 和 達	
	〃	福 地 崇	
	〃	相 川 しのぶ	
(神 経 内 科)	部 長	高 田 しのぶ	
(循 環 器 内 科)	部 長	桑 原 涉	兼臨床工学科部長
(小 児 科)	〃	大 木 康 史	
	〃	鈴 木 尊 裕	
	〃	袖 野 玲 子	
	〃	浦 野 博 央	
	〃	関 根 和 彦	
	〃	齊 藤 亜 希 子	
(外 科)	部 長	加 藤 広 行	院長
	〃	森 永 暢 浩	兼副院長兼感染対策室長
	〃	和 田 涉	
	〃	緒 方 杏 一	
	〃	木 村 明 春	
(整 形 外 科)	医 員 長	奥 山 隆 之	
	〃	斯 波 俊 祐	兼リハビリテーション科部長
	〃	下 山 大 輔	
	〃	角 田 陽 平	
	部 長	小 板 橋 佑 輔	
	医 員	工 藤 千 佳	
(脳 神 経 外 科)	部 長	曲 澤 聡	副院長兼医療技術部長兼地域医療 連携室長

(脳神経外科)	部長	橋場康弘	兼副院長兼医療安全対策室長	
(乳腺外科)	部長	石井希和		
(皮膚科)	部長	森下亜希子		
(泌尿器科)	部長	岡田克之		
	〃	上井崇智		
	〃	岡本亘平		
(産婦人科)	部長	鏡拓磨		
	〃	定方久延		
	〃	矢崎淳		
(眼科)	部長	丸山泰弘		
	〃	田村明洋		
(耳鼻いんこう科)	部長	梅村崇		
	〃	山田由貴		
(麻酔科)	部長	佐藤淳		
	〃	塚越裕		
	〃	入内島伸尚		
(リハビリテーション科)	部長	高瀬友彰		兼整形外科部長
	〃	斯波俊祐		
(放射線科)	部長	有阪眞由美	兼院長補佐兼副院長兼健診室長	
	〃	高橋満弘		
	〃	村松博之		
(病理診断科)	部長	小林茂		
(救急科)	部長	伴聡		
(歯科・歯科口腔外科)	部長	萩原周一		
	〃	今井正之		
(臨床検査科)	部長	田中舞	兼小児科部長	
薬剤科	部長	河井利恵子		
	科長補佐	細谷潤		
	〃	森田由香利		
	〃	根岸由美		
	係長	矢古字由佳		
医療技術部	部長	曲澤聡	副院長兼脳神経外科部長兼地域医療連携室長	
リハビリテーション技術科	部長	勝山典年		
	科長補佐	飯塚史子		
	係長	橋場聡志		
放射線技術科	部長	磯昌宏		
	科長補佐	林克政		
	〃	小林誠		
	〃	高林啓司		
	〃	見留豊久		
	係長	須永眞一		
	〃	中村昌弘		
中央検査科	部長	梶田幸夫		

中央検査科	科長補佐 技師長 " " " " 係長	三田修道 金井尚美 鈴木晶子 田村典子 永井羊子 今泉智博 高田剛	
栄養管理科	科長	小林誠	
臨床工学科	係長	三木康正	
看護部 (救急治療室) (外来) (手術室) (腎センター) (ICU・CCU) (NICU) (GCU) (3階病棟) (4階東病棟) (4階西病棟) (5階西病棟)	看護部長 副看護部長 " " " " 看護副師長 看護師長 事務取扱 看護副師長 " 看護師長 看護副師長 " 看護師長 看護副師長 " 看護師長 看護副師長 " 看護師長 看護副師長 " 看護師長 看護副師長 " 看護師長 看護副師長 " 看護師長 看護副師長 " 看護師長 看護副師長 " 看護師長 看護副師長 " 看護師長 看護副師長 " 看護師長 看護副師長 " 看護師長 看護副師長 " 看護師長 看護副師長 " 看護師長 事務取扱 看護副師長	粕川由貴子 鈴木由美子 堀越美智代 井上由子 関靖枝 上原美奈子 荒川浩 井上由子 小野里貴子 朽津麻美 深井昌美 奥村佳恵 西場里香 佐藤祥代 高草木綾 古澤悟 深井昌美 小澤裕美 石川典子 鈴木美樹 阿左美まゆ美 小林孝子 小林葉子 林由里 小林千恵 鈴木ひろ美 鈴木久美 山口景子 岡村美幸 野村美菜子 高山明美 大川里美 関靖枝 田中愛	兼8階病棟看護師長事務取扱 兼救急治療室看護師長事務取扱 兼5階西病棟看護師長事務取扱 兼地域医療連携室主幹兼医療相談 係長事務取扱 兼副看護部長 兼腎センター看護師長 兼外来看護師長 兼副看護部長

(5階西病棟)	看護副師長 "	本橋由香 坂本雅美	
(6階東病棟)	看護師長 看護副師長 " "	石関しのぶ 荒牧恵子 瀬谷好美 青山真由美	
(6階西病棟)	看護師長 看護副師長 "	秋間由博 今井恵子 金澤典子	
(7階東病棟)	看護師長 看護副師長	武田智子 中野理恵	
(7階西病棟)	看護師長 " " "	村田絹代子 和田順子 井原昌利子 小倉直子	
(8階病棟)	看護師長 事務取扱 看護副師長	鈴木由美子 大川三登利	兼副看護部長
褥瘡対策室	看護師長	大谷内千恵	
医療安全対策室	室長 看護師長	岡田克之 高橋紀子	兼副院長兼皮膚科部長
感染対策室	室長 看護副師長 "	森永暢浩 山田あゆり 須永泰明	兼副院長兼外科部長
事務部	事務長	関口宏	
(総務課)	次長	新井教弘	兼総務課長兼経営政策課主幹(病院政策担当)兼医師確保対策推進担当(正)
(経営政策課)	課長補佐 係長 主幹(病院政策担当) 主幹(経営政策担当)	石井理彦 剣物裕司 新井教弘	兼人事係長兼医師確保対策推進担当(副) 次長兼総務課長兼医師確保対策推進担当(正)
(契約管財課)	課長補佐 "	宇津野貴 杉原真一 藺田達也	契約管財課長兼施設係長事務取扱 兼病院政策係長 兼経営政策係長
(契約管財課)	課長	宇津野貴	兼経営政策課主幹(経営推進担当)兼施設係長事務取扱
(医事課)	係長 課長 係長 "	石原孝泰 宮田晋一 本田英之 高草木有里子	兼健診室主幹兼情報システム推進係長事務取扱 健診室長補佐兼健診係長
(健診室)	室長	高橋満弘	兼院長補佐兼副院長兼放射線科部長

(健 診 室)	室 長 補 佐	高 草 木 有 里 子	兼健診係長兼医事課診療情報係長
(地域医療連携室)	室 長 主 幹 室 長 補 佐 看 護 師 長	曲 澤 聡 上 原 美 奈 子 金 子 孝 進 岡 田 牧 子	兼副院長兼脳神経外科部長兼医療技術部長 兼副看護部長兼医療相談係長事務取扱 兼地域医療係長

3 職員数の推移

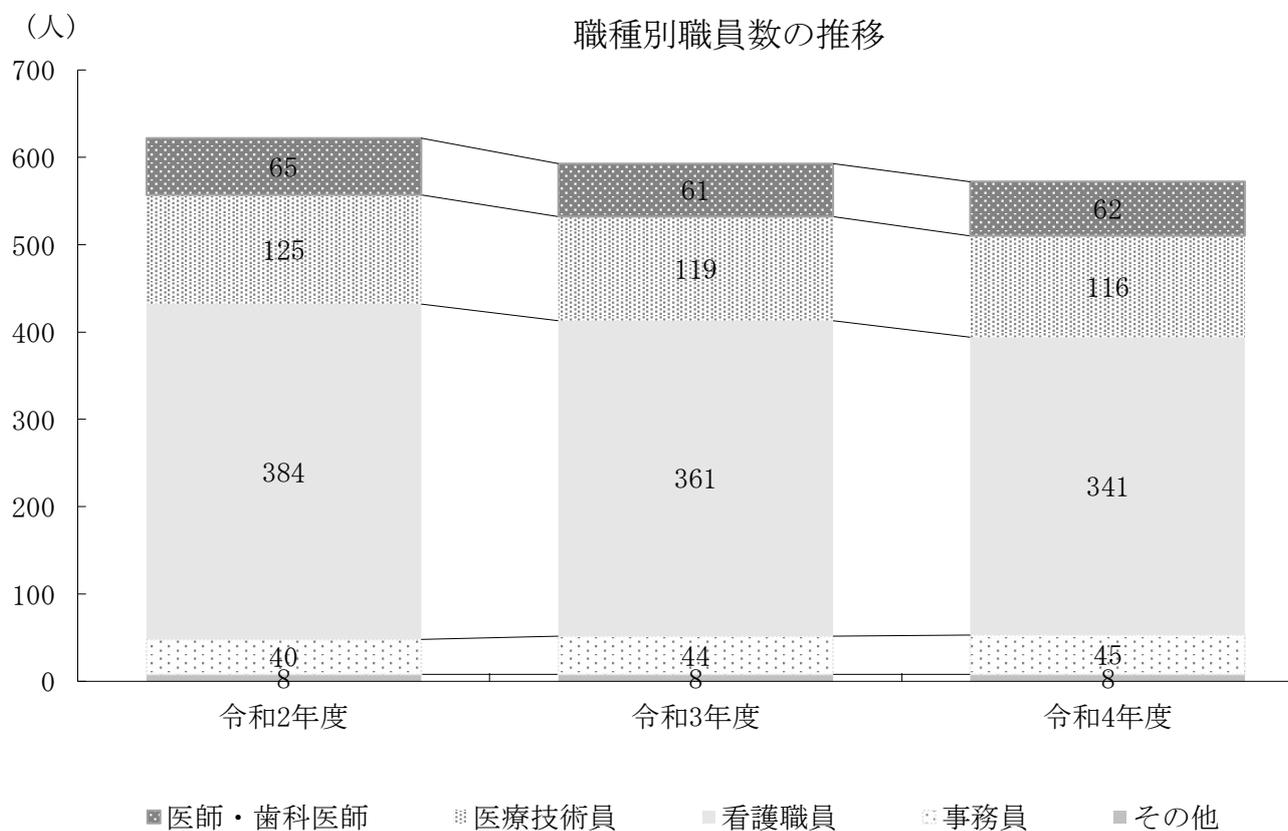
職種別		年 度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
		職員数		職員数		職員数		前年度比	
		常 勤	非 常 勤	常 勤	非 常 勤	常 勤	非 常 勤	常 勤	非 常 勤
医 局	医 師	人	人	人	人	人	人	%	%
	歯 科 医 師	62	80	59	69	60	71	101.7	102.9
	臨 床 研 修 医	2	1	2	1	2		100.0	0.0
	計	64	85	61	79	62	84	101.6	106.3
医 療 技 術 部 門	薬 剤 部 薬 剤 師	22	2	22		18		81.8	
	助 手		3		3		3		100.0
	栄 養 管 理 科 栄 養 士	6	2	6	1	7	1	116.7	100.0
	調 理 師 (員)	7		7		7		100.0	
	事 務 員		1		1				0.0
	放 射 線 技 術 科 診 療 放 射 線 技 師	20	3	20	3	20	3	100.0	100.0
	検 査 部 臨 床 検 査 技 師	29	4	27	5	27	4	100.0	80.0
	看 護 師								
	准 看 護 師								
	リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 技 術 科 理 学 療 法 士	22		22		22		100.0	
	作 業 療 法 士	7		7		7		100.0	
	言 語 聴 覚 士	3		3		3		100.0	
	助 手		2		2		2		100.0
	眼 科 視 能 訓 練 士	3		3		3		100.0	
循 環 器 内 科 臨 床 工 学 技 士									
歯 科 歯 科 衛 生 士	4		3		3	1	100.0		
臨 床 工 学 科 臨 床 工 学 技 士	9		6		6	1	100.0		
計	132	17	126	15	123	15	97.6	100.0	
事 務 部 門	事 務 長			1		1		100.0	
	医 師 確 保 対 策 担 当								
	総 務 課 事 務 員	8	3	7	3	8	3	114.3	100.0
	保 育 士		1		1		1		100.0
	経 営 政 策 課 事 務 員	5	1	5	1	4	2	80.0	
	契 約 管 財 課 事 務 員	5	1	5	1	6		120.0	
	技 師		1		1		1		100.0
	医 事 課 事 務 員	13	10	15	11	15	9	100.0	81.8
	健 診 室 医 師	1					2		
	事 務 員	2	1	1	1	2	1	200.0	100.0
	看 護 師		3						
	准 看 護 師		2						
	地 域 医 療 室 事 務 員	6	1	6	1	6	1	100.0	
	看 護 師	10		9		8		88.9	
臨 床 心 理 士	1	1	1	1	1	1	100.0	100.0	
事 務 部 事 務 員	1		3		2		66.7		
臨 床 心 理 士	1								
計	51	25	53	21	53	21	100.0	100.0	
看 護 部 門	助 産 師	30	1	25		23		92.0	
	看 護 師	340	30	323	41	306	38	94.7	92.7
	准 看 護 師	4	9	4	7	4	2	100.0	28.6
	看 護 助 手	1	2	1	2	1	1	100.0	50.0
	事 務		1		1		1		100.0
計	375	43	353	51	334	42	94.6	82.4	
合 計		622	170	593	166	572	162	96.5	97.6

注1 職員数は各年度末の人数

4 年度別職種別職員数

職種別	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	人		人		人	前年度比 %
医師	65		61		62	101.6
医療技術員	125	(11)	119	(9)	116	97.5 (100.0)
看護職員	384	(45)	361	(48)	341	94.5 (100.0)
事務員	40	(20)	44	(20)	45	102.3 (100.0)
その他	8	(9)	8	(10)	8	100.0 (100.0)
計	622	(85)	593	(87)	572	96.5 (100.0)

注 () 内は臨時職員の別掲



5 歴代管理者・副管理者及び院長

(1) 管理者

氏名	就任期間	備考
森 正 雄	昭和 9年 2月11日 ~ 昭和23年12月	
前 原 一 治	昭和23年12月 ~ 昭和38年 4月29日	
荒 木 歓一郎	昭和38年 4月30日 ~ 昭和46年 5月 1日	
小 山 利 雄	昭和46年 5月 2日 ~ 昭和63年 5月 1日	
大 澤 善 隆	昭和63年 5月 2日 ~ 平成 3年 5月 1日	
日 野 茂	平成 3年 5月 2日 ~ 平成11年 5月 1日	
大 澤 善 隆	平成11年 5月 2日 ~ 平成19年 5月 1日	
亀 山 豊 文	平成19年 5月 2日 ~ 令和元年 5月 1日	
荒 木 恵 司	令和元年 5月 2日 ~	

(2) 副管理者

氏名	就任期間	備考
石 原 条	平成18年 4月23日 ~ 平成30年 4月22日	
須 藤 昭 男	平成30年 4月23日 ~	

(3) 院 長

代	氏名	就任期間	担当科	備考
1	生 駒 正 志	昭和 9年 2月11日 ~ 昭和 9年 4月28日	内科	
2	加 藤 三九朗	昭和 9年 4月29日 ~ 昭和12年 8月15日	外科	
3	和 田 義 夫	昭和12年 8月16日 ~ 昭和13年 5月 2日	内科	
4	佐 野 武 四	昭和13年 5月12日 ~ 昭和17年 3月31日	内科	
5	八 木 忠 雄	昭和17年 4月 1日 ~ 昭和19年 3月 6日	外科	
6	竹 下 三男吉	昭和19年 3月31日 ~ 昭和19年 9月16日	内科	
7	福 田 通	昭和19年 9月30日 ~ 昭和21年 3月 5日	外科	院長心得となる
8	八 木 忠 雄	昭和21年 3月 6日 ~ 昭和26年 4月27日	外科	(5代目同)
	(小 口 武 久)	昭和26年 4月28日 ~ 昭和27年 5月26日	眼科	代理
9	堀 尾 茂 生	昭和27年 5月27日 ~ 昭和56年 3月31日	外科	名誉院長の称号贈呈
10	松 本 芳 郎	昭和56年 4月 1日 ~ 平成 6年 3月31日	小児科	名誉院長の称号贈呈
11	山 田 衛	平成 6年 4月 1日 ~ 平成14年 3月31日	内科	名誉院長の称号贈呈
12	河 野 徳 雄	平成14年 4月 1日 ~ 平成16年 3月31日	脳神経外科	
13	藤 岡 進	平成16年 4月 1日 ~ 平成19年 3月31日	外科	
14	丸 田 栄	平成19年 4月 1日 ~ 平成29年 3月31日	内科	名誉院長の称号贈呈
15	桑 島 信	平成29年 4月 1日 ~ 令和 2年 3月31日	小児科	名誉院長の称号贈呈
16	加 藤 広 行	令和 2年 4月 1日 ~	外科	

6 組 合 議 会 の 現 況

当病院の設立母体である医療事務組合の組合議会は、昭和26年6月8日第1回桐生市外十二箇町村医療事務組合議会として開催されました。以降、構成市町村の合併等を経て、平成18年3月27日桐生地域医療組合と名称を改め、令和4年度末現在で第191回を数えるまでに至っています。

議員定数は13人とし、構成市である桐生市から9人、みどり市から4人の議会から選出された者により組織し、任期はそれぞれが就任した市議会議員の任期としています。

(1) 議会の開会経過

(令和5年3月31日現在)

回 数 (開会年月日)	組 合 議 会 名	議 長
第 1回 (昭和26. 6. 8) ~ 第 3回	桐生市外十二箇町村医療事務組合議会	森 正 雄
第 4回 (昭和27. 3. 24) ~ 第 12回	桐生市外十四箇町村医療事務組合議会	〃
第 13回 (昭和31. 9. 26) ~ 第 23回	桐生市外十箇町村医療事務組合議会	〃
第 24回 (昭和35. 3. 8) ~ 第 38回	桐生市外八箇町村医療事務組合議会	〃
第 40回 (昭和39. 2. 29) ~ 第 43回	桐生市外七箇町村医療事務組合議会	〃
第 44回 (昭和40. 9. 29) ~ 第 89回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	〃
第 90回 (昭和55. 10. 1) ~ 第 97回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	堀 越 至一郎
第 98回 (昭和58. 9. 3) ~ 第107回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	加 藤 隆 司
第108回 (昭和62. 9. 25) ~ 第111回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	笠 井 秋 夫
第112回 (平成元. 10. 31) ~ 第116回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	飯 田 隆 雄
第117回 (平成 3. 10. 29) ~ 第120回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	福 田 金次郎
第121回 (平成 5. 10. 25) ~ 第124回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	中 村 清
第125回 (平成 7. 7. 31) ~ 第129回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	佐 藤 光 好
第130回 (平成 9. 10. 28) ~ 第133回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	吉 野 剛 八
第134回 (平成11. 10. 28) ~ 第137回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	田 島 信 夫
第138回 (平成13. 10. 26) ~ 第141回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	高 橋 定二郎
第142回 (平成15. 6. 30) ~ 第146回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	森 下 清 秀
第147回 (平成17. 8. 25) ~ 第149回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	西 牧 秀 乗
第150回 (平成18. 7. 14) ~ 第152回	桐 生 地 域 医 療 組 合 議 会	〃
第153回 (平成19. 7. 13) ~ 第157回	桐 生 地 域 医 療 組 合 議 会	石 井 秀 子
第158回 (平成21. 7. 27) ~ 第162回	桐 生 地 域 医 療 組 合 議 会	河原井 始
第163回 (平成23. 7. 22) ~ 第167回	桐 生 地 域 医 療 組 合 議 会	周 東 照 二
第168回 (平成25. 7. 22) ~ 第173回	桐 生 地 域 医 療 組 合 議 会	小 滝 芳 江
第174回 (平成27. 10. 30) ~ 第178回	桐 生 地 域 医 療 組 合 議 会	佐 藤 幸 雄
第179回 (平成29. 10. 30) ~	桐 生 地 域 医 療 組 合 議 会	河原井 始

※ 第39回組合議会は不詳

(2) 議会議員氏名等

(令和5年3月31日現在)

議席 番号	氏 名	役 職	選出母体	公 職 名	任 期	
					令和	令和
1	森 壽 作	常任副委員長	桐 生 市	合資会社代表社員	元. 6.10	～ 5. 5. 1
2	関 口 直 久		桐 生 市	市 議 会 議 員	3. 6. 4	～ 5. 5. 1
3	高草木 良 江	常任委員	みどり市	市 議 会 議 員	3. 6.14	～ 5. 4.30
4	辻 正 男	常任委員	桐 生 市	市 議 会 議 員	3. 6. 4	～ 5. 5. 1
5	宮 崎 武	副議長	みどり市	市 議 会 議 員	3. 6.14	～ 5. 4.30
6	人 見 武 男		桐 生 市	市 議 会 議 員	元. 6.10	～ 5. 5. 1
7	菊 地 一 真	常任委員	桐 生 市	桐生市医師会長	2.12.16	～ 5. 5. 1
8	山之内 肇	常任委員	桐 生 市	市 議 会 議 員	元. 6.10	～ 5. 5. 1
9	武 井 俊 一	常任委員長	みどり市	市 議 会 議 員	3. 6.14	～ 5. 4.30
10	佐 藤 幸 雄		桐 生 市	市 議 会 議 員	3. 6. 4	～ 5. 5. 1
11	柴 崎 訓 佳		みどり市	市 議 会 議 員	3. 6.14	～ 5. 4.30
12	河原井 始	議長	桐 生 市	市 議 会 議 員	元. 6.10	～ 5. 5. 1
13	星 野 浩 之	常任委員	桐 生 市	桐生市歯科医師会長	3. 8.26	～ 5. 5. 1

(3) 議会議決事項等

議会名	開催日時	議 案 名	結 果
第190回定例会	R4. 10. 21	議案第5号 公平委員会委員の選任につき同意を求めることについて	同日同意
		議案第6号 職員の給与に関する条例及び桐生地域医療組合会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例案	同日原案可決
		議案第7号 令和3年度桐生地域医療組合病院事業決算の認定について	同日認定
第191回定例会	R5. 2. 17	議案第1号 桐生地域医療企業団企業長等の給与及び旅費に関する条例案	同日原案可決
		議案第2号 桐生地域医療企業団職員の給与の種類及び基準に関する条例案	同日原案可決
		議案第3号 桐生地域医療企業団企業長等の退職手当に関する条例案	同日原案可決
		議案第4号 桐生地域医療組合職員の定年等に関する条例の一部を改正する条例案	同日原案可決
		議案第5号 病院事業に地方公営企業法の規定の全部を適用することに伴う関係条例の整備に関する条例案	同日原案可決
		議案第6号 桐生地域医療企業団個人情報の保護に関する法律施行条例案	同日原案可決
		議案第7号 群馬県市町村組合公平委員会を共同設置する地方公共団体への加入に関する協議について	同日原案可決
		議案第8号 群馬県市町村総合事務組合の規約変更に関する協議について	同日原案可決
		議案第9号 令和5年度桐生地域医療組合病院事業会計予算	同日原案可決
		議第1号議案 桐生地域医療企業団議会の個人情報の保護に関する条例案	同日原案可決

7 管理者・副管理者会議

会議名	開催日時	議 題
第1回管理者・副管理者会議	令和 4. 7. 27	(1) 令和3年度業務報告・経営状況報告について (2) 令和4年度新規事業・主要事業について (3) 医師確保対策について
第2回管理者・副管理者会議	令和 4. 11. 2	(1) 令和4年度上半期の経営状況について (2) 令和4年度新規事業・主要事業について
第3回管理者・副管理者会議	令和 5. 2. 1	(1) 第191回桐生地域医療組合議会提出予定議案について (2) 令和4年度事業及び収支の状況について (3) 令和5年度新規事業・主要事業について

8 医療組合各種委員氏名等

名 称	氏 名	任 期	備 考
監 査 委 員	園 田 誠	令和 2. 11. 1～令和 6. 10. 31	識見を有する者
	人 見 武 男	令和元. 10. 25～令和 5. 5. 1	組 合 議 会 選 出
公平委員会 委 員	横 塚 榮三郎	令和 2. 11. 14～令和 6. 11. 13	委 員 長
	村 田 欽 也	令和 3. 11. 14～令和 7. 11. 13	
	和 泉 直 樹	令和 4. 11. 14～令和 8. 11. 13	委員長職務代理者
情報公開及 び個人情報 保護審査会 委 員	押 見 新一郎	令和 3. 4. 1～令和 5. 3. 31	情報公開及び個人 情報保護審査会条 例施行に伴い平成 29年4月1日から 設置
	久保田 寿 栄	令和 3. 4. 1～令和 5. 3. 31	

9 会計監査開催状況

監 査 名	開 催 年 月 日	出 席 者
決 算 監 査	令和 4. 8. 2 (火)	監 査 委 員 院 長 事 務 長 他 病 院 職 員
上 半 期 監 査	令和 4.11.15 (火)	
第 3 四 半 期 監 査	令和 5. 3.22 (水)	

10 公平委員会開催状況

委 員 会 名	開 催 年 月 日	出 席 者
	非 開 催	

11 病院倫理委員会開催状況

委 員 会 名	開 催 年 月 日	出 席 者
	非 開 催	

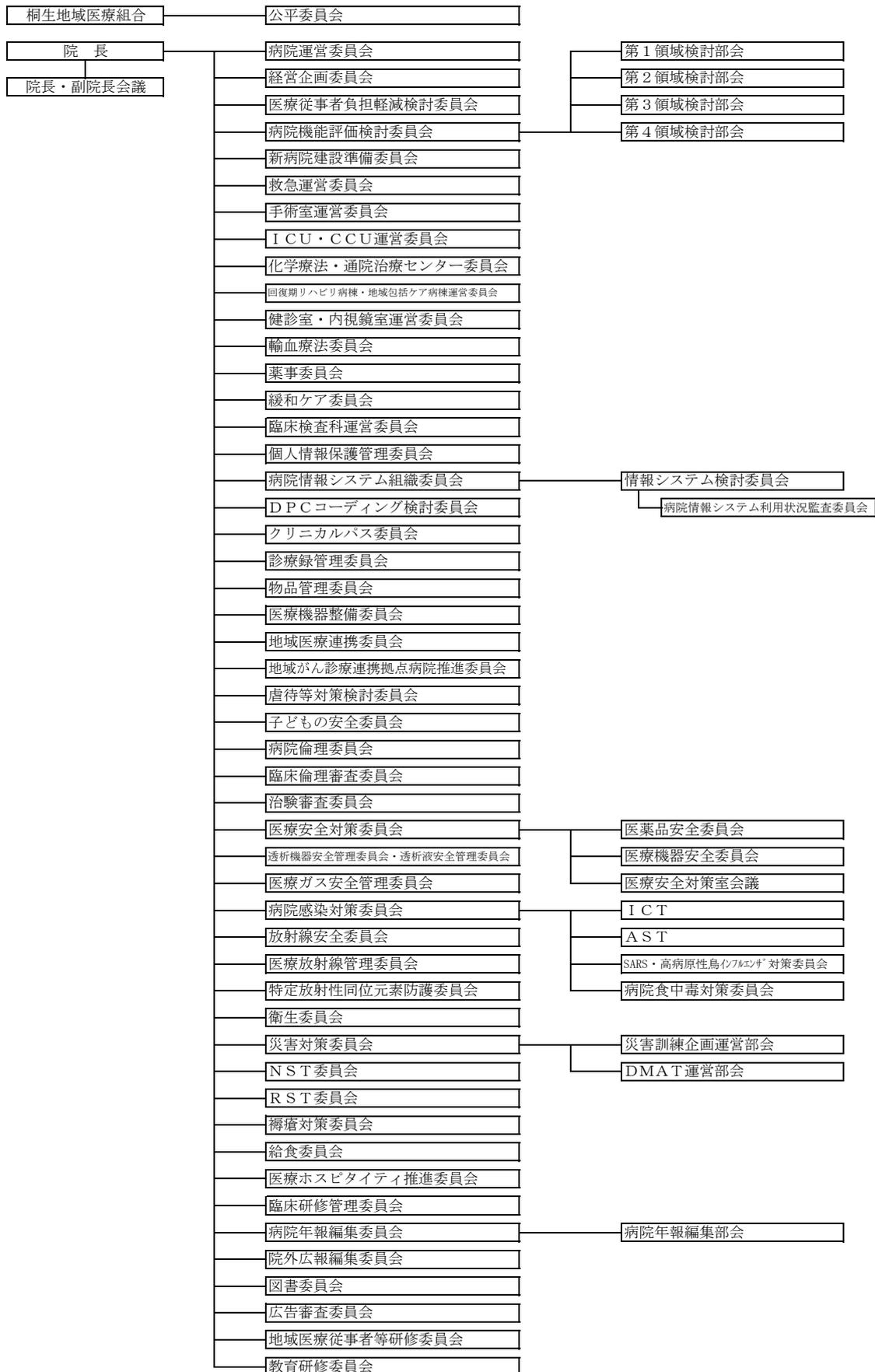
12 医師確保対策事業について

桐生地域住民の安心・安全を確保するため、医療の安定的な提供は不可欠です。全国的な医師不足の状況の中、当院においても一部診療科において退職医師を非常勤で補う状況にあるなど、医師確保対策が急務であり、桐生地域医療改善協議会からの提言に基づき、当院の開設者である桐生市・みどり市の支援のもと、独自の医師確保並びに医師の負担軽減を図るため、下記の 11 事業を実施しています。

- ① 医師の定住促進として桐生市・みどり市に在住する医師に対して手当の支給
- ② 桐生市・みどり市に住所を有する研修医に対し、住居借り上げ支援
- ③ 市外居住の医師の夜間緊急呼出等通勤負担軽減のために市内ビジネスホテルの宿泊を確保
- ④ 医師負担軽減のため医療クランクの増員
- ⑤ 医師の診療補助となる看護師や薬剤師等が高度専門資格を取得する際の経費の一部を支援
- ⑥ 医師の学会、研修会の参加及び医学書籍等への論文掲載に対する支援
- ⑦ 研修医の学会参加及び医学図書等研修教材購入支援
- ⑧ 当直をはじめ、様々な場面で研修医を指導する指導医に対する手当支給
- ⑨ 医局、休憩室等の勤務環境の改善
- ⑩ 地域内での講演研修会開催支援
- ⑪ 医師招聘及び医学研究支援

III 会議等

1 委員会組織図



IV 教育研修

1 病院実習

(1) 診療部実習

学校名	実習内容	人数	期間	実習場所
群馬大学	学外臨床実習	4	4/11～4/22 (10日)	小児科、皮膚科、産婦人科、麻酔科
〃	学外臨床実習	4	5/9～5/20 (10日)	内科（消化器）、皮膚科、泌尿器科、麻酔科
〃	学外臨床実習	1	5/23～6/3 (10日)	泌尿器科
〃	学外臨床実習	3	6/6～7/1 (20日)	小児科、整形外科、脳神経外科、皮膚科
〃	学外臨床実習	1	6/20～7/1 (10日)	麻酔科
〃	学外臨床実習	1	7/4～7/15 (10日)	皮膚科
〃	学外臨床実習	4	1/23～2/3 (10日)	外科、皮膚科、泌尿器科、麻酔科
〃	学外臨床実習	4	2/20～3/3 (9日)	内科（消化器）、整形外科、泌尿器科、麻酔科
〃	学外臨床実習	4	3/6～3/17 (10日)	外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科
愛媛大学	病院見学	1	4/25 (1日)	内科（肝臓）
群馬大学	病院見学	1	5/2 (1日)	内科（消化器、呼吸器）
琉球大学	病院見学	1	6/13 (1日)	小児科、産婦人科
群馬大学	病院見学	1	6/20～6/21 (2日)	内科（呼吸器）、外科、産婦人科
〃	病院見学	1	6/23 (1日)	内科（呼吸器）
〃	病院見学	1	7/11 (1日)	内科（呼吸器）
杏林大学	病院見学	1	7/12 (1日)	小児科
群馬大学	病院見学	1	7/14 (1日)	泌尿器科
秋田大学	病院見学	1	7/19 (1日)	内科（呼吸器）、小児科
群馬大学	病院見学	2	7/25 (1日)	内科（呼吸器）、小児科、麻酔科
〃	病院見学	1	7/26 (1日)	小児科
秋田大学	病院見学	1	8/1 (1日)	整形外科
獨協医科大学	病院見学	1	8/5 (1日)	産婦人科
群馬大学	病院見学	1	8/22 (1日)	小児科
〃	病院見学	1	9/20 (1日)	小児科

学校名	実習内容	人数	期間	実習場所
群馬大学	病院見学	1人	9/21 (1日)	小児科
岩手医科大学	病院見学	1	10/24 (1日)	小児科
群馬大学	病院見学	1	11/2 (1日)	小児科
〃	病院見学	1	12/21 (1日)	小児科
〃	病院見学	1	12/26 (1日)	小児科
帝京大学	病院見学	1	2/27 (1日)	小児科
山形大学	病院見学	1	3/27 (1日)	小児科

(2) 診療部実習：群馬大学医学部附属病院 群馬県地域医療支援センター

学校名	実習内容	人数	期間	実習場所
前橋高等学校 太田高等学校 樹徳高等学校 四ツ葉学園中等教育学校	医学部医学科をめざす 高校生の職場体験セミナー 2023春	5人	3/30 (1日)	講堂、手術室、中央検査科
	医学生のための地域医療体験 セミナー	0	中止	

看護部実習

学校名	実習内容	人数	期間	実習場所
桐生大学 医療保健学部 看護学科	早期体験合同実習	人	7/25～7/29	実習中止
	基礎看護学実習 I		2/24～2/28	実習中止
	基礎看護学実習 II		11/7～11/18	実習中止
	急性期看護学実習	25	4/19～10/20	5西
	慢性期看護学実習	35	4/19～10/27	7東/7西
	高齢期看護学実習	28	4/19～10/20	4東/6東
	小児看護学実習	36	4/25～7/22	3階
	母性看護学実習	5	9/6～9/29	4西
	看護セミナー		8/15～9/2	実習中止
桐生大学別科 助産専攻	分娩介助実習	2	10/11～12/23	4西
	NICU実習	18	8/23～12/23	NICU
群馬パース大学	小児看護学実習	18	10/18～10/29	NICU
桐生高等 看護学院	基礎看護 I	26	10/28～11/4	7東/7西/6東/6西/5西/4東
	基礎看護 II	25	11/29～12/9	7東/7西/6東/6西/5西/4東
	領域別実習	116	4/5～7/22	7東/7西/6東/5西/4西/3階/NICU
	統合実習	12	10/4～10/14	7東/7西/6東
館林高等 看護学院	母性看護学実習	6	7/4～9/1	4西
	小児看護学実習		7/4～7/20	実習中止
太田医療技術 看護専門学校	成人看護学実習 I		1/10～2/10	実習中止
	成人看護学実習 II		1/10～2/10	実習中止
	成人看護学実習 III	5	9/5～2/10	7東
	小児看護学実習	24	9/26～11/11	3階/N I C U
	母性看護学実習	15	4/25～3/3	4西
	老年看護学実習 II	3	5/30～1/20	4東
深谷大里 看護専門学校	母性看護学実習	30	4/31～9/2	4西/外来
マロニエ 看護専門学校	看護の統合実習		10/20～10/21	実習中止
	小児看護学実習		7/28～7/29	実習中止
	母性看護学実習		5/31～6/14	実習中止
	基礎看護学実習 II	2	12/13～12/14	4東
上尾中央看護 専門学校	母性看護学実習	2	7/20～7/21	4西
	成人看護学実習	2	6/28～6/29	6東
	老年看護学実習	2	10/26～10/27	4東
	看護の統合実習	2	10/28～10/29	6東

看護部実習

桐生准看護学校	基礎実習	27	11/21～3/23	各外来
	臨地実習	26	4/13～11/4	7東西/6東/5西/4東西/3階/NICU

薬剤部6年制実務実習

学校名	実習内容	人数	期間	実習場所
高崎健康福祉大学	調剤・製剤・TPN調整 医薬品情報・医薬品管理 病棟業務・化学療法・治験	2 人	8/22～11/6	薬剤部・病棟
〃	〃	2	11/21～2/12	〃

リハビリテーション技術科実習

学校名	実習内容	人数	期間	実習場所
群馬パース大学	臨床実習（PT）	1 人	4/11～6/4	リハビリテーション室
群馬医療福祉大学	臨床実習（PT）	1	7/11～9/6	〃
〃	評価実習（OT）	1	9/12～10/12	〃
前橋医療福祉専門学校	評価実習（PT）	1	11/28～12/9	〃

放射線技術科実習

学校名	実習内容	人数	期間	実習場所
群馬パース大学	臨床実習	3 人	5/9～6/10	放射線技術科・他
群馬県民健康科学大学	保健医療チーム連携	6	7/21～7/26	放射線技術科

中央検査科実習

学校名	実習内容	人数	期間	実習場所
群馬パース大学	臨床検査臨地実習	4 人	5/16～7/8	中央検査部・他

栄養管理科

学校名	実習内容	人数	期間	実習場所
高崎健康福祉大学	管理栄養士課程履修の 病院臨地実習	4 人	5/30～6/10	栄養管理科
桐生大学	〃	5	2/13～2/24	〃
東洋大学	〃	4	3/6～3/17	〃

2 医師臨床研修制度

平成 16 年 4 月、厚生労働省は新医師臨床研修制度を導入し、医師が将来専門とする分野に関らず基本的な診療能力を身につけることができるよう必修化しました。当院においては、すでに平成 14 年臨床研修指定病院に認定されておりましたが、新制度になり改めて平成 16 年 4 月に厚生労働省より臨床研修指定病院として認定を受けております。

診療に従事しようとする医師は2年以上臨床研修を受けなければならないとされ、人格の涵養と、基本的な診療能力の修得を基本理念に医学全般の広い知識をもった医師を養成することを目的としました。新制度導入後 5 年を経過した平成 21 年、プログラムの見直しが行われ厚生労働省の省令改正を受け平成 22 年度研修プログラムを変更しました。また、令和 2 年度、新たにプログラムの見直しが行われ、大幅にプログラムを変更しました。

(1) 臨床研修の概要

■ 研修期間割 (標準)

区 分	6 ヶ月			2 ヶ月	1 ヶ月	2 ヶ月	1 ヶ月
1 年 目	内科			救急	麻酔	外科	小児
	救 急 医 療						
区 分	1 ヶ月	1 ヶ月	1 ヶ月	9 ヶ月			
2 年 目	地域	産婦	精神	選択			
	救 急 医 療						

- <必 修> ・内科研修 6 ヶ月
- ・救急部門研修 3 ヶ月は救急部門と麻酔科において行い、2 年間を通じ、時間外・休日・夜間は地域において日常よく遭遇する様々な症例について副当直として関わり、指導医とともに救急医療も行う。
 - ・地域医療研修 1 ヶ月は、あい太田クリニック、原町赤十字病院、沼田病院の協力を得て行う。
 - ・外科 2 ヶ月、小児科 1 ヶ月、産婦人科 1 ヶ月、精神科 1 ヶ月
 - ・精神科研修については県立精神医療センター、岸病院にて実施。
- <選 択> ・研修医の希望を考慮し、9 ヶ月を分割し複数科の研修が可能。
- ・地域保健研修は、桐生保健所で行う。
 - ・群馬大学医学部附属病院、筑波大学附属病院、県立心臓血管センター、恵愛堂病院、東邦病院の研修も可能。
- <院外研修> ・当院以外での研修期間は 2 年間で 4 ヶ月までとする。

■研修協力

当院は、自ら「基幹型臨床研修病院」として医師の初期研修に携わるほか、「協力型臨床研修病院」として群馬大学医学部附属病院、筑波大学附属病院や館林厚生病院に所属する研修医の初期研修も受入れております。

■臨床研修医受け入れ状況

氏名	年次	期間	在籍	修了者	備考
吉山 敦	1	R4. 4. 1 ~R6. 3. 31 (2年)	当院		
狩野 稔也	1	R4. 4. 1 ~R6. 3. 31 (2年)	当院		
清水 大輔	1	R4. 4. 1 ~R6. 3. 31 (2年)	当院		
森田 大貴	1	R4. 4. 1 ~R6. 3. 31 (2年)	当院		
井田 真悟	1	R4. 4. 1 ~R6. 3. 31 (2年)	当院		
岩下 拓也	1	R4. 4. 1 ~R6. 3. 31 (2年)	当院		
谷口 立樹	2	R3. 4. 1 ~R5. 3. 31 (2年)	当院	○	
小林 倫太郎	2	R3. 4. 1 ~R5. 3. 31 (2年)	当院	○	
吉川 晟羽	2	R3. 4. 1 ~R5. 3. 31 (2年)	当院	○	
倉島 丈治	2	R3. 4. 1 ~R5. 3. 31 (2年)	当院	○	
児嶋 賢	2	R3. 4. 1 ~R5. 3. 31 (2年)	当院	○	
土本 優源	2	R3. 4. 1 ~R5. 3. 31 (2年)	当院	○	
川上 修史	2	R4. 5. 1 ~R5. 3. 31 (11ヵ月)	群大	○	
磯部 いの八	2	R4. 4. 1 ~R4. 6. 30 (3ヵ月)	群大		
中里 公紀	1	R4. 10. 1 ~R4. 10. 31 (1ヵ月)	館林		

■臨床研修勉強会

病院全体で行うCPCや集談会、各診療科で行われるカンファレンス等のほか、毎週水曜日に各科指導医による救急医療に関するテーマを中心にした勉強会（約45回/年）を実施。

勉強会では研修医による症例報告も行われています。

また、放射線カンファレンスを(1回/月)、さらに外部講師による感染症診療講座を年5回行っています。

対象を研修医のみに限定せず、他の医師や病院見学・実習中の医学生も参加しております。

(2) 研修医対象 救急に関する勉強会及び研修医症例報告

日付	名 称	担 当 者
5/25	診療録の記載の仕方	稲 川 茂
6/1	画像診断1	小 林 茂
6/8	気管挿管のテクニック	佐 藤 淳
6/15	脳梗塞の治療	橋 場 康 弘
6/22	C Vカテーテルの留置	木 村 明 春
6/29	小児の重症度判定	鈴 木 尊 裕
7/6	N S Tについて	飯 田 智 広
7/13	眼科救急疾患	丸 山 泰 弘
7/20	[研修医症例発表] 血行動態の安定した腹部大動脈瘤破裂の一例	倉 嶋 丈 治 吉 川 敦
7/27	産婦人科領域の救急疾患	鏡 一 成
8/3	上肢の外傷	工 藤 千 佳
8/10	急性腹症	森 永 暢 浩
8/17	[研修医症例発表] 腹痛・嘔吐を主訴とした膵炎の一例	吉 川 晟 羽 井 田 真 悟
8/24	小児科救急〈小児のRed flag〉	大 木 康 史
8/31	画像診断2	小 林 茂
9/7	救急外来でよく遭遇する皮膚科疾患	岡 田 克 之
9/14	歯科口腔外科領域の救急疾患	今 井 正 之
9/21	[研修医症例発表] 発熱、上腹部痛、陽背部痛を主訴としたT A F R O症候群疑いの一例	土 本 優 源 狩 野 稔 也
9/28	四肢外傷の応急処置（下肢）	斯 波 俊 祐
10/5	消化管出血について	飯 田 智 広
10/12	泌尿器科的救急疾患	林 拓 磨
10/19	[研修医症例発表] 糖尿病未診断で嘔吐を主訴として来院したD K Aの一例	清 水 大 輔 児 嶋 賢
10/26	Risk Management	高 橋 紀 子
11/9	創処置（縫合）	木 村 明 春
11/16	[研修医症例発表] 誤嚥性肺炎とC O P Dを合併したC O V I D - 19の一例	谷 口 立 樹 森 田 大 貴
11/30	画像診断3	小 林 茂
12/7	救急外来で遭遇する呼吸器疾患の診断と治療	小 野 昭 浩
12/21	血液浄化療法	岡 本 亘 平
1/5	心房細動	桑 原 涉
1/11	妊娠時の薬の使い方	鏡 一 成
1/18	熱傷の治療	岡 田 克 之
1/25	肝性脳症について	竝 川 昌 司

名 称	担 当 者	実施回数
研修医 放射線科カンファレンス（最終水曜）	小林 茂	10回
研修医 感染症診療講座（年5回）	吉村 章（外部講師）	5回

V 経 営 状 況

1 比較損益計算書

年 度		令和2年度	令和3年度	令 和 4 年 度		
		金 額	金 額	金 額	前年比	対医業 収益比
科 目		千円	千円	千円	%	%
収	医 業 収 益	8,748,017	9,124,201	9,119,917	100.0	100.0
	入 院 収 益	5,912,729	6,046,278	6,064,855	100.3	66.5
	外 来 収 益	2,586,437	2,821,722	2,798,847	99.2	30.7
	そ の 他 医 業 収 益	248,851	256,201	256,215	100.0	2.8
益	医 業 外 収 益	2,552,625	2,305,098	2,099,221	91.1	23.0
	受 取 利 息 及 び 配 当 金	10	18	50	277.8	0.0
	構 成 団 体 負 担 金 補 助 金	796,068	806,423	822,320	102.0	9.0
	補 助 金	1,457,723	1,222,037	997,487	81.6	10.9
	負 担 金 交 付 金	0	0	0	0.0	0.0
	長 期 前 受 金 戻 入	252,560	234,449	242,447	103.4	2.7
	そ の 他 医 業 外 収 益	46,264	42,171	36,917	87.5	0.4
	特 別 利 益	228,902	43,954	2,179,000	4,957.5	23.9
	収 益 合 計	11,529,544	11,473,253	13,398,138	116.8	146.9
	費	医 業 費 用	10,108,403	10,118,053	9,838,424	97.2
給 与 費		6,093,315	5,873,838	5,473,845	93.2	60.0
材 料 費		2,043,126	2,242,972	2,228,389	99.3	24.4
経 費		1,446,712	1,474,167	1,522,359	103.3	16.7
減 価 償 却 費		493,140	458,139	586,373	128.0	6.4
資 産 減 耗 費		17,221	51,294	6,044	11.8	0.1
研 究 研 修 費		14,889	17,643	21,414	121.4	0.2
医 業 外 費 用		371,233	457,990	387,632	84.6	4.3
支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費		1,201	750	807	107.6	0.0
繰 延 勘 定 償 却		0	0	0	0.0	0.0
雑 損 失		370,032	457,240	386,825	84.6	4.2
特 別 損 失		191,397	0	2,903,813	1,517.2	31.8
費 用 合 計		10,671,033	10,576,043	13,129,869	124.1	144.0
純 損 益		858,511	897,210	268,269	29.9	-

2 比較貸借対照表

科 目		年 度		令 和 4 年 度		
		令和2年度	令和3年度	金 額	前年比	構成比
		金 額	金 額	金 額	%	%
資 産	固 定 資 産	千円	千円	千円	%	%
	有 形 固 定 資 産	5,270,164	5,787,818	5,416,630	93.6	41.4
	土 地	5,268,056	5,785,710	5,414,522	93.6	41.4
	償 却 資 産	287,003	287,003	287,003	100.0	2.2
	減 価 償 却 累 計 額 (△)	18,294,912	18,315,904	18,444,447	100.7	141.0
	建 設 仮 勘 定	13,313,859	12,817,197	13,316,928	103.9	101.8
	無 形 固 定 資 産	0	0	0	-	-
	投 資	2,108	2,108	2,108	100.0	0.0
		0	0	0	-	-
	流 動 資 産	3,507,877	5,286,657	7,660,530	144.9	58.6
	現 金 及 び 預 金	1,308,430	3,297,775	5,542,175	168.1	42.4
	未 収 金	2,196,788	1,979,059	2,118,003	107.0	16.2
	貸 倒 引 当 金 (未 収 △)	29,604	31,441	34,812	110.7	0.3
	貯 蔵 品	29,102	38,136	31,948	83.8	0.2
前 払 費 用	1,161	1,128	1,216	107.8	0.0	
そ の 他 流 動 資 産	2,000	2,000	2,000	100.0	0.0	
繰 延 勘 定	0	0	0	-	-	
控 除 対 象 外 消 費 税	0	0	0	-	-	
資 産 合 計		8,778,041	11,074,475	13,077,160	118.1	100.0
負 債	固 定 負 債	1,179,014	1,871,831	4,227,040	225.8	32.3
	企 業 債	1,179,014	1,871,831	1,482,908	79.2	11.3
	リ ー ス 債 務	0	0	0	-	-
	引 当 金	0	0	2,744,132	-	21.0
	流 動 負 債	1,775,981	2,482,694	1,872,100	75.4	14.3
	企 業 債	382,781	370,183	531,923	143.7	4.1
	リ ー ス 債 務	0	0	0	-	-
	未 払 金	946,491	1,715,249	938,164	54.7	7.2
	引 当 金	393,273	350,659	354,969	101.2	2.7
	前 受 金	0	0	0	-	-
そ の 他 流 動 負 債	53,436	46,603	47,044	100.9	0.4	
繰 延 収 益	1,596,153	1,595,847	1,585,648	99.4	12.1	
長 期 前 受 金	6,823,307	7,070,512	7,339,689	103.8	56.1	
長 期 前 受 金 収 益 化 累 計 額	△5,227,154	△5,474,665	△ 5,754,041	105.1	△44.0	
資 本	資 本 金	7,196,376	7,196,376	7,196,376	100.0	55.0
	資 本 金	7,196,376	7,196,376	7,196,376	100.0	55.0
	借 入 資 本 金	0	0	0	-	-
	剰 余 金	△2,969,483	△2,072,273	△ 1,804,004	87.1	△13.8
資 本 剰 余 金	3,400	3,400	3,400	100.0	0.0	
利 益 剰 余 金	△2,972,883	△2,075,673	△ 1,807,404	87.1	△13.8	
負 債 ・ 資 本 合 計		8,778,041	11,074,475	13,077,160	118.1	100.0

※ 平成26年度から新たな地方公営企業会計制度を適用しています。

VI 重要な成果

1 The World's Best Hospitals 3年連続受賞

米国週刊誌「Newsweek」による、世界基準の優良な医療機関を評価したランキング「World's Best Hospitals 2023」の日本版に、3年連続で選出されました。今年度は、全国 8,155 病院※1 の中から 176 位に選出されました。

このランキングは世界 28 カ国を対象としており、評価は以下の 3 つの基準のもとに決定されています。

- ・医療従事者からの評価：8 万人以上の医師、医療従事者、病院管理者へのオンライン調査の実施
- ・患者からの評価：医療機関を受診した患者さんからの満足度評価
- ・病院の KPI※2：患者満足度、衛生管理の状況、治療の質等

当院は、『信頼され、心が通う医療』という理念を掲げ、地域の皆様に良い医療を提供するため、「現状維持は後退である」という気持ちで、既成概念や前例主義の打破に取り組んで参りました。これからも「受動的」でなく、「能動的」な改革を進めることができるような組織づくりを進めたいと考えております。

今後も職員一同、皆様のご期待にお応えできるよう迅速かつ丁寧な医療サポートを全力で実施して参ります。

※1 厚生労働省 医療施設動態調査（令和 4 年 12 月末概数）

※2 KPI：Key Performance Indicators（重要業績評価指標）の略で、目標の達成度合いを計るために継続的に計測・監視される定量的な指標のこと。

2 外来番号制の導入

令和 4 年 7 月より、「外来患者受付番号制」を導入いたしました。外来時において、患者さんを「名前」でお呼びしていた運用から、「受付番号」でお呼びする運用に変更いたしました。令和 3 年度に実施した「患者満足度調査」で「番号制導入」のご要望があり、個人情報保護とプライバシーの観点から、病院情報システム（電子カルテシステム）の更新に併せて導入いたしました。導入後、患者さんからは、安心して、気持ちよく受診していただくための取り組みとして好評をいただいています。

3 合同シンポジウムの開催

8月20日、オンラインによる市民公開講演後、加藤広行院長による「地域医療と同院の現状や課題について」の基調講演を踏まえ「病院の将来を市民とともに考える」をテーマとして、桐生・みどり合同シンポジウムを開催しました。荒木恵司桐生市長、須藤昭男みどり市長、菊地一真桐生市医師会長をお招きし、加藤広行院長を含めた4名をシンポジストとして、地域医療構想における病院の今後のあり方について各々の立場で発言していただきました。「幅広い疾病を受け入れ、高度な医療を提供することが使命であり、地域の人達から愛され、なくてはならないよりどころの病院としてあってほしい」など貴重な意見を聞くことができ、有意義なシンポジウムでありました。

VII 業務概要

1 診療圏患者受診状況

市町村名	令和2年度				令和3年度			
	入院	外来	合計	構成比	入院	外来	合計	構成比
	人	人	人	%	人	人	人	%
桐生市	75,083	103,704	178,787	66.1	74,869	107,134	182,003	65.8
(旧桐生市)	67,208	93,517	160,725	59.5	68,519	96,547	165,066	59.7
(旧黒保根村)	1,169	1,588	2,757	1.0	862	1,697	2,559	0.9
(旧新里村)	6,706	8,599	15,305	5.7	5,488	8,890	14,378	5.2
みどり市	20,263	32,151	52,414	19.4	20,181	34,183	54,364	19.7
(旧大間々町)	8,802	13,018	21,820	8.1	9,008	13,885	22,893	8.3
(旧勢多東村)	1,294	1,772	3,066	1.1	923	1,739	2,662	1.0
(旧笠懸町)	10,167	17,361	27,528	10.2	10,250	18,559	28,809	10.4
太田市 (旧藪塚本町)	3,849	6,741	10,590	3.9	3,787	6,511	10,298	3.7
小計	99,195	142,596	241,791	89.5	98,837	147,828	246,665	89.2
県内	9,907	10,038	19,945	7.4	11,002	9,932	20,934	7.6
県外	3,760	4,809	8,569	3.2	4,056	4,841	8,897	3.2
小計	13,667	14,847	28,514	10.5	15,058	14,773	29,831	10.8
合計	112,862	157,443	270,305	100.0	113,895	162,601	276,496	100.0

市町村名	令和4年度				前年度比			
	入院	外来	合計	構成比	入院	外来	合計	構成比
	人	人	人	%	人	人	人	%
桐生市	74,738	105,897	180,635	66.0	99.8	98.8	99.2	100.3
(旧桐生市)	69,109	95,019	164,128	60.0	100.9	98.4	99.4	100.5
(旧黒保根村)	911	1,549	2,460	0.9	105.7	91.3	96.1	97.2
(旧新里村)	4,718	9,329	14,047	5.1	86.0	104.9	97.7	98.1
みどり市	20,346	33,553	53,899	19.7	100.8	98.2	99.1	100.2
(旧大間々町)	7,906	12,862	20,768	7.6	87.8	92.6	90.7	91.8
(旧勢多東村)	1,212	1,772	2,984	1.1	131.3	101.9	112.1	114.3
(旧笠懸町)	11,228	18,919	30,147	11.0	109.5	101.9	104.6	105.6
太田市 (旧藪塚本町)	3,745	6,573	10,318	3.8	98.9	101.0	100.2	102.0
小計	98,829	146,023	244,852	89.5	100.0	98.8	99.3	100.3
県内	9,422	9,982	19,404	7.1	85.6	100.5	92.7	93.8
県外	4,326	5,102	9,428	3.4	106.7	105.4	106.0	105.7
小計	13,748	15,084	28,832	10.5	91.3	102.1	96.7	97.3
合計	112,577	161,107	273,684	100.0	98.8	99.1	99.0	100.0

※入院欄患者内訳（在院患者延数＋退院患者数） ※人間ドックは除く

2 入院・外来患者状況

(入院)

項目	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
一般病床数		429床	417床	417床	100.0 %
新入院患者数		6,920人	7,602人	6,720人	88.4 %
退院患者数		6,899人	7,602人	6,711人	88.3 %
延在院患者数		105,963人	106,293人	105,866人	99.6 %
一日平均患者数		290人	291人	290人	99.6 %
平均在院日数		15.3日	13.9日	15.7日	112.9 %
病床利用率		67.7 %	69.8 %	69.6 %	99.6 %
病床回転率		23.9回	26.3回	23.2回	88.5 %

※人間ドックを除く

(外来)

項目	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
延外来患者数		157,443人	162,601人	161,107人	99.1 %
一日平均患者数		648人	672人	663人	98.7 %
新来患者数		15,039人	15,465人	15,162人	98.0 %
再来患者数		142,404人	147,136人	145,945人	99.2 %
一日外来患者数	最高	825人	863人	817人	94.7 %
	最低	395人	447人	445人	99.6 %
新来比		9.6 %	9.5 %	9.4 %	98.9 %
外来・入院比		148.6 %	153.0 %	152.2 %	99.5 %

※女性外来を除く

3 科別入院患者数

科 別	令和2年度		令和3年度		令和4年度		前年度比較	
	患者数	1日平均	患者数	1日平均	患者数	1日平均	比率	1日平均 人数比較
	人	人	人	人	人	人	%	人
内 科	38,114	104.4	35,582	97.5	37,582	103.0	105.6	5.5
精 神 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	-	-
神 経 内 科	876	2.4	679	1.9	605	1.7	89.1	△0.2
循 環 器 内 科	1,810	5.0	2,051	5.6	1,929	5.3	94.1	△0.3
小 児 科	5,574	15.3	6,580	18.0	5,491	15.0	83.4	△3.0
外 科	11,655	31.9	13,774	37.7	13,554	37.1	98.4	△0.6
血 管 外 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	-	-
整 形 外 科	21,432	58.7	16,248	44.5	17,770	48.7	109.4	4.2
脳 神 経 外 科	12,964	35.5	10,024	27.5	10,063	27.6	100.4	0.1
呼 吸 器 外 科	1,114	3.1	0	0.0	0	0.0	-	-
心 臓 血 管 外 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	-	-
乳 腺 外 科	-	-	-	-	728	2.0	皆増	2.0
皮 膚 科	1,202	3.3	1,670	4.6	949	2.6	56.8	△2.0
泌 尿 器 科	5,161	14.1	6,470	17.7	5,101	14.0	78.8	△3.7
産 婦 人 科	5,058	13.9	5,479	15.0	5,113	14.0	93.3	△1.0
眼 科	432	1.2	510	1.4	475	1.3	93.1	△0.1
耳 鼻 い ん こ う 科	146	0.4	112	0.3	385	1.1	343.8	0.8
麻 酔 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	-	-
リハビリテーション科	0	0.0	6,051	16.6	4,884	13.4	80.7	△3.2
放 射 線 科	0	0.0	6	0.0	0	0.0	皆減	0.0
救 急 科	0	0.0	627	1.7	780	2.1	124.4	0.4
緩 和 内 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	-	-
歯 科	425	1.2	430	1.2	457	1.3	106.3	0.1
合 計	105,963	290.4	106,293	291.2	105,866	290.0	99.6	△1.2

4 科別外来患者数

科 別	令和2年度		令和3年度		令和4年度		前年度比較	
	患者数	1日平均	患者数	1日平均	患者数	1日平均	患者数比率	1日平均人数比較
	人	人	人	人	人	人	%	人
内 科	33,278	136.9	33,596	138.8	32,454	133.6	96.6	△5.2
精 神 科	338	1.4	341	1.4	351	1.4	102.9	0.0
神 経 内 科	4,551	18.7	4,717	19.5	4,929	20.3	104.5	0.8
循 環 器 内 科	4,873	20.1	5,020	20.7	4,635	19.1	92.3	△1.6
小 児 科	8,760	36.0	9,899	40.9	10,040	41.3	101.4	0.4
外 科	8,788	36.2	10,134	41.9	7,597	31.3	75.0	△10.6
血 管 外 科	247	1.0	209	0.9	250	1.0	119.6	0.1
整 形 外 科	15,940	65.6	15,680	64.8	15,381	63.3	98.1	△1.5
脳 神 経 外 科	6,316	26.0	6,171	25.5	6,156	25.3	99.8	△0.2
呼 吸 器 外 科	1,158	4.8	625	2.6	653	2.7	104.5	0.1
心 臓 血 管 外 科	-	-	-	-	-	-	-	-
乳 腺 外 科	-	-	-	-	3,369	13.9	皆増	13.9
皮 膚 科	10,251	42.2	11,099	45.9	11,193	46.1	100.8	0.2
泌 尿 器 科	17,493	72.0	19,535	80.7	19,636	80.8	100.5	0.1
産 婦 人 科	11,687	48.1	11,557	47.8	11,093	45.7	96.0	△2.1
眼 科	12,591	51.8	13,183	54.5	12,627	52.0	95.8	△2.5
耳 鼻 い ん こ う 科	2,590	10.7	2,663	11.0	2,867	11.8	107.7	0.8
麻 酔 科	1,168	4.8	932	3.9	859	3.5	92.2	△0.4
リハビリテーション科	-	-	-	-	-	-	-	-
放 射 線 科	4,114	16.9	5,025	20.8	5,662	23.3	112.7	2.5
救 急 科	1,193	4.9	840	3.5	778	3.2	92.6	△0.3
緩 和 内 科	59	0.2	31	0.1	16	0.1	51.6	0.0
歯 科	12,048	49.6	11,344	46.9	10,561	43.5	93.1	△3.4
合 計	157,443	647.9	162,601	672.1	161,107	663.2	99.1	△8.9

5 科別時間外受診患者状況

科別	令和2年度			令和3年度			令和4年度			前年度比		
	入院	外来	合計									
年度	人	人	人	人	人	人	人	人	人	%	%	%
内科	681	1,505	2,186	766	1,297	2,063	712	1,225	1,937	93.0	94.4	93.9
精神科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
神経内科	0	1	1	0	3	3	1	3	4	皆増	100.0	133.3
循環器内科	10	3	13	8	9	17	9	2	11	112.5	22.2	64.7
小児科	87	405	492	130	533	663	130	593	723	100.0	111.3	109.0
外科	110	101	211	159	92	251	161	85	246	101.3	92.4	98.0
血管外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
整形外科	173	692	865	149	564	713	165	544	709	110.7	96.5	99.4
脳神経外科	164	360	524	128	293	421	137	346	483	107.0	118.1	114.7
呼吸器外科	7	5	12	0	1	1	0	0	0	0.0	皆減	0.0
心臓血管外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
乳腺外科	-	-	-	-	-	-	3	3	6	皆増	皆増	-
皮膚科	12	223	235	28	241	269	2	172	174	7.1	71.4	64.7
泌尿器科	58	271	329	69	305	374	52	271	323	75.4	88.9	86.4
産婦人科	168	162	330	172	165	337	138	182	320	80.2	110.3	95.0
眼科	0	26	26	1	27	28	0	38	38	皆減	140.7	135.7
耳鼻いんこう科	6	211	217	0	154	154	2	110	112	皆増	71.4	72.7
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
放射線科	0	13	13	0	2	2	0	0	0	0.0	皆減	0.0
救急科	0	138	138	15	110	125	14	103	117	93.3	93.6	93.6
緩和内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
歯科	1	60	61	1	42	43	2	49	51	200.0	116.7	118.6
合計	1,477	4,176	5,653	1,626	3,838	5,464	1,528	3,726	5,254	94.0	97.1	96.2

※ 時間外診療会計を実施した診療科にて集計。

5-1 小児科時間外受診患者状況（再掲）

診療月	令和2年度			令和3年度			令和4年度			前年度比		
	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計
年度	人	人	人	人	人	人	人	人	人	%	%	%
4月	6	27	33	9	33	42	17	43	60	188.9	130.3	142.9
5月	10	23	33	12	49	61	17	49	66	141.7	100.0	108.2
6月	7	38	45	10	36	46	8	49	57	80.0	136.1	123.9
7月	11	42	53	14	67	81	15	75	90	107.1	111.9	111.1
8月	9	35	44	19	68	87	10	38	48	52.6	55.9	55.2
9月	10	29	39	11	41	52	7	42	49	63.6	102.4	94.2
10月	4	44	48	5	45	50	15	51	66	300.0	113.3	132.0
11月	4	40	44	9	42	51	12	61	73	133.3	145.2	143.1
12月	4	39	43	16	43	59	4	62	66	25.0	144.2	111.9
1月	7	33	40	10	51	61	12	53	65	120.0	103.9	106.6
2月	6	32	38	2	25	27	9	36	45	450.0	144.0	166.7
3月	9	23	32	13	33	46	4	34	38	30.8	103.0	82.6
合計	87	405	492	130	533	663	130	593	723	100.0	111.3	109.0

※平成22年8月から看護師による「電話相談」などによる小児科時間外診療の新たな取り組みを実施。

5-2 科別時間外診察費特別料金徴収対象患者状況

科別	令和2年度			令和3年度			令和4年度			前年度比		
	受診	対象	対象率									
	人	人	%	人	人	%	人	人	%	%	%	ポイント
内科	2,186	982	44.9	2,063	828	40.1	1,937	702	36.2	93.9	84.8	△3.9
精神科	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	-	-	-
神経内科	1	0	0.0	3	0	0.0	4	0	0.0	133.3	0.0	0.0
循環器内科	13	0	0.0	17	2	11.8	11	1	9.1	64.7	50.0	△2.7
小児科	492	261	53.0	663	385	58.1	723	339	46.9	109.0	88.1	△11.2
外科	211	28	13.3	251	20	8.0	246	26	10.6	98.0	130.0	2.6
血管外科	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	-	-	-
整形外科	865	254	29.4	713	192	26.9	709	226	31.9	99.4	117.7	4.9
脳神経外科	524	37	7.1	421	17	4.0	483	88	18.2	114.7	517.6	14.2
呼吸器外科	12	1	8.3	1	0	0.0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
心臓血管外科	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
乳腺外科	-	-	-	-	-	-	6	0	0.0	皆増	-	-
皮膚科	235	77	32.8	269	88	32.7	174	77	44.3	64.7	87.5	11.5
泌尿器科	329	30	9.1	374	39	10.4	323	82	25.4	86.4	210.3	15.0
産婦人科	330	0	0.0	337	0	0.0	320	30	9.4	95.0	皆増	9.4
眼科	26	3	11.5	28	2	7.1	38	11	28.9	135.7	550.0	21.8
耳鼻いんこう科	217	111	51.2	154	77	50.0	112	57	50.9	72.7	74.0	0.9
麻酔科	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	-	-	-
放射線科	13	0	0.0	2	0	0.0	0	0	0.0	-	-	-
救急科	138	56	40.6	125	68	54.4	117	50	42.7	93.6	73.5	△11.7
緩和内科	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	-	-	-
歯科	61	0	0.0	43	0	0.0	51	9	17.6	118.6	皆増	17.6
合計	5,653	1,840	32.5	5,464	1,718	31.4	5,254	1,698	32.3	96.2	98.8	0.9

※平成23年2月から時間外診察費特別料金の実費徴収開始。

※対象項目については、時間外診察費特別料金を徴収した患者数。

5-3 月別時間外診察費特別料金徴収対象患者状況（再掲）

診療月	令和2年度			令和3年度			令和4年度			前年度比		
	受診	対象	対象率									
	人	人	%	人	人	%	人	人	%	%	%	ポイント
4月	400	127	31.8	404	117	29.0	475	115	24.2	117.6	98.3	△4.7
5月	556	177	31.8	542	167	30.8	522	152	29.1	96.3	91.0	△1.7
6月	422	152	36.0	429	143	33.3	475	131	27.6	110.7	91.6	△5.8
7月	530	188	35.5	549	199	36.2	581	186	32.0	105.8	93.5	△4.2
8月	580	199	34.3	501	187	37.3	367	111	30.2	73.3	59.4	△7.1
9月	519	162	31.2	427	143	33.5	421	112	26.6	98.6	78.3	△6.9
10月	498	166	33.3	438	148	33.8	469	178	38.0	107.1	120.3	4.2
11月	473	165	34.9	405	121	29.9	358	126	35.2	88.4	104.1	5.3
12月	484	130	26.9	499	144	28.9	480	179	37.3	96.2	124.3	8.4
1月	470	139	29.6	503	153	30.4	449	188	41.9	89.3	122.9	11.5
2月	360	111	30.8	363	90	24.8	307	111	36.2	84.6	123.3	11.4
3月	361	124	34.3	404	106	26.2	350	109	31.1	86.6	102.8	4.9
合計	5,653	1,840	32.5	5,464	1,718	31.4	5,254	1,698	32.3	96.2	98.8	0.9

6 科別救急搬送患者状況

科別	令和2年度			令和3年度			令和4年度			前年度比		
	入院	外来	合計									
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	%	%	%
内科	709	364	1,073	674	333	1,007	739	300	1,039	109.6	90.1	103.2
精神科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
神経内科	12	11	23	4	7	11	7	8	15	175.0	114.3	136.4
循環器内科	22	0	22	14	2	16	20	1	21	142.9	50.0	131.3
小児科	54	107	161	56	148	204	50	186	236	89.3	125.7	115.7
外科	65	18	83	86	13	99	115	11	126	133.7	84.6	127.3
血管外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
整形外科	215	183	398	197	160	357	183	129	312	92.9	80.6	87.4
脳神経外科	241	130	371	201	112	313	195	147	342	97.0	131.3	109.3
呼吸器外科	10	3	13	0	0	0	0	0	0	-	-	-
心臓血管外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
乳腺外科	-	-	-	-	-	-	3	0	3	皆増	0.0	0.0
皮膚科	10	14	24	7	16	23	2	9	11	28.6	56.3	47.8
泌尿器科	54	41	95	62	39	101	67	35	102	108.1	89.7	101.0
産婦人科	44	11	55	69	19	88	62	26	88	89.9	136.8	100.0
眼科	0	2	2	0	7	7	0	6	6	0.0	85.7	85.7
耳鼻いんこう科	6	57	63	1	44	45	5	31	36	500.0	70.5	80.0
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
救急科	0	324	324	44	330	374	88	301	389	200.0	91.2	104.0
緩和内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
歯科	2	6	8	0	7	7	2	2	4	皆増	28.6	57.1
合計	1,444	1,271	2,715	1,415	1,237	2,652	1,538	1,192	2,730	108.7	96.4	102.9
一日平均	4.0	3.5	7.4	3.9	3.4	7.3	4.2	3.3	7.5	0.3	△ 0.1	0.2

7 年齢別患者年報（年度別）

科別	令和2年度			令和3年度			令和4年度			前年度比		
	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	%	%	%
0～4	5,560	4,321	9,881	6,279	4,901	11,180	5,457	4,969	10,426	86.9	101.4	93.3
5～9	334	2,532	2,866	285	2,787	3,072	233	2,829	3,062	81.8	101.5	99.7
10～19	957	5,448	6,405	1,197	5,476	6,673	806	6,016	6,822	67.3	109.9	102.2
20～29	1,742	5,498	7,240	1,727	5,338	7,065	1,661	4,880	6,541	96.2	91.4	92.6
30～39	3,392	8,373	11,765	3,116	7,814	10,930	2,651	7,156	9,807	85.1	91.6	89.7
40～49	3,976	12,852	16,828	3,418	12,803	16,221	2,842	12,499	15,341	83.1	97.6	94.6
50～59	7,424	17,438	24,862	6,714	17,108	23,822	6,603	17,928	24,531	98.3	104.8	103.0
60～69	12,596	24,299	36,895	10,921	23,635	34,556	10,838	22,084	32,922	99.2	93.4	95.3
70～79	29,392	45,851	75,243	31,749	49,275	81,024	30,243	48,850	79,093	95.3	99.1	97.6
80～	40,590	30,832	71,422	40,887	33,464	74,351	44,532	33,896	78,428	108.9	101.3	105.5
合計	105,963	157,444	263,407	106,293	162,601	268,894	105,866	161,107	266,973	99.6	99.1	99.3

8 死亡・剖検数の疫病分類

① 入院（その1）

※ 下段()は剖検数

診療科 疾病分類	内科	精神科	神内科	循環器	小児科	外科	血管外科	整形外科	脳外科	呼吸外
1 感染症及び寄生虫症	8							1		
2 新生物	79					57		2		
3 血液および造血器の疾患 ならびに免疫機構の障害	2									
4 内分泌、栄養および代謝 疾患	3					1			1	
5 精神および行動の障害										
6 神経系の疾患	4									
7 眼および付属器の疾患										
8 耳および乳様突起の疾患										
9 循環器系の疾患	36			10		1		1	17	
10 呼吸器系の疾患	84					3		2		
11 消化器系の疾患	12					4				
12 皮膚および皮下組織の疾患	1									
13 筋骨格系の疾患	2					1				
14 尿路性器系の疾患	5			1				1		
15 妊娠、分娩および産褥										
16 周産期に発生した病態					1					
17 先天奇形、変形および染色 体異常					1					
18 症状、徴候および異常臨 床所見・異常検査所見で 他に分類されないもの	19							1		
19 損傷、中毒およびその他 の外因の影響								1	2	
20 傷病および死亡の外因										
21 健康状態に影響を及ぼす 要因及び保健サービスの 利用										
22 特殊目的コード	5					1				
合 計	260			11	2	68		9	20	

① 入院（その2）

診療科 疾病分類	皮膚科	泌尿科	産婦科	眼科	耳鼻科	麻酔科	放射科	救急科	歯科	計
1 感染症及び寄生虫症										9
2 新生物		11	6							155
3 血液および造血器の疾患 ならびに免疫機構の障害										2
4 内分泌、栄養および代謝 疾患										5
5 精神および行動の障害										
6 神経系の疾患										4
7 眼および付属器の疾患										
8 耳および乳様突起の疾患										
9 循環器系の疾患		3						1		69
10 呼吸器系の疾患								1		90
11 消化器系の疾患										16
12 皮膚および皮下組織の疾 患										1
13 筋骨格系の疾患										3
14 尿路性器系の疾患		6						1		14
15 妊娠、分娩および産褥										
16 周産期に発生した病態										1
17 先天奇形、変形および染 色体異常										1
18 症状、徴候および異常臨 床所見・異常検査所見で 他に分類されないもの								1		21
19 損傷、中毒およびその他 の外因の影響		1								4
20 傷病および死亡の外因		1								1
21 健康状態に影響を及ぼす 要因及び保健サービスの 利用										
22 特殊目的コード								1		7
合 計		22	6					5		403

② 外来（その1）

※ 下段（ ）は剖検数

診療科 疾病分類	内 科	精 神 科	神 内 科	循 環 器	小 児 科	外 科	血 管 外 科	整 外 科	脳 外 科	呼 吸 外
1 感染症及び寄生虫症										
2 新生物	6					1				
3 血液および造血器の疾患 ならびに免疫機構の障害										
4 内分泌、栄養および代謝 疾患	1									
5 精神および行動の障害					1					
6 神経系の疾患										
7 眼および付属器の疾患										
8 耳および乳様突起の疾患										
9 循環器系の疾患	23					1				
10 呼吸器系の疾患	7					1				
11 消化器系の疾患										
12 皮膚および皮下組織の疾 患										
13 筋骨格系の疾患										
14 尿路性器系の疾患										
15 妊娠、分娩および産褥										
16 周産期に発生した病態										
17 先天奇形、変形および染 色体異常										
18 症状、徴候および異常臨 床所見・異常検査所見で 他に分類されないもの	7 (1)									
19 損傷、中毒およびその他 の外因の影響										
20 傷病および死亡の外因										
21 健康状態に影響を及ぼす 要因及び保健サービスの 利用										
22 特殊目的コード										
合 計	44 (1)				1	3				

② 外来（その2）

診療科 疾病分類	皮膚科	泌尿科	産婦科	眼科	耳鼻科	麻酔科	放射科	救急科	歯科	計
1 感染症及び寄生虫症								1		1
2 新生物		1	1					2		11
3 血液および造血器の疾患 ならびに免疫機構の障害										
4 内分泌、栄養および代謝 疾患										1
5 精神および行動の障害										1
6 神経系の疾患										
7 眼および付属器の疾患										
8 耳および乳様突起の疾患										
9 循環器系の疾患								18		42
10 呼吸器系の疾患								5		13
11 消化器系の疾患								1		1
12 皮膚および皮下組織の疾患										
13 筋骨格系の疾患										
14 尿路性器系の疾患										
15 妊娠、分娩および産褥										
16 周産期に発生した病態										
17 先天奇形、変形および染 色体異常										
18 症状、徴候および異常臨 床所見・異常検査所見で 他に分類されないもの										7 (1)
19 損傷、中毒およびその他 の外因の影響								1		1
20 傷病および死亡の外因								2		2
21 健康状態に影響を及ぼす 要因及び保健サービスの 利用										
22 特殊目的コード								1		1
合 計		1	1					31		81 (1)

③ 入院+外来（その1）

※ 下段（ ）は剖検数

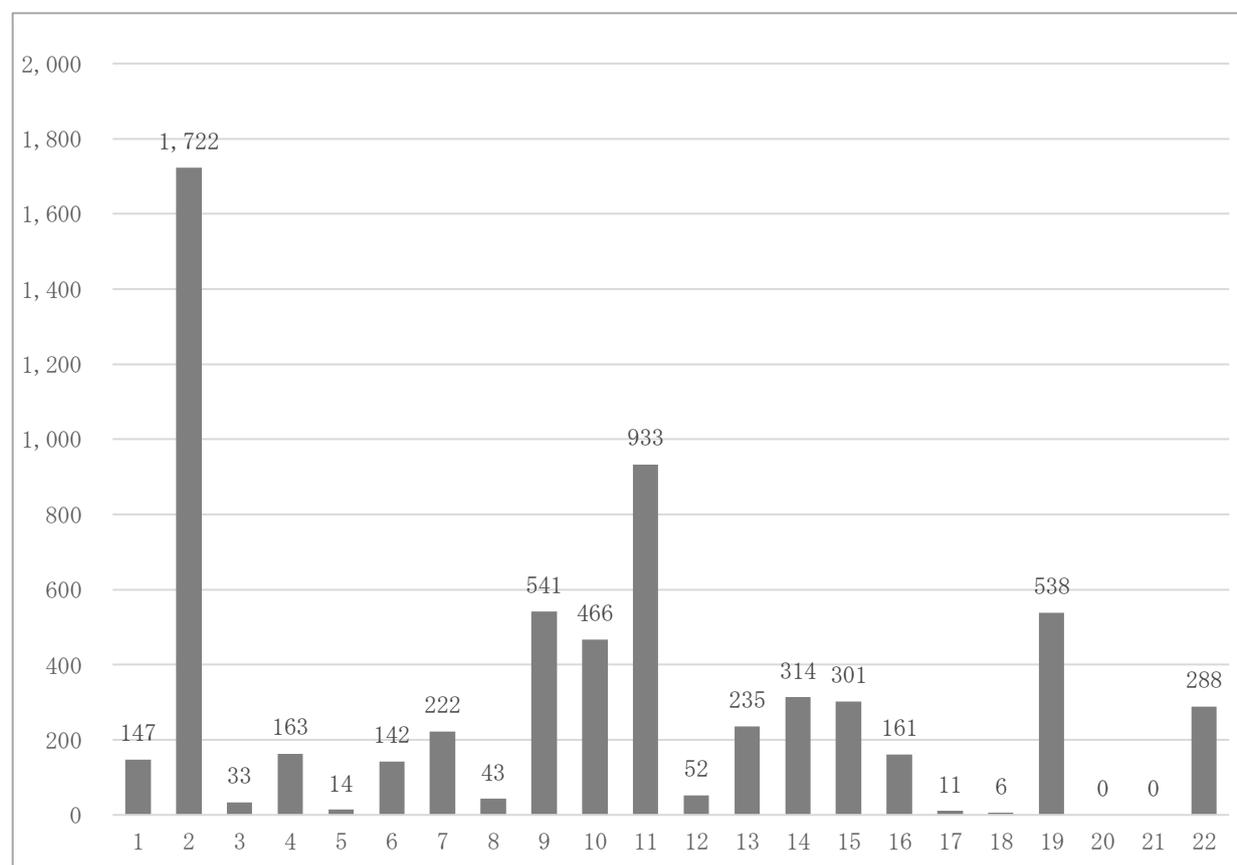
診療科 疾病分類	内 科	精 神 科	神 内 科	循 環 器	小 児 科	外 科	血 管 外 科	整 外 科	脳 外 科	呼 吸 外
1 感染症及び寄生虫症	8							1		
2 新生物	85					58		2		
3 血液および造血器の疾患 ならびに免疫機構の障害	2									
4 内分泌、栄養および代謝 疾患	4					1			1	
5 精神および行動の障害					1					
6 神経系の疾患	4									
7 眼および付属器の疾患										
8 耳および乳様突起の疾患										
9 循環器系の疾患	59			10		2		1	17	
10 呼吸器系の疾患	91					4		2		
11 消化器系の疾患	12					4				
12 皮膚および皮下組織の疾 患	1									
13 筋骨格系の疾患	2					1				
14 尿路性器系の疾患	5			1				1		
15 妊娠、分娩および産褥										
16 周産期に発生した病態					1					
17 先天奇形、変形および染 色体異常					1					
18 症状、徴候および異常臨 床所見・異常検査所見で 他に分類されないもの	26 (1)							1		
19 損傷、中毒およびその他 の外因の影響								1	2	
20 傷病および死亡の外因										
21 健康状態に影響を及ぼす 要因及び保健サービスの 利用	5									
22 特殊目的コード						1				
合 計	304 (1)			11	3	71		9	20	

③ 入院+外来（その2）

診療科 疾病分類	皮膚科	泌尿科	産婦科	眼科	耳鼻科	麻酔科	放射科	救急科	歯科	計
1 感染症及び寄生虫症								1		10
2 新生物		12	7					2		166
3 血液および造血器の疾患 ならびに免疫機構の障害										2
4 内分泌、栄養および代謝 疾患										6
5 精神および行動の障害										1
6 神経系の疾患										4
7 眼および付属器の疾患										
8 耳および乳様突起の疾患										
9 循環器系の疾患		3						19		111
10 呼吸器系の疾患								6		103
11 消化器系の疾患								1		17
12 皮膚および皮下組織の疾患										1
13 筋骨格系の疾患										3
14 尿路性器系の疾患		6						1		14
15 妊娠、分娩および産褥										
16 周産期に発生した病態										1
17 先天奇形、変形および染 色体異常										1
18 症状、徴候および異常臨 床所見・異常検査所見で 他に分類されないもの								1		28 (1)
19 損傷、中毒およびその他 の外因の影響		1						1		5
20 傷病および死亡の外因		1						2		3
21 健康状態に影響を及ぼす 要因及び保健サービスの 利用										5
22 特殊目的コード								2		3
合 計		23	7					36		484 1

④退院患者疾病大分類統計

章	ICDコード 分類見出し	人
1	A00-B99 感染症および寄生虫症	147
2	C00-D48 新生物	1,722
3	D50-D89 血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	33
4	E00-E90 内分泌, 栄養および代謝疾患	163
5	F00-F99 精神および行動の障害	14
6	G00-G99 神経系の疾患	142
7	H00-H59 眼および付属器の疾患	222
8	H60-H95 耳および乳様突起の疾患	43
9	I00-I99 循環器系の疾患	541
10	J00-J99 呼吸器系の疾患	466
11	K00-K93 消化器系の疾患	933
12	L00-L99 皮膚および皮下組織の疾患	52
13	M00-M99 筋骨格系および結合組織の疾患	235
14	N00-N99 尿路性器系の疾患	314
15	O00-O99 妊娠, 分娩および産じょく<褥>	301
16	P00-P96 周産期に発生した病態	161
17	Q00-Q99 先天奇形, 変形および染色体異常	11
18	R00-R99 症状, 徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	6
19	S00-T98 損傷, 中毒およびその他の外因の影響	538
20	V00-Y98 傷病および死亡の外因	0
21	Z00-Z99 健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	0
22	U00-U99 特殊目的コード	288
	合 計	6,332



9 手術

(1) 科別・麻酔別手術件数

科別 \ 麻酔別	全麻	腰麻	局麻	硬膜外	静脈	その他	合計	構成比
	件	件	件	件	件	件	件	%
内科	0	0	0	0	0	0	0	-
精神科	0	0	0	0	0	0	0	-
神経内科	0	0	0	0	0	0	0	-
循環器内科	0	0	11	0	0	0	11	0.5
小児科	0	0	0	0	0	0	0	-
外科	282	35	42	1	0	0	360	18.0
血管外科	0	0	0	0	0	0	0	-
整形外科	247	122	32	0	0	22	423	21.1
脳神経外科	37	0	77	0	0	0	114	5.7
呼吸器外科	0	0	0	0	0	0	0	-
心臓血管外科	0	0	0	0	0	0	0	-
乳腺外科	66	0	0	0	0	0	66	3.3
皮膚科	0	0	74	0	0	0	74	3.7
泌尿器科	73	333	8	0	0	1	415	20.7
産婦人科	102	115	0	0	11	0	228	11.4
眼科	4	0	226	0	0	0	230	11.5
耳鼻いんこう科	0	0	0	0	0	0	0	-
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	-
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	-
救急科	0	0	0	0	0	0	0	-
緩和内科	0	0	0	0	0	0	0	-
歯科	81	0	0	0	0	0	81	4.0
合計	892	605	470	1	11	23	2,002	
構成比	% 44.6	% 30.2	% 23.5	% 0.0	% 0.5	% 1.1		100.0

(2) 科別・疾患別手術件数

科	部位	病名	術名	件数
循環器 内科	胸部	洞不全症候群	ペースメーカー植え込み術	2
		徐脈頻脈症候群	ペースメーカー植え込み術	1
		房室ブロック	ペースメーカー植え込み術	2
		ペースメーカー電池消耗	ペースメーカー電池交換術	6
		計		11
外科	食道	食道癌	根治術（鏡視下）	1 (1)
	胃		胃全摘（ラパロ）	10 (2)
			胃切除（ラパロ）	7 (6)
			胃空腸吻合（ラパロ）	5 (4)
			その他（ラパロ）	1 (1)
	結腸・直腸	結腸癌 直腸癌	結腸切除（ラパロ）	42 (23)
			直腸切除（ラパロ）	8 (6)
			直腸切断（ラパロ）	5 (3)
			低位前方切除（ラパロ）	10 (5)
			人工肛門（ラパロ）	12 (4)
			その他	2 (1)
	虫垂	虫垂炎	虫垂切除（ラパロ）	34 (29)
	小腸	腸閉塞 その他	腸閉塞手術	18
			小腸切除（ラパロ）	1 (1)
肝・胆・膵	肝癌・肝腫瘍 転移性肝癌 胆石・胆嚢 膵癌・胆管癌	肝切除：肝癌	1	
		肝切除	3	
		胆摘（ラパロ）	68 (55)	
		膵頭十二指腸切除 その他	3 1	
肛門	直腸脱		1	
ヘルニア	ヘルニア	鼠径ヘルニア（ラパロ）	78 (36)	
		大腿ヘルニア（ラパロ）	2 (1)	
		腹壁ヘルニア	4	
		閉鎖孔ヘルニア（ラパロ）	3 (2)	
腹部その他		腹膜炎	4	
		その他（ラパロ）	15 (1)	
		CVポート（留置、抜去）	32	
呼吸器		気管切開	2	
	計		373 (181)	
整形 外科	上肢・肩甲帯	鎖骨骨折	観血的整復固定術	15
			骨片摘出	1
		肩鎖関節脱臼	観血的整復固定術	1
		肩関節脱臼骨折	人工骨頭置換術	1
		肩甲骨骨折	観血的整復固定術	1
		上腕骨頸部骨折	人工骨頭置換術 観血的整復固定術	4 10

科	部 位	病 名	術 名	件 数		
整形外科	上肢・肩甲帯	上腕骨骨幹部骨折	観血的整復固定術	4		
		上腕骨顆上骨折	観血的整復固定術	1		
		上腕骨顆部骨折	観血的整復固定術	3		
		肘関節脱臼骨折	観血的整復固定術	2		
		前腕両骨骨折	観血的整復固定術	4		
		橈骨頭骨折	人工骨頭置換術	1		
		橈骨骨幹部骨折	人工骨頭置換術	2		
		橈骨下端骨折	観血的整復固定術	16		
		肘頭骨折	観血的整復固定術	2		
		手指骨骨折	観血的整復固定術	9		
		CM関節症	関節形成術	1		
		バネ指	腱鞘切開術	10		
		ケルバン氏病	腱鞘切開術	1		
		手根管症候群	手根管開放術	7		
		肘部管症候群	神経剥離術	3		
		挫滅	神経、血管、腱縫合	2		
			腱縫合術	3		
			断端形成術	2		
			デブリードマン、洗浄	2		
			関節炎	搔爬、洗浄	2	
			軟部腫瘍	摘出術	1	
			骨腫瘍	摘出術	1	
			異物	異物摘出術	1	
			観血的整復固定術後	抜釘術	26	
		下肢	大腿	大腿骨頸部骨折	人工骨頭置換術	27
					観血的整復固定術	12
				転子部	観血的整復固定術	31
				転子下	観血的整復固定術	3
				転子下 (病的)	観血的整復固定術	1
				骨幹部～顆部骨折	観血的整復固定術	6
				大腿骨壊死	人工骨頭置換術	1
				変形性膝関節症	人工膝関節置換術	16
				半月板損傷、感染など	関節鏡	4
				膝蓋骨骨折	観血的整復固定術	8
膝蓋骨脱臼	靭帯縫合術			1		
脛骨近位端	観血的整復固定術			5		
骨幹部	観血的整復固定術			2		
下腿両骨骨折	観血的整復固定術			5		
足関節脱臼骨折	観血的整復固定術			9		
アキレス腱断裂	靭帯縫合術			6		
踵骨骨折	観血的整復固定術			1		
中足骨骨折	観血的整復固定術			1		

科	部 位	病 名	術 名	件 数
整形外科	下肢	壊疽	大腿切断 下腿切断	5 4
		軟部腫瘍	大腿切断 腫瘍摘出術	2 2
		ガングリオン	摘出術	1
		挫滅	デブリードマン、洗浄	1
		骨髄炎、蜂窩織炎	下腿切断	2
		感染、皮膚潰瘍	搔爬、洗浄	2
		観血的整復固定術後	抜釘術	5
	脊椎	頸椎症性脊髄症	頸部脊柱管拡大術 頸椎後方固定術	20 1
		頸椎後縦靱帯骨化症	頸部脊柱管拡大術 頸椎後方固定術	1 1
		頸椎椎間板ヘルニア	頸部脊柱管拡大術 頸椎椎弓切除術	1 1
		頸髄不全損傷	頸部脊柱管拡大術	3
		頸椎脱臼骨折	頸椎後方固定術	2
		胸椎後縦靱帯骨化症	胸椎後方固定術	1
		胸椎椎体骨折	胸椎後方固定術	2
		胸椎化膿性脊椎炎	胸椎椎弓切除術	1
		胸椎チャンス骨折	胸腰椎後方固定術	1
		胸髄腫瘍	腫瘍摘出術	1
		脊柱変形	腰椎側方椎体間固定術 胸腰椎骨盤後方固定術 腰椎前方後方同時固定術 腰椎後方椎体間固定術 腰椎後側方固定術	4 2 3 1 1
		腰部脊柱管狭窄症	腰椎椎弓切除術 腰椎後方椎体間固定術 腰椎後側方固定術 内視鏡下椎弓切除術	18 5 1 16
		腰椎椎間板ヘルニア	内視鏡下椎間板摘出術 後方椎間板摘出術	8 4
		胸腰椎椎体骨折	後側方固定術 経皮的椎体形成術 椎体形成術+後方固定術	1 8 1
		後腹膜膿瘍	デブリードマン、洗浄	1
		馬尾神経腫瘍	腫瘍摘出術	2
		術後感染	デブリードマン、洗浄 洗浄、椎弓切除術	5 1
		術後髄液漏	硬膜縫合術	1
		脊椎腫瘍、感染	針生検	2
		計		423

科	部 位	病 名	術 名	件 数
脳神経外科	脳血管障害	破裂脳動脈瘤	クリッピング術	7
			コイル塞栓術	2
		未破裂脳動脈瘤	クリッピング術	2
			脳内出血	内視鏡下血腫除去術
		頸部頸動脈狭窄症	ステント留置術	7
			血栓内膜剥離術	3
	脳動脈閉塞症	血栓回収術	15	
	腫瘍	脳腫瘍	開頭腫瘍摘出術	7
			生検術	1
			栄養動脈塞栓術	1
	外傷	急性硬膜外血腫	開頭血腫除去術	2
		急性硬膜下血腫	開頭血腫除去術	2
		慢性硬膜下血腫	穿孔洗浄術	39
	その他	水頭症	脳室腹腔短絡術	3
			シャント再建術	2
シャント抜去術			1	
脳室ドレナージ術			5	
顔面けいれん その他		微小血管減圧術	1	
計				114
乳腺外科	乳腺	乳癌	乳房切除	64
		乳腺腫瘍	腫瘍摘出	2
計				66 (0)
皮膚科	皮膚悪性腫瘍 (8例)	基底細胞癌	切除術	5
		有棘細胞癌	切除術	3
	表皮内癌 (5例)	ボーエン病	切除術	5
	皮膚良性腫瘍 (60例)	粉瘤	切除術	35
		脂肪腫	切除術	8
		色素細胞母斑	切除術	6
		繊維種の類	切除術	3
		石灰化上皮腫	切除術	2
		エクリン汗孔腫	切除術	2
	その他	切除術	4	
皮膚生検				1
計				74
泌尿器科	副腎	副腎癌	腹腔鏡下副腎悪性腫瘍手術	2
	腎臓	腎細胞癌	腹腔鏡下腎悪性腫瘍摘出術	13
			腹腔鏡下腎悪性腫瘍部分切除術	4
	腎盂・尿管	腎盂尿管癌	腹腔鏡下腎尿管悪性腫瘍摘出術	3
	膀胱	膀胱癌	腹腔鏡下膀胱全摘除術	2
			経尿道的膀胱腫瘍切除術	77
膀胱結石 神経因性膀胱		経尿道的膀胱結石碎石術 膀胱瘻造設術	16 3	

科	部 位	病 名	術 名	件 数
泌尿器科	前立腺	前立腺癌	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍摘出術	21
			精巣摘出術	10
			前立腺生検	174
			経会陰的放射線治療用材料局所注入	44
		前立腺肥大症	経尿道的前立腺切除術	20
	陰茎	包茎	環状切除術	2
			背面切開術	2
	陰嚢・精巣	停留精巣	精巣固定術	2
		陰嚢水腫	陰嚢水腫根治術	4
		精巣捻転症	精巣捻転手術	7
	その他	骨盤臓器脱	腹腔鏡下仙骨固定術	2
尿膜管腫瘍、膿瘍		腹腔鏡下尿膜管摘出術	2	
慢性腎不全		内シャント造設術	4	
尿管狭窄		尿管移植術	1	
	尿道狭窄	経尿道的尿道切開術	7	
計				422
産婦人科	子宮（産科）		緊急帝王切開	52
			選択帝王切開	39
			流産手術	12
	子宮（婦人科）	良性子宮疾患	腹腔鏡下筋腫核出術	1
			腹腔鏡下子宮全摘術	5
			腹式筋腫核出術	4
			腹式子宮全摘術	16
		性器脱	性器脱手術	2
		子宮頸部異形成	円錐切除術	14
			腹腔鏡下子宮全摘術	2
			腹式子宮全摘術	1
		子宮体癌	開腹子宮全摘術	5
		良性卵巣卵管疾患	腹腔鏡下良性卵巣腫瘍手術	37
			腹式良性卵巣腫瘍手術	13
悪性卵巣腫瘍	悪性付属器腫瘍手術	6		
異所性妊娠	腹腔鏡下異所性妊娠手術	3		
外陰疾患	外陰手術	7		
膣疾患	膣手術	6		
その他	その他の手術	3		
計				228
眼科	水晶体	白内障	水晶体再建術（眼内レンズ挿入あり）	219
		後発白内障	後発白内障切開手術	2
	角膜	翼状片	翼状片手術（弁移植を要するもの）	2
	眼筋	斜視	前転法及び後転法の併施	3
			後転法	4
計				230

科	部 位	病 名	術 名	件 数
歯科	顎口腔	埋伏歯	埋伏歯摘出術	49
		上顎骨腫瘍	上顎骨腫瘍摘出術	5
		歯根嚢胞	歯根嚢胞摘出術	3
		口蓋腫瘍	口蓋腫瘍切除術	2
		下顎骨嚢胞	顎骨嚢胞摘出術	8
		舌腫瘍	舌腫瘍摘出術	1
		その他（う歯など）	抜歯術	2
		う歯（障がい者）	う歯治療または抜歯	11
計				81
合			計	2,022

10 内視鏡患者数

検査種別	検査名	所在	令和2年度	令和3年度	令和4年度
上部消化管	上部消化管	外来	人 1,229	人 1,267	人 1,151
		入院	361	393	324
	内視鏡的超音波検査	外来	0	0	0
		入院	0	0	1
	内視鏡的注入硬化療法	外来	1	2	0
		入院	28	23	15
	食道静脈瘤結紮術	外来	3	4	2
		入院	2	11	4
	胃瘻造設	外来	0	1	0
		入院	17	16	17
	胃瘻交換	外来	48	55	56
		入院	2	3	1
	上部消化管止血術	外来	25	24	9
		入院	27	29	8
	胃粘膜切除術	外来	0	1	0
		入院	9	4	4
	胃ポリープ切除術	外来	0	0	1
		入院	1	1	4
	胃粘膜下剥離術	外来	0	0	0
		入院	17	28	26
	異物摘出術	外来	3	9	4
		入院	1	1	2
	食道拡張術	外来	0	0	0
		入院	8	2	17
	十二指腸拡張術	外来	0	0	0
		入院	0	1	1
	上部消化管（人間ドック）	外来	173	0	0
		入院	0	0	0
	幽門狭窄拡張	外来	0	0	0
		入院	0	0	0
上部消化管（健診）	外来	983	1,493	1,742	
	入院	0	0	0	
上部消化管（健診・経鼻）	外来		374	602	
	入院		0	0	
上部消化管内視鏡計	外来	2,465	3,230	3,569	
	入院	473	518	437	
胆膵内視鏡	逆行性膵胆管造影	外来	0	1	1
		入院	113	1	113
	乳頭括約筋切開術	外来	0	0	0
		入院	47	1	56

検査種別	検査名	所在	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	胆道結石除去術	外来	0	0	0
		入院	35	44	54
	胆道ステント留置	外来	0	1	1
		入院	62	53	68
	乳頭バルーン拡張術	外来	0	0	0
		入院	2	2	0
	経鼻胆管ドレナージ	外来	0	0	0
		入院	2	4	10
	胆膵超音波	外来	0	0	0
		入院	0	0	0
	胆膵超音波穿刺	外来	0	0	0
		入院	0	0	0
	胆膵内視鏡計	外来	0	0	0
		入院	261	235	303
下部消化管	大腸ファイバー	外来	1,117	1,216	1,120
		入院	128	191	149
	大腸超音波内視鏡	外来	0	0	0
		入院	0	0	0
	大腸ポリープ切除術	外来	289	376	356
		入院	8	15	23
	大腸粘膜切除術	外来	3	3	1
		入院	2	1	1
	大腸粘膜剥離術	外来	0	0	0
		入院	2	3	2
	下部消化管止血術	外来	4	4	2
		入院	10	11	9
	大腸拡張術	外来	0	0	1
		入院	0	0	5
下部消化管内視鏡計	外来	1,413	1,599	1,481	
	入院	150	221	189	
気管支	気管支ファイバー	外来	1	0	0
		入院	48	67	78
	経気管支肺生検	外来	1	1	0
		入院	38	18	5
	気管支異物除去術	外来	0	0	0
		入院	0	0	0
	超音波気管支鏡	外来	0	0	0
		入院	0	0	1
	気管支瘻孔閉鎖術	外来	0	0	0
		入院	0	0	0
	気管支肺胞洗浄	外来	0	0	0
		入院	2	3	5
	気管支鏡計	外来	2	1	0
		入院	90	89	89

11 分娩件数・内訳

項目	分娩件数	内訳			児体数	死産	
		単胎	双胎	品胎		22週未満	22週以降
	件	件	件	件	件	件	件
4年度	222	190	16	0	238	7	0
3年度	259	247	12	0	268	8	2
2年度	279	269	9	1	290	11	0

12 新生児未熟児センター

(1) 入院数 (NICU+GCU)

体 重	令和2年度	令和3年度	令和4年度
g	人	人	人
0-999	10	10	5
1000-1499	14	13	17
1500-1999	14	16	18
2000-2499	19	43	41
2500-	94	79	64
計	151	161	145

(2) NICU入院数

体 重	令和2年度	令和3年度	令和4年度
g	人	人	人
0-999	10	10	4
1000-1499	13	13	17
1500-1999	14	13	17
2000-2499	7	15	11
2500-	26	17	8
計	70	68	57

13 ICU・CCU入室患者数

科別 \ 年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
内科	31人	56人	58人
精神科	0	0	0
神経内科	0	0	1
循環器内科	29	26	31
小児科	1	10	9
外科	168	192	161
血管外科	0	0	0
整形外科	20	28	45
脳神経外科	80	102	97
呼吸器外科	66	0	0
心臓外科	0	0	0
乳腺外科	-	-	0
皮膚科	1	0	1
泌尿器科	45	54	53
産婦人科	30	40	31
眼科	0	0	0
耳鼻いんこう科	0	0	0
麻酔科	0	0	0
放射線科	0	0	0
救急科	0	10	5
緩和内科	0	0	0
歯科・口腔外科	0	0	0
計	471	518	492

ICU・CCU稼働率

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
稼働率	50.5 %	60.7 %	67.4 %

14 腎センター

(1) 慢性透析の概要

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年比
	回	回	回	%
入院患者透析回数	869	752	429	57.0
外来患者透析回数	2,481	2,148	2,236	104.1
計	3,350	2,900	2,665	91.9
透析開始者数	5	7	7	100.0
死者数	7	6	5	83.3
転出者数	58	55	46	83.6
転入者数	58	56	56	100.0
急性透析患者数	52	56	46	82.1

15 人間ドック・健康診断等

(1) 人間ドック・健康診断利用者数

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年比
	人	人	人	%
短期（1泊2日）人間ドック （8床）	183	0	0	0.0
1日ドック	2,315	2,643	2,893	109.5
健康診断等	3,769	3,705	4,334	117.0
計	6,267	6,348	7,227	113.8

※ 再掲

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年比
	人	人	人	%
脳ドック	119	150	198	132.0
肺がんドック	53	31	38	122.6

16 薬剤部

(1) 処方箋枚数と院外処方箋発行率

項目	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
入院処方箋	枚数	33,647	34,806	33,980	97.6
	件数	67,021	71,583	68,607	95.8
外来院内処方箋	枚数	3,597	3,847	3,384	88.0
	件数	4,666	6,639	4,370	65.8
外来院外処方箋	枚数	78,539	79,489	76,810	96.6
	発行率%	95.6	95.4	95.8	100.4

(2) 医薬品使用状況

医薬品	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
		千円	千円	千円	%
内用剤		99,134	100,972	88,326	87.5
外用剤		19,656	21,545	20,543	95.3
注射剤		1,081,515	1,244,348	1,279,186	102.8
その他		47,383	44,336	36,639	82.6
合計		1,247,688	1,411,201	1,424,694	101.0

(3) 麻薬施用状況

種類	製剤名	単位	令和元.10.1	令和2.10.1	令和3.10.1	前年度比
			～ 令和2.9.30	～ 令和3.9.30	～ 令和4.9.30	
注射	オキファスト注10mg	Amp	340	0	0	-
	オキファスト注50mg	Amp	200	0	0	-
	フェンタニル注射液0.1mg	Amp	398	422	428	101.4
	フェンタニル注射液0.5mg	Amp	352	389	487	125.2
	モルヒネ塩酸塩注射液10mg	Amp	235	350	410	117.1
	モルヒネ塩酸塩注射液50mg	Amp	5	135	82	60.7
	ケタラール静注用50mg	Amp	103	117	108	92.3
	アルチバ静注用2mg	V	777	835	0	皆減
	レミフェンタニル静注用2mg	V	0	60	841	1,401.7
	レミフェンタニル静注用5mg	V	82	82	96	117.1
	ベチジン塩酸塩注射液35mg	Amp	249	235	230	97.9
	オキシコドン注射液10mg	Amp	188	141	36	25.5
	オキシコドン注射液50mg	Amp	324	125	12	9.6
	ナルベイン注2mg	Amp	11	390	911	233.6
	ナルベイン注20mg	Amp	0	287	320	111.5

種類	製 剤 名	単 位	令和元. 10. 1	令和2. 10. 1	令和3. 10. 1	前年度比
			～ 令和2. 9. 30	～ 令和3. 9. 30	～ 令和4. 9. 30	
内用	コデインリン酸塩散10%	g	-	-	-	% -
	コデインリン酸塩錠20mg	錠	304	489	1,156	236.4
	MS コンチン錠10mg	錠	769	527	332	63.0
	MS コンチン錠30mg	錠	142	208	0	皆減
	オキシコドン徐放錠5mg	錠	6,869	0	0	-
	オキシコドン徐放錠20mg	錠	1,020	242	0	皆減
	オキノーム散2.5mg	包	2,962	2,969	2,725	91.8
	オキノーム散5mg	包	3,714	4,584	3,885	84.8
	オキノーム散20mg	包	190	160	459	286.9
	アヘンチンキ	mL	0	0	114	皆増
	オプソ内服液5mg	包	546	803	481	59.9
	オプソ内服液10mg	包	285	764	42	5.5
	オキシコドン徐放錠5mgNX	錠	847	7,287	6,401	87.8
	オキシコドン徐放錠20mgNX	錠	0	1,389	1,147	82.6
	ナルサス錠2mg	錠	94	689	628	91.1
	ナルサス錠6mg	錠	139	474	329	69.4
	ナルサス錠12mg	錠	22	269	443	164.7
	ナルサス錠24mg	錠	0	0	637	皆増
	ナルラピド錠1mg	錠	70	104	692	665.4
	ナルラピド錠2mg	錠	0	305	580	190.2
	ナルラピド錠4mg	錠	0	0	1,100	皆増
	メサペイン錠5mg	錠	0	57	581	1,019.3
	メサペイン錠10mg	錠	0	276	0	皆減
	外用	アンペック坐剤10mg	個	424	297	181
フェンタニルケエン酸塩 1日用テープ 1mg		枚	778	511	498	97.5
フェンタニルケエン酸塩 1日用テープ 2mg		枚	989	1,253	465	37.1
フェンタニルケエン酸塩 1日用テープ 8mg		枚	43	12	23	191.7
フェントステープ 0.5mg		枚	0	0	56	皆増
フェントステープ 1mg		枚	0	0	0	-
フェントステープ 2mg		枚	0	0	0	-
フェントステープ 8mg		枚	0	0	0	-

(4) 薬事審議委員会審議医薬品件数

医薬品	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
					%
採用医薬品		126	187	181	96.8
削除医薬品		40	95	82	86.3

※ 採用医薬品(申請)医薬品：臨時採用品、製造中止による代替品などを含みます。

※ 削除医薬品：不変動による中止医薬品、製造中止品などを含みます。

(5) D Iへの項目別問合せ件数

項目	年度			前年度比
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	件	件	件	%
使用上の注意・副作用	35	44	29	65.9
薬剤の安定性	50	34	34	100.0
商品照合	6	9	10	111.1
疾患と使用薬剤	17	13	9	69.2
用法・用量	34	26	31	119.2
薬理作用	18	16	12	75.0
処方・調製法	27	8	14	175.0
中毒関係	0	1	0	皆減
注射剤配合変化	1	1	2	200.0
含量・単位	6	2	4	200.0
文献提供	8	3	1	33.3
消毒関係	0	1	0	皆減
新薬関係	2	6	1	16.7
薬物相互作用	5	7	7	100.0
麻薬関係	3	0	1	皆増
長期投与	2	0	0	-
薬価関連	1	0	1	皆増
オーダーリング関係	0	0	0	-
T D M	1	1	1	100.0
がん化学療法	0	15	5	33.3
その他	0	1	0	皆減
計	216	188	162	86.2

(6) 特殊調剤・特殊製剤

品目	年度	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
						%
点眼剤・眼軟膏剤						
アトピノン点眼液0.5% 5mL		本	6	6	4	66.7
caputo点眼液 2mL		本	300	280	280	100.0
外用液剤						
安息香チンキ分注 50mL		本	2	2	0	皆減
塩化アルミニウム液20% 100mL		本	25	26	16	61.5
吸入液A		mL	1,170	720	885	122.9
トラゾリン分注 5mL		本	37	41	44	107.3
プロピナ分注 5mL		本	116	178	250	140.4
ホスミン液5000倍 25mL		mL	130	133	138	103.8
ホスミン液5000倍 30mL		mL	0	0	30	皆増
滅菌グリセリン分注 10mL		本	450	378	270	71.4
滅菌ヒオクタン1% 5mL		本	129	131	108	82.4
消毒剤・洗浄・保存剤						
オキシドール液2倍 500mL		本	40	32	28	87.5
酢酸溶液3% 300mL		本	27	27	27	100.0
複方ヨードグリセリン分注 50mL		本	4	5	6	120.0
検査・診用剤						
パッチテスト		件	0	4	0	皆減
BTB溶液0.1% 30mL		本	8	10	0	皆減
BTB溶液0.1% 40mL		本	4	5	0	皆減
BTB溶液0.1% 100mL		本	0	0	4	皆増
ブリアントブルー-G液 5mL		本	102	119	150	126.1
ルゴール液 2.5% 40mL		本	3	3	3	100.0
ルゴール液 2.5% 20mL		本	3	3	0	皆減
滅菌墨汁 4mL		本	50	50	50	100.0
その他						
硝酸銀溶液20% 5mL		本	36	39	39	100.0
硝酸銀溶液20% 10mL		本	3	0	0	-
硝酸銀溶液20% 20mL		本	3	0	0	-
硝酸銀溶液20% 25mL		本	10	13	13	100.0

(7) 注射薬セット

① 入院注射 (TPN含む) 件数

病棟	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
		件	件	件	%
I C U ・ C C U		12,205	15,448	15,197	98.4
3 階 病 棟		13,904	13,990	15,509	110.9
4 階 東 病 棟		4,114	3,680	4,755	129.2
4 階 西 病 棟		8,443	9,918	14,463	145.8
5 階 西 病 棟		35,177	35,642	38,522	108.1
6 階 東 病 棟		20,106	16,633	18,492	111.2
6 階 西 病 棟		565	964	611	63.4
7 階 東 病 棟		32,207	29,641	27,255	92.0
7 階 西 病 棟		30,596	27,775	25,380	91.4
8 階 病 棟		2,944	4,152	6,218	149.8
合 計		160,261	157,843	166,402	105.4

② がん化学療法件数

	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
		件	件	件	%
入 院		4,545	5,074	4,725	93.1
外 来		9,252	10,812	11,513	106.5
合 計		13,797	15,886	16,238	102.2

(8) 薬剤管理指導業務

① 服薬指導件数

病棟	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
		件	件	件	%
I C U ・ C C U		180	206	270	131.1
N I C U		54	70	0	皆減
G C U		0	0	41	皆増
3 階 病 棟		1,458	1,454	1,160	79.8
4 階 東 病 棟		0	0	0	-
4 階 西 病 棟		1,351	1,507	1,533	101.7
5 階 西 病 棟		3,093	2,947	2,577	87.4
6 階 東 病 棟		1,960	1,852	1,408	76.0
6 階 西 病 棟		0	0	0	-
7 階 東 病 棟		2,698	2,641	2,084	78.9
7 階 西 病 棟		2,823	2,637	1,869	70.9
8 階 病 棟		75	0	0	-
合 計		13,692	13,314	10,942	82.2

② 退院指導件数

病棟	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
					件
3 階 病 棟		373	568	572	100.7
4 階 東 病 棟		0	0	0	-
4 階 西 病 棟		319	477	325	68.1
5 階 西 病 棟		666	582	366	62.9
6 階 東 病 棟		378	351	289	82.3
6 階 西 病 棟		0	0	0	-
7 階 東 病 棟		538	582	403	69.2
7 階 西 病 棟		629	712	446	62.6
8 階 病 棟		22	0	0	-
合 計		2,925	3,272	2,401	73.4

③ 病棟業務実施加算 1

病棟	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
					件
I C U ・ C C U		32	43	0	皆減
G C U		0	0	216	皆増
3 階 病 棟		1,383	1,425	1,795	126.0
4 階 東 病 棟		0	0	0	-
4 階 西 病 棟		1,607	1,855	1,886	101.7
5 階 西 病 棟		3,159	3,051	2,904	95.2
6 階 東 病 棟		2,042	1,991	2,147	107.8
6 階 西 病 棟		0	0	0	-
7 階 東 病 棟		2,826	2,809	2,627	93.5
7 階 西 病 棟		2,832	2,831	2,557	90.3
8 階 病 棟		70	0	0	-
合 計		13,951	14,005	14,132	100.9

④ 病棟業務実施加算 2

病棟	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
					件
I C U ・ C C U		0	0	1,240	皆増
N I C U		1,986	1,683	0	皆減

(9) 持参薬報告件数

	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
					件
入院前持参薬		1,296	1,573	1,473	93.6
入院時持参薬		4,358	4,945	3,863	78.1
合 計		5,654	6,518	5,336	81.9

注) 平成28年10月より持参薬システム導入

(10) 無菌製剤調製

① 病棟別T P N件数

病棟	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
		件	件	件	%
I C U ・ C C U		273	382	236	61.8
3 階 病 棟		32	10	58	580.0
4 階 東 病 棟		10	41	6	14.6
4 階 西 病 棟		7	0	98	皆増
5 階 西 病 棟		267	646	680	105.3
6 階 東 病 棟		7	79	44	55.7
6 階 西 病 棟		0	0	0	-
7 階 東 病 棟		561	436	164	37.6
7 階 西 病 棟		54	139	110	79.1
8 階 病 棟		50	0	16	皆増
合 計		1,261	1,733	1,412	81.5

② 診療科別入院がん化学療法件数

診療科	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
		件	件	件	%
内 科		673	541	656	121.3
外 科		527	893	576	64.5
乳 腺 外 科		-	-	12	皆増
脳 神 経 外 科		0	5	9	180.0
呼 吸 器 外 科		8	0	0	-
泌 尿 器 科		139	80	85	106.3
産 婦 人 科		128	302	142	47.0
整 形 外 科		3	0	0	-
合 計		1,478	1,821	1,480	81.3

③ 診療科別外来がん化学療法件数

診療科	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
		件	件	件	%
内 科		1,094	1,431	1,332	93.1
外 科		1,225	1,247	987	79.1
乳 腺 外 科		-	-	520	皆増
脳 神 経 外 科		41	37	54	145.9
呼 吸 器 外 科		64	0	0	-
泌 尿 器 科		233	192	156	81.3
産 婦 人 科		144	184	216	117.4
整 形 外 科		10	12	10	83.3
皮 膚 科		12	30	18	60.0
合 計		2,823	3,133	3,293	105.1

17 リハビリテーション科

(1) 理学療法

① 年度別入院・外来患者数

項目	年度			
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
	件	件	件	%
入院	37,235	36,043	38,513	106.9
外来	3,880	4,289	4,233	98.7
合計	41,115	40,332	42,746	106.0

② 年度別療法単位数

項目	年度			
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
	件	件	件	%
脳血管1単位	3,375	3,105	3,483	112.2
脳血管2単位	5,918	5,697	7,996	140.4
脳血管3単位	2,808	1,967	1,277	64.9
廃用1単位	4,574	4,284	4,191	97.8
廃用2単位	1,483	1,429	1,306	91.4
廃用3単位	273	212	139	65.6
運動器1単位	2,808	2,997	2,701	90.1
運動器2単位	9,897	11,319	13,030	115.1
運動器3単位	5,018	4,330	3,153	72.8
呼吸器1単位	3,231	3,098	3,510	113.3
呼吸器2単位	828	1,161	933	80.4
呼吸器3単位	16	120	55	45.8
がん患者リハ1単位	662	473	834	176.3
がん患者リハ2単位	187	134	140	104.5
がん患者リハ3単位	37	6	2	33.3
合計	41,115	40,332	42,750	106.0

(2) 作業療法

① 年度別入院・外来患者数

項目	年度			
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
	件	件	件	%
入院	12,667	12,477	13,230	106.0
外来	2,118	2,514	1,982	78.8
合計	14,785	14,991	15,212	101.5

② 年度別療法単位数

項目	年度			
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
	件	件	件	%
脳血管1単位	1,773	1,651	1,720	104.2
脳血管2単位	3,628	4,257	5,980	140.5
脳血管3単位	2,349	1,205	700	58.1
廃用1単位	2,218	1,670	1,333	79.8
廃用2単位	187	337	262	77.7
廃用3単位	49	5	5	100.0
運動器1単位	819	796	534	67.1
運動器2単位	1,939	3,543	3,202	90.4
運動器3単位	829	469	89	19.0
呼吸器1単位	0	0	111	皆増
呼吸器2単位	0	5	17	340.0
がん患者リハ1単位	906	987	1,145	116.0
がん患者リハ2単位	85	65	113	173.8
がん患者リハ3単位	3	1	1	100.0
合計	14,785	14,991	15,212	101.5

(3) 言語療法

① 年度別入院・外来患者数

項目	年度			
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
	件	件	件	%
入院	7,474	7,302	7,158	98.0
外来	35	92	162	176.1
合計	7,509	7,394	7,320	99.0

② 年度別療法単位数

項目	年度			
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
	件	件	件	%
脳血管1単位	2,826	2,267	2,458	108.4
脳血管2単位	3,172	2,812	2,882	102.5
脳血管3単位	85	86	563	654.7
廃用1単位	650	864	459	53.1
廃用2単位	48	158	48	30.4
廃用3単位	0	9	0	皆減
呼吸器1単位	585	950	1,242	130.7
呼吸器2単位	120	151	110	72.8
呼吸器3単位	0	1	0	皆減
がん患者リハ1単位	22	81	66	81.5
がん患者リハ2単位	1	15	2	13.3
合計	7,509	7,394	7,830	105.9

18 放射線科・放射線技術科

(1) 部門別年度別総件数

項目	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
		件	件	件	%
一般撮影部門		28,136	28,204	28,187	99.9
マンモグラフィ部門		1,304	1,472	1,889	128.3
ポータブル撮影部門		7,460	7,773	8,307	106.9
CT部門		15,422	14,497	14,974	103.3
MRI部門		5,816	6,085	6,247	102.7
循環器部門		216	224	160	71.4
透視部門		2,076	1,934	2,018	104.3
RI部門		472	574	489	85.2
放射線治療部門		3,601	4,378	5,028	114.8
骨密度検査部門		187	259	825	318.5
画像入出力部門		9,025	9,209	9,018	97.9
合計件数		73,715	74,609	77,142	103.4

(2) 一般撮影部門

項目	年度	令和2年度				令和3年度				令和4年度				前年度比
		入院	外来	健診	計	入院	外来	健診	計	入院	外来	健診	計	%
頭頸部		36	69	0	105	44	60	0	104	36	49	0	85	81.7
脊椎		507	2,089	0	2,596	567	1,989	0	2,556	570	1,895	0	2,465	96.4
胸部・胸郭		2,363	10,267	3,679	16,309	2,348	10,603	3,725	16,676	2,270	11,005	4,038	17,313	103.8
腹部・骨盤		774	2,156	0	2,930	861	2,319	0	3,180	989	2,159	0	3,148	99.0
上肢		205	1,797	0	2,002	224	1,718	0	1,942	191	1,638	0	1,829	94.2
下肢		1,100	1,959	0	3,059	805	1,852	0	2,657	687	1,585	0	2,272	85.5
歯牙		109	1,026	0	1,135	119	970	0	1,089	120	955	0	1,075	98.7
合計件数		5,094	19,363	3,679	28,136	4,968	19,511	3,725	28,204	4,863	19,286	4,038	28,187	99.9
合計人数		4,636	17,217	3,679	25,532	4,240	17,625	3,725	25,590	4,154	17,274	4,038	25,466	99.5

(3) マンモグラフィ部門

項目	年度	令和2年度				令和3年度				令和4年度				前年度比
		入院	外来	健診	計	入院	外来	健診	計	入院	外来	健診	計	%
撮影		3	467	827	1,297	3	561	906	1,470	5	656	1,224	1,885	128.2
バイオプシー		0	7	0	7	0	2	0	2	0	4	0	4	200.0
合計件数(人数)		3	474	827	1,304	3	563	906	1,472	5	660	1,224	1,889	128.3

(4) ポータブル撮影部門

項目	令和2年度			令和3年度			令和4年度			前年度比
	入院	外来	計	入院	外来	計	入院	外来	計	
	件	件	件	件	件	件	件	件	件	%
頭頸部	1	1	2	0	0	0	0	0	0	-
脊椎	177	3	180	204	0	204	213	1	214	104.9
胸部・胸郭	4,489	72	4,561	4,849	91	4,940	5,374	107	5,481	111.0
腹部・骨盤	1,857	18	1,875	1,935	8	1,943	1,994	19	2,013	103.6
上肢	80	4	84	85	10	95	93	10	103	108.4
下肢	329	6	335	263	0	263	220	0	220	83.7
O-arm	27	0	27	23	0	23	34	0	34	147.8
C-arm	380	16	396	281	24	305	230	12	242	79.3
合計件数	7,340	120	7,460	7,640	133	7,773	8,158	149	8,307	106.9
合計人数	6,082	98	6,180	6,596	131	6,727	6,617	147	6,764	100.6

※令和元年度よりC-armの項目を透視部門より移動

(5) CT部門

項目	令和2年度				令和3年度				令和4年度				前年度比
	入院	外来	健診	計	入院	外来	健診	計	入院	外来	健診	計	
	件	件	件	件	件	件	件	件	件	件	件	件	%
頭部	1,102	3,034	0	4,136	1,051	2,680	0	3,731	997	2,980	0	3,977	106.6
体幹部	1,703	8,620	70	10,393	1,676	8,314	49	10,039	1,721	8,520	53	10,294	102.5
四肢部	205	631	0	836	152	487	0	639	133	502	0	635	99.4
心臓	5	52	0	57	10	78	0	88	3	65	0	68	77.3
合計件数	3,015	12,337	70	15,422	2,889	11,559	49	14,497	2,854	12,067	53	14,974	103.3
造影数	637	3,971	0	4,608	540	4,121	0	4,661	551	4,007	0	4,558	97.8
造影率 (%)	23.6	37.1	0.0	34.2	20.7	40.3	0.0	36.1	23.0	38.2	0.0	35.2	97.4
合計人数	2,697	10,694	70	13,461	2,611	10,238	49	12,898	2,398	10,499	53	12,950	100.4

(6) MRI部門

項目	令和2年度				令和3年度				令和4年度				前年度比
	入院	外来	健診	計	入院	外来	健診	計	入院	外来	健診	計	
	件	件	件	件	件	件	件	件	件	件	件	件	%
頭部	471	2,534	118	3,123	456	2,539	154	3,149	425	2,644	201	3,270	103.8
頸部	72	300	0	372	65	294	0	359	149	508	0	657	183.0
胸部	1	106	0	107	2	87	0	89	0	100	0	100	112.4
腹部	44	426	0	470	71	453	0	524	52	388	0	440	84.0
骨盤	40	449	0	489	48	713	0	761	23	611	0	634	83.3
脊椎	188	665	0	853	175	635	0	810	164	648	0	812	100.2
四肢部	74	305	0	379	69	310	0	379	36	265	0	301	79.4
軟部・皮膚	0	23	0	23	0	14	0	14	0	33	0	33	235.7
合計件数	890	4,808	118	5,816	886	5,045	154	6,085	849	5,197	201	6,247	102.7
造影数	100	922	0	1,022	109	1,123	0	1,232	107	1,003	0	1,110	90.1
造影率 (%)	12.3	20.4	0.0	18.8	13.4	23.6	0.0	21.5	15.6	21.2	0.0	20.5	95.4
合計人数	812	4,518	118	5,448	812	4,766	154	5,732	685	4,724	201	5,414	94.5

(7) 循環器部門

(a) アンギオ検査室

項目		令和2年度			令和3年度			令和4年度			前年度比
		造影	治療	計	造影	治療	計	造影	治療	計	
内科	頭頸部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
	腹部	7	82	89	3	80	83	3	37	40	48.2
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
	計	7	82	89	3	80	83	3	37	40	48.2
外科	頭頸部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
	腹部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
	四肢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
脳神経外科	頭頸部	25	29	54	23	38	61	27	25	52	85.2
	腹部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
	計	25	29	54	23	38	61	27	25	52	85.2
泌尿器科	頭頸部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
	腹部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
	その他	0	0	0	0	6	6	0	3	3	50.0
	計	0	0	0	0	6	6	0	3	3	50.0
小児科	頭頸部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
	腹部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
合計		32	111	143	26	124	150	30	0	95	63.3

(b) 心臓カテーテル検査室

項目	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
		件	件	件	%
CAG		40	17	23	135.3
PCI・IVR		17	20	17	85.0
四肢部		2	2	3	150.0
ペースメーカー		14	35	12	34.3
合計件数		73	74	55	74.3
合計人数		66	73	53	72.6

(8) 透視 (X-TV) 部門

項目	令和2年度				令和3年度				令和4年度				前年度比 %
	入院	外来	健診	計	入院	外来	健診	計	入院	外来	健診	計	
食道	48	0	0	48	27	1	0	28	38	4	0	42	150.0
胃	31	29	1,059	1,119	37	39	868	944	33	37	803	873	92.5
腸	32	32	0	64	48	45	0	93	53	37	0	90	96.8
肝胆膵	223	5	0	228	182	6	0	188	187	12	0	199	105.9
腎膀胱	68	149	0	217	73	161	0	234	87	119	0	206	88.0
脈管	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
ミエロ・ブロック	51	5	0	56	39	7	0	46	93	21	0	114	247.8
気管支	79	0	0	79	73	0	0	73	70	0	0	70	95.9
瘻孔	46	14	0	60	51	13	0	64	24	24	0	48	75.0
整復	11	24	0	35	5	17	0	22	6	20	0	26	118.2
カテ挿入	150	20	0	170	210	32	0	242	328	22	0	350	144.6
合計件数	739	278	1,059	2,076	745	321	868	1,934	919	296	803	2,018	104.3
合計人数	739	277	1,059	2,075	745	321	868	1,934	919	296	803	2,018	104.3

(9) R I 部門

項目	令和2年度			令和3年度			令和4年度			前年度比 %
	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	
脳・脳血流	10	102	112	11	98	109	19	76	95	87.2
腎	0	7	7	0	6	6	0	7	7	116.7
甲状腺・唾液腺	0	6	6	0	6	6	2	6	8	133.3
心筋	12	25	37	33	22	55	26	28	54	98.2
骨	18	228	246	10	323	333	13	263	276	82.9
腫瘍	5	1	6	2	1	3	1	1	2	66.7
センチネルリンパ節	36	0	36	26	22	48	5	41	46	95.8
その他	3	3	6	2	1	3	0	1	1	33.3
RI内用療法	0	16	16	0	11	11	0	0	0	皆減
合計件数(合計人数)	84	388	472	84	490	574	66	423	489	85.2

(10) 放射線治療部門

部位	年度			
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
	件	件	件	%
中枢神経	4	2	4	200.0
頭頸部	6	2	4	200.0
食道	7	6	12	200.0
肺・縦隔	42	35	41	117.1
乳腺	44	47	60	127.7
肝・胆・膵	5	4	3	75.0
消化器	8	8	8	100.0
造血リンパ	3	3	2	66.7
婦人生殖	3	10	1	10.0
泌尿生殖	37	51	55	107.8
皮膚・軟部	0	0	1	皆増
その他	1	12	0	皆減
合計件数	160	180	191	106.1
延べ件数	3,601	4,378	5,028	114.8
延べ治療患者数	3,356	4,063	4,479	110.2

※ ただし、転移病巣を治療しても原発病巣をカウント

(11) 骨密度検査部門

	年度			
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
	件	件	件	%
前腕部	187	0	0	-
腰椎	0	7	21	300.0
大腿骨	0	4	12	300.0
腰椎+大腿骨	0	248	792	319.4
合計件数 (人数)	187	259	825	318.5

(故障のため、令和2年11月2日から令和3年10月10日まで検査施行できず)

(12) 画像入出力部門

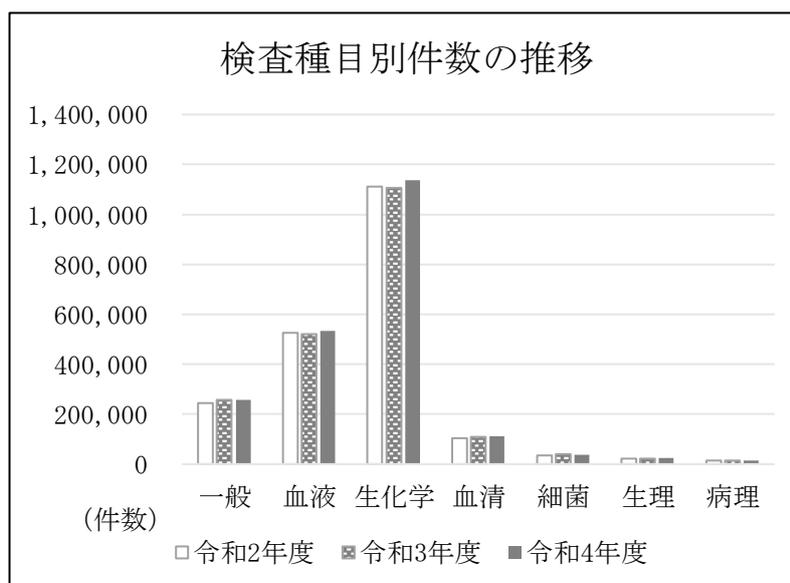
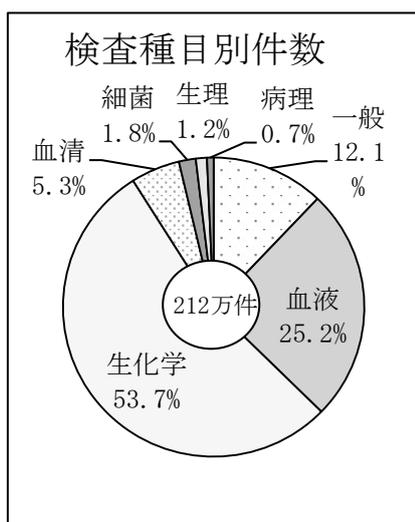
項目	年度				
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比	
	件	件	件	%	
画像取り込み	CD取り込み	5,151	5,441	5,649	103.8
	フィルム取り込み	59	36	38	105.6
	他媒体取り込み	1	0	0	-
	合計件数	5,211	5,477	5,687	103.8
画像出力	CD出力件数	3,814	3,732	3,331	89.3
合計件数	9,025	9,209	9,018	97.9	

19 中央検査科・病理診断科

(1) 検査種目別件数の推移

種目	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
		件	件	件	%
一 般		245,766	257,127	256,116	99.6
血 液		524,864	520,611	533,732	102.5
生 化 学		1,111,306	1,106,662	1,136,309	102.7
血 清		103,419	109,097	111,403	102.1
細 菌		34,766	39,185	38,318	97.8
生 理		23,191	23,158	25,107	108.4
病 理		15,190	15,316	15,095	98.6
外 来 採 血 者 数		41,478	42,597	42,184	99.0
合 計		2,099,980	2,113,753	2,158,264	102.1

(2) 検査種目別件数の構成比



(3) 年度別検査項目別件数

種 別	検査項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
		件	件	件	%
尿検査	尿中一般物質検査（定性・半定量）	197,676	203,256	201,868	99.3
	尿中一般物質検査（定量）	4,933	7,324	6,630	90.5
	沈渣・潜血反応検査	31,130	33,423	34,004	101.7
	その他	2,137	2,898	3,086	106.5
	計	235,876	246,901	245,588	99.5
糞便検査	潜血反応	5,096	5,375	5,804	108.0
	虫卵検査	3	7	2	28.6
	その他	0	4	0	皆減
	計	5,099	5,386	5,806	107.8
血液一般検査	血液細胞学的検査	484,368	478,584	487,873	101.9
	凝固機能検査	36,422	38,089	42,228	110.9
	血液型検査	4,074	3,938	3,630	92.2
	その他	0	0	1	皆増
	計	524,864	520,611	533,732	102.5
髄液・穿刺液・胃・十二指腸液検査	脳脊髄一般検査	1,056	872	1,217	139.6
	穿刺液・精液一般検査	3,735	3,968	3,505	88.3
	計	4,791	4,840	4,722	97.6
生化学検査	蛋白代謝検査	391,149	391,728	404,579	103.3
	酵素・アイソザイム検査	358,661	353,541	360,903	102.1
	無機成分検査	197,329	197,829	206,477	104.4
	脂肪代謝検査	85,064	83,634	83,245	99.5
	糖代謝検査	60,389	59,577	58,581	98.3
	内分泌学的検査	15,208	16,944	19,371	114.3
	血中薬物濃度測定検査	535	445	437	98.2
	血液ガス分析検査	2,619	2,529	2,396	94.7
	その他	352	435	320	73.6
	計	1,111,306	1,106,662	1,136,309	102.7
血清検査	感染症血清学的検査	52,645	52,733	53,256	101.0
	ウイルス抗原抗体検査	2,070	2,689	3,499	130.1
	交差適合試験他検査	5,587	5,379	5,379	100.0
	免疫グロブリンと補体検査	2,988	4,108	4,108	100.0
	腫瘍マーカー検査	25,104	28,076	28,479	101.4
	肝炎ウイルス検査	15,025	16,112	16,682	103.5
	計	103,419	109,097	111,403	102.1
細菌検査	一般細菌検査	26,771	27,602	26,576	96.3
	結核菌検査	1,754	1,607	1,576	98.1
	真菌検査	2,379	2,033	2,281	112.2
	その他	3,862	7,943	7,885	99.3
	計	34,766	39,185	38,318	97.8
生理検査	心電図・心音図検査	13,290	13,486	12,983	96.3
	脳波・筋電図脳幹反応検査	699	625	570	91.2
	超音波診断検査	7,182	7,331	7,349	100.2
	肺機能検査	786	582	2,918	501.4
	耳鼻科関連検査	832	728	851	116.9
	その他	402	406	436	107.4
	計	23,191	23,158	25,107	108.4
病理検査	病理組織検査	2,662	2,954	2,685	90.9
	細胞診検査	4,526	4,601	4,688	101.9
	特殊染色	8,002	7,761	7,722	99.5
	計	15,190	15,316	15,095	98.6
外来採血実施数		41,478	42,597	42,184	99.0
合 計		2,099,980	2,113,753	2,158,264	102.1

(4) 剖検件数

項目	年度			
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
	件	件	件	%
死亡件数	484	475	484	101.9
剖検件数	2	1	1	100.0
剖検率(%)	0.4	0.2	0.2	98.1

内科	
	件
死亡件数	304
剖検件数	1
剖検率(%)	0.3

(5) 細胞診件数

項目	年度			
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
	件	件	件	%
婦人科	2,872	2,925	2,919	99.8
喀痰	171	162	188	116.0
胸水	116	90	90	100.0
腹水	136	114	108	94.7
尿	979	1,061	1,142	107.6
腭液・胆汁	40	31	40	129.0
髄液	12	12	14	116.7
乳房穿刺吸引	11	12	7	58.3
リンパ節	9	17	18	105.9
甲状腺穿刺吸引	12	14	19	135.7
気管支擦過	83	85	81	95.3
その他	85	78	62	79.5
合計	4,526	4,601	4,688	101.9

(6) 細菌同定検査情報

重複株を除外(月毎)にて抽出

菌名	口腔、気道呼吸器由来菌		消化器由来菌		泌尿器、生殖器由来菌		血液穿刺液由来菌		その他の部位からの由来菌	
	株数	比率	株数	比率	株数	比率	株数	比率	株数	比率
<i>Staphylococcus aureus MRSA</i>	33	6.9	1	1.8	8	1.0	7	3.4	18	8.6
<i>Staphylococcus aureus MSSA</i>	76	15.9	1	1.8	13	1.6	18	8.7	39	18.6
<i>Coagulase-negative Staphylococcus</i>	80	16.8	4	7.0	10	1.2	18	8.7	15	7.1
<i>Streptococcus pyogenes (Group A)</i>	0	0.0	0	0.0	2	0.2	0	0.0	3	1.4
<i>Group A Streptococcus</i>	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
<i>Streptococcus agalactiae (Group B)</i>	24	5.0	1	1.8	96	11.8	6	2.9	8	3.8
<i>Group C Streptococcus</i>	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	2	1.0
<i>Group F Streptococcus</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	1.0
<i>Group G Streptococcus</i>	5	1.0	0	0.0	15	1.8	0	0.0	5	2.4
<i>Streptococcus dysgalactiae</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	7	3.4	0	0.0
<i>Streptococcus anginosus group</i>	0	0.0	1	1.8	0	0.0	2	1.0	0	0.0
<i>Streptococcus bovis</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5
<i>Streptococcus milleri group</i>	0	0.0	1	1.8	5	0.6	1	0.5	2	1.0
<i>Viridans Streptococcus group</i>	6	1.3	1	1.8	21	2.6	3	1.4	6	2.9
<i>S. pneumoniae PSSP</i>	16	3.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Enterococcus faecalis</i>	2	0.4	5	8.8	71	8.7	5	2.4	16	7.6
<i>Enterococcus faecium</i>	0	0.0	0	0.0	17	2.1	2	1.0	2	1.0
<i>Enterococcus casseliflavus</i>	0	0.0	1	1.8	0	0.0	1	0.5	0	0.0
<i>Enterococcus gallinarum</i>	0	0.0	0	0.0	1	0.1	1	0.5	0	0.0
<i>Enterococcus raffinosus</i>	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
<i>Enterococcus avium</i>	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	1	0.5
<i>Aerococcus urinae</i>	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
<i>Listeria monocytogenes</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5	0	0.0
<i>Bacillus sp.</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	9	4.3	0	0.0
<i>Corynebacterium sp.</i>	4	0.8	0	0.0	2	0.2	8	3.8	2	1.0
<i>Escherichia coli</i> (ESBLを除く)	11	2.3	8	14.0	200	24.6	43	20.7	14	6.7
<i>Escherichia coli</i> ESBL	3	0.6	0	0.0	55	6.8	1	0.5	1	0.5
<i>Escherichia coli</i> EHEC	0	0.0	1	1.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Klebsiella pneumoniae</i> (ESBLを除く)	32	6.7	7	12.3	51	6.3	15	7.2	4	1.9
<i>Klebsiella pneumoniae</i> ESBL	3	0.6	0	0.0	2	0.2	1	0.5	0	0.0
<i>Klebsiella oxytoca</i>	7	1.5	1	1.8	21	2.6	7	3.4	0	0.0
<i>Citrobacter freundii</i>	2	0.4	0	0.0	13	1.6	1	0.5	1	0.5
<i>Citrobacter koseri</i>	3	0.6	1	1.8	9	1.1	1	0.5	0	0.0
<i>Citrobacter farmeri</i>	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
<i>Citrobacter youngae</i>	0	0.0	1	1.8	1	0.1	0	0.0	0	0.0
<i>Citrobacter sp.</i>	0	0.0	1	1.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Proteus mirabilis</i> (ESBLを除く)	4	0.8	1	1.8	15	1.8	2	1.0	8	3.8
<i>Proteus mirabilis</i> ESBL	1	0.2	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
<i>Proteus vulgaris</i>	0	0.0	0	0.0	7	0.9	3	1.4	0	0.0
<i>Providencia rettgeri</i>	0	0.0	0	0.0	3	0.4	0	0.0	0	0.0
<i>Providencia stuartii</i>	0	0.0	0	0.0	2	0.2	0	0.0	0	0.0
<i>Enterobacter aerogenes</i> (CREを除く)	9	1.9	2	3.5	7	0.9	1	0.5	1	0.5
<i>Enterobacter aerogenes</i> CRE	0	0.0	0	0.0	3	0.4	0	0.0	0	0.0
<i>Enterobacter cloacae</i>	7	1.5	0	0.0	13	1.6	3	1.4	2	1.0

菌名	口腔、気道呼吸器由来菌		消化器由来菌		泌尿器、生殖器由来菌		血液穿刺液由来菌		その他の部位からの由来菌	
	株数	比率	株数	比率	株数	比率	株数	比率	株数	比率
<i>Pantoea agglomerans</i>	1	0.2	0	0.0	0	0.0	1	0.5	0	0.0
<i>Edwardsiella tarda</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5	0	0.0
<i>Morganella morganii</i>	0	0.0	0	0.0	16	2.0	0	0.0	3	1.4
<i>Serratia marcescens</i>	7	1.5	2	3.5	6	0.7	1	0.5	5	2.4
<i>Campylobacter sp.</i>	0	0.0	10	17.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Haemophilus influenzae</i> (BLNARを除く)	22	4.6	0	0.0	1	0.1	1	0.5	0	0.0
<i>Haemophilus influenzae</i> (BLNAR)	3	0.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Haemophilus parainfluenzae</i>	2	0.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Moraxella catarrhalis</i>	12	2.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Aeromonas hydrophila group</i>	1	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Neisseria sp.</i>	0	0.0	1	1.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Pseudomonas aeruginosa</i>	39	8.2	1	1.8	45	5.5	4	1.9	14	6.7
<i>Pseudomonas fluorescens/putida</i>	0	0.0	0	0.0	2	0.2	0	0.0	0	0.0
<i>Pseudomonas sp.</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	1.0	0	0.0
<i>Acinetobacter baumannii</i>	6	1.3	0	0.0	3	0.4	0	0.0	2	1.0
<i>Burkholderia cepacia</i>	1	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Stenotrophomonas maltophilia</i>	3	0.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Salmonella sp.</i>	0	0.0	1	1.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Yersinia enterocolitica group</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5	0	0.0
<i>Bacteroides fragilis group</i>	0	0.0	0	0.0	3	0.4	3	1.4	7	3.3
<i>Bacteroides sp.</i>	0	0.0	0	0.0	2	0.2	6	2.9	2	1.0
<i>Clostridium perfringens</i>	0	0.0	1	1.8	0	0.0	6	2.9	0	0.0
<i>Clostridium sordellii</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5	0	0.0
<i>Clostridium tertium</i>	0	0.0	1	1.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Clostridium sp.</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	1.0	0	0.0
<i>Porphyromona sp.</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5	0	0.0
<i>Fusobacterium nucleatum</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	1.0
<i>Fusobacterium sp.</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5
<i>Prevotella sp.</i>	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	7	3.3
<i>Peptococcus sp.</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5
<i>Peptostreptococcus sp.</i>	0	0.0	0	0.0	2	0.2	4	1.9	4	1.9
<i>Gemella morbillorum</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5	0	0.0
<i>Lactobacillus sp.</i>	0	0.0	1	1.8	0	0.0	1	0.5	0	0.0
<i>Propionibacterium acnes</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	1.0	0	0.0
<i>Aspergillus fumigatus</i>	2	0.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Aspergillus niger</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5
<i>Sporothrix schenckii</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5
<i>Candida sp.</i>	50	10.5	0	0.0	63	7.7	3	1.4	7	3.3
計	477	100.0	57	100.0	814	100.0	208	100.0	210	100.0

前年度（令和3年度）株数	516		77		807		190		212	
前年度比(%)	92.4		74.0		100.9		109.5		99.1	

(7) 外部委託検査件数

項目	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
		件	件	件	%
血液学的検査		98	111	168	151.4
生化学的検査		7,441	7,651	9,030	118.0
免疫学的検査		7,861	7,791	9,367	120.2
微生物学的検査		1,089	1,210	1,235	102.1
病理学的検査		325	249	225	90.4
尿・糞便等検査		101	132	152	115.2
遺伝子・染色体検査		1,638	1,658	1,267	76.4
その他		880	1,018	869	85.4
合計		19,433	19,820	22,313	112.6

(8) 血液製剤使用状況

製剤種類		単位	令和3年度	令和4年度	前年度比
赤血球製剤	照射赤血球液		Bag数	Bag数	%
		1単位	1	4	
		2単位	1,035	988	
		合計	1,036	992	95.8
		合計(単位数)	2,071	1,980	95.6
血小板製剤	照射濃厚血小板	10単位	38	71	
		20単位	0	0	
		合計	38	71	186.8
		合計(単位数)	380	710	186.8
血漿製剤	新鮮凍結血漿	1単位	0	0	
		2単位	128	113	
		4単位	19	0	
		合計	147	113	76.9
		合計(単位数)	332	226	68.1

(9) 血液製剤購入・廃棄状況

①納品状況

製剤種類		単位	令和3年度		令和4年度		前年度比 (金額)
			Bag数	円	Bag数	円	%
赤血球製剤	照射赤血球液	1単位	1	9,067	4	41,565	
		2単位	1,054	19,111,128	989	17,932,548	
		合計	1,055	19,120,195	993	17,974,113	94.0
血小板製剤	照射濃厚血小板	10単位	38	3,106,272	71	5,803,824	
		20単位	0	0	0	0	
		合計	38	3,106,272	71	5,803,824	186.8
血漿製剤	新鮮凍結血漿	1単位	0	0	0	0	
		2単位	136	2,491,792	127	2,326,894	
		4単位	19	459,990	0	0	
		合計	155	2,951,782	127	2,326,894	78.8

②廃棄状況

製剤種類		単位	令和3年度		令和4年度		前年度比 (金額)
			Bag数	円	Bag数	円	%
赤血球製剤	照射赤血球液	1単位	0	0	0	0	
		2単位	18	326,376	4	72,528	
		合計	18	326,376	4	72,528	22.2
血小板製剤	照射濃厚血小板	10単位	0	0	0	0	
		20単位	0	0	0	0	
		合計	0	0	0	0	-
血漿製剤	新鮮凍結血漿	1単位	0	0	0	0	
		2単位	17	146,576	13	238,186	
		4単位	0	0	0	0	
		合計	17	146,576	13	238,186	162.5

(10) 自己血採血状況

	採血件数		患者実数・構成比	
	200mL	400mL	患者実数	構成比
	件	件	人	%
外科	0	0	0	0.0
整形外科	0	12	6	19.4
泌尿器科	0	23	21	67.7
産婦人科	0	8	3	9.7
血管外科	0	0	0	0.0
脳外科	0	2	1	1.2
合計	0	45	31	100.0
前年度合計	14	60	38	-
前年度比(%)	0.0	75.0	81.6	-

(11) お手軽けんさ

① 受験者数

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
	人	人	人	
男性	34	57	64	112.3
女性	42	48	65	135.4
計	76	105	129	122.9

② 項目別件数

項目	年度			
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
	人	人	人	%
標準セット	10	19	24	126.3
糖脂質セット	5	4	7	175.0
貧血セット	1	1	1	100.0
肝機能セット	2	2	1	50.0
肝炎セット	1	0	0	-
血液型検査	3	0	1	皆増
前立腺検査	3	1	1	100.0
甲状腺検査	5	4	8	200.0
腫瘍マーカー	66	93	115	123.7
アレルギー1種類	0	0	0	-
アレルギー3種類	0	0	0	-
アレルギー5種類	0	0	1	皆増
便潜血検査	1	2	1	50.0
骨密度検査	3	0	2	皆増
頸部血管エコー検査	5	13	18	138.5
A B I 検査	1	12	7	58.3
ピロリ検査	2	3	1	33.3
ウイルス抗体1種	0	2	1	50.0
ウイルス抗体2種	1	1	3	300.0
ウイルス抗体3種	0	0	0	-
ウイルス抗体4種	8	6	7	116.7
B型肝炎ワクチン	2	1	5	500.0
合計	119	164	204	124.4

20 栄養管理科

(1) 患者延食数

① 総食数

内容	令和2年度		令和3年度		令和4年度		前年度比
	延食数	一日平均	延食数	一日平均	延食数	一日平均	
一般食	食 122,074	食 333.5	食 124,297	食 340.5	食 125,935	食 345.0	% 103.0
一般食(嚥下調整食)	28,781	78.6	32,948	90.3	35,965	98.5	
特別食	118,812	324.6	110,923	303.9	103,273	282.9	93.1
経腸栄養剤 (濃厚流動食)	13,944	38.1	12,042	33.0	10,625	29.1	88.2
人間ドック食	350	4.0	-	-	-	-	-
合計	281,834	772.1	280,210	767.7	275,798	755.6	98.4

※人間ドック食は稼働日1日あたりの平均。令和3年度より人間ドック食の提供を終了。

② 特別食食数

内容	令和2年度		令和3年度		令和4年度		前年度比
	延食数	一日平均	延食数	一日平均	延食数	一日平均	
肝臓病食	食 7,867	食 21.5	食 8,330	食 22.8	食 6,619	食 18.1	% 79.5
胆嚢・胆管炎食	4,963	13.6	3,990	10.9	3,574	9.8	89.6
膵臓病食	796	2.2	815	2.2	542	1.5	66.5
腎臓病食	9,588	26.2	7,861	21.5	6,624	18.1	84.3
糖尿病食 (カロリーコントロール食)	36,851	100.7	35,380	96.9	36,184	99.1	102.3
減塩食(心臓病含む)	26,844	73.3	27,698	75.9	25,126	68.8	90.7
胃・十二指腸潰瘍食	3,710	10.1	2,427	6.6	1,301	3.6	53.6
胃腸炎食	1,109	3.0	686	1.9	761	2.1	110.9
炎症性腸疾患 (低残渣食含む)	3,490	9.5	3,589	9.8	4,085	11.2	113.8
痛風食	81	0.2	183	0.5	22	0.1	12.0
貧血食	3,788	10.3	2,677	7.3	1,511	4.1	56.4
術後食	8,627	23.6	7,541	20.7	8,455	23.2	112.1
特別食	11,098	30.3	9,746	26.7	8,469	23.2	86.9
合計	118,812	324.6	110,923	303.9	103,273	282.9	93.1

③ 経腸栄養剤食数

内容	令和2年度		令和3年度		令和4年度		前年度比
	延食数	一日平均	延食数	一日平均	延食数	一日平均	
濃厚流動食	食 13,944	食 38.2	食 12,042	食 33.0	食 10,625	食 29.1	% 88.2

(2) 個人指導件数

※()は算定なし：合計を含む

品目	令和2年度			令和3年度			令和4年度		
	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計
糖尿病食	117 (27)	182 (1)	299 (28)	117 (24)	125	242 (24)	89 (17)	83 (0)	172 (17)
妊娠糖尿病	1	30	31 (0)		22	22 (0)		20 (1)	20 (1)
Eコントロール食(肥満)		16 (1)	16 (1)	2	17 (4)	19 (4)	4	10 (2)	14 (2)
糖尿病性腎症食	4 (1)	5	9 (1)	3 (2)	10	13 (2)	1	3	4 (0)
脂質異常症食	22 (3)	27	49 (3)	11	28	39 (0)	20	14	34 (0)
肝臓病食	10	9	19 (0)	18 (1)	4	22 (1)	6	3	9 (0)
膵臓病食	5		5 (0)	5		5 (0)	3 (1)		3 (1)
胆嚢炎・胆石症食	11	2	13 (0)	12	2 (1)	14 (1)	8 (1)	2	10 (1)
術後食	122 (6)	32	154 (6)	124 (3)	52	176 (3)	108 (6)	70	178 (6)
術前栄養相談	5	128	133 (0)	8	80	88 (0)	9	62	71 (0)
胃十二指腸潰瘍食	7		7 (0)	19	1	20 (0)	16 (2)	1	17 (2)
心不全食	6		6 (0)	3 (2)		3 (2)	4		4 (0)
心筋梗塞食			0 (0)	2		2 (0)	3	1	4 (0)
塩分制限食	54 (3)	11	65 (3)	39 (3)	11	50 (3)	33 (4)	8	41 (4)
腎臓病食・透析食	27 (4)	208	235 (4)	21 (1)	251	272 (1)	25 (2)	294	319 (2)
高尿酸血症食	2 (1)	4	6 (1)		3	3 (0)	1 (1)		1 (1)
炎症性腸疾患食	5	6	11 (0)	3	4	7 (0)	7	2	9 (0)
アレルギー食		3	3 (0)			0 (0)		12	12 (0)
消化器疾患食	6 (3)	2	8 (3)	8 (5)	1	9 (5)	4 (6)	2 (2)	6 (8)
ワーファリン食			0 (0)	2		2 (0)			0 (0)
栄養相談	2 (4)	1	2 (5)	2 (6)	2 (2)	4 (8)	1 (1)		1 (1)
貧血食	1	2 (1)	3 (1)	3		3 (0)	2	1	3 (0)
フェニールケトン尿症		8 (2)	8 (2)		1	1 (0)			0 (0)
低栄養	15 (14)	6	21 (14)	14 (10)	1 (2)	15 (12)	2	5	7 (0)
摂食嚥下障害	6 (3)		6 (3)	9 (1)		9 (1)	5 (7)		5 (7)
E S D後	21		21 (0)	16		16 (0)	9 (1)		9 (1)
低体重	1	2	3 (0)	1 (4)	1	2 (4)		4	4 (0)
便秘	1 (1)		0 (1)			0 (0)			0 (0)
食欲不振	1 (1)	1 (1)	0 (2)			0 (0)		1	1 (0)
がん	32 (2)	18	50 (2)	12 (1)	15	27 (1)	8	2	10 (0)
慢性閉塞性呼吸器疾患	10 (5)	2	12 (5)	10 (2)	17	27 (2)	4	1	5 (0)
腸内環境整備				13	18	31		31	31 (0)
透析予防		24	24 (0)		12	12 (0)		15	15 (0)
その他			0 (0)	1	1 (1)	1 (1)			0 (0)
合計	570 (78)	734 (7)	1,304 (85)	543 (65)	688 (10)	1,231 (75)	419 (49)	654 (5)	1,073 (54)

(3) 選択食延食数

項目 \ 年度	令和2年度		令和3年度		令和4年度		
	年間総数	月平均	年間総数	月平均	年間総数	月平均	前年度比
延食数	14,886食	1,241食	12,892食	1,074食	13,178食	1,098食	102.2%

※ 対象：常食・産科食・貧血食

(4) お祝い膳延食数

項目 \ 年度	令和2年度		令和3年度		令和4年度		
	年間総数	月平均	年間総数	月平均	年間総数	月平均	前年度比
延食数	273食	23食	252食	21食	220食	18食	87.3%

※ 対象：産科食

21 臨床工学科

(1) 医療機器管理

項目	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度
貸出前点検件数	件	5,182	4,917	4,498
定期点検件数	件	777	493	499
故障修理件数	件	158	117	95
院内ME機器勉強会	回	22	12	17

(2) 臨床技術提供

① 呼吸療法部門

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	件	件	件
呼吸器回診	741	1,085	994
RST回診患者数	6	13	8
RST回診件数	10	31	14

② 循環器部門

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	件	件	件
心臓カテーテル検査	40	18	22
心臓カテーテル治療	17	19	17
経皮的心肺補助装置	0	0	0
大動脈内バルーンパンピング	0	1	0
血管内超音波診断	10	16	16
下肢動脈カテーテル治療	0	0	0
ペースメーカー植込み・交換	17	35	11
体外式ペースメーカー	3	12	5
ペースメーカー外来（定期）	181	138	170
ペースメーカー病棟点検（不定期）	39	55	34
人工心肺装置使用件数	0	0	0
心筋保護液供給装置使用件数	0	0	0
脳分離体外循環件数	0	0	0
Off pump CABG	0	0	0

③ 血液浄化部門

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	件	件	件
出張血液透析(HD)	10	78	68
出張血液濾過(HF)	0	0	0
出張血液透析濾過(HDF)	0	0	0
持続的腎代替療法(CRRT)	0	15	21
血液吸着(HA)	11	5	12
血漿吸着(PA)	9	15	3
血漿交換(PE)	0	6	0
腹水濾過濃縮(CART)	27	36	35
白血球除去療法(LCAP/GCAP)	19	2	0

④ 高気圧酸素部門

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	件	件	件
減圧症又は空気塞栓に対するもの	0	0	0
その他のもの	453	336	404
合計	453	336	404

⑤ 手術室部門

項 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	件	件	件
回収式自己血輸血システム	0	0	0
手術用ナビゲーションシステム	14	8	9
手術用内視鏡システム	432	343	289
手術室不具合対応	44	48	55
術中神経モニタリングシステム	4	6	4

⑥ NICU部門

項 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	件	件	件
新生児呼吸器回診	256	583	492

22 通院治療センター

(ケモ・ICI)

科別	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
		人	人	人	%
内 科		665	847	778	91.9
外 科		636	702	583	83.0
乳 腺 外 科		-	-	334	皆増
婦 人 科		109	119	130	109.2
呼 吸 器 外 科		43	1	0	皆減
皮 膚 科		0	69	11	15.9
泌 尿 器 科		230	177	157	88.7
脳 外 科		39	38	54	142.1
合 計		1,722	1,953	2,047	104.8

(レミケード・インフリキシマブ)

科別	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
		人	人	人	%
内 科		278	280	304	108.6
皮 膚 科		12	13	7	53.8
整 形 外 科		11	12	10	83.3
合 計		301	305	321	105.2

23 再診電話受付受診件数

(1) 診療科別

内容	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
		人	人	人	%
内 科		23	26	15	57.7
神 経 内 科		0	0	0	-
循 環 器 内 科		0	1	0	皆減
精 神 科		0	0	0	-
小 児 科		12	22	13	59.1
外 科		4	3	1	33.3
呼 吸 器 外 科		0	1	0	皆減
心 臓 血 管 外 科		0	0	0	-
整 形 外 科		5	5	4	80.0
脳 神 経 外 科		1	3	2	66.7
皮 膚 科		11	18	11	61.1
泌 尿 器 科		4	11	11	100.0
産 婦 人 科		21	11	15	136.4
眼 科		1	6	4	66.7
耳 鼻 い ん こ う 科		1	0	4	皆増
歯 科 ・ 口 腔 外 科		0	0	0	-
放 射 線 科		0	0	0	-
麻 酔 科		0	0	0	-
受 診 件 数		83	107	80	74.8
電 話 件 数		84	107	86	80.4

※ 受診件数と電話件数の相違は、複数科の受診及びキャンセルのため

(2) 市町村別

内容	年度			
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
	人	人	人	%
桐生市	43	60	34	56.7
新里町	8	6	9	150.0
黒保根町	0	0	0	-
みどり市				
東町	1	0	0	-
大間々町	9	6	13	216.7
笠懸町	7	8	11	137.5
太田市	2	5	3	60.0
旧藪塚本町	4	9	6	66.7
前橋市	1	2	0	皆減
伊勢崎市	2	4	1	25.0
館林市	2	0	0	-
県内(その他)	1	2	1	50.0
足利市	0	4	2	50.0
県外	3	1	0	皆減
合 計	83	107	80	74.8

24 診断書文書作成件数

内容	年度			
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
	人	人	人	%
内 科	1,654	1,747	1,577	90.3
精 神 科	12	22	16	72.7
神 経 内 科	355	573	585	102.1
循 環 器 内 科	152	183	144	78.7
小 児 科	237	346	353	102.0
外 科	675	714	572	80.1
血 管 外 科	8	8	6	75.0
整 形 外 科	1,581	1,562	1,503	96.2
脳 神 経 外 科	794	880	753	85.6
呼 吸 器 外 科	101	25	18	72.0
乳 腺 外 科	-	-	195	皆増
皮 膚 科	119	193	181	93.8
泌 尿 器 科	415	488	534	109.4
産 婦 人 科	441	389	352	90.5
眼 科	150	132	143	108.3
耳 鼻 い ん こ う 科	56	31	60	193.5
麻 酔 科	6	0	1	皆増
リハビリテーション科	-	49	42	85.7
放 射 線 科	45	39	36	92.3
救 急 科	3	15	15	100.0
歯 科 ・ 口 腔 外 科	56	80	55	68.8
計	6,860	7,476	7,141	95.5

※ 診断書類内訳：生命保険・生活保護者の意見書・訪問看護指示書・傷病手当金請求書等

25 専門外来件数

内容	年度			
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
	人	人	人	%
助産師外来	411	250	225	90.0
フットケア外来	163	145	140	96.6
リンパ浮腫外来	50	39	24	61.5
ストーマ外来	295	282	280	99.3

※ 助産師外来：H29年度から産後検診を含む。

26 医療の質（臨床指標：クリニカル・インジケータ）

(1) 病院全体のクリニカル・インジケータ

① 病床利用率、平均在院日数

項目	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度
入院延患者数 (A)	人	105,963	106,293	105,866
一日平均患者数 (B)	人	290	291	290
病床数 (C)	床	429	417	417
病床利用率 (B/C)	%	67.7	69.8	69.8
入院 (D)	人	6,920	7,602	6,720
退院 (E)	人	6,899	7,602	6,711
平均在院日数 (A/((D+E)/2))	日	15.3	14.0	15.8

② 救急車搬入患者数

項目	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度
入院	人	1,444	1,415	1,538
外来	人	1,271	1,237	1,192
計	人	2,715	2,652	2,730

③ 退院後6週間以内の緊急入院率

項目	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度
年間入院患者数	人	6,920	7,602	6,720
緊急再入院患者数	人	453	486	519
緊急入院率	%	6.5	6.4	7.7

※ 緊急入院とは、再発・悪化して再入院した患者をカウントしています。

④ 24時間以内の再手術率

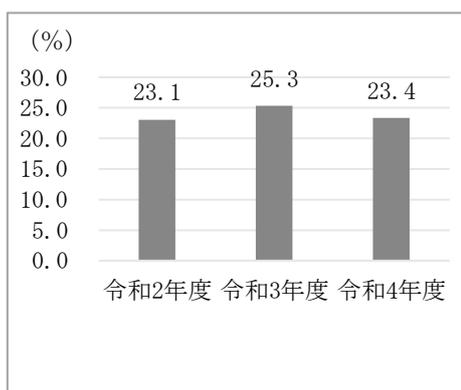
項目	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度
年間手術件数	件	940	920	892
再手術件数	件	4	6	1
再手術率	%	0.4	0.7	0.1

※ 手術件数は全身麻酔患者を基準にしています。

⑤ 年間退院患者に占めるがん患者の割合

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	人	人	人
がん病名のある患者数	1,528	1,809	1,479
退院患者数	6,618	7,149	6,332
占有率	%	%	%
	23.1	25.3	23.4

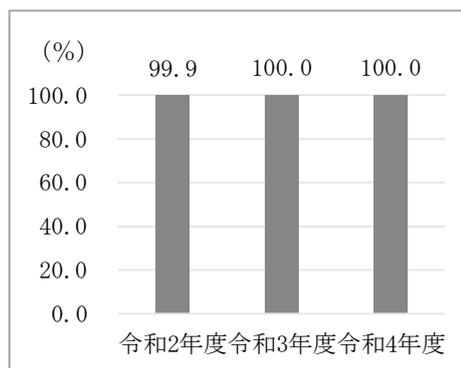
※ 退院患者数は転科を除いています。



⑥ 2週間以内の退院サマリー作成率

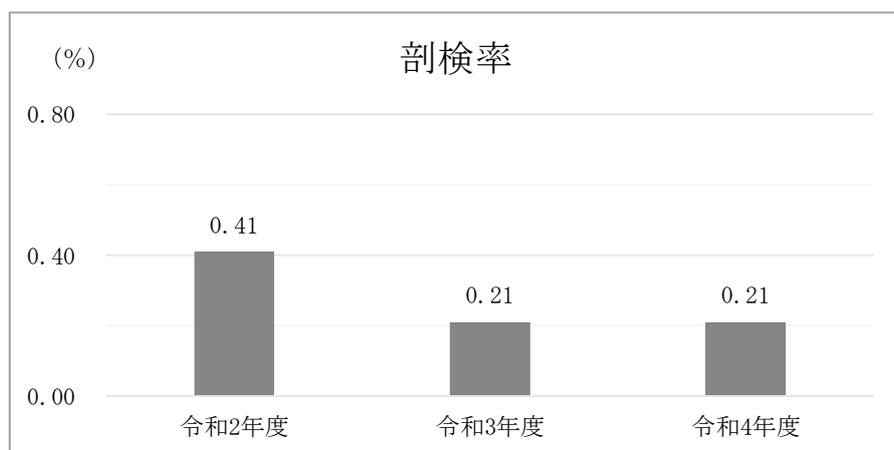
項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	件	件	件
退院後2週間以内のサマリー完成件数	6,593	7,149	6,332
年間退院患者数	6,618	7,149	6,332
作成率	%	%	%
	99.9	100.0	100.0

※ 退院患者数は転科を除いています。



⑦ 剖検率

項目	年度			前年度比
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
剖検率 (%)	0.41	0.21	0.21	100.0
剖検数 (人)	2	1	1	100.0
死亡患者数 (人)	484	475	484	101.9



病院の医学教育・研究の評価を示す指標です。剖検率は全国的に減少傾向にあり、画像診断などの検査の進歩により、正確な病状把握が可能になったことが理由と考えられています。

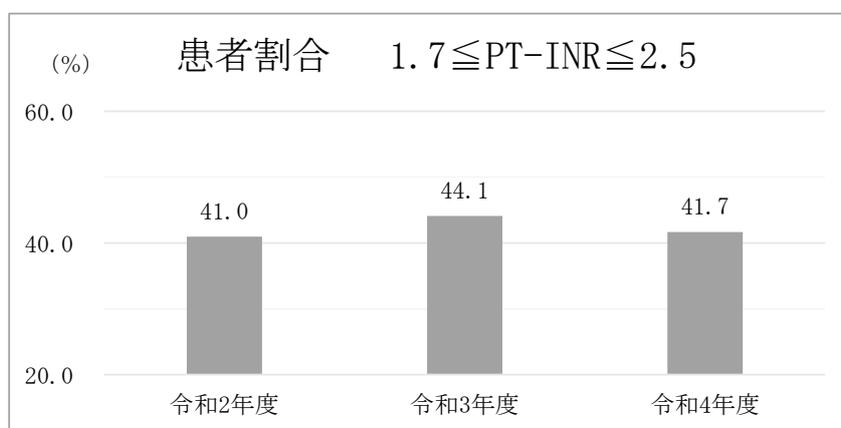
⑧ ワーファリン服用患者における出血傾向モニタリング（I N R）

ワーファリンによる血栓予防薬は、効果がなければ血栓が形成され、効きすぎれば出血傾向となります。

安全かつ有効なワーファリン血中指標として、P T - I N Rが1.7以上2.5以下を維持している割合、また、効きすぎた状態のP T - I N Rが5以上の割合を抑えることが指標となります。

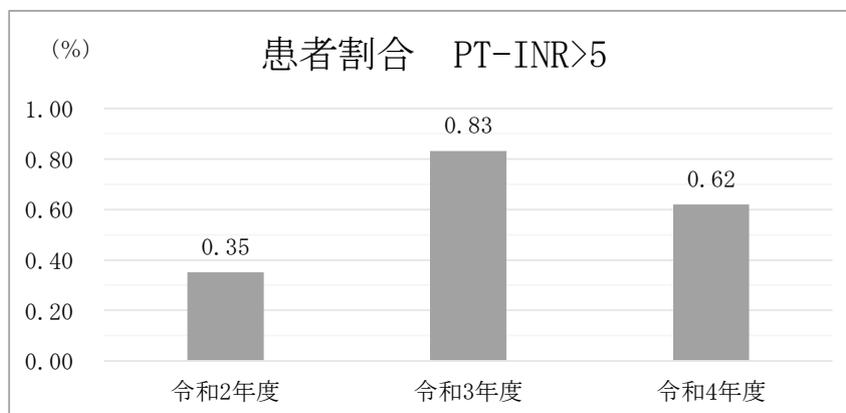
(ア) 外来でのワーファリン服用患者を対象としたP T - I N R値評価

1.7 ≤ P T - I N R ≤ 2.5			
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
のべ患者数 (検査回数)	452	427	327
ワーファリンのべ 服用患者(処方回数)	1,103	969	785
患者割合 (%)	41.0	44.1	41.7



(イ) 入院・外来でのワーファリン服用患者を対象としたP T - I N R値評価

P T - I N R > 5			
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
のべ患者数 (検査回数)	5	10	6
ワーファリンのべ 服用患者(処方回数)	1,421	1,201	969
患者割合 (%)	0.35	0.83	0.62



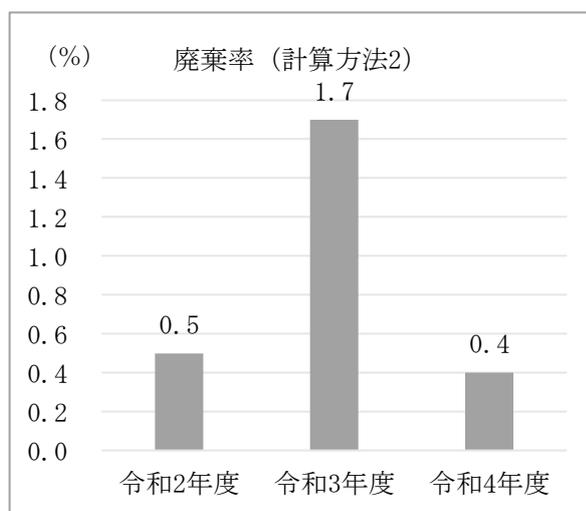
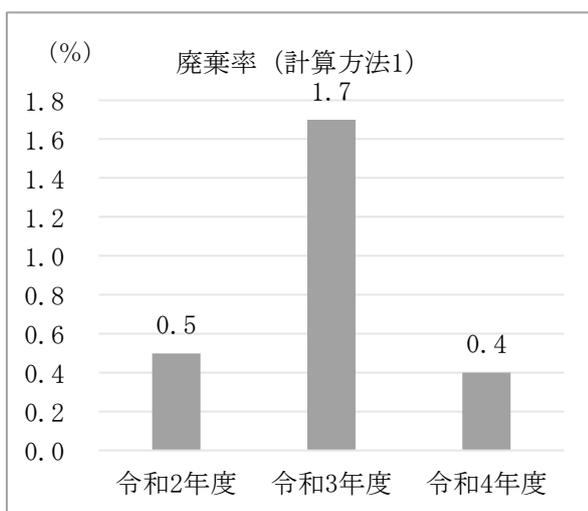
⑨ 輸血製剤廃棄率

計算方法 1：廃棄赤血球製剤単位数 / (輸血赤血球製剤単位数 + 廃棄赤血球製剤単位数)

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比(%)
輸血製剤廃棄率(%)	0.5	1.7	0.4	23.5
廃棄赤血球製剤単位数	12	36	8	22.2
輸血赤血球製剤単位数 + 廃棄赤血球製剤単位数	2,269	2,107	1,988	94.4

計算方法 2：廃棄量(廃棄血液 + 日本赤十字社への返品血液) / 購入量(購入血液)

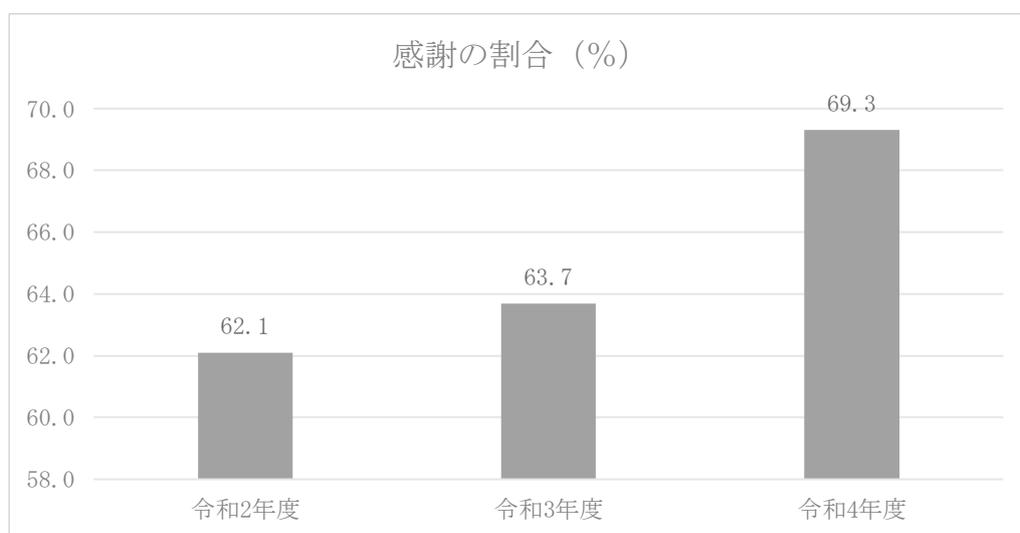
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比(%)
輸血製剤廃棄率(%)	0.5	1.7	0.4	23.5
廃棄量(廃棄+日赤返品)赤血球製剤単位数	12	36	8	22.2
購入量(単位)	2,271	2,109	1,982	94.0



輸血用血液製剤の廃棄率は、提供された血液が無駄なく適切に使用されているかどうかを示すよい指標となります。

⑩意見箱投書(感謝の占める割合)

	感謝の割合	感謝件数	苦情件数	その他	投書件数合計
	%	件	件	件	件
令和2年度	62.1	100.0	39.0	22.0	161.0
令和3年度	63.7	121.0	51.0	18.0	190.0
令和4年度	69.3	140.0	55.0	7.0	202.0



⑪褥瘡発生率

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
発生率 { (ア) / (イ) }	1.47%	1.07%	1.18%	110.28%
患者数 (ア)	69	76	87	114.47%
入院患者数 (イ)	6,537	7,080	6,276	88.64%

※患者数は、入院中に発生した褥瘡患者数。

※入院患者数は、転科を含む患者数。

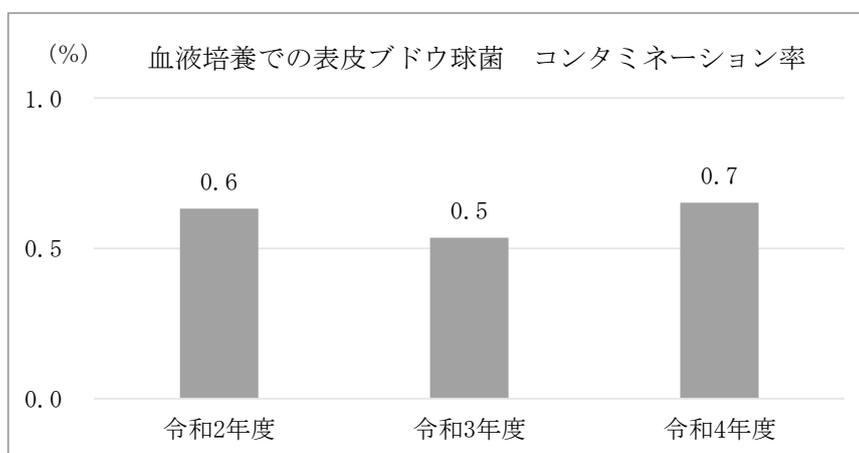
(2) 感染のクリニカルインディケーター

① 血液培養での表皮ブドウ球菌コンタミネーション率

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比(%)
血液培養での表皮ブドウ球菌 コンタミネーション率(%)	0.6	0.5	0.7	121.7
表皮ブドウ球菌による コンタミネーションの採血回数	11	11	14	127.3
血液培養ボトルが出された 患者の延べ採血回数	1,742	2,052	2,146	104.6

血液培養のコンタミネーション率

▶ 表皮ブドウ球菌によるコンタミネーションの採血回数／血液培養ボトルが出された患者の延べ採血回数



血液培養は、いろいろな感染症の原因となる菌を検出したり、菌血症（血液中に細菌がいる状態）の診断のために重要な検査です。血液培養検査の際に問題となるのは、皮膚の常在菌が混入し、検出されることで、起因菌（感染の原因となっている菌）との判別が必要になることです。

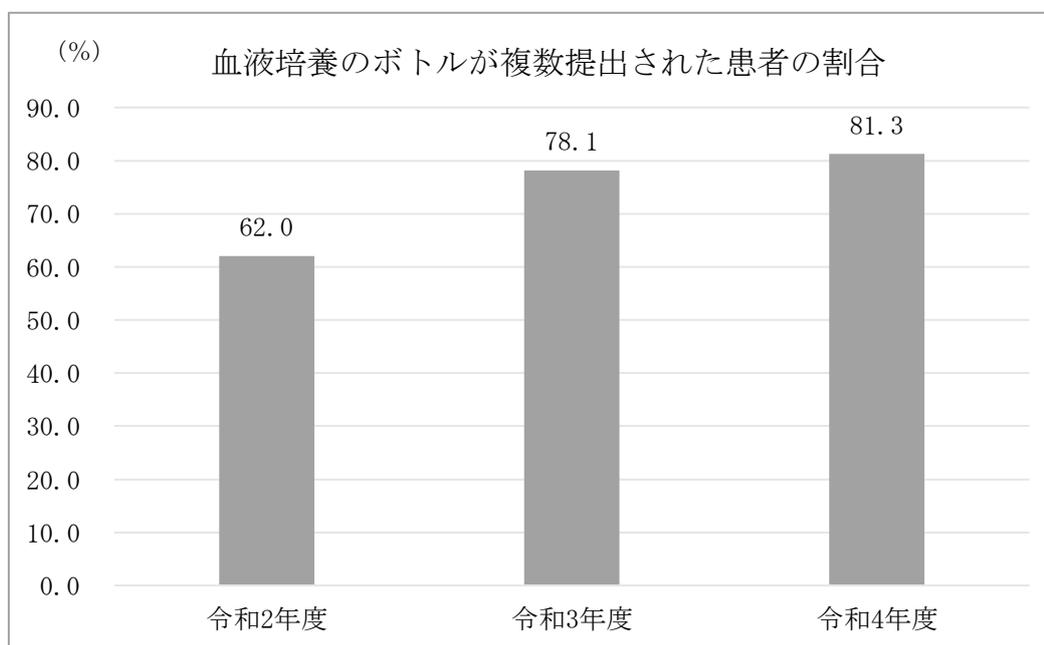
血液培養での表皮ブドウ球菌コンタミネーション率が低いほど起因菌との判別が容易となります。

② 血液培養のボトルが複数提出された患者の割合

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比(%)
血液培養のボトルが複数提出された患者の割合(%)	62.0	78.1	81.3	104.0
複数の培養ボトルが出された延患者数(人)	760	900	962	106.9
血液培養検査が行われた延患者数(人)	982	1,152	1,184	102.8

血液培養ボトルの複数提出率

▶ 複数の培養ボトルが出された延患者数／血液培養検査が行われた延患者数

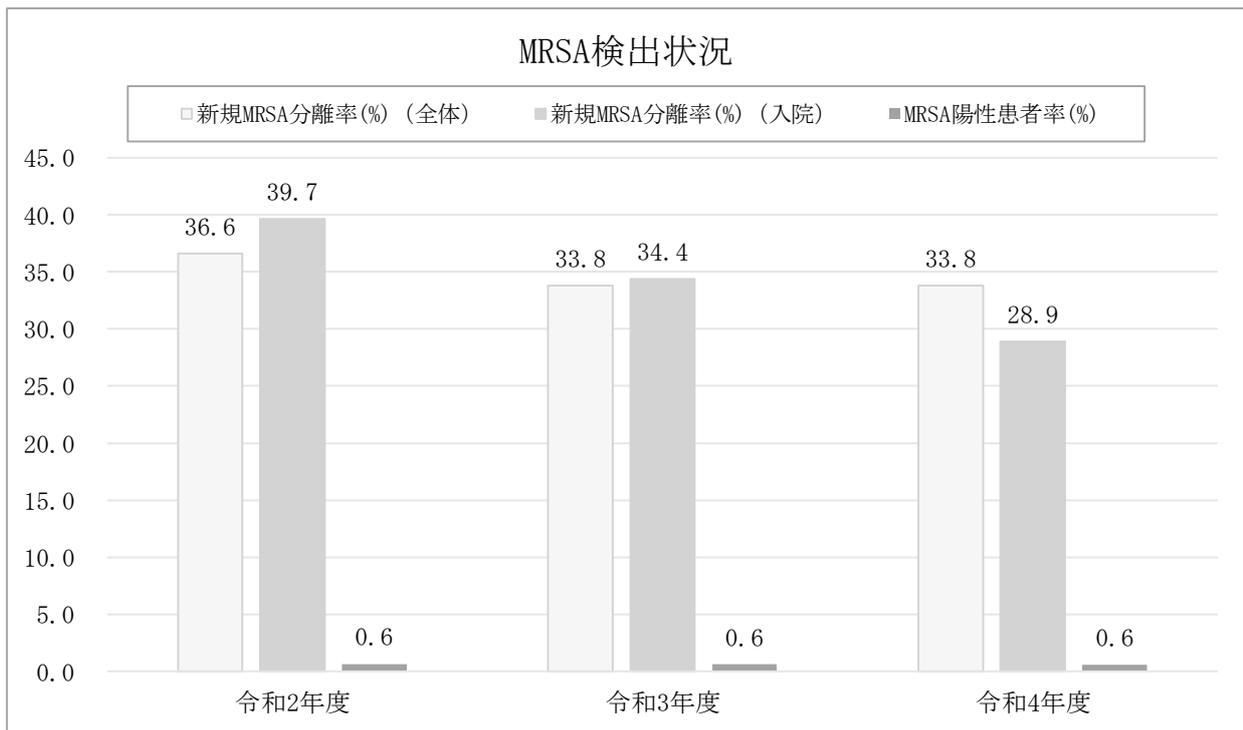


重症感染症の患者さんは、菌血症（血液中に細菌がいる状態）を伴うことが少なくありません。菌血症の原因菌を特定するためには、血液培養検査が必要であり、その精度（菌血症の原因菌検出率）を高めるためには、複数採取したボトルの提出が望まれます。

血液培養ボトルの複数提出は重症感染症の早期発見につながる指標となります。

③ MRSA検出状況

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比(%)
新規MRSA分離率(%) (全体)	36.6	33.8	33.8	100.1
新規MRSA分離率(%) (入院)	39.7	34.4	28.9	84.1
MRSA陽性患者率(%)	0.6	0.6	0.6	93.5
新規MRSA患者数(人) (全体)	76	76	69	90.8
ブドウ球菌検出患者総数(人) (全体)	194	225	204	90.7
新規MRSA患者数(人) (入院)	49	44	37	84.1
ブドウ球菌検出患者総数(人) (入院)	120	128	128	100.0
MRSA入院患者数(人)	51	46	38	82.6
入院実患者数(人)	6,920	7,602	6,720	88.4



MSSA : メチシリン感受性黄色ブドウ球菌
 MRSA : メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

- ▶ MRSA陽性入院患者 / 入院患者数
- ▶ MRSA (新規 : 入院) / (MRSA入院 + MSSA入院)
- ▶ MRSA (新規 : 全体) / (MRSA全体 + MSSA全体)

MRSAは、院内感染の原因菌として有名であり、検出状況を把握し、予防対策を講じることが重要です。

(3) 医療安全のクリニカルインディケーター

※ 転倒・転落発生率 = (転倒・転落件数/入院延べ患者数) × 100

	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
					%
入院延べ患者数	人	105,963	106,293	105,866	99.6
転倒・転落発生件数	件	309	303	327	107.9
転倒・転落発生率	%	0.29	0.28	0.30	107.1
骨折件数	件	8	7	6	85.7
骨折率	%	0.01	0.01	0.01	83.3
頭蓋内出血件数	件	0.00	0.00	0.00	-
頭蓋内出血率	%	0.00	0.00	0.00	-
手術が必要になった件数	件	3	2	2	100.0
手術率	%	0.003	0.002	0.002	100.0

VIII チーム医療

1 医療安全対策委員会

(1) 目的

桐生厚生総合病院における医療事故・紛争の予防対策等の推進を図る。

(2) あゆみ

2000年4月に設置されました。また、2006年からは下部組織として医療安全対策室を設置し、専従の医療安全管理者を配置しました。現在は、医療安全対策室の他、医薬品安全委員会・医療機器安全委員会の3つの下部組織がそれぞれの専門分野での問題点を検討し、安全管理の強化に努めています。

(3) 活動実績（令和3年度）

① 医療安全対策委員会の開催（月1回）

下部組織の委員会で検討された内容の検証及び承認

② 事例検討会の開催（週1回）

インシデント・アクシデント事例の検討

③ 地域連携病院との相互チェック

公立富岡総合病院・群馬大学医学部附属病院：医療安全対策加算1取得病院同士の相互訪問チェック

西毛病院：医療安全対策加算2取得病院への訪問チェック

④ インスリン注射リキャップ防止

⑤ 相互接続防止コネクタに係る国際規格導入

⑥ 職員研修会開催（年2回）

1回目：苦情対応のポイント e-ラーニング

2回目：裁判例に学ぶ「説明義務」 e-ラーニング

⑦ 広報活動

院内広報への医療安全ニュース掲載

院内報告会での報告（月1回）

(4) 今後の課題

多職種で構成されるチーム医療において、組織・体制・医薬品・医療機器・環境等、システム全体の安全性を高め、より質の向上に努めていきます。

2 病院感染対策委員会・感染対策室・ICT（・AST）

（1）目的

桐生厚生総合病院における外来および入院患者、職員の感染防止を図る。

（2）あゆみ

意思決定機関として院長を委員長とする病院感染対策委員会は月1回、その下部組織で感染対策の立案と実行を担当するICT（インфекションコントロールチーム）は月2回の会議を行っています。また、各部署のリンクナースは、現場での感染対策の実行に努めています。感染対策室では専従の感染管理認定看護師が感染対策の実務にあたっています。

（3）活動実績

令和4年度は以下の活動を行いました。

①病院感染の実態把握

（ア）感染情報レポート

耐性菌感染症の発生状況、無菌部位からの病原菌検出状況・抗菌薬使用状況

（イ）サーベイランス

全病棟でCVカテーテル関連血流感染・消化器外科手術での手術部位感染

（ウ）厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業

手術部位感染部門・ICU部門・NICU部門・検査部門の4部門

（エ）感染徴候届出書などによる病院感染対策上問題となる患者の把握

（オ）針刺し事故集計ソフト(Epinet)による実態把握・分析

（カ）新入職者に対する流行性4疾患（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎）のワクチン接種歴と抗体保持の調査およびワクチン接種の推進

②感染対策の立案と実行

（ア）感染制御チーム(ICT)による感染対策に関する相談と指導（原則として平日毎日）

（イ）抗菌薬適正使用支援チーム(AST)による抗菌薬適正使用を目的とした抗菌薬選択の相談と提言（原則として平日毎日）

（ウ）注意すべき感染症発生時の対策協議・指導

③職員研修

（ア）感染対策研修は、e-ラーニングを使用し実施「感染対策の概論」、「抗菌薬を大事にしよう！AMRに立ち向かうために」

（イ）新規採用職員に対する講習会を実施

④感染防止対策加算の対応

（ア）週1回の2職種以上が参加したICT環境ラウンドの実施

（イ）地域連携のための合同カンファレンスを恵愛堂病院と年4回開催

（ウ）感染防止対策加算1算定医療機関との相互チェックを群馬大学医学部附属病院・公立富岡総合病院と実施

⑤院外の活動

新型コロナウイルス感染症クラスター発生施設（医療機関も含む）へC-MATとして出動、感染対策の現地指導を実施しました。（出動回数：10回）また連携施設を訪問し、感染対策に係る指導を実施しました。（指導回数：4回）

⑥その他

新型コロナウイルス感染症対策として前年度の対策を継続するとともに、院内クラスターの経験からさらに追加・修正しました。

(4) 今後の目標と課題

新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、対策の修正を行います。院内クラスターを経験し、感染対策の難しさと重要性を再認識しました。定期的に隔離予防策（標準予防策・感染経路別予防策）の研修等を実施し、今後発生し得る新興感染症発生の際に速やかに対応できるようにしておかなければなりません。また平時からの感染対策の徹底に努めます。

また、中核医療機関として地域医療機関との連携を強化し感染対策向上の推進に努めます。

3 褥瘡対策委員会

(1) 目的

“委員会規程 第1条 院内褥瘡対策を討議・検討し、その効率的な推進を図るため、褥瘡対策委員会を設置する”すなわち、多職種の協働により適切な褥瘡対策を行える総合的な病院環境を整えます。

当院の基本理念「信頼され、心が通う地域医療」を実践する医療チームとして、患者QOL向上に寄与すべく、創傷治癒理論、看護技術などの基本的事項と最新の知見を学び、全スタッフに対し教育活動を行います。そして地域の中で褥瘡ケアの中心的役割を担います。

(2) あゆみ

2002年8月、褥瘡対策未実施減算の施行を機に、褥瘡対策委員会を組織しました。専門担当医師、皮膚・排泄ケア認定看護師(WOCN)、全病棟や部署の看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、作業療法士、事務方など多職種で構成されています。月1回の褥瘡対策委員会で、褥瘡発生の現況、症例検討、勉強会など、電子カルテシステムで、褥瘡危険因子評価、基本的看護計画、褥瘡発生報告、褥瘡経過表などを管理しています。

① 褥瘡チーム回診 2004年2月に開始、第1火曜14時、コアスタッフ数名と看護師2名が交代で参加。

② 褥瘡対策室 2006年5月より、大谷内千恵 WOCN を専従の褥瘡管理者として設置。「褥瘡ハイリスク患者ケア加算」の施設認定を受け、ハイリスク患者に個別の看護計画を立案。

(3) 活動実績

【定例会】

毎月第3水曜16時。褥瘡対策に関わる諸事項を討議、褥瘡チーム回診の報告、メンバーによるミニレクチャーなど。

【褥瘡対策マニュアル】

日本褥瘡学会の褥瘡予防・管理ガイドライン、DESIGN-R®、MDRPU（医療関連機器圧迫創傷）ベストプラクティスなどを踏まえ、電子カルテ上でマニュアルを共有。

【褥瘡発生の現況】

院内発生74件（発生率1.18%、月平均6.2件）、持ち込み褥瘡87件。

【体圧分散寝具】

高機能マットレスを中央管理化して適正使用を図り、購入や管理法を検討。

【2022 年度学術活動】

- ・ 第 18 回日本褥瘡学会関東甲信越地方会学術集会（2022. 4. 8 ハイブリッド）
岡田克之、大谷内千恵、金井美紀、大川三登利、井上智子、伊藤恵美、森田由香利
：コロナ禍の褥瘡対策はどうだったか？
- ・ 第 24 回日本褥瘡学会学術集会（2022. 8. 27）
岡田克之：「床ずれ予防プログラム」完成までの道のり
- ・ 第 16 回日本褥瘡学会関東甲信越地方会群馬支部学術大会（2023. 3. 18 ハイブリッド）
岡田克之：褥瘡から護る、護れば、護ろう！

（4）今後の課題

- ① 褥瘡発生動向の把握・解析に努め、有用な褥瘡予防策を図る。
- ② 栄養サポート、緩和ケア、感染制御、医療安全などのチーム医療と協働する。
- ③ 転院先への情報提供や指導を行い、地域医療連携室と協働して褥瘡ネットワーク「褥瘡のひろば」の構築をめざしたい。
- ④ 中央管理化した高機能体圧分散マットレスを有効に利用できる体制を継続。
- ⑤ 各種外用薬、ドレッシング材、創傷被覆材を適正に使用し、最新の創傷治癒理論を実践できる環境整備。
- ⑥ 電子カルテの更新に合わせ、褥瘡関連システムを改善。
- ⑦ 褥瘡関連の学会や講演会へ積極的に参加し、活動実績や研究成果を発表、院内にフィードバックする。
- ⑧ 地域向け褥瘡勉強会を再開する。
- ⑨ PUT メンバー、コアスタッフを育成。
- ⑩ 日本褥瘡学会・褥瘡認定師を取得できるよう指導。

4 クリニカルパス委員会

(1) 目的

医療サービスの質の向上と標準化、インフォームド・コンセントの充実およびチーム医療の推進、およびクリニカルパスとDPCの調節・適正化を目的とします。

(2) あゆみ

2002年6月、第1回のクリニカルパス委員会が全職種参加で開催されました。2003年5月からは専門小委員会として、評価、承認、作成の3つの小委員会にわかれて日常的な活動を行うようになりました。また同時期より院内クリニカルパス大会を定期的で開催し、新規作成パスを院内で発表し、パスの推進を図ってきました。

2007年11月より電子カルテが導入されたが、パスの電子化が遅れたこともあり、一時活動が停滞しました。クリニカルパスを積極的に推進するため2017年度からはパス委員会を毎月開催(3か月毎に全体会議、それ以外の月はパスの当該科を含めた小委員会)とし、電子カルテ上でのパス見直し、新規パスの作成、承認を行っています。

現在の委員会は、医師7名、看護師5名、薬剤師1名、リハビリ・放射線技師・検査技師・管理栄養士が各1名、事務6名で構成しています。

(3) 活動実績(令和4年度)

整形外科手術パス(大腿骨頸部骨折(人工骨頭、骨頭以外))、内科腹部血管造影/肝動脈塞栓療法/肝動注化学療法パス、内科ERCPパス(当日入院、前日入院)、内科RFAパス、泌尿器科前立腺生検パス、泌尿器科ゲルスペーサー留置パス、歯科全麻埋伏歯抜歯術、帝王切開で生まれた赤ちゃんパスの10件の見直しを行いました。

整形外科日帰り手術パス、循環器科経皮的冠動脈形成術パス(前日入院、当日入院)、循環器科ペースメーカー埋め込み術パス(前日入院、当日入院)、循環器科ペースメーカー電池交換術パス(前日入院、当日入院)、循環器科心臓カテーテル検査パス、外科肝切除術パス、内科糖尿病教育入院パス(3検、4検)、産科帝王切開手術室用パス、婦人科円錐切除手術室用パス、泌尿器科腹腔鏡下仙骨(腔)固定術パス、内科分子標的治療薬パス、産婦人科経膈分娩産科ベビーパス、産婦人科帝王切開術産科ベビーパス、内科化学療法パス(テセントリク+アバスタチン、カルボプラチン製剤(畜尿あり、畜尿なし))、脳神経外科脳梗塞パス(ラクナ梗塞、アテローム血栓症、心原生脳梗塞症)、脳神経外科頭部打撲パス(1泊入院+経過観察)の24件を新規に作成しました。

パス適応率の目標を40%としていましたが、令和4年(2022年)度の適応率は46.3%となり目標を達成できています。

院内のクリニカルパス大会開催を検討しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響のため中止としました。

2022年7月2日にGメッセ群馬で開催された第17回群馬クリニカルパス研究会に参加し、8階病棟から『小児COVID-19パスの作成と運用』について演題を発表しました。

(4) 今後の課題

当院が2024年6月開催の第19回群馬クリニカルパス研究会の当番となったため、開催に向け準備を進めています。

バリエーション分析をきちんと行い、より利用しやすいパスへの修正を図りたいと考えます。また、

パスの周知・利用の工夫、DPC とマッチングしたパス、管理料・指導料などの算定漏れの無い診療に生かせるパスの作成について検討をしていく予定です。

COVID-19 も落ち着いたため、令和 5 年 (2023 年) 度には院内クリニカルパス大会を開催する予定です。

群馬クリニカルパス研究会、日本クリニカルパス学会学術集会への積極的な参加及び演題発表も行っていきたいと考えています。

5 NST 委員会

(1) 目的

栄養サポートを必要とする患者に対し、栄養専門チームによる適切な栄養アセスメントと栄養指導を行い、栄養状態ならびに治療成績の改善、およびチーム医療の推進と医療の質の向上を図ることを目的とします。(NST 委員会設置規定)

(2) あゆみ

2005 年 4 月に NST 委員会を設置、月 1 回の定例会を開催。入院患者の栄養サポートとして、全病棟型の NST 回診を実施しています。

【栄養サポートシステム】

入院時に『SGA シート』で栄養評価を行い、栄養サポートが必要なら NST 介入依頼となります。NST 回診の結果は職種ごとに『アセスメント・回診記録』に記載する電子カルテ・システムを運用。

【栄養管理計画】

医師の指示の下、管理栄養士、看護師、薬剤師等のスタッフが協働して『栄養管理計画書』を作成し、患者・家族に概要を説明。

【摂食嚥下チーム】

NST 内でチーム編成し、摂食嚥下フローチャートを作成、スクリーニングから食形態の決定、嚥下リハビリ、耳鼻科受診に繋がるシステムを構築。摂食嚥下回診も開始しました。

【構成メンバー】

病院長、医師・歯科医師 9 名、看護師 23 名、管理栄養士 2 名、リハビリ 5 名、薬剤師 2 名、臨床検査技師 3 名、歯科衛生士 2 名、放射線技師 1 名、事務方 1 名、計 50 名。

【施設認定】

JSPEN (日本臨床栄養代謝学会) NST 稼働施設、JSPEN 認定 NST 専門療法士教育施設。

(3) 活動実績

① NST 回診 (週 1 回)

2022 年度介入患者は 124 例 (平均 76.0 歳)、回診後に主治医へ報告書を作成。摂食嚥下回診 41 例 (平均 80.0 歳)

② NST 全体会 (第 4 水曜)

ディレクターによる NST 運営会議に続いて、NST 委員会の本会議として開催。諸事項の討議、チームの現状報告や学会発表に準じた症例検討会、TNT 受講医師による講義など。

③ ランチタイムミーティング (月 1 回)

知識とスキルの習得と共有を目指し、症例報告や講義・実習を行っていたが、2022 年度もコ

ロナ禍で開催できなかった。

④ 学会活動

- ・岡田克之：在宅褥瘡を防ぐ「床ずれ予防プログラム」～栄養支援を含むケアプランへの活用～：第9回日本臨床栄養代謝学会関東支部学術集会（2022.12.18）
- ・星野裕夏ほか：COVID-19患者に対するNST介入～持ち込みの感染褥瘡を有していた1症例～
- ・藤本あさひほか：嚥下調整食を見直して患者QOL向上をめざす：第37回日本臨床栄養代謝学会学術集会（2022.5.31-6.1）

（4）今後の課題

- ① 入院時栄養アセスメントの重要性を啓発し、適切な栄養療法を速やかに開始できる体制を強化。
- ② 高齢者の栄養管理。介入患者が高齢化してきている。
- ③ NST回診を再構築し、栄養サポートチーム加算を算定できるような体制とする。
- ④ 摂食嚥下チームをさらに明確な形で組織して、医師と多職種で協働して回診を行い、誤嚥性肺炎の予防、食形態の向上に繋げる。
- ⑤ 他のチーム医療（褥瘡対策、感染制御、医療安全、緩和ケアなど）と協働。
- ⑥ 基幹病院として栄養療法に関わる地域連携をさらに強化する。
- ⑦ がん拠点病院としての栄養サポート活動への取り組み。
- ⑧ 栄養関連学会に積極的に参加・発表し、知識・スキルを習得して向上心を維持。
- ⑨ NST専門療法士の育成と、院外に向けた実地修練教育カリキュラムを検討。
- ⑩ 院外（医療従事者および一般市民）へ向けたNST講演会を再開。

6 呼吸器サポートチーム（RST）委員会

（1）目的

- ① 呼吸に関する知識を深め、診療・看護・リハビリテーションなどの質を向上させる。
- ② 人工呼吸器に関する機能・知識・構造などを理解し、より安全な人工呼吸管理を行う。
- ③ 呼吸に問題のある患者や呼吸不全患者に対するチーム医療の確立・推進
- ④ 呼吸・人工呼吸に関する各種マニュアルの整備、人工呼吸器の中央管理化と充実。

（2）あゆみ

呼吸器サポートチームは平成17年に設立され、設立当初は医師4名、看護師7名をコアメンバーとして活動を開始。現在は医師、看護師、理学療法士、臨床工学技士、薬剤師、歯科衛生士、栄養管理士など多職種で約40名により構成される大所帯の委員会となっています。

（3）活動実績

令和4年度からは、前年までの4つのワーキンググループ（安全チーム、患者教育チーム、呼吸教育チーム、感染チーム）から変更し、事前アンケートによるメンバーの活動課題の認識により、新たな4チーム（①初診・救急受診の呼吸器患者への対応 ②呼吸器管理を要する患者管理 ③呼吸器管理機器の取扱い ④呼吸器入院患者のケア・リハビリ指導）の新体制で活動しました。

各チームにコアメンバーは加入せずデメリットも指摘されたが、従来よりメンバーが自主的・主体的に活動が行えたという肯定的な振り返りが多くありました。しかしながら、本年度も新型

コロナウイルス感染症蔓延の影響で活動が制限され、新型コロナ肺炎患者の気管挿管手順や、慢性呼吸器疾患の酸素投与・呼吸器管理の確認を行ったが、大規模なレクチャーや出張勉強会の開催は十分に行えませんでした。

一方 RST 委員会メンバーの院内周知と、メンバーの意識・結束の向上のため、委員の臨床工学技士によりロゴが作成されました（下記）。ロゴは名札に貼れるようシールの形で委員の配布、また RST 作成のマニュアルなどに標記していく予定です。

（4）今後の目標

*院内の呼吸ケア、リハビリテーションに対する意識向上とリスクマネジメントの実践

*RST 認定施設として、呼吸器ケアチーム加算を踏まえたラウンドの推進

①能動的な院内ラウンドの実施 ②院内レクチャーの再開 ③各種マニュアルの整備

の3項目を柱に活動を進め、総合的な呼吸器診療、呼吸管理のレベルアップを図っていく。

R S T 回診件数

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
回診人数	6	13	8

診療科別 内訳

内科	7	13	10
外科	0	18	0
循環器内科	0	0	1
脳外科	3	0	3
整形外科	0	0	0
神経内科	0	0	0
小児科	0	0	0
合計回診件数	10	31	14

令和4年度 RST レクチャー活動実績

日時	内容	参加人数	担当者
6月 9日	RST 委員向け勉強会：酸素療法と NPPV のチェックリスト活用について	31	岩澤、加藤
6月 9日	RST 委員向け勉強会：コロナ感染患者への人工呼吸器使用について	31	関沢



7 医療ホスピタリティ推進委員会

(1) 目的

桐生厚生総合病院の基本理念である、「信頼され、心が通う地域医療」の実践を行う手段の一つとして、『患者さんから選ばれる病院』を目指し、患者ニーズ、患者さんとの信頼関係、情報提供等に積極的に取り組み、当院がいかに関わり地域住民に親しまれ信頼されるかを検討、協議し、その対策を講じるとともにホスピタリティの向上を図ることを目的としています。

(2) あゆみ

平成14年4月に設置要綱を作成し、第1回患者サービス向上委員会を5月に開催し、平成29年6月からは医療ホスピタリティ推進委員会と名称及び設置要綱の変更を行い活動しています。令和4年度の構成は、歯科・歯科口腔外科診療部長を委員長、副院長と副看護部長を副委員長、医師3名(小児科、外科、産婦人科)、リハビリテーション科1名、放射線技術科1名、中央検査科1名、栄養管理科1名、臨床工学科1名、薬剤部1名、看護師3名、事務部6名(事務局1名含む)の21名となっています。

(3) 活動実績

① 定例委員会開催実施 (毎月第4火曜日)

「意見箱」1階医療費自動支払機横・各病棟に設置。

回収したご意見を関連部署毎に原因分析し回答、毎月の委員会で検討後、結果を院内に掲示。重要案件については担当部署に改善の進捗状況や結果を確認。

② 患者満足度アンケート

(ア) 外来満足度アンケートの実施

i) 実施期間 令和4年9月12日～令和4年9月29日(898枚回収)

ii) 内容

① 職員の接遇 ② 待ち時間 ③ 外来環境 ④前年度比回 ④ 当院への要望のアンケートを実施しました。

iii) 結果

① 職員の接遇について

院内スタッフの接遇に関して、医師、看護師、受付事務の順に高い関心がみられました。

② 待ち時間について

待ち時間に関して、診察時及び会計時に待ち時間が長いとの結果になりました。

(イ) 入院患者アンケートの実施

i) 実施期間 令和4年9月12日～令和4年9月29日実施(171枚回収)

ii) 内容

① 職員の接遇について ② 診療と療養について ③ 入院生活の環境面について ④ 前年度比較 ⑤ 当院への要望のアンケートを実施しました。

今後もホスピタリティの向上に病院全体で多面的に取り組んでいきたい所存です。

(ウ) 清掃ボランティア活動

職員によるホスピタリティの一環として年に3回、就業前に、病院敷地内、外周、歩道、

植え込み等の一斉清掃を定期的に行っております。(令和4年度については中止)

(エ) フロアマネージャー活動

平成12年度から接遇研修や病院職員としての自覚を持って患者さんへホスピタリティを提供する事を目的として実施しています。

令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、午前中を各部署(薬剤部・リハビリテーション技術部・放射線技術科・中央検査科・栄養管理科・臨床工学科・看護部・事務部)が交代で担当する体制で正面入り口にて、来院者への検温の担当も兼ねての活動となりました。

今後は医療ホスピタリティの観点から、フロアマネージャーから医療コンシェルジュへの専門職の配置を検討しています。

(4) 今後の課題

- ① 病院建物、設備の老朽化に対応し、院内の美化や敷地の緑地設備等、環境面の向上に努める。
- ② 患者さんに気配り・目配りすることや、常に問題意識をもって患者さんと接し、職員同士で連携を図る等、接遇の強化を行う。

8 輸血療法委員会

(1) 目的

院内における輸血業務を円滑かつ適正に行うための総合的、具体的な対策を検討、実施することを目的とします。

(2) あゆみ

目的を達成するため、平成9年7月薬剤部を事務局として発足、第1回輸血療法委員会が開催されました。平成12年2月輸血用血液製剤の検査部一元化に伴い事務局を検査部に移動、年間6回の委員会が行われています。委員会の構成メンバーは院長、医療局（内科・外科・産婦人科・麻酔科医師）4名、看護部3名、薬剤部1名、事務部1名、検査部3名より組織されています。

(3) 活動実績

各月第3（4）木曜日に委員会を開催。血液製剤・分画製剤の使用状況、症例検討、輸血に伴う事故・副作用・合併症の把握と対策、輸血関連情報の伝達等、輸血療法の適応と安全対策について検討を行っています。

令和4年度は2回（第3、第5）の委員会が新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、書面開催となりました。

主な活動実績

- ① 輸血管管理料 I と輸血適正使用加算施設基準の取得
- ② 院内監査・ラウンドの実施
- ③ 大量輸血及び異型適合血輸血患者等の検証
- ④ 輸血認証実施調査
- ⑤ アルブミン投与時のロット入力漏れ等の調査
- ⑥ 外来輸血患者用リーフレットの運用の検討
- ⑦ 群馬県合同輸血療法委員会への参加

(4) 今後の課題

輸血用血液製剤・血漿分画製剤の適正使用を推進し、輸血管管理料 I と輸血適正使用加算施設基準を維持する。

安全で適正な輸血医療を提供するため、輸血に関する研修会（輸血手順、輸血副作用など）を開催する。

令和5年度受審予定の輸血機能評価認定制度（I&A 制度）認定更新に向けて、院内運用（輸血前後の感染症検査等）およびマニュアルの見直し等を実施する。

IX 地域医療連携室

1 医療相談業務

		令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
		件	件	件	%
区分	入院	4,922	4,147	4,493	108.3
	外来	203	314	159	50.6
	合計	5,125	4,461	4,652	104.3
援助方法	面接	2,069	1,840	2,638	143.4
	電話	3,028	2,564	1,940	75.7
	訪問	12	17	8	47.1
	文書	0	5	0	皆減
	その他	16	35	66	188.6
	合計	5,125	4,461	4,652	104.3
相談者	個別（本人）	628	543	1,591	293.0
	家族	1,955	1,664	1,516	91.1
	合同面接	28	22	18	81.8
	院内スタッフ	98	93	92	98.9
	関係機関	2,355	1,980	1,198	60.5
	その他	61	159	237	149.1
	合計	5,125	4,461	4,652	104.3
相談・援助内容	転院・施設	2,546	2,194	2,156	98.3
	受診・入院	42	45	265	588.9
	在宅ケア	1,012	814	555	68.2
	入院療養生活	92	32	39	121.9
	心理・情緒	3	2	0	皆減
	家族関係	18	17	20	117.6
	虐待・暴力	22	12	28	233.3
	復職・復学	1	4	0	皆減
	情報提供	468	566	516	91.2
	医療費	15	14	12	85.7
	経済的問題	82	62	45	72.6
	理解促進	357	351	451	128.5
	住居	5	12	3	25.0
	退院	307	226	507	224.3
	がん相談	17	13	0	皆減
	遺族	3	1	0	皆減
	その他	135	96	55	57.3
合計	5,125	4,461	4,652	104.3	

病棟・外来別相談件数

病 棟	年 度			
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
	件	件	件	%
I C U ・ C C U	15	55	56	101.8
N I C U	12	14	6	42.9
G C U	42	62	38	61.3
3 階 病 棟	231	265	250	94.3
4 階 東 病 棟	369	181	240	132.6
4 階 西 病 棟	109	232	179	77.2
5 階 西 病 棟	539	500	823	164.6
6 階 東 病 棟	1,089	821	970	118.1
6 階 西 病 棟	484	426	472	110.8
7 階 東 病 棟	1,277	673	704	104.6
7 階 西 病 棟	691	854	759	88.9
8 階 病 棟	43	41	31	75.6
外 来	203	314	123	39.2
そ の 他	21	23	1	4.3
合 計	5,125	4,461	4,652	104.3

科別相談件数

科 別	入 院		外 来							
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比		令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比	
	件	件	件	%		件	件	件	%	
内 科	2,330	1,758	1,709	97.2		38	81	46	56.8	
精 神 科	0	0	0	-		8	0	0	-	
神 経 内 科	61	28	34	121.4		10	45	6	13.3	
循 環 器 内 科	59	84	88	104.8		0	3	0	皆減	
小 児 科	86	100	81	81.0		41	27	14	51.9	
外 科	215	300	480	160.0		3	10	10	100.0	
血 管 外 科	0	0	0	-		0	0	0	-	
整 形 外 科	861	629	840	133.5		3	12	11	91.7	
脳 神 経 外 科	953	671	793	118.2		0	0	3	皆増	
呼 吸 器 外 科	14	0	0	-		10	0	0	-	
皮 膚 科	78	86	71	82.6		0	2	3	150.0	
乳 腺 外 科	-	-	17	皆増		-	-	1	皆増	
泌 尿 器 科	199	245	168	68.6		10	10	10	100.0	
産 婦 人 科	46	90	14	15.6		69	101	19	18.8	
眼 科	0	0	0	-		4	3	0	皆減	
耳 鼻 い ん こ う 科	17	0	0	-		1	12	0	皆減	
麻 酔 科	0	0	0	-		3	1	0	皆減	
リハビリテーション科	-	115	164	142.6		-	0	0	-	
放 射 線 科	0	0	0	-		0	0	0	-	
救 急 科	0	36	70	194.4		0	2	0	皆減	
歯科・歯科口腔外科	0	0	0	-		0	1	0	皆減	
そ の 他	3	5	0	0.0		3	4	0	皆減	
合 計	4,922	4,147	4,529	109.2		203	314	123	39.2	

2 科別紹介患者数・入院

科 別	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比	
					件	%
内 科		593	586	552	94.2	
精 神 科		0	0	0	-	
神 経 内 科		7	4	3	75.0	
循 環 器 内 科		36	34	20	58.8	
小 児 科		89	132	102	77.3	
外 科		108	122	150	123.0	
血 管 外 科		0	0	0	-	
整 形 外 科		154	131	105	80.2	
脳 神 経 外 科		146	109	121	111.0	
呼 吸 器 外 科		28	0	0	-	
乳 腺 外 科		-	-	8	皆増	
皮 膚 科		13	24	23	95.8	
泌 尿 器 科		71	87	93	106.9	
産 婦 人 科		65	90	68	75.6	
眼 科		0	2	0	皆減	
耳 鼻 いんこう科		5	5	16	320.0	
麻 酔 科		0	0	0	-	
放 射 線 科		0	0	0	-	
救 急 科		4	25	16	64.0	
歯科・歯科口腔外科		4	3	2	66.7	
合 計		1,323	1,354	1,279	94.5	

3 科別紹介患者数・外来

科 別	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比	
					件	%
内 科		2,252	2,282	2,348	102.9	
精 神 科		2	1	0	皆減	
神 経 内 科		348	389	412	105.9	
循 環 器 内 科		227	281	264	94.0	
小 児 科		836	1,042	699	67.1	
外 科		526	647	245	37.9	
血 管 外 科		40	28	24	85.7	
整 形 外 科		645	645	675	104.7	
脳 神 経 外 科		239	285	309	108.4	
呼 吸 器 外 科		57	48	62	129.2	
乳 腺 外 科		-	-	323	皆増	
皮 膚 科		571	570	610	107.0	
泌 尿 器 科		734	955	903	94.6	
産 婦 人 科		676	700	735	105.0	
眼 科		658	745	648	87.0	
耳 鼻 いんこう科		306	382	343	89.8	
麻 酔 科		12	10	13	130.0	
放 射 線 科		866	727	709	97.5	
病 理 診 断 科		0	0	0	-	
救 急 科		430	88	90	102.3	
歯科・歯科口腔外科		1,025	933	983	105.4	
女 性 専 用 外 来		0	0	0	-	
合 計		10,450	10,758	10,395	96.6	

4 地域別紹介患者数・入院

地域別	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
		件	件	件	%
桐 生 市		896	850	834	98.1
み どり 市		218	237	229	96.6
前 橋 市		10	15	6	40.0
伊 勢 崎 市		26	35	38	108.6
太 田 市		104	119	93	78.2
そ の 他 県 内		21	27	18	66.7
足 利 市		15	33	21	63.6
そ の 他 県 外		33	38	40	105.3
合 計		1,323	1,354	1,279	94.5

5 地域別紹介患者数・外来

地域別	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
		件	件	件	%
桐 生 市		7,054	7,238	6,903	95.4
み どり 市		2,127	2,257	2,216	98.2
前 橋 市		92	77	69	89.6
伊 勢 崎 市		202	219	230	105.0
太 田 市		595	613	599	97.7
そ の 他 県 内		106	86	86	100.0
足 利 市		136	131	157	119.8
そ の 他 県 外		138	137	135	98.5
合 計		10,450	10,758	10,395	96.6

6 科別戻し・逆・新規紹介患者数

科別	年度			
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
	件	件	件	%
内科	2,942	3,262	2,994	91.8
精神科	13	20	15	75.0
神経内科	443	446	331	74.2
循環器内科	272	290	274	94.5
小児科	1,023	1,060	1,150	108.5
外科	696	805	800	99.4
血管外科	53	31	30	96.8
整形外科	832	771	821	106.5
脳神経外科	588	549	702	127.9
呼吸器外科	216	99	120	121.2
乳腺外科	-	-	115	皆増
皮膚科	197	280	274	97.9
泌尿器科	1,161	1,164	1,265	108.7
産婦人科	320	410	346	84.4
眼科	332	422	395	93.6
耳鼻いんこう科	161	106	163	153.8
麻酔科	2	2	4	200.0
放射線科	935	1,039	991	95.4
救急科	386	278	310	111.5
緩和ケア内科	0	0	0	-
歯科・歯科口腔外科	1,811	1,690	1,705	100.9
合計	12,383	12,724	12,808	100.7

7 地域別戻し・逆・新規紹介患者数

地域別	年度			
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
	件	件	件	%
桐生市	6,482	6,581	6,281	95.4
みどり市	2,294	2,165	2,384	110.1
前橋市	1,213	1,310	1,340	102.3
伊勢崎市	380	515	587	114.0
太田市	883	1,021	931	91.2
その他県内	268	305	304	99.7
足利市	188	175	215	122.9
その他県外	252	271	307	113.3
その他	421	389	459	118.0
合計	12,381	12,732	12,808	100.6

8 科別紹介患者数（当日救急対応分）

科別	年度			
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
	件	件	件	%
内科	375	301	191	63.5
精神科	0	0	0	-
神経内科	20	7	12	171.4
循環器内科	15	15	16	106.7
小児科	328	554	167	30.1
外科	86	102	80	78.4
血管外科	3	0	0	-
整形外科	128	124	66	53.2
脳神経外科	114	112	119	106.3
呼吸器外科	27	1	0	0.0
乳腺外科	-	-	4	皆減
皮膚科	82	67	34	50.7
泌尿器科	98	109	81	74.3
産婦人科	53	53	49	92.5
眼科	3	15	2	13.3
耳鼻いんこう科	33	111	15	13.5
麻酔科	0	0	0	-
放射線科	20	1	1	100.0
救急科	661	314	287	91.4
歯科・歯科口腔外科	3	4	6	150.0
合計	2,049	1,890	1,130	59.8

区分（再掲）	年度			
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
	件	件	件	%
新患	365	366	198	54.1
再来	1,684	1,525	932	61.1
救急室対応患者数	1,341	1,111	549	49.4
救急搬送数	316	298	268	89.9
入院患者数（再掲）	732	730	616	84.4

9 科別事前予約患者数

科別	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
		件	件	件	
内科		810	912	959	105.2
精神科		0	0	0	-
神経内科		272	323	348	107.7
循環器内科		102	134	150	111.9
小児科		217	192	158	82.3
外科		286	322	109	33.9
血管外科		31	19	20	105.3
整形外科		370	393	414	105.3
脳神経外科		121	148	155	104.7
呼吸器外科		33	15	18	120.0
乳腺外科		-	-	217	皆増
皮膚科		228	217	238	109.7
泌尿器科		260	327	330	100.9
産婦人科		408	452	454	100.4
眼科		1	9	1	11.1
耳鼻いんこう科		146	204	161	78.9
麻酔科		8	5	2	40.0
放射線科		873	682	878	128.7
救急科		113	4	3	75.0
歯科・歯科口腔外科		0	0	2	皆増
女性専用外来		0	0	0	-
合計		4,279	4,358	4,617	105.9

10 オンライン検査予約

桐生おりひめネット

科別	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
		件	件	件	
C T		125	131	140	106.9
M R I		98	144	103	71.5
合計		223	275	243	88.4

11 母体搬送・新生児搬送受入れ数

(母体搬送)

年度 地域別	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
	件	件	件	%
桐生市	1	0	1	皆増
みどり市	6	6	9	150.0
前橋市	1	6	3	50.0
高崎市	0	0	1	皆増
伊勢崎市	3	5	7	140.0
太田市	11	9	6	66.7
館林市	2	0	0	-
渋川市	2	3	1	33.3
藤岡市	0	0	0	-
その他県内	0	0	0	-
栃木県	3	0	0	-
埼玉県	0	0	0	-
その他県外	0	0	0	-
合計	29	29	28	96.6

(新生児搬送)

年度 地域別	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
	件	件	件	%
桐生市	0	1	1	100.0
みどり市	1	2	4	200.0
前橋市	3	3	2	66.7
伊勢崎市	11	9	3	33.3
太田市	1	0	0	-
渋川市	1	0	1	皆増
その他県外	0	0	0	-
合計	17	15	11	73.3

12 在宅医療未熟児等一時受入事業

年度 項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
	件	件	件	%
登録件数	4	0	0	-
利用件数	12	0	0	-

13 退院調整患者数

年度 項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
	件	件	件	%
退院調整件数	623	555	409	73.7
調整加算算定	2,007	2,320	1,460	62.9
連携指導料算定	69	50	30	60.0
共同指導料算定	19	21	17	81.0
入院時支援加算算定	387	615	565	91.9
患者サポート体制充実加算	5,682	6,021	5,405	89.8

X 地域がん診療連携拠点病院

1 がん相談支援センター

がん相談支援センターとは、がん医療に関する幅広い相談を受ける窓口であり、がん患者さんやその家族が、十分な情報に基づいて医療を選択し自分らしい生活を送っていくことを支援する目的で設置されています。

(1) 当院での代表的な相談内容

- ・がんに関する疾病・治療・検査の一般的な医療情報
- ・症状・副作用への対応、療養生活について
- ・セカンドオピニオン
- ・医療費や経済的な相談
- ・看護・介護や在宅療養について
- ・緩和ケア
- ・就学・就労に関する相談
- ・がんゲノム医療や妊孕性温存について
- ・医療用かつらなどの整容や外見ケア
- ・家族や医療者とのコミュニケーション

(2) 相談員

当院では、がん看護専門看護師、緩和ケア看護師、社会福祉士、公認心理士が相談に対応しています。すべての相談員が、国立がんセンターの相談員研修を修了しています。うち2名はがん相談支援センター相談員指導者研修を、うち3名は両立支援コーディネーター研修を修了しています。

(3) 年度報告

令和4年度は、電話・面談・メールを合わせて283件となりました。新型コロナウイルス感染症の影響か、令和3年度に続き面談よりも電話での相談が多くなっています。

(4) 今後の課題

- ① がん患者さん及びそのご家族の気持ちに寄り添い、適切な情報提供を行う。
- ② 知識の更新や相談の質の維持向上を行う。
- ③ 必要としている人に窓口の存在を知ってもらえるように、広報活動を充実させる。

2 院内がん登録

(1) スタッフ

院内がん登録実務者研修を修了した有資格者（診療情報管理士 2 名）でおこなっています。地域がん診療連携拠点病院では、がん登録中級有資格者配置が必須事項です。

(2) 年度報告

2021 年データ 802 件を国立がん研究センターに提出し、そのデータを元に地域がん登録にも登録データを送付しています。また、平成 25 年度から実施されている「予後情報付き集計」へデータ提出の協力をしています。

(3) 今後の目標

より正確なデータ提出を目標に、予後調査を含め一層の精度向上を目指します。

3 化学療法・通院治療センター委員会

(1) スタッフ

化学療法通院治療センター委員会は、化学療法と生物学的製剤に関連する診療科医師、薬剤師（がん薬物療法認定薬剤師含む）、看護師（がん看護認定看護師含む）、検査技師、臨床工学技士、管理栄養士、事務員（診療情報管理士）の計 18 名で構成され、原則月に 1 回の会合を開いています。

(2) 年度報告

令和 4 年度の実績（内服抗がん剤のみの治療は除く）は、延べ人数で外来化学療法が 2066 名 (+5.7%) と毎年前年度を上回る人数となっています。がん種別の人数では入院外来合計（内服抗がん剤のみの使用者は除く）391 名 (+5%)、多かった順に肺がん(111)、尿路上皮がん(58)、大腸・小腸がん(45)、乳がん(46)、胃がん(22)、卵巣がん(23)、肝臓がん(21)、食道がん(13)、前立腺がん(11)、膵臓がん(8)、腎臓がん(7)、子宮がん(7)、胆道がん(7)、脳腫瘍(6)、皮膚がん(2)でした。免疫チェックポイント阻害薬使用患者はこのうち 106 名 (+6%) と増加傾向です。生物学的製剤（インフリキシマブ／レミケード）の点滴の患者数は延べ 321 人 (+2.2%) でした。4 月より外来化学療法加算料が、外来化学療法診療料に変更になったことに伴い、化学療法施行時に 700 点、化学療法は施行しないが診療した日に 400 点が算定できるようになりました。施行しなかった日の 400 点は算定漏れとなっていたため、9 月以降はチェックして算定する様にしており、約半年間で 198 件算定しました。逆にがん患者指導管理料への算定件数については、外来化学療法診察料と同日に重複できないこともあり年間 191 件 (-40%) と減少しました。

令和 4 年度の委員会の活動としては、新規レジメンの承認、委員会主催の講演会の年 2 回開催（ZOOM 併用ハイブリッド開催）、免疫チェックポイント阻害薬に伴う免疫関連有害事象の報告・啓発などを行いました。

(3) 今後の目標

- ① 免疫関連有害事象やその他副作用への注意喚起
- ② 有害事象の見落としがない様に症状やデータのチェック
- ③ 患者が快適に過ごせる環境づくり
- ④ 化学療法講演会の開催

4 緩和ケアチーム

(1) 目的

生命を脅かす病を抱えている患者と家族のつらさや苦痛（身体的、精神的、社会的、スピリチュアル）を緩和することを目的にしています。また多職種で構成されたチーム医療を提供することで、その人らしい人生を送ることができるように支えていくことを目標としています。

(2) あゆみ

厚生労働省による「がん診療連携拠点病院の整備指針」に従い、チームによる早期からの緩和医療の提供を実現するため、平成 17 年 6 月に緩和ケア勉強会を開催、平成 18 年 6 月に緩和ケア委員会を設置し、同 7 月には緩和ケアチームとしての活動を開始しました。

現在の緩和ケアチームは、医師、看護師（がん看護専門看護師・緩和ケア認定看護師）、薬剤師、管理栄養士、公認心理士が週 1 回の回診とカンファレンスを実施しています。

また緩和ケア委員会を医師 4 名（外科、泌尿器科、産婦人科、麻酔科）、看護師 15 名、薬剤師 2 名、理学療法士 1 名、作業療法士 1 名、管理栄養士 1 名、事務局 1 名、計 25 名で発足しており、3 か月に 1 回の定例会を実施しています。

(3) 活動実績

緩和チームはコンサルテーション型で運用されています。がん患者やその家族だけではなく、非がん患者とその家族の対応も行っています。令和 4 年度の新規緩和ケアチーム介入数は 63 名でした。身体的症状の緩和や精神的苦痛緩和の介入依頼が多くありましたが、経済的な相談や在宅療養支援など幅広い介入の依頼に対応しています。

また、医師、歯科医師、看護師や薬剤師など多職種を対象に、緩和ケアの基本的な知識・技術の習得を目指した緩和ケア研修会を年 1 回開催するほか、院内職員や地域の医療従事者向けの勉強会を開催し、院内・外を問わず緩和医療普及に努めています。

(4) 今後の課題

- ① 緩和ケアチーム回診の充実
- ② カンファレンスの充実
- ③ 院内外の啓蒙活動

5 がん患者サロン（サロンあおぞら）

（1）がん患者サロンとは

がん患者さん・ご家族を対象としたサポートグループであり、当事者同士で気軽に語り合う交流の場を提供するものです。お互いの話に耳を傾け「悩んでいるのは自分だけではない」と感じたり、療養上の工夫を教えあうことで、孤独感の軽減や問題への対処能力の向上などの効果があると言われてしています。

（2）当院のサロンの特徴

患者さん・ご家族のおはなし会を基本的な活動とし、年に2回ほど当院スタッフによるミニレクチャーも開催しています。開催時間中は出入り自由なオープン形式で、群馬県がんぴあサポーターや相談支援センターの相談員も参加しています。

年度末には参加者さんにアンケートを取り、利用される方のニーズをサロンの運営に反映できるように心がけています。

（3）開催実績

令和4年度は、コロナ禍での開催を勘案し開催基準を設けましたが、その基準を満たす状況にならず開催には至りませんでした。

（4）今後の課題

- ・定期的な開催の再開
- ・オンライン開催の検討

6 キャンサーボード

キャンサーボードとは、専門的な知識・技能を有して手術や放射線療法、化学療法などの集学的治療に携わる医師と、他の分野を専門とする医師等が、様々ながんに対して、がん患者さんの症状、状態及び治療方針等を検討・確認するためのカンファレンスをいいます。

「地域がん診療連携拠点病院」の指定要件として、キャンサーボードの設置や定期開催が求められていることから、当院でも臓器別のキャンサーボードを定期的に行っています。

医師を中心に放射線技師、薬剤師、看護師、診療情報管理士等が集まり、あらゆる側面からがん治療を検討し、緩和ケアチームとも協同し患者さん中心の医療を目指しています。

XI 地域支援活動

1 地域講演会

(1) 市民公開講演

開催日	講演内容	講師	会場
令和 4. 8. 20	第1部 市民公開講演 正しく知ろう！乳がんのこと ～乳がん専門医・放射線科医・ 認定看護師がお答えします～	乳腺外科部長 森下 亜希子 放射線科部長 村松 博之 がん化学療法認定看護師 西場 里香 乳がん看護認定看護師 塩谷 智恵	WEB開催 (ZOOM)
	第2部 基調講演 「地域医療と当院の現状と課題」	桐生厚生総合病院 院長 加藤 広行	
	シンポジウム 「病院の未来を市民とともに考 える」	シンポジスト 桐生市長 荒木 恵司 みどり市長 須藤 昭男 桐生市医師会 会長 菊地 一真 桐生厚生総合病院 院長 加藤 広行	
令和 5. 3. 4	がん最新治療 一腎がん・前立腺がんー	泌尿器科部長 岡本 亘平 泌尿器科部長 上井 崇智	WEB開催 (ZOOM)

(2) 地域医療勉強会

開催日	演題	演者	会場
令和 4. 6. 8	1. 在宅・施設における安全な摂食・嚥下の方法 2. 言葉の飲み込みについて	摂食・嚥下認定看護師 伊藤 さやか 言語聴覚士 井田 知宏	桐生厚生総合病院 2階講堂
4. 9. 14	在宅療養時における急変とその 対応方法	集中ケア認定看護師 岩澤 恵美	ZOOMによる オンライン開催
4. 12. 14	1. 慢性創傷って何？ 2. 特定行為って何？	副院長兼皮膚科診療部長 岡田 克之 特定認定看護師(皮膚・排尿ケア) 大谷内 千恵	
5. 3. 23	1. 医療用麻薬の基礎知識 2. 在宅療養に向けた当院の取り 組み	薬剤部 主任 栗原 麻奈美 緩和ケア認定看護師 五十嵐 千代子	

(3) ハッピー健康相談室

令和4年度につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となりました。

(4) 認定看護師出前講座

令和4年度につきましては、新型コロナウイルス感染対策を徹底し再開いたしましたが、依頼はありませんでした。

2 地域への情報提供

(1) TOWNわたらせ紙への掲載（桐生タイムス社発行）

発行年月日	執筆者	テーマ
令和		
4. 4. 2	根岸 香緒里 脳卒中リハビリ看護認定看護師	脳卒中はスピードが命です！
4. 4. 16	岡田 克之 副院長兼皮膚科診療部長	「プレゼン」というもの2
4. 5. 14	今井 正之 歯科口腔外科診療部長	<口腔の役割>レッサーパンダがやってきた
4. 5. 21	大木 康史 小児科診療部長	なぜ勉強するのでしょうか？
4. 6. 4	小林 誠 栄養管理科長	ファイトケミカルのはなし
4. 6. 11	小野 昭浩 内科診療部長	間質性肺炎って何？
4. 6. 18	上井 崇智 泌尿器科診療部長	過活動膀胱に対するボトックス注入療法
4. 7. 9	緒方 杏一 外科診療部長	下肢深部静脈血栓症やエコノミークラス症候群をご存知ですか？手術前後の血栓予防について
4. 7. 16	針谷 晃 中央検査部長兼小児科診療部長	<小児の救急>けいれん
4. 7. 23	今井 正之 歯科口腔外科診療部長	<口腔の役割>鰐（ワニ）
4. 8. 6	金井 尚美 中央検査科長補佐	新型コロナウイルス感染症と呼吸機能検査
4. 8. 20	丸山 泰弘 眼科診療部長	点眼薬の「さしかた」「保存法」「さす順番」
4. 9. 3	荒川 浩 がん看護専門看護師	ACPをご存知ですか？
4. 9. 10	森下 亜希子 乳腺外科診療部長	「乳がん検診について」
4. 9. 17	今井 正之 歯科口腔外科診療部長	<口腔の役割>石垣の風景
4. 10. 1	斯波 俊祐 整形外科診療部長	腰椎椎間板ヘルニア
4. 10. 15	磯 昌宏 放射線技術科長	医療被ばくにおける「正当化」と「最適化」
4. 11. 5	岡田 克之 副院長兼皮膚科診療部長	床ずれ予防プログラム
4. 11. 12	加藤 広行 院長	たばこ」と「発がん」、「新型タバコだから大丈夫！」って思っていないませんか？
4. 11. 19	今井 正之 歯科口腔外科診療部長	<口腔の役割>宇宙戦争

発行年月日	執筆者	テーマ
令和 4. 12. 3	関口 千夏 歯科衛生士	態癖ってなに？
4. 12. 17	小島 強 薬剤科長補佐	「治験」ってなに！（「物質」から「くすり」に）
5. 1. 14	今井 正之 歯科口腔外科診療部長	<口腔の役割>うさぎの前歯
5. 1. 28	飯塚 史子 リハビリテーション技術科長補佐	「回復期リハビリテーション病棟」をご存知ですか？
5. 2. 4	大川 里美 助産師	産後ケアについて
5. 2. 11	下山 大輔 整形外科診療部長	変形性膝関節症
5. 2. 18	森永 暢浩 副院長兼外科診療部長	胆石の話
5. 3. 4	三木 康正 臨床工学科係長	ME（エムイー）？CE（シーイー）って何？
5. 3. 11	今井 正之 歯科口腔外科診療部長	<口腔の役割>歯の生えない強盗団
5. 3. 18	鏡 一成 産婦人科診療部長	ありがとう、救急車

(2) 院外広報 ほほえみ

発行年月日	トピックス
令和 4. 4. 10	診療科の紹介 「妊婦と新型コロナウイルス感染症について」 定方 久延 産婦人科診療部長 認定看護師の活躍 伊藤 さやか 摂食・嚥下障害看護認定看護師 医事課からお知らせ 管理栄養士の取り組み
令和 4. 7. 1	診療科の紹介 「夏に気になる、皮膚のこと」 岡田 克之 副院長兼皮膚科診療部長 ドライブシミュレーターの紹介 リハビリテーション技術科 患者さん呼び出し方法の変更について 第25回 市民公開講演、桐生・みどり合同シンポジウム
令和 4. 10. 1	診療科の紹介 「鼠径ヘルニアについて」 森永 暢浩 副院長兼外科診療部長 保険外併用療養費(選定療養費)改定のお知らせ 第25回 市民公開講演 WEB配信 認定看護師の活躍 根岸 香緒里 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 研修医の紹介
令和 5. 1. 1	新年の挨拶2023年 加藤 広行 院長 医事課からのお知らせ 第26回 市民公開講演 特定認定看護師の活躍 大谷内 千恵 皮膚・排泄ケア特定認定看護師 患者満足度調査結果報告

(3) 地域医療連携室だより きずな

発行年月日	執筆者	テーマ
令和 4. 4. 1	加嶋 耕二 内科診療部長	糖尿病治療 - 研鑽と挑戦、より良い医療提供へ -
	中島 悠介 診療放射線技師	神経内科領域における核医学検査と診療 放射線技師の役割
4. 7. 1	岡田 克之 副院長兼皮膚科診療部長	皮膚病から感じる心の痛み - 皮膚の見た目のみならず -
	山田 あゆり 感染管理認定看護師	新型コロナウイルスとの戦い
4. 10. 1	有坂 眞由美 リハビリテーション科部長	リハビリテーション科・リハビリテー ション技術科（理学療法部門）のご紹介
	勝山 典年 リハビリテーション技術科科長	
	橋場 聡志 呼吸認定理学療法士	呼吸認定理学療法士の役割
5. 1. 1	今井 正之 歯科口腔外科診療部長	原因不明の歯痛“非歯原性歯痛” 筋筋膜痛に対する当院の治療
	根岸 香緒里 脳卒中リハビリテーション看護認定看 護師	チーム医療の中での脳卒中リハビリテー ション看護師の役割

3 母親学級

(1) 母親学級開催日時・内容

開催日時	内 容	講 師
第1水曜日 妊娠21週頃までの方 14:00～16:00	妊娠中の栄養 妊娠中の生活（妊娠初期） 妊婦体操 おっぱいのお手入れ SMC	管理栄養士 助産師
第2水曜日 妊娠22週から27週頃までの方 14:00～16:00	赤ちゃんの育て方 妊娠中の上手なお薬との つきあい方 妊娠中の生活（妊娠中期～後期）	小児科医師 薬剤師 助産師
第3水曜日 妊娠28週から34週頃までの方 14:00～16:00	産後の生活 赤ちゃんの生活 お産の準備	助産師
第4水曜日 妊娠32週からの方 14:00～16:00	お産の経過と呼吸法 産後の生活 入院案内	助産師

(2) 母親学級開催回数との延べ人数

開催回数	参加者数					
	妊婦	夫	子	母	父	計
24回	人 216	人 0	人 0	人 0	人 0	人 216

(3) 産後退院指導

開催日時	内 容	講 師
毎週火曜日 13:30～14:00 毎週金曜日 15:30～16:00	産褥期の日常生活 育児 家族計画 服薬指導	助産師 看護師 薬剤師
毎週水・金曜日 13:00～13:30	人工栄養（ミルク）の調乳法 消毒法	管理栄養士
毎週月・木曜日 13:30～14:00	沐浴指導	助産師 看護師

4 職場体験受入

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、今年度は受け入れを中止いたしました。

5 極低出生体重児の親の会「クラブ・プリミー」

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症が終息せずWEB開催予定でしたが、参加希望者1家族のみの為、開催見送りいたしました。

6 桐生市堀マラソン大会の支援

令和5年2月12日（日）に開催されました第69回桐生市堀マラソン大会において、大会実行委員会委員長（事務局 桐生市教育委員会）から、不慮の事故への迅速な対応など安全な大会に向けて、救急医療体制の充実を図ることを目的に、医師・看護師の大会参加の協力依頼があり、ドクター・ナースランナーとして参加しました。

当日は、22人がドクター（ナース）ランナー用のゼッケンを付け、参加選手と共に走りました。

7 リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2022 ぐんま

リレー・フォー・ライフとは、がん征圧を目指し、がん患者や家族、支援者らがリレー形式で24時間にわたって歩き、勇気と希望を打ち合うチャリティイベントです。

当院は、地域がん診療連携拠点病院の取り組みの一環としてイベント趣旨に賛同し、チーム及び後援団体として参加しています。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により後援と募金に参加しました。

8 令和4年度（第4回）桐生厚生総合病院連携登録医大会

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い令和元年度から中止しておりましたが、令和4年度は感染拡大防止の観点から、11月10日（木）19：00からWEB（ZOOM）での配信で開催しました。

1部は新入職医師の紹介とし、元年以降に赴任された外科診療部長2名、乳腺外科部長、救急科診療部長、整形外科診療部長の諸先生方に自己紹介を兼ねた診療部紹介をいたしました。

第2部では「当院のCOVID-19対策」と題し、副院長兼感染対策室室長 森永暢浩外科診療部長が講演いたしました。

来年度も新型コロナウイルス感染症の発生状況等考慮しながら、皆さまにご満足いただける大会にしていく所存です。

XII 研修業績

1 学会及び院外研修会

(1) 医師

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
内科	4	第119回日本内科学会総会・講演会	WEB開催	1
	5	第65回日本糖尿病学会年次学術集会	兵庫県	1
	5	第103回日本消化器内視鏡学会総会	京都府	1
	5	第37回日本臨床栄養代謝学会学術集会	神奈川県	1
	6	American Diabetes Association 82th Scientific Sessions	WEB開催	1
	9	EASD (欧州糖尿病学会) 2022 58th ANNUAL MEETING	スウェーデン	1
	9	日本消化器病学会関東支部第371回例会	WEB開催	1
	10	第30回日本消化器関連学会週間 (JDDW2022)	福岡県	1
	10	第30回日本消化器関連学会週間 (JDDW2022)	WEB開催	1
神経内科	4	第119回日本内科学会総会・講演会	WEB開催	1
	5	第63回日本神経学会学術総会	WEB開催	1
	7	第16回パーキンソン病運動障害疾患コンgres	WEB開催	1
	11	第41回日本認知症学会学術集会	WEB開催	1
小児科	4	第8回総合アレルギー講習会	WEB開催	1
	5	第61回日本アレルギー学会専門医認定教育セミナー	WEB開催	1
	7	第7回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会	東京都	1
	7	第58回日本周産期・新生児医学会学術集会	WEB開催	1
	7	自閉症スペクトラムのこどもの言語・コミュニケーション指導	WEB開催	1
	8	第16回相模原臨床アレルギーセミナー	WEB開催	1
	9	第30回MSPA講習会	WEB開催	1
	9	第62回日本アレルギー学会専門医認定教育セミナー	WEB開催	1
	11	第71回日本アレルギー学会学術大会	WEB開催	1
	11	第66回日本新生児成育医学会・学術集会	神奈川県	1
	11	第66回日本新生児成育医学会・学術集会	WEB開催	1
	1	日本周産期・新生児医学会 第41回周産期シンポジウム	WEB開催	1
	3	第9回総合アレルギー講習会	大阪府	1
外科	4	第122回日本外科学会定期学術集会	WEB開催	3
	5	第103回日本消化器内視鏡学会総会	WEB開催	1
	5	第13回日本臨床栄養代謝学会首都圏支部会学術集会	東京都	2
	5	日本消化器病学会関東支部第369回例会	WEB開催	1
	7	第77回日本消化器外科学会総会	WEB開催	1
	9	第76回日本食道学会学術集会	東京都	1
	10	第60回日本癌治療学会学術集会	兵庫県	4
	11	第73回日本気管食道科学会	沖縄県	1
	11	第33回日本消化器癌発生学会総会 代議員会 (総会)	東京都	1
	11	第33回日本消化器癌発生学会総会	東京都	1

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
外科	月			人
	11	第84回日本臨床外科学会総会	WEB開催	1
	12	第35回日本内視鏡外科学会総会	WEB開催	1
	2	第19回日本消化器学会総会学術集会	WEB開催	2
	2	第95回日本胃癌学会総会	北海道	2
整形外科	3	第59回日本腹部救急医学会総会	沖縄県	1
	4	第51回日本脊椎脊髄病学会学術総会	神奈川県	2
	6	第95回日本整形外科学会学術総会	WEB開催	1
	6	JOSKAS-JOSSM2022	北海道	1
	6	第48回日本骨折治療学会学術集会	神奈川県	1
	9	第54回脊椎外科同好会	長野県	1
	11	第56回日本側彎症学会学術集会	東京都	1
	11	第25回日本低侵襲脊椎外科学会学術集会	京都府	2
脳神経外科	2	第9回日本脊椎前方側方進入手術学会	大阪府	1
	5	第42回日本脳神経外科コンgres総会	WEB開催	2
	9	日本脳神経外科学会第81回学術総会	WEB開催	1
	11	第29回一般社団法人日本神経内視鏡学会	長野県	1
	11	第38回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術集会	大阪府	2
皮膚科	3	STROKE2023	神奈川県	1
	4	第18回日本褥瘡学会関東甲信越地方会学術集会	WEB開催	1
	4	第38回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会	WEB開催	1
	5	NPO法人口から守る幸せを守る会第10回全国大会	WEB開催	1
	5	MEDぐんま2022	群馬県	2
	5	群馬実地皮膚科医会（第11回日本臨床皮膚科医会群馬県支部総会）	群馬県	1
	5	第37回日本臨床栄養代謝学会学術集会	神奈川県	1
	6	第121回日本皮膚科学会総会	京都府	1
	6	2022年度日本皮膚科学会研修講習会必須（総会）	WEB開催	1
	6	第37回日本環境感染学会総会・学術集会	WEB開催	1
	6	第1回フットケア・足病医学会関東・甲信越地方会	WEB開催	1
	7	第8回日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会総会・学術総会	群馬県	1
	7	第8回日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会総会・学術総会	WEB開催	1
	7	第4回日本在宅医療連合学会大会	WEB開催	1
	7	第110回日本皮膚科学会群馬地方会	群馬県	2
	7	2022年度足育研究会総会・講演会	WEB開催	1
	8	第17回北関東摂食嚥下リハビリテーション研究会	WEB開催	1
	8	第86回日本皮膚科学会東部支部学術大会	新潟県	1
	8	第24回日本褥瘡学会学術集会	神奈川県	1
	8	2022年度日本皮膚科学会東部支部企画研修講習会	WEB開催	1
	10	2022年度日本皮膚科学会西部支部企画研修講習会	WEB開催	1
	10	第33回日本老年医学会東海地方会	愛知県	1
	10	2022年度中部・北陸地区床ずれセミナー	愛知県	1

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
皮膚科	月			人
	10	2022年度日本皮膚科学会中部支部企画研修講習会	WEB開催	1
	11	第111回日本皮膚科学会関東地方会茂木精一郎教授就任記念大会	群馬県	2
	11	令和4年度群馬県「皮膚の日」市民公開講座	WEB開催	1
	11	2022年度日本皮膚科学会東京支部企画研修講習会	WEB開催	1
	11	第38回日本臨床皮膚科医会三ブロック合同学術集会	東京都	1
	11	第19回日本褥瘡学会関東甲信越地方会学術集会	茨城県	1
	11	第112回日本皮膚科学会群馬地方会	群馬県	2
	11	2022年度関東甲信越地区床ずれセミナー	WEB開催	1
	12	第9回日本臨床栄養代謝学会関越支部学術集会	WEB開催	1
	1	2022年度日本皮膚科学会研修講習会（選択・冬）	WEB開催	1
	1	2022年度日本皮膚科学会研修講習会（必須・冬）	WEB開催	1
	1	2022年度北海道地区床ずれセミナー	WEB開催	1
	1	2022年度九州・沖縄地区床ずれセミナー	鹿児島県	1
	1	日本医療マネジメント学会第10回群馬県支部学術集会	WEB開催	1
	2	第3回日本フットケア・足病医学会年次学術集会	奈良県	1
	2	山形「床ずれ予防プログラム」セミナー	山形県	1
	2	2022年度近畿地区床ずれセミナー	奈良県	1
	3	2022年度中国・四国地区床ずれセミナー	WEB開催	1
	3	第16回日本褥瘡学会関東甲信越地方会群馬支部大会	群馬県	1
	3	第113回日本皮膚科学会群馬地方会	群馬県	2
	泌尿器科	4	第15回日本骨盤脱手術学会学術集会	東京都
7		第67回日本透析医学会学術集会・総会	神奈川県	3
10		日本泌尿器腫瘍学会第8回学術集会	兵庫県	1
10		第87回日本泌尿器科学会東部総会	長野県	2
10		第87回日本泌尿器科学会東部総会	WEB開催	1
11		第36回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会	兵庫県	1
12		第35回日本内視鏡外科学会総会	愛知県	1
2		塩化ラジウム注射液を用いたRI内容療法における適正使用に関する安全取扱講習会	WEB開催	1
産婦人科	11	IADPSG2022	オーストラリア	1
眼科	4	第126回日本眼科学会総会	WEB開催	1
	5	第58回関東甲信越眼科学会	WEB開催	1
	10	第3回RB（網膜芽細胞腫）セミナー	WEB開催	1
	10	第76回日本臨床眼科学会	東京都	1
	10	第76回日本臨床眼科学会	WEB開催	1
耳鼻 いん こう 科	5	第123回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会	WEB開催	2
	6	産業医研修（産業医総論）	群馬県	1
	7	産業医研修（有害業務における労働衛生3管理）	群馬県	1
	7	補聴器適合判定医師研修会	埼玉県	1
	7	メンタル不調への話の聴き方	栃木県	1

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
耳鼻 いんこ う科	月			人
	7	産業医研修（コロナ禍での安全衛生）	群馬県	1
	8	妊産婦の健康管理	栃木県	1
	9	職場における騒音障害の健康障害防止対策	栃木県	1
	10	職場における若年性認知症の早期発見と両立支援を含む留意点	栃木県	1
	11	第36回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会秋季大会	WEB開催	2
	11	産業医研修（職場における感染症対策）	群馬県	1
	11	事例を通じて考えるがんを持つ労働者の治療と仕事の両立支援について	栃木県	1
	1	産業医研修（化学物質規制の見直しについて）	群馬県	1
	2	令和4年度石綿関連疾患診断技術研修	栃木県	1
	2	職場のメンタルヘルスについて	栃木県	1
麻酔科	6	日本麻酔科学会第69回学術集会	兵庫県	1
	6	日本麻酔科学会第69回学術集会	WEB開催	3
	7	日本ペインクリニック学会第56回学術集会	WEB開催	1
	9	日本麻酔科学会2022年度支部学術集会	WEB開催	1
	11	日本臨床麻酔学会第42回大会	京都府	2
リハ科	3	第13回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会	埼玉県	1
放射線科	4	第81回日本医学放射線学会総会	神奈川県	3
	6	第46回日本頭頸部癌学会	WEB開催	1
	6	第30回日本乳癌学会学術集会	神奈川県	1
	11	第60回日本癌治療学会学術集会	WEB開催	1
	11	日本放射線腫瘍学会第35回学術大会	広島県	1
	11	日本放射線腫瘍学会第35回学術大会	WEB開催	1
	3	第36回高精度放射線外部照射部会学術大会	WEB開催	1
救急科	10	第50回日本救急医学会総会・学術集会	WEB開催	1
歯科・ 歯科口 腔外科	7	口腔顔面痛ページックwebセミナー2022	WEB開催	1
	9	第28回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術集会	WEB開催	1
	10	第27回一般社団法人日本口腔顔面痛学会学術大会	WEB開催	1
	11	第67回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会	WEB開催	1
臨床研 修医室	4	群馬県新臨床研修医合同オリエンテーション	群馬県	2
	5	日本消化器病学会関東支部第369回例会	WEB開催	1
	9	第251回日本呼吸器学会関東地方会	東京都	1
	9	日本ACLS協会PEARSプロバイダーコース	千葉県	1
	9	日本消化器病学会関東支部第371回例会	WEB開催	1
	10	日本ACLS協会PALSプロバイダーコース	神奈川県	1

(2) 薬剤師

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
薬剤部	月			人
	4	令和4年度群馬病院薬学研修会	WEB開催	2
	4	Meiji Seika ファルマWebカンファレンス	WEB開催	1
	5	第5回群馬県薬学大会	WEB開催	10
	5	薬剤師向けてんかんWebセミナー	WEB開催	1
	6	令和4年度群馬病院薬学研修会	高崎市	2
	7	第8回日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会総会・学術集会	WEB開催	1
	7	第22回桐生オンコロジーファーマシスト研究会	桐生市	2
	8	桐生厚生総合病院 第25回市民公開講演 桐生・みどり合同シンポジウム	WEB開催	1
	10	令和4年度日本病院薬剤師会感染制御専門薬剤師講習会	WEB開催	2
	11	令和4年度群馬病院薬学研修会	高崎市	4
	11	精神科疾患セミナー	WEB開催	1
	11	第1回群馬薬学連携セミナー	高崎市	1
	11	睡眠薬に関連する医療安全セミナー	WEB開催	3
	12	パーキンソン病治療を考える会in東毛	WEB開催	1
	12	病棟と周術期の睡眠薬 適正使用を本気で考える会	WEB開催	1
	12	第25回地域医療勉強会	WEB開催	3
	12	The 2nd Sepsis Seminar	WEB開催	1
	12	第1回地域連携学術講演会	WEB開催	5
	12	開始目前！これならできる、電子処方箋	WEB開催	1
	1	Meiji Seika ファルマWebカンファレンス	WEB開催	1
	1	ハッピーフェイスセミナーIN群馬2023	WEB開催	1
	1	薬剤師のためのADHD Webセミナー	WEB開催	1
	1	第23回桐生オンコロジーファーマシスト研究会	WEB開催	4
	2	褥瘡WEBセミナー	WEB開催	1
	2	病院薬剤師の未来に向けた改革を考えるセミナー	WEB開催	1
	2	群馬県病院薬剤師会講演会	高崎市	1
	3	群馬県東毛地区ソーティクツ発売記念講演会	桐生市	3
	3	埼玉・群馬・新潟 食道癌免疫療法セミナー	WEB開催	1
	3	桐生市医師会学術講演会（桐生地域医療連携講演会）	WEB開催	2
3	第16回日本褥瘡学会関東甲信越地方会 群馬支部学術大会	WEB開催	1	
3	乳腺・内分泌外科医の集い	WEB開催	2	
3	第26回地域医療勉強会	WEB開催	3	

(3) リハビリテーション技術科（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
リハビリテーション技術科	月			人
	6	第23回日本言語聴覚学会	新潟	1

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
リハビリテーション技術科	7	口腔がん治療後の摂食嚥下障害に対するアプローチ法	WEB開催	1
	7	自閉症児の特性と療育のエビデンス	WEB開催	1
	8	臨床実習指導者講習会	WEB開催	1
	9	がんのリハビリテーション研修会	WEB開催	4
	9	群馬県言語聴覚士会「摂食嚥下障害に対する服薬支援」	WEB開催	1
	9	第28回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会	WEB開催	1
	10	第19回群馬県災害医療研修（急性期）	前橋	1
	11	臨床実習指導者講習会	前橋	1
	1	臨床実習指導者講習会	前橋	1
	1	自動車運転と作業療法	WEB開催	1

(4) 放射線技術科

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
放射線技術科	4	日本放射線技術学会第77回総会学術大会	WEB開催	3
	6	2022年度関東甲信越診療放射線技師学術大会	高崎市	6
	6	第61回日本消化器がん検診学会総会	WEB開催	1
	7	診療放射線技師法改正に伴う告示研修（実技）	前橋市	3
	8	令和4年度第1回桐生・みどり地区診療放射線技師勉強会	WEB開催	19
	10	診療放射線技師法改正に伴う告示研修（実技）	前橋市	5
	10	第50回日本放射線技術学会秋季学術大会	WEB開催	2
	12	第69回日本放射線技術学会関東支部研究発表大会	WEB開催	1
	1	診療放射線技師法改正に伴う告示研修（実技）	前橋市	2
	3	令和4年度第2回桐生・みどり地区診療放射線技師勉強会	WEB開催	19

(5) 中央検査科（臨床検査技師）

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
中央検査科	4	タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会（基礎研修）	WEB開催	15
	4	臨地実習指導者講習会（WEB研修）	WEB開催	5
	4	HIVの最新情報	WEB開催	1
	5	タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会（実技研修：群馬県005）	前橋市	2
	5	第71回日本医学検査学会 in大阪	大阪府	2
	5	輸血検査研究班5月例会	WEB開催	1
	5	第70回日本輸血細胞治療学会学術集会	WEB開催	2
	6	第63回日本臨床細胞学会総会（春期大会）	WEB開催	1

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
中央 検査科	月			人
	6	認定一般検査技師制度 行列のできるスキルアップ研修会Part XI	WEB開催	1
	6	自動分析装置の仕組みと測定原理の基礎	WEB開催	1
	6	AmoyDx肺癌マルチパネルによる肺癌ドライバー遺伝子検査について	WEB開催	3
	6	反応タイムコース解析の基礎	WEB開催	1
	6	細胞診の見方、婦人科細胞診の基礎	館林市	1
	6	輸血検査研究班6月例会	WEB開催	2
	7	群馬県感染症対策連絡協議会総会・特別講演会	WEB開催	1
	7	第76回群馬臨床細胞学会学術集会	前橋市	2
	7	新入社員・日当直者のための血液検査～凝固検査②～	WEB開催	4
	7	細胞検査士取得のための勉強会「婦人科細胞診の基礎 [感染症・腫瘍変]、内膜細胞診の基礎 [腫瘍編]」	太田市	1
	7	タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会（実技研修：群馬県005）	前橋市	3
	7	CLSI M100 ED-32の変更点	WEB開催	3
	8	QMSの概要と役割者_PDCA	WEB開催	1
	8	細胞検査士取得のための勉強会「乳腺の細胞診①」	前橋市	1
	8	認定試験直前!!細胞診セルフチェック 第1弾	WEB開催	1
	8	細胞検査士取得のための勉強会「鏡検実習～婦人科・呼吸器～」	前橋市	2
	8	細胞検査士取得のための勉強会「乳腺の細胞診②」	前橋市	1
	8	検査技師のための基礎科学講座①（分子の吸光とは）	WEB開催	1
	9	細胞検査技師取得のための勉強会「甲状腺の細胞診」	前橋市	1
	9	群臨技新人研修会	前橋市	1
	9	認定試験直前!!細胞診セルフチェック 第2弾	WEB開催	1
	9	細胞検査技師取得のための勉強会「唾液腺の細胞診」	前橋市	1
	9	微生物検査研究班9月例会①	WEB開催	3
	9	生理検査研究班9月例会①	WEB開催	2
	9	細胞検査技師取得のための勉強会「対腔液細胞診・リンパ節細胞診」	WEB開催	1
	9	血液検査研究班9月例会②	WEB開催	2
	9	日本超音波医学会第34回関東甲信越地方会学術集会	東京都	1
	9	第143回医用超音波講義講習会	WEB開催	1
	9	医療安全管理者養成研修	WEB開催	1
	10	日臨技関甲信支部・首都圏支部医学会検査学会（第58回）	栃木県	1
	10	病理細胞診研究班10月例会②細胞検査士取得のための勉強会	WEB開催	1
10	生理検査研究班10月例会①	WEB開催	2	
10	輸血検査研究班10月例会①	WEB開催	1	
10	JACLaS EXP02022	兵庫県	1	
10	防災センター要員講習・自衛消防業務講習	東京都	1	
10	第19回群馬県災害医療研修（急性期）	前橋市	1	

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
中央 検査科	月			人
	10	第36回関東臨床細胞学会学術集会	神奈川県	1
	11	全国検査と健康展in群馬	前橋市	1
	11	病理細胞診研究班11月例会①	WEB開催	2
	11	関甲信支部・首都圏支部人材育成研修会	長野県	1
	11	病理細胞診研究班11月例会②	前橋市	1
	11	輸血検査研究班11月例会②	WEB開催	1
	11	病理細胞診研究班11月例会③	前橋市	1
	11	日臨技精度管理調査総合報告会	千葉県	1
	11	病理細胞診研究班11月例会④	前橋市	1
	11	第67回群馬県医学検査学会	前橋市 (WEB開催)	22
	12	第37回輸血検査基礎実技研修会	前橋市	1
	12	第34回関甲信支部・首都圏支部微生物検査研修会	WEB開催	5
	12	輸血検査研究班例会③	前橋市	1
	12	第144回医用超音波講義講習会	WEB開催	1
	1	令和4年度群馬県感染症対策連絡協議会 合同カンファレンス	WEB開催	1
	1	タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会（実技研修：群馬県007）	前橋市	6
	1	第10回日本医療マネジメント学会群馬県支部学術集会	WEB開催	1
	2	第34回日本臨床微生物学会総会・学術集会	WEB開催	2
	2	第77回群馬臨床細胞学会学術集会・総会	前橋市	2
	2	生理検査研究班2月例会①	WEB開催	1
	2	第30回日臨技首都圏支部・関甲信支部合同臨床化学検査研究班研修会	WEB開催	1
	2	微生物検査研究班2月例会①	WEB開催	4
	2	都道府県災害マニュアル説明研修会	WEB開催	1
	2	群馬県合同輸血療法委員会 講演会	WEB開催	2
	2	タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会（実技研修：群馬県008）	高崎市	9
	2	第31回日臨技関甲信支部・首都圏支部合同病理細胞検査研修会	WEB開催	1
	2	タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会（群馬県004）	WEB開催	4
	3	日本医師会令和4年度臨床検査精度管理調査報告会	東京都	1
	3	群馬県認定病理技師指定講習会	WEB開催	2
	3	臨床化学検査研究班3月例会①	WEB開催	1
	3	群馬県臨床検査精度管理調査報告会	前橋市	1
	3	血液検査研究班3月例会①	WEB開催	1
	3	群馬県臨床検査技師会 令和4年度 渉外講演会・情勢報告会	前橋市	1
3	輸血テクニカルセミナー2022	WEB開催	1	
3	免疫血清研究班3月例会①	前橋市	1	

(6) 栄養管理科 (管理栄養士・調理師)

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
栄養管理科	7月	第8回日本褥瘡学会 在宅ケア指針協会総会・学術集会	前橋市	1人
	11月	令和4年度群馬県栄養士医療事業部研修会	WEB開催	1
	2月	令和4年度群馬県栄養改善学会	高崎市	1
	3月	令和4年度群馬県栄養士医療事業部研修会	WEB開催	1

(7) 臨床工学技士

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
臨床工学科	5月	第32回日本臨床工学技士学会	WEB開催	1人
	8月	透析技術認定士講習会eラーニング	WEB開催	2
	8月	群馬県新型コロナウイルス感染症患者対応医療従事者養成研修	WEB開催	2
	10月	全国自治体病院協議会臨床工学部会オンラインセミナー	WEB開催	5
	12月	ぐんま人工呼吸器安全セミナー	高崎市	1
	2月	第22回人工呼吸器安全セミナー 埼玉県臨床工学技士会主催	WEB開催	1
	3月	新生児集中治療業務基礎研修会	WEB開催	1

(8) 視能訓練士

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
視能訓練室	11月	第63回日本視能矯正学会	WEB開催	2人

(9) 看護部 (助産師・看護師)

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
看護部	5月	第37回日本臨床栄養代謝学会学術集会	神奈川県	3人
	5月	令和4年度群馬県保健師助産師看護師実習指導講習会	群馬県	2
	6月	看護管理 看護における機能連携	WEB開催	1
	6月	第37回日本環境感染学会総会・学術集会	WEB開催	1
	6月	群馬県保健師助産師看護師実習指導者講習会	WEB開催	2
	7月	第30回日本乳癌学会学術総会	WEB開催	1
	7月	日本老年看護学会第27回学術総会	WEB開催	1
	7月	第17回群馬クリニカルパス研究会	群馬県	1
	7月	日本看護協会主催 (認知症高齢者の看護実践に必要な知識)	群馬県	3
	7月	令和4年度第1回・第2回関東ブロックDMAT技能維持研修	東京都	2
	7月	第27回日本緩和医療学会学術大会	兵庫県	1
	7月	第24回日本医療マネジメント学会学術総会	兵庫県	2

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
看護部	月			人
	8	令和4年度透析療法従事職員研修	WEB開催	1
	8	2022「重症度、医療、看護必要度」評価者及び院内指導者研修	WEB開催	1
	9	第26回ELNEC-Jコアカリキュラム指導者養成プログラム	WEB開催	1
	9	2022「重症度、医療、看護必要度」評価者及び院内指導者研修	WEB開催	1
	9	2022年度研修「209, 小児住宅移行支援指導者育成研修」	WEB開催	2
	9	第23回日本認知症ケア学会大会	WEB開催	1
	9	第28回群馬県救急医療懇談会	群馬県	1
	9	令和4年度第3回・第4回関東ブロックDMAT技能維持研修	東京都	1
	11	第17回医療の質・安全学会学術集会	WEB開催	1
	11	令和4年度第2回病院看護業務研究会	WEB開催	1
	11	第31回日本新生児看護学会学術集会	神奈川県	1
	11	令和4年度新人看護職員研修事業 教育担当者研修	群馬県	1
	11	第26回群馬県看護学会	群馬県	42
	11	第53回日本看護学会学術集会	千葉県	1
	1	周産期看護研修会B（産科）	WEB開催	1
	1	令和4年度第5回関東ブロックDMAT技能維持研修	東京都	1
	2	地域母子保健研修会6「地域における妊娠・出産・育児の切れ目のない支援」	群馬県	1
	2	令和4年度看護師救急医療業務実地修練	東京都	1
	2	令和4年度第3回病院看護業務研究会	WEB開催	1
2	第37回日本がん看護学会学術集会	WEB開催	2	
2	第37回日本がん看護学会学術集会	WEB開催	1	
3	地域母子保健研修会8「低出生体重児の成長と支援・対応の難しい親の理解と支援」	WEB開催	1	

(10) 事務

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
契約管財課	月			人
	7	令和4年度自衛消防業務新規講習	群馬県	1
	12	防火・防災管理新規講習	群馬県	1
医事課	12	防災センター実務講習 自衛消防業務再講習	東京都	1
	7	NCDセミナー2022 症例登録作業の効率化と正確性のために	WEB開催	1
地域医療連携室	10	がん登録実務初級者認定試験（2022年度）	群馬県	1
	6	第64回日本小児神経学会学術集会	群馬県	1
	7	第24回日本医療マネジメント学会学術総会	WEB開催	1

2 学会発表・講演・論文

◇内科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者		学会名,開催地,年月日
症例報告	食道裂孔ヘルニアより縦隔内に医前庭部・十二指腸球部が陥入し心外閉塞性ショックを来したが、緊急内視鏡でショックを離脱した1例	相川崇 飯田智広	山田拓郎	第103回日本消化器内視鏡学会総会, 京都府, 2022.5
口演	LiraglutideとInsulin Degludec併用療法のDurabilityに関する有用性	加嶋耕二	清水弘行	第65回日本糖尿病学会年次学術集会, 神戸, 2022.5
ポスター	Liraglutide Plus Basal Insulin Combination Therapy in Japanese Old-Aged with Type 2 Diabetes: Peak Age at 70s	K. Kashima M. Yamada	H. Shimizu	American Diabetes Association 82nd Scientific Sessions, WEB開催, 2022.6
ポスター	Maximize Benefits of SGLT2 Inhibitors in People with Advanced CKD Stages with Type 2 Diabetes	K. Kashima M. Yamada	H. Shimizu	American Diabetes Association 82nd Scientific Sessions, WEB開催, 2022.6
口演	To protect the kidney by SGLT2 inhibitors, individualized eGFR slope analysis is needed because of the heterogeneity in each person	Koji K Masanobu Y	Hiroyuki S	58th Annual Meeting of the European Association for study of diabetes, Sweden, Stockholm&Online, 2022.9
症例報告	肺大細胞癌 LCNEC の手術化学療法後に生じた胃カンジダ症の1例	相川崇 根岸駿	飯田智広 吉山敦	日本消化器病学会関東支部第371回例会, WEB開催, 2022.9
症例報告	EMRで切除断端陰性であった直腸管状絨毛腺腫tubulovillous adenomaが2年後に再発し腹膜播種（腹膜偽粘液腫）を伴う進行癌となった1例	吉山敦 飯田智広	相川崇	日本消化器病学会関東支部第371回例会, WEB開催, 2022.9
症例報告	抗TIF- γ 抗体陽性皮膚筋炎を随伴した肺小細胞癌の1例	清水大輔 竹原和孝 小野昭浩	相川崇 大澤翔	第251回日本呼吸器学会関東地方会, 東京都, 2022.9
症例報告	ステロイド投与にて縮小を維持している再発type B1胸腺腫の1例	宇津木光克 小野昭浩	大澤翔	第63回日本肺癌学会学術集会, 福岡市, 2022.12
症例報告	自然消退に至った肝細胞癌の1	吉山敦 飯田智広 菅間一乃 相川崇 浦岡俊夫	福地達 野中真知 堀口英 根岸駿	第684回日本内科学会関東地方会, 東京都, 2023.2

◇小児科（著書・論文）

種類	タイトル	筆者	掲載誌, 巻号頁, 年月
原著論文	胎児脳室拡大・頭囲拡大を契機に疑われた脳症-多指症-多小脳回-水頭症 (Megalencephaly with polymicrogyria, polydactyly and hydrocephalus: MPPH) 症候群の1例	田口未奈 島田正博 浦野博央 鈴木尊裕 大木康史 桑島信 加藤光広 桑島成子	周産期医学 52, 795-797, 2022, 東京医学社, 2022. 5
原著論文	小児新生児の血液培養に関する単一施設実態調査	関根和彦 江田陽一 八木龍介 斎藤亜希子 浦野博央 袖野玲子 鈴木尊裕 大木康史	小児科 63, 782-786, 2022, 金原出版, 2022. 7

◇小児科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名, 開催地, 年月日
口述発表	集団保育中の寒冷刺激を契機に発症した発作性寒冷ヘモグロビン尿症	江田陽一 八木龍介 斎藤亜希子 関根和彦 浦野博央 袖野玲子 鈴木尊裕 大木康史	第219回日本小児科学会群馬地方会, WEB開催, 2022. 7
講演	発達障害（神経発達症）早期発見のポイント	大木康史	令和4年度桐生市みどり市母子保健みどり会講演会, 桐生市, 2022. 7
講演	発達障害特性のある子どもへの支援と虐待予防	大木康史	令和4年度桐生市児童虐待防止研修会, 桐生市, 2022. 8
口述発表	抗トリコスポロン抗体測定が診断に有効だった夏型過敏性肺臓炎の13歳男児例	斎藤亜希子 大木康史 小野昭浩 滝沢琢己	第54回日本小児呼吸器疾患学会, 千葉, 2022. 10
口述発表	異常眼球運動で発症した小児交互性片麻痺の症例	松野早紀 小柳春加 斎藤亜希子 関根和彦 浦野博央 袖野玲子 鈴木尊裕 大木康史	第220回日本小児科学会群馬地方会, WEB開催, 2022. 12

◇外科（著書・論文）

種類	タイトル	筆者	掲載誌, 巻号頁, 年月
原著論文	Laparoscopic gastrojejunostomy with laparoscopic-assisted percutaneous endoscopic gastrostomy for superior mesenteric artery syndrome with dysphagia: a case report	Akiharu K Nobuhiro M Wataru W Kyoichi O Akiko M Takayuki O Hiroyuki K Makoto S Ken S Hiroshi S	Surgical case reports, 2022 Sep 1;8(1):163

◇外科（著書・論文）

種類	タイトル	筆者	掲載誌, 巻号頁, 年月
原著論文	Changes in the Gustave Roussy Immune Score as a Powerful Prognostic Marker of the Therapeutic Sensitivity of Nivolumab in Advanced Gastric Cancer: A Multicenter, Retrospective Study.	Nakazawa N Sohda M Ubukata Y Kuriyama K Kimura A Kogure N Hosaka H Naganuma A Sekiguchi M Saito K Ogata K Sano A Sakai M Ogawa H Shirabe K Saeki H	Ann Surg Oncol. 2022 Nov;29(12):7400-7406
原著論文	Gangrenous ischemic colitis localized to the cecum: a case report.	Tateno K Motegi Y Ogawa H Suga K Okada T Osono K Katoh R Ubukata Y Saito H Hara K Sakai M Ogata K Sohda M Murakami C Shirabe K Saeki H	Surg Case Rep. 2022 Jan 23;9(1):9
原著論文	Examining the Efficacy of Nivolumab for Gastric Cancer Focusing on Using an Inflammation-based Prognostic Score: A Multicenter Retrospective Study.	Nakazawa N Sohda M Tateno K Watanabe T Kimura A Kogure N Hosaka H Naganuma A Sekiguchi M Saito K Ogata K Sano A Sakai M Ogawa H Shirabe K Saeki H	Anticancer Res. 2023 Feb;43(2):927-934
原著論文	Albumin-derived Neutrophil-to-Lymphocyte Ratio Score as a Marker of Nivolumab Treatment Sensitivity in Gastric Cancer: A Multicenter Study.	Nakazawa N Sohda M Tateno K Watanabe T Kimura A Kogure N Hosaka H Naganuma A Sekiguchi M Saito K Ogata K Sano A Sakai M Ogawa H Shirabe K Saeki H	In Vivo. 2023 Mar-Apr;37(2):818-824

◇外科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名, 開催地, 年月日
ポスター	鉗子の洗浄ポートを利用した腹腔鏡下単径ヘルニア修復術における癒着防止剤貼付法の工夫	木村明春 森永暢浩 和田渉 緒方杏一 奥山隆之 加藤広行	第122回日本外科学会定期学術集会, WEB開催, 2022. 4

◇外科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名,開催地,年月日
口演	オピオイドでは除痛困難であった局所進行直腸癌に対して硬膜外アクセス用皮下ポートシステムによる疼痛管理が有効であった1例	吉川晟羽 緒方杏一 森下亜希子 木村明春 和田渉 奥山隆之 森永暢浩 高瀬友彰 佐藤淳 加藤広行	第369回日本消化器病学会関東支部例会, WEB開催, 2022. 5
口演	嚥下機能低下を有する上腸間膜動脈症候群に対して腹腔鏡下胃空調吻合術および胃瘻造設術が有用であった1例	木村明春 緒方杏一 和田渉 奥山隆之 森永暢浩 加藤広行	第13回日本臨床栄養代謝学会 首都圏支部会学術集会, 東京, 2022. 5
講演	胃癌医療のトピックスー治療の変遷と最近の話題ー	緒方杏一	第22回桐生オンコロジーファーマシスト研究会, 桐生市, 2022. 7
講演	「妊娠初期の交通事故受傷により、外傷性肝損傷を来した一例」	奥山隆之	第4回群馬Emergency Surgery研究会, WEB開催, 2022. 10
口演	食道がん集学的治療におけるチーム医療の実践とこれから	加藤広行	第60回日本癌治療学会学術集会, 神戸, 2022. 10
ポスター	大腸癌周術期の麻痺性イレウスに対して高圧酸素療法を施行した2症例	森永暢浩 奥山隆之 木村明春 緒方杏一 和田渉 森下亜希子 高瀬友彰 塚越裕 入内島伸尚 佐藤淳 黒尾良太 大崎未央 加藤優典 三木康正 加藤広行	第60回日本癌治療学会学術集会, 神戸, 2022. 10
ポスター	上行結腸癌術後15年経過し発症した、孤発性Sister Mary Joseph's noduleの1例	奥山隆之 木村明春 緒方杏一 和田渉 森下亜希子 森永暢浩 加藤広行	第60回日本癌治療学会学術集会, 神戸, 2022. 10
口演	Study of preoperative deep vein thrombosis (DVT) screening and perioperative management of scheduled surgery for gastrointestinal cancer	Kyoichi O Akiharu K Takayuki O Akiko M Wataru W Nobuhiro M Etsuko F Saki N Hisaka S Sakurako N Naomi K Yukio K Hiroyuki K	第60回日本癌治療学会学術集会, 神戸, 2022. 10

◇外科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名,開催地,年月日
ポスター	Usefulness of peripherally inserted central venous catheter for cancer patients in the terminal phase	Akiharu K Kyoichi O Wataru W Takayuki O Nobuhiro M Hiroyuki K	第60回日本癌治療学会学術集会,神戸,2022.10
講演	当院のCOVID-19対策	森永暢浩	第4回桐生厚生総合病院連携登録医大会,WEB開催,2022.11
ポスター	管状絨毛腺腫EMR後に、局所再発、腹膜播腫を認めた超高分化型腺癌の1症例 A case of very well differentiated adenocarcinoma after EMR for tubule-villous adenoma	和田渉 奥山隆之 木村明春 緒方杏一 森永暢浩 加藤広行	第33回日本消化器癌発生学会総会,東京,2022.11

◇外科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名,開催地,年月日
講演	当科における免疫チェックポイント阻害剤を用いた胃癌ファーストラインの治療経験	木村明春 緒方杏一 奥山隆之 和田渉 森永暢浩 加藤広行	Gasric Cancer Hybrid Web Seminar,WEB開催,2022.12
講演	桐生厚生総合病院外科ご紹介	森永暢浩	桐生市医師会10分間講演,桐生市,2022.12
ポスター	Study of preoperative deep vein thrombosis (DVT) screening and perioperative management of scheduled surgery for gastrointestinal cancer	Kyoichi O Akiharu K Takayuki O Akiko M Wataru W Nobuhiro M Hitoyuki K	第95回日本胃癌学会総会,札幌,2023.2
ポスター	通過障害を伴う切除不能進行胃癌に対する胃空腸吻合術の有用性	木村明春 緒方杏一 森永暢浩 和田渉 森下亜希子 奥山隆之 加藤広行	第95回日本胃癌学会総会,札幌,2023.2
講演	地域における消化器疾患病院連携～症例経過報告～	森永暢浩	桐生市医師会学術講演会,桐生市,2023.3

◇整形外科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名,開催地,年月日
口演	人工膝関節置換術後の大腿四頭筋力の変化	下山大輔	JOSKAS-JOSSM,札幌,2022.6.18

◇整形外科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名,開催地,年月日
口演	術中硬膜損傷なく術後2週で馬尾ヘルニアが明らかとなった1例	角田陽平	第54回脊椎外科同好会,長野,2022.9.10
口演	先天性無痛無汗症のCharcot関節に生じた可能性股関節炎に対して保存的治療で軽快した1例	小坂橋祐輔 下山大輔 斯波俊祐	関東整形災害外科学会,宇都宮,2023.3

◇脳神経外科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名,開催地,年月日
ポスター	クリッピング術後、局所的科還流がみられたくも膜下出血の例	橋場康弘 石井希和 曲澤聡	STROKE2023,横浜,2023.3.16

◇乳腺外科（著者・論文）

種類	タイトル	筆者	掲載誌,巻号頁,年月
原著論文	子宮平滑筋肉腫乳房転移の一例	森下亜希子 木村明春 緒方杏一 和田渉 森永暢浩 加藤広行	日臨外会誌 83(11),1895-1899,日本臨床外科学会,2022.11

◇乳腺外科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名,開催地,年月日
ポスター	術前術後化学療法に伴う味覚障害に対する検討	森下亜希子 塩谷智恵 加藤広行	第30回日本乳癌学会学術集会,横浜市(WEB),2022.6
口述発表	乳癌治療について～転移・再発乳癌の治療～	森下亜希子	桐生市薬剤師会,桐生市,2022.6
口述発表	当院における頭皮冷却装置の導入とその工夫	森下亜希子 塩谷智恵 加藤広行	第18回日本乳癌学会関東地方会,東京,2022.12
口述発表	緩和ケアの実際	森下亜希子	第1回桐生厚生総合病院地域連携学術講演会,WEB,2022.12

◇皮膚科（著書・論文）

種類	タイトル	筆者	掲載誌,巻号頁,年月日
分担執筆	足の構造と働き、アセスメント：皮膚・爪の構造と働き、そのアセスメント	岡田克之	新はじめよう！フットケア（日本トータルフットマネジメント協会編）,pp12-14,日本看護協会出版会,2022.6.30

◇皮膚科（著書・論文）

種類	タイトル	筆者	掲載誌, 巻号頁, 年月日
分担執筆	序文	岡田克之	床ずれ予防プログラム （日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会 編）pp iii, 日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会, 2022. 7. 1
分担執筆	床ずれのリスク要因の理解：足が浮腫んでいる	岡田克之	床ずれ予防プログラム （日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会 編）pp iii, 日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会, 2022. 7. 1
連載	健康設計図：第16回 医者の話 ～そして聴くことの意味～	岡田克之	群馬建設新聞 第14, 311号, 日本工業経済新聞社前橋支部, 2022. 4. 26
連載	健康設計図：第17回 夏の小さな生き物に注意！～蚊のみならず～	岡田克之	群馬建設新聞 第14, 328号, 日本工業経済新聞社前橋支部, 2022. 5. 27
連載	健康設計図：第18回 傷の手当 ～早く良く治す～	岡田克之	群馬建設新聞 第14, 353号, 日本工業経済新聞社前橋支部, 2022. 6. 30
連載	健康設計図：第19回 改めて感染とは？～コロナ禍の続く今こそ～	岡田克之	群馬建設新聞 第14, 372号, 日本工業経済新聞社前橋支部, 2022. 7. 26
連載	健康設計図：第20回 コロナの今を考える ～ウィズコロナの心得～	岡田克之	群馬建設新聞 第14, 388号, 日本工業経済新聞社前橋支部, 2022. 8. 25
連載	健康設計図：第21回 毛のこと ～自然とは何でしょう～	岡田克之	群馬建設新聞 第14, 410号, 日本工業経済新聞社前橋支部, 2022. 9. 28
連載	健康設計図：第22回 床ずれって何？～リスクは誰にでも～	岡田克之	群馬建設新聞 第14, 429号, 日本工業経済新聞社前橋支部, 2022. 10. 26
連載	健康設計図：第23回 冬来りなば～気温も湿度も下がる季節～	岡田克之	群馬建設新聞 第14, 451号, 日本工業経済新聞社前橋支部, 2022. 11. 29
連載	健康設計図：第24回 いろいろ感じる感覚器～見たり聞いたり～	岡田克之	群馬建設新聞 第14, 472号, 日本工業経済新聞社前橋支部, 2022. 12. 28

◇皮膚科（著書・論文）

種類	タイトル	筆者	掲載誌, 巻号頁, 年月日
連載	健康設計図：第25回 コロナ禍のコミュニケーション ～人は見た目が？～	岡田克之	群馬建設新聞 第14, 488号, 日本工業経済新聞社前橋支部, 2023. 1. 26
連載	健康設計図：第26回 足の健康を守る～「足人かるた」で学びましょう～	岡田克之	群馬建設新聞 第14, 510号, 日本工業経済新聞社前橋支部, 2023. 2. 28
連載	健康設計図：第27回 はやく、よく、きく～いのちの場から社会を良くする～	岡田克之	群馬建設新聞 第14, 530号, 日本工業経済新聞社前橋支部, 2023. 3. 29
雑報	医療現場の未来を変えるアイテムシリーズ：ケアマネージャー用床ずれ危険度チェック表（取材）	岡田克之ほか	ナースマガジン vol. 40 (2022Summer) pp24-25, メディバンクス, 2022. 7. 1
雑報	編集後記	岡田克之	群馬県医師会報第888号 pp75, 7月号, 群馬県医師会, 2022. 7. 25
雑報	尾瀬の風：今こそ五感を研ぎ澄ます	岡田克之	群馬県医師会報第896号 pp38, 3月号, 群馬県医師会, 2023. 3. 25
雑報	学会報告：第8回日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会総会・学術集会を開催して	岡田克之	群馬大学医学部刀城クラブ会報 第267号 p9, 群馬大学医学部医学科同窓会, 2022. 12
英文論文 （共著）	Possible suppressive effects of tranilast on NLRP3 inflammasome activation in necrobiosis lipoidica	Akihiko U Keiji K Katsuyuki O Seiichiro M	The Journal of Dermatology 49(12):433-4, 2022. 12. 1

◇皮膚科（学会発表・講演）

種類	タイトル	筆者	掲載誌, 巻号頁, 年月日
講演	一緒にことば聴きませんか？Part5	岡田克之	MEDぐんま2022, 前橋市（ハイブリッド開催）, 2022. 5
講演	あしたの足のために足人が注ぐ今の取り組み	岡田克之	ぐんま足人の会 第5回あしたの足セミナー, WEB開催, 2022. 5

◇皮膚科（学会発表・講演）

種類	タイトル	筆者	掲載誌, 巻号頁, 年月日
講演	教育講演 創傷・褥瘡・熱傷 ～専門医に欠かせないガイドラインの知識～：「きず」を治すための基本方針は揺るぎない ～最近の動向と合わせて～	岡田克之 有馬愛 一木稔生 植田郁子 金子栄 狩野宏行 倉繁祐太 清水晶 澄川靖之 高橋秀典 玉城善史郎 徳山道生 波部幸司 藤田英樹 茂木精一郎	第121回 日本皮膚科学会総会, 京都市(ハイブリッド), 2022. 6
講演	透析足・地域医療セッション 透析現場で足を守る！：透析患者の足病変～外用薬のベストチョイス～	岡田克之	第1回日本フットケア・足病医学会関東・甲信越地方会, 東京都(ハイブリッド), 2022. 6
講演	全国会長講演：みんなで紡ぐ新しい時代	岡田克之	第8回日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会 総会・学術集会, 前橋市(ハイブリッド), 2022. 7
講演	ランチョンセミナー：「床ずれ予防プログラム」できました！	岡田克之	第8回日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会 総会・学術集会, 前橋市(ハイブリッド), 2022. 7
講演	塗ることの意味 ～乾癬に取り組む中で～	岡田克之	ドボベツト®フォーム Webセミナー, WEB開催, 2022. 7
講演	スキンケア・フットケア・ネイルケア～皮膚も爪も健やかに！～	岡田克之	群馬県女性薬剤師会夏季研修会, WEB開催, 2022. 7
講演	乾癬性疾患の概念とは ～乾癬に対する私の治療と連携～	岡田克之	桐生市医師会学術講演会, WEB開催, 2022. 7
講演	「床ずれ予防プログラム」発刊のご報告	岡田克之	桐生市医師会10分間口演, 桐生市(ハイブリッド), 2022. 7
講演	ランチョンセミナー：「床ずれ予防プログラム」完成までの道のり	岡田克之	第24回日本褥瘡学会学術集会, 横浜市(ハイブリッド), 2022. 8
講演	爪を守る 足を護る ～皮膚科医の考えるフットケア～	岡田克之	Kaken Dermatology Web Seminar, WEB開催, 2022. 9
講演	この素晴らしい現代を元気に過ごす	岡田克之	水明会サロン(桐生市退職校長会), 桐生市, 2022. 10

◇皮膚科（学会発表・講演）

種類	タイトル	筆者	掲載誌, 巻号頁, 年月日
講演	全国会長講演：新しい時代の紡ぎかた	岡田克之	日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会 2022年度中部・北陸地区床ずれセミナー, 名古屋市(WEB開催), 2022. 10
講演	全国会長講演：新しい時代の紡ぎかた	岡田克之	日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会 2022年度関東甲信越地区床ずれセミナー, WEB開催, 2022. 11
講演	慢性創傷管理：慢性創傷って何？	岡田克之	第25回桐生厚生総合病院地域医療勉強会, WEB開催, 2022. 12
講演	全国会長講演：新しい時代の紡ぎかた	岡田克之	日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会 2022年度北海道地区床ずれセミナー, WEB開催, 2023. 1
講演	全国会長講演：新しい時代の紡ぎかた	岡田克之	日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会 2022年度九州・沖縄地区床ずれセミナー, 鹿児島(WEB開催), 2023. 1
講演	ケアプランが変わる！在宅介護が変わる！床ずれ予防プログラム：「床ずれ予防プログラム」完成までの道のり	岡田克之	山形床ずれ予防プログラムセミナー, 山形市(WEB開催), 2023. 2
講演	1から学べる褥瘡診療シリーズ 予防-栄養-	岡田克之	褥瘡WEBセミナー, 前橋市(WEB開催), 2023. 2
講演	全国会長講演：新しい時代の紡ぎかた	岡田克之	日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会 2022年度近畿地区床ずれセミナー, 大和郡山市(ハイブリッド), 2023. 2
講演	在宅褥瘡を多職種で防ぐ ～床ずれ予防プログラムの意義～	岡田克之	第60回在宅ケアネット渋川講演会, 渋川市(ハイブリッド), 2023. 3
講演	全国会長講演：新しい時代の紡ぎかた	岡田克之	日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会 2022年度中国・四国地区床ずれセミナー, WEB開催, 2023. 3
講演	褥瘡から護る、護れば、護ろう！	岡田克之	第16回 日本褥瘡学会関東甲信越地方会群馬支部学術大会, 前橋市(ハイブリッド), 2023. 3
ラジオ放送	日本皮膚科学会総会教育講演：「きず」を治すための基本方針は揺るぎない ～最近の動向と合わせて～	岡田克之	皮膚科セミナー(ラジオNIKKEI), ラジオNIKKEI 東京本社スタジオ, 2022. 12

◇皮膚科（学会発表・講演）

種類	タイトル	筆者	掲載誌, 巻号頁, 年月日
口述発表 (筆頭)	コロナ禍の褥瘡対策はどうだったか？	岡田克之 大谷内千恵 金井美紀 大川三登利 井上智子 伊藤恵美 森田由香利	第18回日本褥瘡学会関東 甲信越地方会学術集会, 東京都(ハイブリッド), 2022. 4
口述発表 (筆頭)	「床ずれ予防プログラム」を在宅褥瘡 予防に活かす	岡田克之 塚田邦夫	第111回日本皮膚科学会 群馬地方会, 高崎市, 2022. 11
口述発表 (筆頭)	在宅褥瘡を防ぐ「床ずれ予防プログラ ム」～栄養支援を含むケアプランへ の活用～	岡田克之	第9回日本臨床栄養代謝 学会関東支部学術集会, WEB開催, 2022. 12
口述発表 (筆頭)	シンポジウム：コロナ禍のフットケア 活動を共有する コロナ禍でも継続す るフットケア活動 ～ぐんま足人の会 でNew Normalにトライ！～	岡田克之	第3回日本フットケア・ 足病医学会年次学術集 会, ホテル日航奈良, 2023. 2
口述発表 (共同)	COVID-19患者に対するNST介入 ～持 ち込みの感染褥瘡を有していた1症例 ～	星野裕夏 豊島瞳 岡田克之 佐々木杏奈 伊藤さやか 藤本あさひ 井田知宏 飯田智広	第37回日本臨床栄養代謝 学会学術集会, 横浜市 (ハイブリッド), 2022. 5
口述発表 (共同)	嚥下調整食を見直して患者QOL向上を 目指す	藤本あさひ 根岸弥生 岡田克之 伊藤さやか 佐々木杏奈 井田知宏 飯田智広	第37回日本臨床栄養代謝 学会学術集会, 横浜市 (ハイブリッド), 2022. 5
口述発表 (共同)	肢端紅痛症の1例	石崎真由 岡田克之	第112回日本皮膚科学会 群馬地方会, 前橋市, 2022. 11
口述発表 (共同)	穿孔性環状肉芽腫の1例	石崎真由 岡田克之 山崎圭子	第113回日本皮膚科学会 群馬地方会, 前橋市, 2023. 3
展示発表 (筆頭)	フットケアに関するニーズを探る ～ 「ぐんま足人の会」の進むべき道～	岡田克之 木嶋千枝	第1回日本フットケア・ 足病医学会関東・甲信越 地方会, 東京都(ハイブ リッド), 2022. 6
展示発表 (筆頭)	ケアプランに活かす「床ずれ予防プロ グラム」	岡田克之	第33回日本老年医学会央 回地方会, 名古屋市, 2022. 10

◇脳神経外科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名, 開催地, 年月日
ポスター	クリッピング術後、局所的過灌流がみ られたくも膜下出血の2例	橋場康弘	STROKE2023, 横浜, 2023. 3. 16

◇泌尿器科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名,開催地,年月日
口演	当院におけるSpace OAR systemの経験	清水孝倫 林拓磨 岡本亘平 上井崇智 村松博之	第91回日本泌尿器科学会 群馬地方会, 前橋, 2022. 11. 19
口演	当院における維持透析患者のBCG膀胱内注入療法の経験	清水孝倫 林拓磨 岡本亘平 上井崇智	第92回日本泌尿器科学会 群馬地方会, 前橋, 2023. 2. 4

◇産婦人科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名,開催地,年月日
ポスター	Insulin secretion and insulin resistance in patients with gestational diabetes mellitus diagnosed during earlier pregnancy.	Hisanobu S Issei K Tomoko K	IADPSG 2022, Sydney, 2022. 11

◇救急科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名,開催地,年月日
口演	後天性血友病の1例	萩原周一	第50回日本救急医学会総会・学術集会, 新宿 (WEB開催), 2022. 10

◇歯科・歯科口腔外科（著書・論文）

種類	タイトル	筆者	掲載誌,巻号頁,年月日
活動報告	病院歯科と地域歯科医師会の連携による全身麻酔下歯科治療における歯科衛生士の役割	青木真美 近藤直子 関口千夏 石原梨映	日本歯科衛生学会雑誌, 17巻, 1号(2022) 42～46 頁
臨床研究・症例報告	小児科診療所に受診した口腔内の粘液嚢胞についての検討	磯崎啓一郎 疋田敏之 田中舞 今井正之 萩原教文 三牧正和	小児科臨床, 75巻, 4号 (2022) 671～675頁

◇歯科・歯科口腔外科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名,開催地,年月日
口演	癌の治療期間を快適に過ごすために～がんサポーターケアの観点から～	村松博之 今井正之 勝山典年 小林誠	国際癌治療増感研究協会 第27回癌治療増感研究会, 茨城, 2022. 4

◇放射線技術科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名,開催地,年月日
口演	当院における急性腹症～5年目技師のnight routine～	藤生敦哉	第1回ベーシックRTぐん ま会, 前橋 (Web開催), 2022. 6

◇放射線技術科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名,開催地,年月日
口演	小児股関節における生殖腺防護について考える	磯昌宏	令和4年度第1回桐生・みどり地区診療放射線技師勉強会,桐生市(WEB開催),2022.8
口演	深層学習を用いたCBCT画像における直腸構造の分類:教師ありと教師なし学習の比較	菊池智貴	第50回日本放射線技術学会秋季学術大会,東京都(WEB開催),2022.10
口演	教師なし学習を用いたCBCT画像における直腸構造の分類	菊池智貴	医用画像情報学会令和4年度(第194回)大会,宮城県(WEB開催),2022.10
口演	磁気共鳴専門技術者認定試験合格に向けて	藤生敦哉	群馬県立県民健康科学大学MRI技師講習会,前橋(WEB開催),2022.10
ポスター	Classification of Rectal Condition in CBCT Images for Prostate Cancer Radiation Therapy Using Deep Learning	菊池智貴	108th Scientific Assembly and Annual Meeting of the Radiological Society of North America (RSNA2022), Chicago (含WEB開催),2022.11
口演	基礎原理	藤生敦哉	診療放射線技師会基礎講習基礎技術コース「MRI検査」,群馬県立県民健康科学大学,2023.2
口演	診療放射線技師法改訂～実践施設からの報告～	中島悠介	第35回臨床画像診断懇話会テクニカル分科会,2023.1
講演	専門職就活講座	磯昌宏	群馬パース大学,高崎,2023.1
口演	マンモグラフィの実際	岡田佐知子	令和4年度第2回桐生・みどり地区診療放射線技師勉強会,桐生市(WEB開催),2023.3
口演	乳がんの放射線治療～手術したら終わりじゃないの～	小野祐輔	令和4年度第2回桐生・みどり地区診療放射線技師勉強会,桐生市(WEB開催),2023.3

◇中央検査科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名,開催地,年月日
講演(共同)	I&Aの現状	飛田規 田保博子 渡邊千秋 峯岸正好 梶田幸夫 坊池義浩 土居靖和 鷺野壽代	第70回日本輸血・細胞治療学会学術総会,愛知県(WEB開催),2022.5

◇中央検査科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名,開催地,年月日
口述発表	喀痰中の好酸球比率に関する検討	今泉智博 新井瑠実 中島美紀 鈴木晶子 梶田幸夫	第67回群馬県医学検査学会,前橋市(WEB開催), 2022.11
講演	第72回日本医学検査学会のご紹介 - 群馬県初となる全国学会の開催に向けて -	梶田幸夫	第67回群馬県医学検査学会,前橋市(WEB開催), 2022.11
講演	輸血機能評価認定I&Aに対する意識調査 -輸血検査研究班-	北爪洋介 小川公代 梶田幸夫	第67回群馬県医学検査学会,前橋市(WEB開催), 2022.11

◇看護部（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名,開催地,年月日
口演	NICUにおける13トリソミー症候群と診断された児の家族への看護～新生児を亡くした母親の語り～	赤石洋子 戸崎聡子 坂寄智美	新生児看護学会,神奈川, 2022.11
口演	緊急帝王切開時のNCRP実践における不安～NICU版クリニカルラダー各レベルの比較～	阿左美まゆ美 森田愛有美 遠田里美	日本看護学会,千葉, 2022.11
口演	難治性疼痛を抱えた終末期がん患者の症状緩和から在宅療養へ移行できた一事例	五十嵐千代子	日本がん看護学会,神奈川, 2023.2
口演	継続看護を標準化するための、在宅療養支援スクリーニングシートの作成	岡田牧子 岡村美幸 高橋三美 粕川由貴子	日本医療マネジメント学会,兵庫, 2022.7
口演	A病院B病棟看護師のストレスとワークモチベーションの関係性に関する実態調査	石原渉太 中村裕美 小島佐知子 松井紗輝 中野理恵	群馬県看護学会,群馬, 2022.11
口演	育児部分休業を利用中の看護師がクリニカルラダーを取得している背景	澤田広美 清水綾子 高橋千鶴	群馬県看護学会,群馬, 2022.11
口演	プリセプター経験者と未経験者による新人指導に対する思いの違い	高橋由香里 小山恭平	群馬県看護学会,群馬, 2022.11
口演	離床センサー選択に対する不安軽減に向けた取り組み～看護師経験3年目以下でのフローチャートの有用性～	藤井陽平 船戸由香	群馬県看護学会,群馬, 2022.11
口演	臨床経験3年目看護師のプリセプター役割を見据えた思い	中澤幸奈 村上奈菜 竹内愛実	群馬県看護学会,群馬, 2022.11

◇看護部（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名, 開催地, 年月日
口演	身体拘束解除時の看護師の迷いに対する意識調査	萩原百恵 野村千絵 青木友香 高野安矢	群馬県看護学会, 群馬, 2022. 11
口演	クリニカルパス適用患者へ術前に行う術後離床指導の現状把握～経験年数5年以上と5年目未満を比較して～	斎藤由樹 金子恵里 小坂橋絵里香 川田愛美	群馬県看護学会, 群馬, 2022. 11
口演	エチレンオキシド (EOG)滅菌における外部委託化の取り組み	田澤康彦 小島麻里奈 星野和隆 古澤悟 佐藤祥代	日本医療マネジメント学 会, 群馬, 2023. 1

3 主な講演会・研修会

(1) 医薬品安全委員会

開催日	研修名	演題名	開催地	講師	参加人数
7月29日	医療品安全研修会	ここに注意！ 薬剤性の転倒転落	講堂	大手 直樹	66人

(2) 医療安全対策委員会

開催日	研修名	演題名	開催地	講師	参加人数
4月1日	新入職者研修	医療安全の基礎知識 患者認証の基本 薬剤について	講堂	高橋 紀子 中野 理恵 森田由香利	16人
4月18日	パース大学 医療安全研修	病院の医療安全	放射線 技師室	高橋 紀子	3
5月24日	新人研修	KYTについて	講堂	セーフティ委員 橋本 綾子	3
5月30日	医療安全研修 レベルⅠ①	事故分析の基礎知識 KYTについて	講堂	セーフティ委員 橋本 綾子	30
6月1日	医療安全研修 レベルⅠ②	KYTの進め方 事例分析	講堂	セーフティ委員 橋本 綾子	25
6月3日	医療安全研修 レベルⅡ	安全文化の醸成について 自部署の問題を解決する には	講堂	野村 美菜子	19
6月24日	新人研修	新人の起こしやすい事故	講堂	高橋 紀子	3
7月6日	静脈注射院内認定 看護師育成	静脈注射に関する 安全管理について	3階第1 会議室	高橋 紀子	3
7月27日	外来勉強会	ヒューマンエラーとKYT	小会議室	高橋 紀子	5
9月6日	医療安全研修 レベルⅡ①	SBARとは 事例を使って報告する	講堂	高橋 紀子	26
10月4日	桐生高等看護学校 統合実習	医療安全の基礎知識	講堂	高橋 紀子 セーフティ委員会	28
10月26日	研修医勉強会	医療安全管理	講堂	高橋 紀子	7
10月26日	上尾看護専門学校 統合実習	医療安全管理について	講堂	高橋 紀子	2
11月14日	医療安全研修 レベルⅢ	安全文化の醸成 中間評価	講堂	高橋 紀子	17
2月2日	医療安全研修 レベルⅢ	安全文化の醸成 最終評価	講堂	高橋 紀子 セーフティ委員会	15

(3) 感染対策委員会

開催日	研修名	演題名	開催地	講師	参加人数
4月4日	新人研修	感染対策の基礎知識	講堂	山田あゆり	5人
5月18日	パース大学放射線科講義	放射線科における感染管理	放射線科休憩室	山田あゆり	3
5月24日	看護部現任教育委員会研修会	針刺し切創・皮膚粘膜汚染	講堂	山田あゆり	3
7月1日	静脈注射院内認定看護師レベルⅡ研修	点滴に関する感染管理留置針の留置期間 静脈血液培養について	講堂	山田あゆり	3
9月19日 ～10月9日	第1回感染対策研修	感染対策の概論①総論 抗菌薬を大事に使おう！ AMRに立ち向かうために ①	eラーニング	ICT・AST	
9月26日	高崎健康福祉大学看護実践開発センター 感染管理認定看護師教育課程講義	領域別感染対策（手術室） 手術部位感染対策 手術部位感染サーベイランス	高崎健康福祉大学	山田あゆり	30
10月5日	桐生高等看護学院講義	感染管理の取り組み	桐生高等看護学院	山田あゆり	30
10月31日 ～11月7日	桐生高等看護学院講義	小児看護方法論	桐生高等看護学院	山田あゆり	30
11月1日 ～12月1日	高崎健康福祉大学看護実践開発センター 感染管理認定看護師教育課程講義	実習受け入れ		山田あゆり	2
2月6日～ 2月26日	第2回感染対策研修	感染対策の概論 ②感染経路と感染経路別 予防策 抗菌薬を大事に使おう！ AMRに立ち向かうために ②	eラーニング	ICT・AST	596

4 研修実績

(1) 院内学術集談会

	開催日	内 容
第 回 330	令和 4. 6. 28 (火)	<p>1 術前スクリーニング検査でCOVID-19感染が確認され、入院治療後に幽門側胃切除術を施行した胃癌の1例 外科 木村明春 森永暢浩 和田渉 緒方杏一 奥山隆之 加藤広行</p> <p>2 シートベルト非着用での交通事故で肝損傷を合併した妊娠38週の妊婦 産婦人科 児嶋賢 矢崎淳 定方久延 鏡一成</p>
331	4. 9. 27 (火)	<p>1 眼疾患での抗VEGF薬治療の紹介 眼科 丸山泰弘</p> <p>2 確定診断が遅れた化膿性足関節炎・菌血症の1例 整形外科 角田陽平 小坂橋祐輔 工藤千佳 下山大輔 斯波俊祐</p>
332	4. 12. 27 (火)	<p>1 鼻出血の処置について 耳鼻いんこう科 梅村崇</p> <p>2 神経内視鏡で治療した第3脳室コロイド嚢胞の1例 脳神経外科 橋場康弘 石井希和 曲澤聡</p>
333	5. 3. 28 (火)	<p>1 当院における肝細胞癌に対するテセントリク+アバスチン併用療法 内科 福地達 堀口英</p> <p>2 当院における維持透析患者のBCG膀胱内注入療法の経験 泌尿器科 清水孝倫 林拓磨 岡本亘平 上井崇智</p>

(2) C. P. C (臨床病理検討会)

	開催日	内 容
第 回 178	令和 4.10.25 (火)	<p>《主病変》</p> <p>化膿性肺炎(右下葉)(左700g:右1410g)</p> <p>Septic shock DIC</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 急性尿細管壊死 糸球体内血栓(+) 好中球浸潤(+) 腎(左210g:右200g) 2 臍脂肪壊死 膿瘍、好中球浸潤、細菌集塊 血栓(+) 3 肝(2080g) 類洞内好中球浸潤 4 脾腫(軽度) 感染脾(220g) 5 骨髓 顆粒球増加 <p>《副病変》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 心の左室肥大(470g) 冠状動脈硬化 心のう液(30ml) 2 肺うっ血水腫 右胸水(100ml) 3 肝うっ血脂肪化 線維化 4 腎動脈硬化性変化 5 縦隔気腫、皮下気腫 6 前立腺結節性肥大症 平滑筋腫(1cm) 7 食道ポリープ 8 胆嚢 R-S sinus(+) <p>《死因》</p> <p>化膿性肺炎 septic shock DIC</p>

(3) 剖検状況

剖検No. 月日	年齢	性別	科名	臨床診断	病理解剖学的診断
1032 9月8日	94才	F	内科	心不全	<p>腸骨動脈瘤 (左右)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 陳旧性心筋梗塞 2. 冠状動脈硬化症 3. 後腹膜血腫 4. 肺気腫 5. 動脈硬化性萎縮腎 6. 胆石症

(4) 院内勉強会・研修会

① 薬剤部 院内勉強会

開催月	名称	担当者	参加人数
8月	ピヴラッツ点滴静注液について	外部講師	15人
8月	ベリキューボ錠について	外部講師	17
9月	エネフリード輸液について	外部講師	16
10月	サムタス点滴静注用について	外部講師	16
10月	エンレスト錠について	外部講師	16
2月	オンデキサ静注用200mgについて	外部講師	14

② リハビリテーション科 院内勉強会

開催月	名称	担当者	参加人数
5月	姿勢の評価 臨床での考え方と実技	黒澤	10人
6月	膝関節における回旋運動の重要性	田島	10
6月	症例検討 (緩和)	吉田	5
6月	人工骨頭置換術の内容	有井	30
7月	座位バランス評価と姿勢評価 (左右差の見方)	橋場・濱田	25
7月	心電図の見方	丹羽	7
7月	症例検討 (骨移転)	石川	6
7月	肩関節の解剖とエコー	有井	30
7月	脊椎圧迫骨折後のリハビリテーション	田端	6
8月	糖尿病と食事について	星野	5
8月	橈骨遠位端骨折と脛骨高原骨折について	有井	30
8月	物理療法	佐藤	7
9月	乳癌について	土澤	6
9月	MRI読影と脊椎手術の基礎知識	有井	25
9月	ST用語と失語の内容	鈴木・荒巻	9
9月	足底腱膜炎	金井	7
10月	パーキンソン病とリハビリ	園田	5
10月	TKA手術手技について	有井	25
10月	呼吸指導に関するQ&A	橋場	7
10月	腎臓リハビリテーションに関する診療報酬・透析中の運動指導に係る指導	勝山	5
10月	超音波を用いた評価の基礎	山本	6
11月	歩行分析	飯塚・村岡	9
11月	胸部について	黒澤	7
11月	新生児のポジショニング	西場	6
11月	がんのリハビリテーション研修会の伝達講習	村岡・星野 向田・荒巻	15

11	呼吸筋ストレッチ	橋場	5
11	脱水症について	白田	5
12	呼吸器疾患の方のADL指導について	広木	5
12	薬物療法と放射線治療（併用療法）	吉田	7
12	他関節からみた膝関節	田島	7
1	高次能と脳画像	濱田・瀬谷	9
1	筋のインバランスについて	黒澤	7
1	症例検討について（食欲不振への対応について）	園田	5
1	放射線治療について	木村	7
2	伝達講習（自動車運転と作業療法）	濱田	15
2	股関節屈曲の評価と治療	田島	10
3	予後予測について	小池・向田	13

③ 放射線技術科 院内勉強会

開催月	名称	担当者	参加人数
月			人
4	MRI撮影における妊婦さんの対応について	須永	5
5	放射線業務従事者教育訓練	放射線安全委員会	10
5	大学院って何やるの？	藤生	9
7	関東甲信越診療放射線技師学術大会に参加して	藤生	6
8	告示研修参加報告	藤生	9
8	マンモトームデモ（メディコン社）	外部講師	3
10	中耳炎についてちょっとだけ	藤生	6
11	MRI：スピネコー法	藤生	11
1	新人教育プログラムの作成	須永	8
2	フーリエ変換ってなに？	藤生	8
2	キャノンメディカル CT・MRI機器説明会	外部講師	4
2	シーメンス MRI機器説明会	外部講師	4
3	教育係より業務連絡	藤生	7
3	造影剤副作用について	外部講師	14

④ 中央検査科 院内勉強会

開催月	名称	担当者	参加人数
月			人
4	妊婦健診・胎児エコーについて	高木	13
5	Excel関数と分析ツールについて	長嶋	19
6	クロスミキシング試験について	矢島	17

7	臨地実習報告会	臨地実習生 4名（群馬 パース大 学）菅家・ 渡邊・栗 原・三田	20
7	肺がん遺伝子変異検査について	新井	13
9	採血管採り直し調査結果	三田	16
10	AICS（アミノインデックスがんリスクスクリーニング）とLOX-indexについて	藤生	16
11	合理的配慮について	梶田	12
1	抗菌薬適正使用支援チーム（AST:Antimicrobial Stewardship Team）	三田	13
2	乳酸菌	金井	14
3	卵巣がんとPARP阻害薬	鈴木	16

⑤ 臨床工学科 院内勉強会

開催月	名称	担当者	参加人数
月			人
5	人工呼吸器ハミルトンC6説明会	院外講師	4
6	ECMO（UNIMO）勉強会	院外講師	4
6	VI03説明会	黒尾	20
8	循環動態モニター（PulsionFlex）	院外講師	3
8	手動返血方法（透析）	三木	3
8	手動返血方法（透析）	三木	2
9	PCAポンプ（TE-362）	院外講師	6
9	PCAポンプ（TE-362）	木村	6
10	DS-8007納入時説明（7東）	院外講師	9
10	DS-8007納入時説明（7西）	院外講師	10
10	PCAポンプ（TE-362）	院外講師	9
10	V600納入時説明会	院外講師	6
10	透析液溶解装置DAD70-Si説明会	院外講師	9
10	人工呼吸器ハミルトンC6勉強会	院外講師	5
10	DS-8008納入時説明	院外講師	8
12	新型TCIポンプ説明（麻酔科）	院外講師	4
3	麻酔器始業点検時の注意点	黒尾	20

⑥ 事務部 院内勉強会

開催月	名称	担当課	参加人数
月			人
4	「地域医療連携室の業務内容」について	地域医療連携室	38
5	外来患者受付番号制の導入について	医事課	51

6	共済組合短期適用拡大（令和4年10月施行）の概要について	総務課	33
7	小人数における火災時の対応行動	契約管財課	32
8	公営企業会計のあらまし	経営政策課	41
9	市民公開講演より「地域医療と当院の現状と課題」	地域医療連携室	37
10	DPC制度について	医事課	38
11	新型コロナ関連の対応・グループウェアへの委員会登録について	総務課	40
12	診療材料の購入について	契約管財課	42
1	研修医増員に向けての取り組み	経営政策課	38
2	生活保護制度について	地域医療連携室	40
3	医師事務作業補助者について	医事課	44

⑦看護部

・看護研究発表会

演題名	部署	発表者・共同研究者
病棟看護師によるとろみ調整に対する勉強会の効果の検討	7階東病棟	佐々木杏奈 菊池佑季 小池恵理 竹澤美沙
病棟と外来の継続看護カンファレンスに関する実態調査	7階西病棟	武井深雪 金井美紀 田村早苗 松島広美
B病棟のクモ膜下出血患者の転倒事故分析～RCA分析手法を用いて～	6階東病棟	本多明子 中村絵未 瀬谷好美 須田季己江 川嶋真由美
回復期リハビリテーション病棟における自立歩行開始に関する意識調査～リハビリスタッフと看護師の視点の違い～	6階西病棟	橋本綾子 岩井田綾乃 島田麻伎
看護師と理学療法士の大腿骨骨折患者のADL評価の差について～バーセルインデックスを用いた比較～	5階西病棟	橋本龍毅 南雲麻衣子 小林芽茄 板垣友美
A病院の地域包括ケア病棟に関連する多職種と看護師のACP（アドバンスケアプランニング）に対する思いと現状調査	4階東病棟	野村千絵 小林良子 山口知子 岡村美幸
乳がん術後患者の創直視への看護師の思い	4階西病棟	中島絵美 塩谷智恵 渡部直 伊藤一枝 山崎美保子 吉田みはる
コロナ禍における面会制限中の父親に対する愛着形成のための支援の在り方～面会制限中における父親の思いを知る～	NICU	新井佐知子 坂寄智美
医療的ケア児の退院支援における訪問看護師とGCU看護師の連携の現状～訪問看護師へのインタビュー調査から～	GCU	古澤香織 布川純 福島真由美
B病棟看護師の退院支援実践能力向上にむけた取り組みの効果	3階病棟	細井愛海 鈴木久美 島山晴子 小川杏奈
ICU/CCUに緊急入室となった患者の家族看護の実態調査	ICU	下田明美 石川典子 岡田理絵子 戸室枝里子
循環器撮影室業務未経験看護師へ視聴覚教材を用いた指導	手術室	松島美和 岡本慶太 千吉良有紀
内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を受ける患者の思い～インタビュー調査から効果的な術前訪問を考える～	救急外来	藤井直美 内山こずえ 石井千絵 櫻井美和

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の蔓延によって抱えた外来看護師のストレスとコーピングの調査～メンタルヘルスの維持のために～	外来	中村亜由美 新井美枝子 森口陽子
---	----	---------------------

・教育研修

（ア）現任教育委員会

研修名	対象者	目的	内容	実施日
新人研修	卒後1年目 看護師	職業人としての自覚を養うと共に、患者への安全・安楽な看護実践ができる	接遇、組織の一員としての役割、看護実践、感染、医療安全、記録、倫理、スキンケア、多重課題等。	4月 1、5 5月 24 6月 24 10月 25 11月 29 2月 21
看護論	レベルⅡを目指す 看護師	理論的知識と臨床経験を患者家族のケアの場面で統合できる	看護論について。看護論を用いての課題事例討議。	7月 14 8月 30 11月 14 1月 30
メンバーシップ	レベルⅡを目指す 看護師	自分の持てる力を十分発揮しながらチームの一員として行動できる	メンバーシップの役割を理解する。コミュニケーションスキルを磨く。チームメンバーとしての行動を振り返り役割を考える。	5月 20 6月 23 9月 22 2月 17
プリセプター	2022年度プリセプター予定の人及びレベルⅡ以上を目指す 看護師	プリセプターシップを発揮して現場で活かせる	プリセプターとしての役割を理解する。自己のプリセプターを振り返る。事例検討	4月 18 5月 27 8月 3 10月 28 2月 20
リーダー	レベルⅢを目指す 看護師	日替わりリーダーとしての役割を理解し、リーダーシップを発揮できる	リーダーの役割を学ぶ。自己の行動パターンを分析し弱点を知る。ケアの受け手のニーズにこたえる。PDCAサイクルをまわす。	5月 9 6月 6 10月 3 2月 1
チームリーダー	レベルⅢを取得し、レベルⅣを目指す 看護師	社会情勢と病院経営を理解し、病院組織の一員としてリーダーシップを発揮できる	病院経営の視点で問題を明確化し具体化していく。職場で抱える問題の解決に向けた目標発、意見交換。	5月 9 6月 1 7月 7 10月 6 2月 17
看護助手	看護助手	看護助手としての必要な知識・技術を習得し業務を円滑に行なうことが出来る	医療倫理・個人情報保護とは。組織の一員としての看護補助業務の理解。安全な食事介助のポイント。安全な移乗、介助時のポイント感染から患者と自分を守るポイント。	5月 30 6月 29 7月 29 8月 29

フィジカルアセスメントⅠ	レベルⅡを目指す看護師	フィジカルアセスメントの基礎、フィジカルイグザミネーションによる情報収集の方法を学び、看護のアセスメントに活かす	フィジカルアセスメントの基本的事項を学ぶ	7月 11
フィジカルアセスメントⅡ	レベルⅢを目指す看護師	フィジカルアセスメントの基礎、フィジカルイグザミネーションによる情報収集の方法を学び、看護のアセスメントに活かす	各器官系のフィジカルイグザミネーションの方法を学ぶ	8月 5、25
フィジカルアセスメントⅢ	レベルⅣを目指す看護師	フィジカルアセスメントの基礎、フィジカルイグザミネーションによる情報収集の方法を学び、看護のアセスメントに活かす	各症例を、フィジカルアセスメントを用いて検討し、関連づけることができる	9月 1

(イ) 在宅療養支援委員会

研修名	対象者	目的	内容	実施日
在宅療養支援研修レベルⅠ	レベルⅡ以上を目指す人	在宅療養に関する知識を習得し、指導を受けながら退院支援を実践することができる	退院支援概論 病床の分類と入院の流れ。退院調整が求められる背景。退院支援マニュアル。 事例検討	7月 7 8月 8、19 12月 7、16、23
在宅療養支援研修レベルⅡ	レベルⅢ以上を目指す人	自ら患者・家族の問題を捉えた在宅療養支援ができ、退院支援における指導的役割を果たすことができる	医療社会福祉制度 退院に関わる診療報酬体系 訪問看護の実際 事例検討	9月 5、29 2月 6
在宅療養支援研修レベルⅢ	レベルⅣ以上を目指す人	当該部署の中心的役割として地域と連携した在宅療養支援が実践できる	地域包括ケアシステムの実際 ケアマネージャーの役割 地域包括支援センターの役割 合同事例検討会	1月 30 2月 13、24

(ウ) 倫理委員会

研修名	対象者	目的	内容	実施日
倫理Ⅰ	ラダーⅡを目指す看護師	倫理的な検討方法が理解できる	問題の情報整理 倫理的な検討 倫理原則 インフォームド・コンセントと意思決定支援 アドバンス・ケアプランニング	7月 4

倫理Ⅱ	ラダーⅢを目指す看護師	看護場面における倫理問題に気づき、倫理対応ができる	倫理問題を分析し解決するための看護実践や行動について	7月 15
倫理Ⅱ	ラダーⅣを目指す看護師	倫理問題解決までのプロセスを理解し、部署内の役割モデルとなれる	倫理問題を分析し解決するための看護実践や行動について倫理カンファレンスについて、ファシリテーターの役割	8月 2

(エ) 記録委員会

研修名	対象者	目的	内容	実施日
看護記録Ⅰ	レベルⅠ以上	看護診断への理解を深め、看護実践に活用できる	看護診断について 看護診断（事例検討）	6月 20、24
看護記録Ⅱ	レベルⅡ以上	看護記録について理解を深め、看護実践に活用できる	質的監査、面接監査について 看護記録（事例検討）	8月 1、15
看護記録Ⅲ	レベルⅡ以上	患者急変時の記録の書き方が理解できる	事例を通して急変時の記録を学ぶ	1月 16

(オ) 看護研究委員会

研修名	対象者	目的	内容	実施日
看護研究	卒後3年目（必須） 及びラダーレベルⅡ～Ⅳの希望者	看護研究の基本的な知識を学び研究的な視点で看護を見直すことができる	研究計画書について	4月 25
			文献について	5月 23
			統計について	6月 27
			論文とは	7月 25
			プレゼンテーションとは	11月 28
			看護研究発表会	3月 6

(カ) セーフティマネジメント委員会

研修名	対象者	目的	内容	実施日
医療安全Ⅰ	ラダーⅡを目指す看護師	看護師個々のリスク感性を高める ヒューマンエラー発生メカニズムを知り、日常的に事故防止に努めた行動がとれる	ヒューマンエラーとは エラー防止を図るには 事例分析	5月 30
				6月 1

医療安全Ⅱ	ラダーⅡを取得し、レベルⅢを目指す看護師	患者急変及び事故発生時の報告ができ、その後の対応がとれる	SBARとは事例を使って、報告する事故後の観察・記録の書き方	9月 6 10月 5
医療安全Ⅲ	ラダーⅢを取得し、レベルⅣを目指す看護師	「医療安全文化の醸成を図るとは」を理解することができる	安全文化の醸成を図るということは、どの様なことか 自部署の問題を解決するには	6月 3 11月 4 2月 2

(キ) 認定看護師委員会

研修名	対象者	目的	内 容	実 施 日
認定看護師 専門	レベルⅡ以上の全看護師	各分野における専門的知識・技術を習得し、看護の質の向上が図れる	認知症看護	11/1、25
			救急看護・集中ケア	9/16、11/7
			皮膚・排泄ケア	5/11、6/6、10/4、11/23、10/17
			脳卒中リハビリテーション看護	7/1、1/5
			感染看護	11/18
			乳がん看護	8/29、9/7、11/2、21
			がん化学療法	8/23、9/2
			緩和ケア	12/5、12
			摂食嚥下	11/14
がん看護	5/6、11/29			

(ク) トピックス研修

研修名	対象者	目的	内 容	実 施 日
糖尿病看護	全看護師	専門的知識・技術を習得し、看護の質の向上が図れる	糖尿病の基礎	6月 6
新生児集中ケア	全看護師	専門的知識・技術を習得し、看護の質の向上が図れる	タッチケア	12月 1

(ケ) BLS部会

研修名	対象者	目的	内 容	実 施 日
BLS研修	全看護師	心肺蘇生とAEDを使用しての早期除細動が法的及び技術的に可能となる	BLS（一時救命措置）について質の高い胸骨圧迫法 安全なAEDの方法・手法 成人に対するBLSの手技（1人法から2人法）	6月 6

(コ) 静脈注射院内認定看護師養成研修

研修名	対象者	内容	実施日
レベルⅡ①	全職員	薬剤の知識 安全管理 感染管理	7月 6
レベルⅡ②		CVポートおよび化学療法固定法 皮膚ケア 急変時の対応	7月 12
レベルⅡ③		造影剤について	8月 4
レベルⅡ④ (Ⅲ)		血液製剤について	8月 30 10月 7
レベルⅡ実技		血管確保技術の評価	9月 15
レベルC		CVポートおよび化学療法 急変時の対応	12月 2

XIII 災害拠点病院

1 指定要件

災害拠点病院とは、災害が発生し、通常の医療体制では適切な医療の提供が困難な場合に各都道府県知事の要請に対して傷病者の受入れや医療救護班の派遣等を行う病院であり、当院は、平成9年3月27日に災害拠点病院の指定を受け、令和4年3月末現在では、群馬県内に1つの基幹災害拠点病院と16の災害拠点病院があります。

平成7年1月の阪神・淡路大震災を契機として、災害拠点病院の整備、広域災害・救急医療情報システム（EMIS）の整備、災害派遣医療チーム（DMAT）の養成等が行われ、平成23年3月の東日本大震災後においては、災害指定病院の指定要件が見直しされ、災害時における一層の医療体制の充実が図られています。

2 群馬県の災害拠点病院

基幹災害拠点病院	前橋赤十字病院
災害拠点病院	群馬大学医学部附属病院、群馬県済生会前橋病院、群馬中央病院 高崎総合医療センター、日高病院、桐生厚生総合病院、太田記念病院、 公立館林厚生病院、伊勢崎市民病院、伊勢崎佐波医師会病院、 沼田病院、利根中央病院、渋川医療センター、公立藤岡総合病院、 公立富岡総合病院、原町赤十字病院

3 DMAT

(1) 設置目的

DMAT（Disaster Medical Assistance Team）とは、災害の超急性期（概ね48時間以内）に活動できる機動性を持った専門的な研修・訓練を受けた災害派遣医療チームであり、災害拠点病院には設置が義務付けられていて、医師、看護師、業務調整員（医師、看護師以外の医療職及び事務職員）で構成されています。

当院は、医師1名、看護師7名、業務調整員4名が隊員として活動しています。

(2) 活動の概要

① 訓練実績

年 月 日	訓練名称	場 所
令和4年10月1日	令和4年度大規模地震時医療活動訓練	浜松医科大学医学部附属病院

年間を通じて災害医療研修等を行い、病院全体が災害医療活動の重要性を認知し、取り組んでいくよう活動していきたいと考えます。

XIV 各部署の紹介

1 内科

(1) スタッフ

令和4年度の内科は常勤医11名で診療にあたりました。

専門分野別では、呼吸器3名、消化器5名、肝臓2名、糖尿病・内分泌1名です。

主に群馬大学医学部附属病院からの派遣で、非常勤医師にも外来診療・検査等・当直業務を担当して頂きました。

(2) 年度報告

肺炎、尿路感染症、脱水症といった Common disease から各専門分野の疾患まで、幅広く診療しております。新型コロナウイルス感染症の入院治療も年間を通して行いました。

(3) 今後の目標

収束しそうで収束しない新型コロナウイルス感染症に振り回されながら、医師不足に薬品不足、各種医療機器の老朽化、働き方改革に高齢社会といった課題にも頭を悩ませつつ日々診療に当たっています。どのような状況下においても桐生・みどり市地域の住民の健康に貢献すべく、近隣の医療機関はもちろん、群馬大学医学部とも連携を取りながら努力して参ります。

診療部長 菅間 一乃

2 神経内科

(1) スタッフ

令和4年度常勤医師は1名（高田）です。

非常勤医師3名（伊勢崎福島病院 近藤進先生 群馬大学医学部附属病院 牧岡幸樹先生岩崎理先生）と診療にあたりました。

(2) 年度報告

外来診療が主軸で変性疾患、筋疾患、末梢神経障害、頭痛、認知症の診断加療と脳血管障害の治療相談を行いました。

入院は少数ではありましたが脳炎・髄膜炎などの感染性疾患やてんかん、脱髄疾患、神経筋接合部疾患の診断治療や難病患者さんのレスパイトを行いました。

(3) 今後の目標

東毛地域の患者さんが在宅を中心に安心して療養できるよう、連携を大切にしながら、専門知識を持って診療を努めたいと思います。引き続き常勤医師増員を大学病院へ依頼していきます。

診療部長 高田 しのぶ

3 循環器科

(1) スタッフ

常勤医師 桑原 渉 (1名)

非常勤医師 2名

(2) 年次報告

令和4年度主な診療実績

心臓カテーテル検査 39件 経皮的冠動脈形成術 17件

ペースメーカー植え込み術 5件 下大静脈フィルター留置 1件

(3) 総括

他科・他院・地域開業医の先生方と連携をはかり、マンパワーが不足しておりますが可能な範囲で地域医療に貢献できるよう努力してまいります。

診療部長 桑原 渉

4 小児科

(1) スタッフ (8名)

大木康史、鈴木尊裕、袖野玲子、浦野博央、齊藤亜希子 (時短勤務)、関根和彦、*小柳晴加、*松野早紀 (*: 新任)

(2) 年度報告

① 新生児未熟児センター：総入院数 145名。超低出生体重児 5名、極低出生体重児 17名、NCPAPを含む呼吸管理数 35でした。

② 一般病棟：総入院数 299名とCOVID-19流行前より少ない状態が続いています。主な内訳は、呼吸器疾患 127 (疑似症を含むCOVID-19 41)、消化器感染症 20、感染症以外の消化器疾患 9、川崎病 12、神経 38、腎尿路 11、アレルギー 29、内分泌・代謝 26、循環器 2、小児精神 2、平均在院日数は7.4日でした。

③ 小児神経医 (本島総合病院、両毛整肢療護園) との神経検討会 (2か月に1回)、新生児蘇生法講習会 (県主催1回、院内2回の計3回) を継続しました。

④ 地域貢献として、桐生市乳幼児健診、桐生市特別支援教育委員会、桐生・みどり市の要保護児童対策協議会等に協力しました。

(3) 今後の目標

少子化の傾向は続くが、東毛地域の小児科、周産期医療における中核施設として必要な機能や地域との連携は可能な範囲で維持したい。

診療部長 大木 康史

5 外科

(1) スタッフ

常勤医 一般外科 6名 (加藤広行、森永暢浩、和田 渉、緒方杏一、木村明春、奥山隆之)

非常勤医

心臓血管外来 阿部知伸教授：第 2、4 水曜日

群馬大学総合外科後期研修医：火曜日 (当直)

令和 4 年度は、スタッフの交代はありませんでした。今年度から乳腺外科が診療科として分けられました。外来・入院診療は協力して行っており、後期研修医は、乳腺手術に参加して、術者も経験させて頂いています。呼吸器外科常勤医は不在ですので、外科で呼吸器外科領域の入院患者を担当しています。

(2) 年度報告

令和 4 年度の外来患者数は延 7,597 (-2,537) 人、入院患者数は延 13,554 (+220) 人でした。外来患者数は、乳腺外科分の減少がありましたが、入院患者は増加しました。手術件数は 373 症例で、鏡視下手術が 181 件でした。悪性腫瘍手術は 99 件、緊急手術は 53 件でした。胃癌手術は減少しました。大腸癌では結腸手術は同様でしたが、直腸手術が減少しました。一方、良性疾患の中耳炎手術、胆嚢摘出術、鼠径ヘルニア手術は増加しました。

令和 4 年度の、新型コロナウイルス感染症患者入院の受け持ちは、82 名でした。

(3) 今後の目標

一般外科常勤医 6 名で引き続き診療を行います。令和 5 年度は、ヘルニアセンターを開設し、外来受診から入院・手術、術後までの診療の充実を図ります。また、手術支援ロボット導入への取り組みを開始しています。これからも、多職種との連携を深めて、安全で合併症のない診療を行い、各々の患者さんに最善の治療を提供します。

診療部長 森永 暢浩

6 整形外科

(1) スタッフ

常勤医 5名 : 斯波俊祐、下山大輔、角田陽平、小板橋祐輔、工藤千佳

非常勤医 2名 : 片山雅義 (木曜日隔週)、神山真考 (火曜日隔週)

(2) 年度報告

常勤 5人と火曜日、木曜日の非常勤で診療を行いました。常勤 5人のうち 4人が入れ替わり新しい体制となりました。今まで脊椎の専門医が 1人でしたが、今年度から 2人体制となりました。非常勤は 2人で膝関節と肩関節の専門外来を行いました。一般外傷を中心に、脊椎外科、膝関節外科、手の外科などの専門分野の診療を行っています。

令和 4 年度の手術件数は 423 件 (421 例) でした。一般外傷や変形疾患など多岐にわたり、最も多いのが例年同様高齢者に多い大腿骨近位の骨折で約 70 件でした。脊椎手術は約 120 件で例年よりやや増加し、内視鏡下手術や経皮的椎体形成術などの低侵襲手術が中心ですが、除圧術で対処できない症例は、側方椎体間固定術、後方椎体間固定術や広範な後方固定を要する症例もありました。人工膝関節置換術も例年より増加して 16 件でした。

(3) 今後の目標

令和 4 年 4 月から、二次骨折予防継続管理料が算定できるようになりましたので、骨折リエゾンサービスチームを立ち上げ、多職種連携により骨粗鬆症の治療を体系的に継続して二次骨折の予防に努めていきたいと思えます。

上肢、下肢の専門医により外傷を中心とした整形外科全般の診療を充実させるとともに、脊椎専門医が 2 人に増えたので、O-アーム、ナビゲーションシステムや術中神経モニタリングシステムを駆使して脊椎の専門的治療をより充実させていきたいと思えます。

また、臨床研修医や群大の学生さんへの指導も、地域医療に興味を持ってもらえるよう引き続き行っていきたいと思えます。

診療部長 斯波 俊祐

7 脳神経外科

(1) スタッフ

令和4年度は常勤脳神経外科医師3名（曲澤 聡、橋場康弘、石井希和）で診療にあたりました。また、火曜日と金曜日の午後に群馬大学から非常勤医師4名（荒巻佳吾、今井啓之、宇敷雅人、山本夢己）に手術の手伝いに来ていただきました。

(2) 年度報告

外来患者数は7165人、入院患者は脳血管障害204人（くも膜下出血13人、脳出血81人、脳梗塞・一過性脳虚血発作94人、その他16人）、脳腫瘍21人、頭部外傷87人、その他16人の計328人でした。

手術件数は114件で、主要な手術件数は下記の如くでした。

脳動脈瘤クリッピング術	9件	脳腫瘍摘出術	8件
血管内手術	25件		

(3) 今後の目標

令和4年度は4月から矢島 翼先生に代わり、石井 希和先生が赴任し、10月に脳神経外科専門医試験に合格したため、脳神経外科は3人全員が専門医となりました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で、救急外来がストップとなったり、病棟入院ができない期間があったりし、患者様には大変な迷惑、ご心配をおかけすることとなってしまいました。

新型コロナウイルス感染症は5類に移行しましたが、今後も十分に注意を払いつつ、桐生・みどり地域の脳神経系の救急患者、重症患者の診療、手術を安定的に行っていくよう努力してまいります。

診療部長 曲澤 聡

8 乳腺外科

(1) スタッフ

常勤医 森下亜希子

(2) 年度報告

外来患者数3,369人、入院患者数728人、手術件数66件、うち乳癌手術64件でした。手術件数は令和3年度65件と、ほぼ同様の患者数です。入院患者数は、乳腺外科として令和4年度より独立したため、前年度との比較はしておりませんが、やや減少傾向と考えます。頭皮冷却装置を入院ではなく、外来にて施工可能としたこともあり減少していることが主たる理由と考えられます。

(3) 今後の目標

がん治療は年々多様化しています。当院は放射線や病理部、リハビリ科などあり、健診や診断、入院、薬物療法や緩和的治療等に対応できる施設です。乳がんへの集学的な治療の強化を行っていくのはもちろんですが、当院の機能を生かし、他の施設よりも年齢や合併症を持った患者へ個々の対応が出来るよう、地域の皆様に最良の医療が提供できるように努力してまいります。乳腺外科としては一人体制ですが、外科や他科のスタッフの協力のもと診療を行っております。また、他院・地域の先生方と連携をお願いし、診療を安定的に行っていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくごお願い申し上げます。

診療部長 森下 亜希子

9 皮膚科

(1) スタッフ

常勤医 2 名（岡田克之、石崎真由）

非常勤医 4 名（村田祐子、狩野龍之介、齋藤暢胤、周藤貴之、赴任順）

(2) 年度報告

- ① 外来 患者数 11,193 人（うち新患 855 人）、一日平均 46.1 人。
稼働している医療機器：紫外線照射装置（UVA/B、エキシマライト）、炭酸ガスレーザー装置
- ② 入院 6 階東病棟 6 床。新規入院 54 人、一日平均 2.6 人、平均在院日数 17.3 日
- ③ 手術 中央手術室で 74 例（良性腫瘍 60 例、表皮内癌 5 例、悪性腫瘍 8 例、皮膚生検 1 例）
外来での施術 81 例（皮膚生検 56 例、腫瘍切除 22 例、皮膚切開術 2 例、陥入爪手術 1 例）
- ④ 地域連携 他院からの診療情報提供書 637 通
- ⑤ 研修 日本皮膚科学会認定「専門医」研修指定病院

(3) 今後の目標

- ① 専門性 地域の皮膚科診療の中核として、診療所や病院、老人介護施設などと有機的な連携を図り、皮膚科の専門性を発揮する。
- ② 医療機器 ターゲット型紫外線照射装置（エキシマライト）を、各種の皮膚疾患に導入していく。
- ③ 生物学的製剤 乾癬に対する生物学的製剤の投与症例数は、県内で群馬大学皮膚科に次ぐ。臨床的、学術的に乾癬治療をリードしたい。
また、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹に対する生物学的製剤も導入しており、皮膚科の地域連携で症例を重ねたい。
- ④ 患者サービス 紹介患者の診療体制を充実させ、患者さんの声を聞き、地域のニーズに応える医療を実践する。
- ⑥ 褥瘡対策 皮膚科専門医として褥瘡の予防と治療をリードし、皮膚排泄ケア認定看護師（WOCN）と協働して全職員の啓発を図る。
さらに近隣の訪問看護師やケアマネージャーと共同して「褥瘡のひろば」の構築をめざし、地域の褥瘡対策のレベルアップを図る。
- ⑦ フットケア 「足外来」を通じて、糖尿病患者や透析患者の足病変に関わる。多科・多職種連携したフットケアチームを構築する。
- ⑧ チーム医療 褥瘡対策、栄養サポート、フットケア、感染制御、医療安全などに皮膚科の専門性を生かし、積極的に協力していく。

診療部長 岡田 克之

10 泌尿器科

(1) スタッフ

常勤医 4名 (上井 崇智、岡本 亘平、林 拓磨、清水 孝倫)

非常勤医 2名 (栗原 聡太、杉野 陽彦)

(2) 年度報告、今後の目標

① 泌尿器科部門

癌治療(手術、化学療法、緩和)、排尿障害治療、急性尿路感染治療を中心に治療を施行しました。手術件数は414例でした。癌手術治療においては腹腔鏡手術治療が中心になり、腎臓癌、腎盂尿管癌、前立腺癌、膀胱癌などに対し計49例の腹腔鏡手術を施行しました。また一昨年度から新たに産婦人科と共同し、骨盤臓器脱に対し腹腔鏡下仙骨固定術を導入、前立腺癌局所放射線治療に対するのゲルスペーサー留置術も開始しました。他に経尿道的膀胱腫瘍切除術77例、経尿道的前立腺切除術20例、前立腺生検174例を施行しました。最近では腎癌に対して薬物療法として分子標的薬治療、免疫チェックポイント阻害薬治療を行う症例も急激に増加しています。

桐生地区は高齢化が進んでおり、健康志向が高まった現在も進行癌が見つかる割合が多い上、複雑性尿路感染症が増加している印象があります。検診受診等の啓発、介護サービスの介入など活動が必要と思われれます。

② 血液浄化部門

維持血液透析患者は11名で、月水金2クール、火木土1クールで施行しています。

急性期病院の特徴として臨時、急性血液浄化が多く、新規維持血液浄化導入は難しい状況が続いています。維持血液透析患者は多くはないが、他院維持血液透析患者の当院入院や、エンドトキシン血症、神経疾患などの臨時血液浄化は72名に施行しており、バリエーションに富んでいます。

診療部長 上井 崇智

11 産婦人科

(1) スタッフ

令和4年度産婦人科常勤医は前年から引き続いての矢崎淳先生と産婦人科選考委の塚越先生に加えて鏡の3名でした。令和4年度は定方先生の病院勤務、群馬大学産科婦人科教室会所属の最後の年となりました。平成28年度着任以来、7年間にわたり当院産婦人科診療を支えてくださいました。ありがとうございました。新天地での御活躍を祈念いたします。何分にも、非常勤の先生方の御尽力ではじめて運営可能な状況です。須藤先生が産休から復帰され、矢島千春先生、たかのす診療所より内田先生、岩宿クリニックより松田先生に、群大病院より長谷川先生、三井田先生に御協力を得ることで、一段と円滑な地域連携のもと診療できています。

(2) 診療実績

分娩件数は230件と、減少傾向が続いております。COVID-19蔓延が拍車をかける県全体の出生数減少のなか、それでも産んでいただける方たちを大事に診療していきたいと思っております。婦人科手術件数もCOVID-19の影響を受け125件と減少しました。当院コロナ病棟に妊婦さんの受け入れ、特に大きな支障はなく経過しました。

(3) 今後の目標

正常分娩件数の減少が全体に影響しておりますが、母体搬送受け入れ体制は小児科の先生方のおかげで十分機能しており、地域周産期母子医療センターとしての役割をはたしていきたいと思っております。

診療部長 鏡 一成

12 眼科

(1) スタッフ

常勤医 2名 丸山泰弘、田村明洋

非常勤医（水曜日の外来と手術担当）1名 視能訓練士 3名

(2) 年度報告

外来患者数は、延 13,127 人でした。初診患者は 407 人でした。

外来手術はレーザー網膜光凝固術（網膜裂孔、糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症など）が 45 件、後発白内障手術（ヤグレーザー）は 50 件でした。入院手術の詳細は、科別手術件数の項目を御参照ください。

糖尿病網膜症や加齢黄斑変性に対する抗 VEGF 抗体（ルセンティス®、アイリーア®など）の硝子体内注射は 208 件でした。

当院は東毛地区の周産期医療の中核施設なので、未熟児網膜症の対応も行っています。重症網膜症に対するレーザー治療や抗 VEGF 抗体（ルセンティス®）の硝子体内注射（本年度は 2 件施行）も対応しています。

(3) 今後の目標

新型コロナウイルス感染症は現在も流行を繰り返しています。眼科の診察は患者と医師の顔の距離が近いのでコロナウイルス感染の危険性がありますが、当院眼科ではそれを疑わせる事例は経験していません。当科では慢性疾患（緑内障や糖尿病網膜症など）の管理が診療の一つの柱であり、患者の皆様が安心して受診できるよう感染予防に特に注意してまいります。

最近では、内科などの眼科以外の先生方から投下に直接患者を紹介していただくことが多くなっています。緑内障発作を発見していただいて早期治療ができた例などもあり、感謝しております。今後ともよろしく願いいたします。

診療部長 丸山 泰弘

13 耳鼻いんこう科

(1) スタッフ

令和 4 年度の耳鼻いんこう科常勤医師は 2 名です。（梅村 崇、山田 由貴）

非常勤医師 2 名（月曜日：常見先生（獨協医科大学病院）、木曜日：多田先生（群馬大学医学部附属病院））と診察にあたりました。

(2) 年度報告

主に外来診療を行い、耳鼻いんこう科全般的疾患を診療しています。突発性難聴は麻酔科と連携し、高気圧酸素治療、星状神経節ブロックも通院治療を行っています。急性炎症、めまい急性期は、病状により入院点滴治療も行っています。

(3) 今後の目標

総合病院の特性を活かし、地域医療機関、当院各科と連携し、群馬大学医学部附属病院、近隣病院とも連携を取りながら、地域医療に貢献できるように努力して参ります。

診療部長 梅村 崇

14 麻酔科

(1) スタッフ

手術室での業務は、佐藤淳、塚越裕、入内島伸尚、高瀬友彰の4名の常勤医師と5名の非常勤医師。そのうち麻酔標榜医は、常勤4名、非常勤5名。麻酔専門医は、常勤4名、非常勤5名。麻酔指導医は、常勤4名、非常勤3名。また、院内の研修医6名の麻酔研修を受け入れ、582件の麻酔の指導を行いました。ペインクリニックでは、4名の常勤医師が交替で診療を行っています。

(2) 年度報告

手術件数は、前年度より7.8%減少して2179件。そのうち麻酔科管理症例は1502件で、全身麻酔892件、脊椎麻酔609件、硬膜外麻酔1件。患者全体の年齢構成を見ると、70歳以上の症例が1229名(56.4%)で半数以上、90歳以上の症例が57名(2.6%)、100歳を超える症例は2名であり、高齢者の割合が増加しています。

ICU・CCU室は、麻酔科、外科、循環器科が分担して常時、専任の医師が勤務しています。前年と同様に重症患者が多く入室しています。

ペインクリニックでは、突発性難聴、顔面神経麻痺に対する星状神経節ブロックや、腰下肢痛、肩こり、頸部痛、三叉神経痛、帯状疱疹後神経痛、糖尿病性神経障害などの多様な痛みにも種の神経ブロック療法や近赤外線的光線治療、超短波の照射、薬物治療を行っています。また、ボツリヌス毒素注射では片側顔面痙攣や眼瞼痙攣の治療を行っています。

高気圧酸素治療は、突発性難聴、末梢循環障害、脳外科的疾患、四肢の難治性潰瘍、放射線照射後障害、腸閉塞、一酸化炭素中毒などを対象として治療を行っています。なるべく初診当日から治療を開始できるように、また、緊急時にも対応できるよう努力しています。

(3) 今後の目標

より安全な麻酔を行うとともに、チームでの周術期管理をさらに向上させる。麻酔科関連分野である、ペインクリニックや集中治療を充実させる。また、医師臨床研修において呼吸・循環管理を習得させることです。

診療部長 佐藤 淳

15 放射線科

(1) スタッフ

常勤医は診断専門医が1名、治療専門医が2名の常勤3名体制です1名は病院管理職・検針業務が主体のため、放射線科医としては実質2名です。引き続き、月に2回、半日（土曜日）非常勤の診断医に来てもらっています。診断業務の補助として群大のベンチャーである遠隔画像診断システムに協力していただいています。

昨年度から診療科としての放射線科と医療技術部門としての放射線技術科は別組織となりました。

(2) 年度報告

令和4年度の放射線部門の業績については、別に資料が掲載されていますので御参照ください。これまでと同様、治療・診断業務を維持しながら、さらに他科との連携を図るため、呼吸器・消化器・泌尿器のカンファレンスにも参加しました。

(3) 今後の目標

常勤3名体制は維持していますが実質2名での診療となっており、医師増員の予定もありません。中央部門としての機能を果たせる様、持続可能な体制整備に尽力していきます。

診療部長 小林 茂

16 救急科

(1) スタッフ

令和4年度の救急科常勤医は1名。

非常勤医として群馬大学救急医学 中島潤先生に毎週木曜日診療していただきました。

(2) 年度報告

令和4年度は救急外来および入院の診療を行いました。

(3) 今後の目標

当院は桐生市・みどり市の中核を担う医療機関ではあるが、3次医療機関ではなく、地域にも3次医療機関はありません。だが両市に3次医療を行えば救命できる患者がいない訳ではありません。当科の目標は救急搬送受け入れ率を上げるのではなく、桐生市民・みどり市民の生存率を上げることです。そのためには必要な患者を選別し、適切な3次医療機関に送り届け、また当院で対応可能な患者の域外搬送を極力減らすように努力していきたいです。

診療部長 萩原 周一

17 歯科・歯科口腔外科

(1) スタッフ

常勤歯科医師 2 名、 非常勤歯科医師 1 名、 看護師 1 名、 歯科衛生士 3 名
非常勤歯科衛生士 1 名

(2) 年度報告

令和 4 年度の 1 日平均外来受診患者数は 43.5 人、年間外来新患者数は 2,338 人、再来受診患者数は延べ 8,223 人でした。年間の手術室使用件数は 81 件、年間入院患者数は延べ 457 人であり、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う患者減少の影響が現れました。

(3) 今後の目標

総合病院の中での当科の役割として、① 口腔外科医療 ② 有病者（障害者、要介護老人を含む）に対する歯科医療 ③ 救急医療があげられる。

①に関しては、学会参加や積極的なセミナーの聴講を行い、スタッフのスキルアップと患者への最新の口腔外科医療の提供をはかりたい。

②全身疾患を有する患者の歯科治療（主に抜歯などの観血処置）を病院歯科で行うことは、患者にとっても、また一次医療機関である地域の歯科医院にとっても望ましいことである。また、平成 24 年より稼働した桐生市歯科医師会と共同で行われる三次障害者歯科治療は歯科医師会登録医とともに手術室を使用し、集約的な歯科治療を行っている。令和 4 年度の全身麻酔による障害者の歯科治療は 11 件だった。周術期口腔機能管理については周術期の口腔ケアが必要な患者の増加に対応し、かかりつけである一次医療機関と連携を図り、誤嚥性肺炎等の周術期の合併症の予防、患者の QOL の向上に努めている。さらに地域の高齢化に伴い、摂食、嚥下機能障害患者の増加から令和 4 年 4 月より院内での摂食・嚥下支援チームが稼働している。

③の救急医療は、当科ではオンコール態勢をとり、顎骨骨折などの外傷、抜歯後出血、急性歯性感染症など、一次医療機関や当直医の要請にはすべて対応している。

今後も最良の歯科医療を提供すべく病院の機能を生かし、他科との連携をスムーズに行い、総合的な歯科診療に取り組む所存である。

診療部長 今井 正之

18 薬剤部

(1) スタッフ

薬剤師 18名、助手（パート） 3名、SPD 1名

(2) 年度報告

- ① 院外処方せん発行率は、95.8%で前年比+0.4%になりました。
- ② 薬剤管理指導件数は10,942件、退院指導件数2,401件となりました。
- ③ 患者さん向け情報誌「くすり箱」の発行
 - (ア) 第64号（令和4年 6月発行）◇“抗がん剤と脱毛”について
 - (イ) 第65号（令和4年 9月発行）◇気管支喘息や慢性閉塞性肺疾患（COPD）における吸入薬の種類と使い方について
 - (ウ) 第66号（令和4年 12月発行）◇骨粗鬆症とビタミンD
 - (エ) 第67号（令和5年 3月発行）◇“がんの痛みを和らげる薬”について

④ 薬・薬連携

桐生薬薬連携検討委員会に参画し、桐生薬剤師会、東邦病院、恵愛堂病院の薬剤師と月に1回の情報交換を続けております。ヒヤリハットなどの事例を共有して医療安全に努めております。3月の開催で196回を数えています。

令和4年度も前年より引き続き、対面の会議の他、web(Google Meet)を使用し、会議を開催しています。退院時薬剤情報管理指導などを活用し、薬薬連携を深めていくことを目標にしています。また、継続してお薬手帳を常に携帯する様に働きかけていきます。

(3) 今後の目標

- ① 病棟業務の更なる充実
 - (ア) 退院時薬剤情報管理指導を積極的に行い、患者と保険薬局への情報提供を行う
 - (イ) 効果的で安全な薬物療法が持続されるよう、退院後を見据えた薬剤業務を行う
- ② 医薬品の適正使用
 - (ア) ポリファーマシーを意識し、入院時持参薬評価と減薬を実施、患者さんのアドヒアランスの向上を目指す
 - (イ) 迅速な情報収集に基づき、適正な在庫管理を行う
- ③ 医師の業務軽減のためのプロトコールの充実
- ④ 薬薬連携の強化
 - (ア) プロトコール及びトレーシングレポートの活用を推進する
- ⑤ 効率的な業務の遂行

部長 阿部 正樹

19 リハビリテーション技術科

(1) スタッフ

医師 2 名、理学療法士 22 名、作業療法士 7 名、言語聴覚士 3 名、助手 2 名の合計 36 名。

(2) 年度報告

- ① 年間総単位数は 112, 212 単位-前年比 1.4%増 (理学 75, 366 作業 26, 378 言語 10, 468)
- ② 延べ患者件数は、外来 6, 377 件 (一日平均 26.2)、入院 58, 881 件 (一日平均 192.4)
- ③ 新患者数は 2, 202 人(外来 216 人、入院 1, 986 人)
- ④ 疾患別リハビリ割合は、脳血管リハ 40.7%、廃用症候群リハ 11.8%、運動器リハ 34.8%、呼吸器リハ 9.2%、がんリハ 3.5%。

(3) 今後の目標

「建設的に取り組む、感染対策の徹底、生産性向上」

1. 専門性を高め、臨床に活かす (教育、実績作り、啓発、リスク管理等)
2. 業務効率の向上 (弾力的および柔軟な対応)
3. 各自が意識して感染対策に取り込む (職員側・患者側の対応、環境面の対応等)

科長 勝山 典年

20 放射線技術科

(1) スタッフ

診療放射線技師は 20 名、非常勤 3 名の体制です。事務は診断、治療に各 1 名、看護師は診断部門に常在 1 名、血管造影などに適宜 1 名、治療部 1 名。

(2) 年度報告

令和 4 年放射線部門の業績については、別に資料が掲載されていますのでご覧ください。

一般撮影装置 1 台の更新を行い、画像の高画質化と被ばく線量の低減を図りました。診療放射線技師法の改定により、診療放射線技師による静脈確保が可能になり、核医学、MRI、CT において実施しています。

(3) 今後の目標

『技術の研鑽と被ばく線量の低減』を理念として

1. 画質を担保して医療被ばく低減
2. チーム医療への貢献とタスクシフト・シェアの推進
3. 待遇強化
4. 地域診療拠点病院にふさわしい放射線機器の整備

科長 磯 昌宏

21 中央検査科

(1) スタッフ

臨床検査技師 27 名、非常勤臨床検査技師 4 名、非常勤事務職員 1 名

(2) 年度報告

- ① 新型コロナウイルスワクチン集団接種会場（群馬県・桐生市）での臨床検査技師によるワクチン接種へ協力派遣（新型コロナウイルスワクチン接種研修会修了者 17 名）
- ② 外来採血室の開始時間変更
外来採血患者の混雑緩和を目的に外来採血室の業務開始時間を看護部及び事務部の協力のもと午前 8 時 30 分から午前 8 時 15 分へ開始時間を変更
- ③ 外部団体による臨床検査精度管理調査（日本医師会、日本臨床衛生検査技師会、群馬県精度管理調査協議会）へ参加
- ④ 認定輸血検査技師制度指定施設認定を更新
認定期間：令和 4 年 4 月 1 日～令和 9 年 3 月 31 日（5 年間）
- ⑤ 超音波検査士体表臓器領域の資格認定試験に所属技師 1 名が合格
- ⑥ 超音波検査士循環器領域の資格認定試験に所属技師 1 名が合格
- ⑦ 細胞検査士の資格認定試験に所属技師 1 名が合格
- ⑧ 心電図検定試験 1 級に所属技師 1 名が合格
- ⑨ 新規導入、更新した主な臨床検査機器
「遺伝子検査装置：ロシュ・ダイアグノスティックス cobas Liat システム」
「全自動血液凝固検査装置：LSI メディエンス STACIA CN-10」
「超音波骨密度測定装置：日立製作所 AOS-100SA」
- ⑩ 院内新規導入検査
「新型コロナウイルス抗原定量検査：電気化学発光免疫測定法（ECLIA 法）」
- ⑪ 臨地実習生の受入れ
群馬パース大学保健科学部検査技術学科 4 年 4 名
実習期間：令和 4 年 5 月 16 日～7 月 8 日（8 週間）
- ⑫ 臨床検査情報誌「四つ葉のクローバー」を 3 号発行
4 月発行 第 58 号「心電図検査について」
8 月発行 第 59 号「肺機能検査について」
1 月発行 第 60 号「超音波検査について」

(3) 理念・目標

- ① 理念 「臨床検査の質的向上と信頼性の確保」
- ② 目標
(ア) スキルアップを目指し患者サービスとチーム医療に貢献する
(イ) 業務の改善意識を高め効率化・省力化を推進する
(ウ) 地域住民の健康管理に貢献する
- ③ 年目標 「確認不足によるミスをなくす」

科長 梶田 幸夫

22 栄養管理科

(1) スタッフ

令和4年4月～：管理栄養士7名、臨時管理栄養士1名、調理師6名、調理員1名、臨時事務1名、合計16名

令和4年5月：臨時事務1名が人事異動により減員

令和5年3月：管理栄養士1名が普通退職

(2) 年度報告

① 栄養食事指導

- ・入院栄養食事指導419件、外来栄養食事指導654件、合計1,073件、対前年度比87.2%
- ・管理栄養士8名が担当し1枠1時間、午前3枠・午後4枠、各枠2件。当日予約、当日臨時枠も対応。

② 給食管理業務

- ・令和3年8月1日より富士産業株式会社に労務委託
労務委託における業務区分
病院側 …献立作成、食材の発注及び検収、食事後の下膳、食器の洗浄消毒
受託側 …食材管理、下処理、仕込み、食数管理、調理、配膳（病棟配送まで）
- ・常食系喫食者を対象に食事アンケート調査を実施（夏献立、冬献立）
調査結果「病院食の満足度…5（良い）～1（悪い）とした5段階評価」
5月実施 5点18.2% 4点34.1% 3点36.4% 2点6.8% 1点4.5%
11月実施 5点36.7% 4点31.7% 3点28.4% 2点1.6% 1点1.6%
- ・令和2年4月より提供している嚥下調整食を、日本摂食・嚥下リハビリテーション学会 嚥下調整食分類2021により合わせるため献立の見直しを実施。

(3) 今後の目標

① 衛生的で安心・安全な、患者さんによるこんでもらえる食事の提供

- ・患者さんの側に立って委託業者との間の橋渡しをしていく
- ・季節が感じられる食材、地元で生産される食材等を積極的に取り入れる
- ・絶対に食中毒を発生させない、徹底した衛生管理

② 患者さん個々の病態や生活に合わせた栄養食事指導、栄養相談の実施

- ・多様化する食生活に合わせた、具体的で継続しやすい内容の指導を心掛ける
- ・症例検討会等を実施し栄養食事指導における技術の向上を図る

③ 入院患者さんの栄養管理における質と技術の向上

- ・患者さんの声を傾聴し、他職種との連携を図る
- ・院内院外の勉強会に積極的に参加し知識を広げる

科長 小林 誠

23 臨床工学科

(1) スタッフ

常勤臨床工学技士6名（うち1名育休）、非常勤臨床工学技士1名で構成
（令和4年度末 現在）

(2) 年度報告

基本理念：「最新の知識と技術の習得に励み、安全で信頼性の高い医療技術を提供する」

部門目標：「1. 機器管理部門として医療機器の効率的運用と一元管理を推進する」「2. 業務の情報共有強化を行う」を基に下記の業務にあたっています。

業務件数については業務概要の項を参照ください。

① 呼吸療法業務

人工呼吸器の操作・保守および管理する業務。多職種で連携し、治療の質向上に努めています。今年度は新生児対応新型人工呼吸器を更新しICUで運用を開始しました。また呼吸器サポートチーム（RST）の一員として事故防止対策、職員教育、RST回診に参加しています。

② 心臓カテーテル業務

検査・治療中のバイタルモニタリング、血行動態検査、血管内超音波検査、補助循環装置等を操作・保守管理をしています。

③ ペースメーカー関連業務

体内式ペースメーカーデバイス管理と外来業務。植え込み患者の手術立ち会い、外来でのフォローアップ、MRI撮影や手術前後の立ち会いをしています。

④ 血液浄化業務

一般透析は腎センターへ技術提供を行っています。今年度は透析液供給装置、透析液溶解装置を更新し、透析液の清浄化に努めています。重症透析についてはICUや病棟での出張透析を実施。その他、持続的腎代替療法、血液・血漿吸着療法、腹水濾過濃縮再静注療法など特殊血液浄化療法を担っています。

⑤ 高気圧酸素業務

麻酔科に配置されている一人用治療装置（第一種高気圧酸素治療装置）1台を運用。一酸化炭素中毒・腸閉塞・突発性難聴・網膜動脈分岐閉塞症などの治療をしています。

⑥ 手術室業務

手術用ナビゲーションシステム、自己血回収返血装置、内視鏡システム業務、術中神経モニタリングシステム、麻酔器やフットポンプの管理のほか、手術にまつわる機器のトラブル対応を行っています。

⑦ 医療機器管理業務

人工呼吸器、補助循環装置、血液浄化装置などの生命維持管理装置や、血液ガス分析装置、セントラルモニターなどの高度医療機器の保守管理を行っています。

また、輸液ポンプ、シリンジポンプ、超音波ネフライザ、低圧持続吸引器等、使用箇所が多岐に渡るME機器の中央管理を行う事により、院内医療機器の効率的かつ安全な運用を図っています。

⑧ 教育業務

ME機器使用者への安全情報発信、研修を行うことによりME機器に対する関心と知識と技術の

向上を図っています。特に、新機種導入時には研修会を開催。診療部・看護部を始め、医療機器に関する研修会の講師派遣を行っています。

(3) 今後の目標

地域中核総合病院の臨床工学技士として呼吸・循環・代謝といった生命を代行する装置を手広く扱っています。必要な時に必要な知識・技術・機器を提供できるよう、臨床工学科基本理念の基、ゼネラルに活躍できる臨床工学技士を目指しています。

係長 三木 康正

24 看護部

(1) 看護部の配置状況

令和5年3月31日現在 看護要員 383人

	助産師	看護師	准看護師	看護助手	合計
	人	人	人	人	人
正職員	23	314	4	1	342
非常勤	0	38	2	1	41
合計	23	352	6	2	383

(2) 年度報告

【令和4年度 看護部目標】

- ① 各部署の専門性を発揮し、安全で良質な看護を提供する
- ② 高い倫理観を持ち、患者さんの尊厳を守る温かい看護を提供する
- ③ 患者さんが安心して入院、退院、在宅療養を継続できるよう、地域とつながる看護を提供する
- ④ 働き方改革を推進し、職務を継続できる環境を整える

目標①については、自部署の専門性を高めるための研修や研究に勤しみ、看護の質向上に努めました。また、特定行為研修を4名の看護師が受講し修了いたしました。目標②については、相手を慮る心を大切にした対応を心掛け、看護を語る会でその思いを共有しました。目標③については、コロナ禍で様々な制限がある中、在宅療養支援看護師の養成課程を再構築し、地域との連携強化を図ることができました。目標④について、急性期医療と回復期医療、コロナ病棟を維持するための人員確保のために、多くの看護職員に負担を強いながら邁進してまいりましたが、コロナ禍で働き方改革の推進が阻まれたことは否めません。

【令和4年度 看護部重点取り組み事項】

- ① 急性期～在宅療養支援まで地域とつながる看護の充実
- ② 効果的なベッドコントロール
- ③ 働き方改革によるネガティブ離職者の減少

看護師長会を中心に上記3点に取り組みました。①、②については、病院経営を視野に、急性期患者さんのベッドを確保するための退院支援、地域包括ケア病棟や回復期リハビリ病棟への院内転棟に注力しました。③について、離職率は前年度比で半減しましたが、残された課題も多いため引き続き働き方改革に取り組んでいく所存です。

(3) 今後の目標

今後も地域住民のニーズに応えられるよう、優しさと思いやりのある接遇を心掛け、対象が安心して療養できる環境の提供に努めてまいります。

部長 粕川 由貴子

24-1 外来

(1) スタッフ

看護師 20 名、准看護師 1 名、非常勤看護師 18 名 計 39 名

(2) 年度報告

令和 4 年度は、各診療科、注射室、通院治療センターの部門で活動しました。

部門目標として、

- ① 継続看護の充実と質の高い外来看護の提供
- ② 倫理観を高め、安心安全な看護の提供

を掲げ、記録、退院療養支援、倫理接遇、安全の 4 つのチームに分かれました。外来での在宅療養支援を進めるために、記録チームでは、継続看護につながる記録の充実を図るため、適正な記録監査の実施、望ましい記録についての勉強会などを開催しました。また、フィードバックを行ったことで、誰もが看護記録を記載できるようになりました。退院療養支援チームでは、在宅療養支援カンファレンスの定着を図るために、カンファレンスの開催、継続看護台帳を活用した対象患者の情報共有、在宅療養支援に関する勉強会を開催し、外来看護師の意識が高まりました。

また、通院治療センターでは乳腺外科医師と連携を図り、北関東初の取り組みとして、外来での頭冷却装置 (Paxman Scalp Cooling) を導入し、8 月の桐生市民公開講座でその取り組みを発表することが出来ました。

(3) 今後の目標

今後も、知識・技術・高い倫理観をもち地域に根ざした質の高い外来看護の提供・心理的安全性の高い働きやすい職場環境づくりに努めていきたいと思えます。

師長 西場 里香

24-2 救急外来

(1) スタッフ

看護師 23 名 非常勤准看護師 1 名 非常勤事務 1 名 計 24 名

(2) 年度報告

令和 4 年度は救急部門を救急外来、内視鏡室、健診室、採血室と 4 部門に分かれて活動しました。部署目標として

- ① スタッフの意識を高め安全に配慮した看護が提供できる
 - ② 看護記録の充実を図る
 - ③ 救急患者の気持ちに寄り添った接遇力を身に着ける
 - ④ 整理整頓を行い感染のない安全な職場環境を整える
- を掲げ、取り組みました。

事故報告書に関しては、0 レベルや 1 レベルの報告件数を向上させ、事故報告件数そのものの向上に繋がり報告する意識を身につけることに繋がりました。看護記録は、内視鏡記録の標準化が図れました。また、接遇勉強会や倫理カンファレンスを充実させることで意見箱に投函された負の意見が 0 件でした。物品の整理整頓を行う事で、速やかな処置対応が出来る

ようになりました。COVID-19 対応は引き続きゾーニングし、感染することなく患者の対応が行えました。

(3) 今後の目標

今後の目標として業務改善を推進、教育体積の構築に行い救急医療や内視鏡治療の充実を図り、軽微な事故報告を増やすことで重篤な事故に繋がらないよう安全文化を醸成していきたいと考えます。また、心理的安全性を推進することで職場風土の改善を行い、多くの患者を救える部署としてスタッフのモチベーションの向上を目指したいと思えます。

師長 井上 由子

24-3 手術室

(1) スタッフ

看護師 18 名 計 20 名

(2) 年度報告

令和 4 年度は、「患者・家族の尊厳を守り、専門性を発揮した周術期看護を提供する」を目標に、

- ① 安全文化の構築と強化を行う
- ② 働きやすい環境の整備を強化する
- ③ 適切な感染予防対策を実施し感染制御に努める
- ④ 災害知識・実践力の定着を図る
- ⑤ 周術期看護記録の充実と継続看護の強化を行う
- ⑥ 患者家族の思いに寄り添ったカンファレンスの充実を図る
- ⑦ 心理的安全性の高い職場環境の提供を行う

を掲げ、活動しました。

心理的安全性の高い職場環境になるよう勉強会を行い、周知を図りました。継続看護では、術前外来で収集した患者情報を活用し個別性のある看護を提供しました。感染防止の保証では、3 時間ごとの手袋交換の実施を徹底しました。安全文化の構築と強化では、KYT を行い危機予知能力の向上に努めました。

専門的知識と技術の向上に向け、特定認定看護師（手術看護）1 名、手術看護実践指導看護師 3 名、周術期管理チーム看護師 8 名が在籍しています。術前外来を通して術後回復機能促進に向けた関わりを行い活躍の場を広げています。

(3) 今後の目標

今後も、職場環境を整え、高い倫理観のもと地域貢献できるようにスタッフ一丸となり、質の高い周術期看護の提供を目指していきます。

師長 佐藤 祥代

24-4 ICU・CCU

(1) スタッフ

看護師 18 名（集中治療認定看護師 1 名を含む）

(2) 年度報告

令和 4 年度病棟目標として、

① 安全、安心なクリティカルケアの質の維持、向上

・知識、技術の共有、向上 ・安全、感染対策の継続

② 顧客（内部・外部）満足につながる看護の提供

・在宅療養支援につながる効果的な急性期看護の提供 ・働きやすい環境づくり
を目標に掲げ、取り組みました。

クリティカルケアの質の向上を目指し、ICU マニュアルの改訂の実施、また前年度同様安全、感染対策の強化を図りました。今年度は急性期における早期離床を目指し、リハビリスタッフとカンファレンスを行い、早期リハビリ介入を実施しました。

(3) 今後の目標

早期より効果的な治療と共に退院へ向けてのケアを考えながら、今後も患者、家族に寄り添い、安心して治療を受けられる、質の高いクリティカルケアの提供を目指し、スタッフ全員で取り組みたいと思います。

師長 小澤 裕美

24-5 腎センター

(1) スタッフ

看護師 8 名 臨床工学技士（交替で勤務）

(2) 年度報告

外来患者透析 2236 回、入院患者透析 429 回実施しました。緊急透析患者数は 49 名でした。令和 4 年度は、安全で良質な透析看護の提供を目標に掲げ活動しました。災害対策マニュアルの見直し・改定を行ない、災害に備えて患者さん参加の防災訓練を行いました。また出張透析マニュアルやフットケアマニュアルを見直し、緊急時対応を安全に統一した看護を行う事ができました。COVID-19 患者に対してもマニュアルに沿って、受け入れ対応して行きました。

(3) 今後の目標

今後は透析看護の質の向上と感染管理の強化とともに、緊急透析や COVID-19 にも対応し、患者さんに寄り添った看護の提供に努めていきます。

師長 深井 昌美

24-6 NICU

(1) スタッフ

看護師 16 名（新生児集中ケア認定看護師 1 名含む） 臨床心理士 1 名（非常勤）

(2) 年度報告

令和 4 年度は、

- ① 患者さんの生活を重視した看護を提供する
 - ② 高い倫理観を持ち看護実践ができ、記録ができる
 - ③ 新生児に特化した感染対策知識・手技の強化
 - ④ 急性期から地域につながる看護の充実
 - ⑤ 心理的安全性を確保し看護職一人ひとりが専門性を発揮できる職場環境を構築する
- の 5 つを目標に取り組みました。

安全チームでは、アクシデントをレベル 1 までに抑えることができ、アクシデント件数も前年度比 60% 減となりました。記録チームでは、記録相互チェックシートの活用や記録ファイルの改定を実施。さらに、多職種で倫理カンファレンスを毎月 1 事例行い、倫理を意識した「記録を考える会」を開催したことで、記録が充実した内容となりました。感染チームは、COVID-19 NICU 対応マニュアルの COVID-19 対応病棟 Ver を作成し、周産期対応合同シミュレーションを実施しました。在宅療養支援チームでは、地域市町村の産後ケア資料をまとめ、さらに「すくすく支援シート」を改訂し、親と子の始まりや育児で戸惑うことがないよう支援しています。働きやすい職場環境チームでは、ベッドコントロールを可視化し、平均目標稼働率 90% 達成となりました。心理的安全性を測定する項目では、ポジティブ回答率の上昇、中堅看護師のリーダーシップ尺度 9 項目中、8 項目が上昇しました。また、PDCA サイクルを活用した業務改善を行い、業務の効率化を推進しました。

(3) 今後の目標

今後も地域周産期母子医療センターとして、急性期から在宅を見据えた専門性の高い看護を提供することを目指し、児と家族の育ちを支援できるよう、知識・技術の向上に努めていきます。

師長 阿左美 まゆ美

24-7 GCU

(1) スタッフ

看護師 15 名 助産師 1 名 臨床心理士 1 名（非常勤）

(2) 年度報告

令和 4 年度は、

- ① 在宅療養支援の充実を図り、患者家族中心の看護を提供する
 - ② 高い倫理観を持ち、患者にとって最良の看護を提供する
 - ③ マニュアルを整備し、看護の質の向上を図る
 - ④ 一人一人の強みを生かし、成功体験ができる職場環境づくりを行う
- の 4 つの目標をあげ、取り組みました。

在宅療養支援は児が入院中から MSW と連携を図り、退院後の地域のサポートが得られるよう

活発に実施しました。また、外来看護師の協力を得て継続看護の確立を図りました。倫理的意識を高められるよう、各個人に事例を出してもらい検討会を実施しました。機能評価受審に向け、4つのマニュアルを見直し、改訂を行いました。

(3) 今後の目標

今後もスタッフと協働し働きやすい職場づくりを目指すと共に、患者にとって充実した退院支援が受けられるよう取り組んでいきたいと思っております。

師長 小林 葉子

24-8 3階病棟

(1) スタッフ

看護師 19名 准看護師 1名 看護助手 3名 保育士 1名

(2) 年度報告

令和4年度の目標は、

- ① 安心、安全な看護を提供する
- ② 患者・家族の思いに沿った看護の提供
- ③ 急性期から在宅療養支援まで地域とつながる看護の充実を図る

とし、各チームで活動をしてきました

安全な看護が提供できるよう、環境整備の徹底や看護助手へのタスクシェア等行い、転倒事故の減少に努めました。また、レスパイト入院の積極的な受け入れ、接遇・退院支援についての勉強会を行い知識の向上に努め、看護の充実を図りました。

小児科では、七夕、夏祭り、クリスマス会など季節の行事を行っていますが、密にならないような工夫をして入院中の患児や患者様にも楽しむことができるようなイベントを行いました。

(3) 今後の目標

感染予防の徹底と患者・家族の視点に立った温かい看護を提供できるように取り組んでいきます。

師長 鈴木 ひろ美

24-9 4階東病棟

(1) スタッフ

看護師 21名 看護助手 2名

(2) 年報報告

令和4年度病棟目標は、

- ① 自分の役割、責任を自覚し患者さんに安全な看護を提供する
- ② 患者さん、ご家族の思いを尊重し、寄り添う看護を提供する
- ③ 多職種と連携を図り、安心して退院できる看護を提供する
- ④ 働きやすい職場環境を整える

と掲げ、1年間活動しました。

継続看護の運用手段に関する勉強会を行い、多職種が参加した継続看護カンファレンスを

実施しました。また、緩和認定看護師が参加した看取りのカンファレンスの開催や認知症看護認定看護師による勉強会を行い、寄り添う看護の提供に努めました。

(3) 今後の目標

患者さんが地域で安心して暮らせるよう、多職種と連携を図り質の高い看護の提供に努めていきます。

師長 山口 景子

24-10 4階西病棟

(1) スタッフ

助産師 17名 看護師 8名（乳がん看護認定看護師 1名含む）非常勤看護師 1名
非常勤看護助手 3名

(2) 年度報告

令和4年度の病棟目標は、

- ① 倫理的観点を持ち、患者さんにあった看護が提供できる
- ② 専門性を発揮し、質の高い看護ができる
- ③ 患者さんが安心して地域とつながる看護の提供
- ④ 働きやすい職場環境を整える

を掲げ1年間活動してきました。

今年度は、新たに産科ベビーパスの作成や、外来後期妊婦保健指導マニュアル、バースプラン用紙を作成し配布を開始しました。また、新型コロナウイルス感染症妊婦の分娩対応については、マニュアルを作成し状況に応じて修正し周知していきました。さらに、効果的な退院調整を図るために、外科外来との継続カンファレンスや整形医師とのリハビリカンファレンスを開始し、社会資源や退院前カンファレンスなどの勉強会を行いました。

(3) 今後の目標

今後も地域の保健師や他部門と連携を図り、妊娠中から退院後まで継続した看護が提供できるように取り組んでいきます。

師長 野村 美菜子

24-11 5階西病棟

(1) スタッフ

看護師 32名 非常勤看護助手 2名

(2) 年度報告

令和4年度は、

- ① 安全な療養環境の提供
- ② 感染対策意識・行動の強化
- ③ 看護記録の充実
- ④ 顧客満足度を向上し、働きやすい職場環境を作る
- ⑤ 生活を見据えたつながる看護が提供できる

の5つを目標に掲げ、1年間取り組みました。

チーム毎の勉強会を開催し知識の向上・意識の強化に努め、安全な療養環境の整備、感染症の対応について学び、机上シミュレーションによる防災意識向上、患者家族の希望を取り入れた退院支援の実践に努めました。

(3) 今後の目標

今後も専門的知識・技術を習得し、看護の質を向上させ、安全で安心な看護が提供できるように努めていきます。

師長 関 靖枝

24-12 6階東病棟

(1) スタッフ

看護師 24名 非常勤看護助手 4名

(2) 年度報告

令和4年度は、

- ① 患者・家族の意向を尊重した看護を提供する
- ② 専門職として、自立し安全・安心な質の高い看護を提供する
- ③ 働きやすい職場環境を整える

を目標に上げ、目標達成に向け活動しました。

退院支援の充実を図れるよう退院指導・継続看護件数も増加しました。また、脳梗塞パスを作成しました。疾患の看護の専門性発揮とともに急性期病棟として急変時の対応についてもできるように倫理カンファレンスや事例検討など積極的に行い、やさしく丁寧な看護ケアを実践しています。多職種と連携しカンファレンスを充実させ、患者さん・ご家族の意向を考慮した上で退院支援を行っています。

(3) 今後の目標

専門性を活かした安全で良質な看護ができるよう研鑽し、倫理観を高め、接遇を向上し丁寧な看護の提供に努めていきます。

師長 石関 しのぶ

24-13 6階西病棟

(1) スタッフ

看護師 17名 看護助手 4名

(2) 年度報告

令和4年度の病棟目標は、

- ① リハビリカン後の知識を高めて、安全で質の高い看護を提供する
- ② 倫理観を持ち、患者さんの尊厳を守り温かい看護を提供する
- ③ 患者さんの退院後の生活を見据えて在宅支援が実践できる
- ④ 職務を継続できるように職場環境を整える

の4つの目標を掲げ全員で取り組みました。

当病棟は回復期リハビリ病棟であり、急性期の治療が終了し、在宅・社会復帰を視野に入れて、医師、理学療法士、多職種と連携を図り、リハビリテーションを行い、日常生活動作能力の向上に繋がるように看護援助を行いました。また、退院後の生活が問題なく送れているかを外来看護師と連携を図り、受診時に確認することが出来ました。

(3) 今後の目標

早期から日常生活動作獲得へ向けて、多職種と連携し情報共有を図り、質の高いリハビリテーション、看護援助を行っていきます。

師長 秋間 由博

24-14 7階東病棟

(1) スタッフ

看護師 24名 日勤看護助手 2名 夜勤看護助手 2名

(2) 年度報告

令和4年度病棟目標は、

- ① 専門性が高く温かい看護を提供する
- ② 退院支援強化と在宅療養支援につながる継続看護を実践する
- ③ 働きやすい職場風土を創造する

を目標に掲げ、活動しました。

急性期治療に携わりながらも、ベッドサイドで看護を展開できるよう、業務改善を行いました。また、身体抑制に頼らない看護を追求することで、機能低下をきたさず退院が迎えられる事を目指し、退院後も安心して通院できるよう外来と連携を図りました。今後もチームワークの良い職場で、心にゆとりを持って患者様やご家族に対応していきます。

(3) 今後の目標

呼吸器、消化器内科としての専門性を高め、入院時から退院後を見据えた療養支援を展開していきます。

師長 武田 智子

24-15 7階西病棟

(1) スタッフ

看護師 24名 看護助手 2名

(2) 年度報告

令和4年度病棟目標は、

- ① 安全・安心な看護を提供する
- ② 看護の専門性を発揮し、患者さんに喜ばれる質の高い看護を提供する
- ③ 入院から退院後まで切れ目のない看護を提供する
- ④ 看護記録の充実を図り、チーム医療の中で情報共有ができる
- ⑤ 働きやすい職場をつくり、職員満足度が向上する

を目標に掲げ、チームで活動しました。

COVID-19 のクラスター発生があり、病床の一部で COVID-19 患者を受け入れました。院内の協力を得ながら、スタッフ一丸となって感染拡大防止に取り組みました。

また、継続看護の強化のために、継続看護カンファレンスに関する実態調査の看護研究を行いました。調査結果を実践に活かしていきます。

(3) 今後の目標

専門的知識・技術の向上に努め、患者さん、ご家族に寄り添う、温かい看護を提供できるように努めていきます。

師長 村田 絹代

24-16 8階病棟

(1) スタッフ

看護師 14 名 助産師 2 名 看護助手 1 名

(2) 年度報告

令和 4 年度病棟目標は、

- ① 最前最良の看護が提供できる
- ② 病棟内感染の防止
- ③ 安全な療養環境を整える

の 3 つを掲げました。

COVID-19 対応も 3 年目となり、限られた環境の中で、安心して安全に入院生活がおくれるように看護に取り組みました。年間の新入院患者数は 388 名でした。

3 月末で病棟は閉鎖になりました。未曾有の感染症対応であり、何が最善で何が出来るかを考えながら行動した 3 年間でした。他部署からの応援に助けられ、職員全員が一丸となり対応し、乗り切ることができました。すべての方々に、ありがとうございました。

師長 鈴木 由美子

25 事務部

25-1 総務課

(1) スタッフ

総務課長以下庶務係3名、人事係4名、臨時職員5名（一般事務2名、医局助手1名、医局事務1名、保育士1名）の計12名です。

(2) 年度報告

令和6年4月に医師の働き方改革を控え、昭和39年に取得した医師の宿日直許可を現状の職日直体制に沿った宿日直許可申請を行い、令和5年2月1日付けで桐生労働基準監督署から全ての当直区分(内科系・外科系・ICU・小児科・産婦人科)で受理されました。これにより、勤怠管理システムで医師の時間外労働時間を計算すると年間960時間未満となることから、A水準での対応を予定しております。今後も基準を維持できるよう管理の徹底を図ります。

組合議会の開催については、令和4年10月21日に令和3年度病院事業会計決算を中心とした審議を行い、令和5年2月17日には、令和5年度病院事業会計予算を中心とした審議を行いました。

議会とは別に、昨年度に引き続き「桐生地域医療組合 管理者・副管理者会議」を開催し、院長、管理者（桐生市長）、副管理者（みどり市長）が直接意見交換を行いました。当院を取り巻く課題等の情報を共有するとともに、運営の基本方針や重要施設など将来的に目指すべき方向性について協議を行いました。この会議は令和4年度中に3回開催され、次年度以降は、企業団への移行に伴い「桐生地域医療企業団開設者協議会」と名称を変え、企業長及び構成市長（桐生市長・みどり市長）の立場で意見交換等を行う場として開催する予定となっております。

また、11月25日に「管理者・副管理者との意見交換会」を開催し、管理者・副管理者と当院職員による意見交換を行われました。

課長補佐 剣物 裕司

25-2 経営政策課

(1) スタッフ

主幹2名（病院政策担当1名、経営政策担当1名）、病院政策係2名、経営推進係2名、会計年度任用職員2名が配置。

(2) 年度報告

病院政策係では、当院は群馬大学医学部附属病院・公立館林厚生病院の協力病院となっているため、群馬大学医学部附属病院から2名、公立館林厚生病院から産婦人科研修に1名を受入れました。当院研修医と併せて15名の臨床研修医が当院で研修を行い、様々な支援や調整を行いました。その他臨床研修に関する医学生対象のガイダンスや様々な情報提供を行うなど、初期研修医確保に努めています。また、病院見学・実習では、随時医学生の受入を行っています。

このほか、「院内広報」を毎月、「院外広報（ほほえみ）」を年4回発行するほか、医療と健康に関する市民向け情報紙への原稿提供なども行っています。

経営推進係では、出納管理に加え、企業債の申請、議会の議決対象である決算、予算の調整、構成団体へ繰出金の請求、会計監査等を行いました。会計監査は年3回実施し、監査委員の了承を得ました。

(3) 今後の目標

オンラインPR動画の作成や、オンラインガイダンスなどに積極的に参加するほか、情報発信に努め、構成団体の医師確保事業を活用し、初期研修医の一層の確保を支援します。

健全な病院運営のため院内全体での取組みに積極的に関わり、今後とも構成団体との連携を強化しながら、経営の安定・効率化をすすめていきます。

課長補佐 高草木 有里子

25-3 契約管財課

(1) スタッフ

令和4年度のスタッフは、課長、契約管財係3名、施設係2名、会計年度任用職員1名の計7名で、物品管理、施設設備管理、清掃、洗濯、滅菌業務等で多くの委託職員を抱えています。

(2) 年度報告

医療機器整備委員会で購入の承認を得て予算措置された放射線科の一般撮影用X線撮影システム、中央材料室の高圧蒸気滅菌装置、薬剤部の全自動錠剤分包機、腎センターの多人数用透析液供給装置を始めとした19種21台、そのほか修理不能や診療上必要な機器などで産婦人科の汎用超音波画像診断装置、中央検査科の小型遺伝子検査装置などを始めとした臨時的購入9種10台、計28種31台の医療機器を購入しました。さらに、医療用備品についても、シリンジポンプ、輸液ポンプ、バイオメディカルフリーザー、体圧分散式エアマットレスなどを始めとした24種57台を購入しました。

購入整備のほかにも、既存機器や備品類の点検や修繕手配、加えて薬品、診療材料、給食材料、印刷物、消耗品などの調達管理を行い、価格交渉などについての対応も行いました。

さらに、大規模な改良工事として、外来棟1階各科外来診察室の天吊りファンコイル更新工事、冷却塔150Rt系統の空調機更新工事を行いました。

このほかにも、消防設備、医療ガス設備、電気設備等の点検や修繕、火災や地震、洪水時における避難訓練の計画、実施等、幅広い範囲で病院運営に貢献しました。

また、令和4年度はウクライナでの戦争と円安により、エネルギー費が大幅に高騰しましたが、当課が主体となって省エネに取り組み、エネルギーの使用量は令和3年度との比較で、ガス使用量で5%、電気使用量で3%削減いたしました。今後も、導入機器の選定や、空調の運用方法の見直しなどを継続的に行い、省エネに取り組んでまいります。

(3) 今後の目標

今後も病院維持のための建設改良工事計画、必要となる医療機器等購入計画など、継続となる事業や物品購入の調査・調整等、限られた予算をどう生かしていくか、状況の変化を察知し「最小の経費で最大の効果」を念頭に、患者さんには「安心、安全で最良の療養環境の提供」を、また、職員には「より働きやすく効率的な職場環境づくり」を考え、取り組んでまいります。

係長 石原 孝泰

25-4 医事課

(1) スタッフ

令和4年度の医事課スタッフは、課長、医事係10名（臨時事務6名含む）、診療情報管理係14名（臨時職員2名含む）、情報システム推進係2名、合計27名となりました。

また、総合受付、各科受付、外来算定、入院業務、電算オペレーター業務は業務委託、医師事務作業補助は一部派遣業務で運営しております。

(2) 年度報告

令和4年7月より個人情報保護とプライバシーの観点から外来診察時の患者さんを番号でお呼びする「外来患者番号制」を導入しました。

また、令和4年12月よりマイナンバーカードを健康保険証として利用できる「オンライン資格確認」を運用開始しました。

(3) 今後の目標

- ① 施設基準取得のための運用及び環境整備
- ② DPCの調整係数改定の研究
- ③ 増収への取り組みとさらなる費用削減の取り組み
- ④ 医師の負担軽減対策として医師事務作業補助者の増員および業務内容の充実
- ⑤ 未収金の発生防止と回収強化

係長 本田 英之

25-5 健診室

(1) スタッフ

室長（兼院長補佐兼副院長兼放射線科診療部長）、看護師、主幹、係長、主任、健診係8名（うち臨時看護師3名、臨時事務1名、派遣事務4名）で業務を行っています。

(2) 年度報告

一日（日帰り）ドック、健康診断等（企業健診、脳ドック、肺ドック等）多岐にわたる健診業務を行っています。各検査項目は専門の医師が判定を担当し、異常が認められた場合は、かかりつけ医もしくは当院で精密検査や治療を受けることができるよう運用しています。

ただし、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、一泊二日ドックは健診業務を休止し、肺機能検査も年度内中止となっています。

令和4年度の件数は、一日（日帰り）ドック2,893件、健康診断等4,334件で、前年度件数と比較して、健康診断等の件数は増加しています。令和2年度から経鼻内視鏡検査を実施しており、件数は618件で、前年度と比較すると2倍近く増加しています。新規項目のアミノインデックスは21件、ロックインデックスは28件、コロナ抗体検査は3件です。なお、平成22年度より乳がん啓発活動「ジャパン・マンモグラフィー・サンデー」事業に参加しており、今年度は13名が受検しています。

(3) 今後の目標

今後も、検査項目等につきましても様々なご意見を取り入れ、受検をしやすいように、多くの方にご利用いただけるよう取り組んでいきたいと思っております。

主幹 宮田 晋一

25-6 地域医療連携室

(1) スタッフ

室長（兼副院長兼脳神経外科部長）、主幹（兼副看護部長）、地域医療担当看護師 7 名（うち患者支援窓口担当 2 名）、地域連携係 7 名（うち臨床心理士 1 名、臨時職員 2 名）、医療相談係 3 名（うち社会福祉士 3 名）で業務を行っています。

(2) 年度報告

「地域医療支援病院」として、紹介率 65%及び逆紹介率 45%以上の維持確保と地域の医療機関との連携強化を図っています。また、オンライン検査予約システム「桐生おりひめネット」も活用され、院外からの共同利用による放射線検査は、令和 4 年度 計 913 件（CT 365 件、MRI 488 件、RI 60 件、骨塩定量 0 件）と多くの地域の諸先生方にご利用いただいています。地域医療連携室だより『きずな』は、診療の特集を始め各部門のエキスパートを紹介するなど病院内の情報を掲載し、定期刊行に加えトピックス臨時号も刊行し、地域の医療機関に配付しています。また、地域の医療従事者向けの研修はコロナ禍の折、感染対策を徹底し WEB（ZOOM）での開催を企画しました。地域医療勉強会は 4 回開催し、今年度は地域連携学術講演会を 1 回開催しました。「緩和ケアの実際」と題し乳腺外科部長にご講演をいただき、60 名のアクセスがありました。

「地域がん診療連携拠点病院」としては、緩和ケア認定看護師と公認心理士を専従配置し、内容によってはがん専門看護師にも協力していただき、相談機能の強化を図りました。また、昨年に引き続き感染対策に配慮しながら緩和ケア研修会を開催し、院内外から 30 名の医師・看護師に参加していただきました。

入退院支援においては、予定・緊急入院患者さんの入院支援および病棟担当者への情報提供、早期から介入可能な退院支援体制を整えています。桐生市医師会と共同で作成した「桐生地域退院調整ルール」に則り、地域との連携のもと在宅療養支援につないでいます。

さらに、桐生市・みどり市の要保護児童対策協議会には、オブザーバーとして小児科医師とともに MSW が毎月参加しています。また、ハイリスク妊婦へ積極的に介入し、児童相談所や自治体保健師との連携をより強固なものとして、継続して地域の児童虐待対策に取り組んでいきます。

令和 4 年度はがん地域連携パスの運用方法を見直し、ここ数年稼働していなかった大腸がん、胃がん、肝がんについては、地域の先生方に説明に伺うなど、外科の医師と連携を取り対象患者さん増加に向け活動しました。結果大腸がん 6 例、胃がん 4 例、子宮頸がん 2 例、乳がん 5 例、前立腺がん 1 例を運用することができました。

(3) 今後の目標

- ① 地域医療支援病院指定要件の維持
- ② 地域がん診療連携拠点病院指定要件の維持
- ③ 紹介元への速やかなご報告およびお返事の徹底
- ④ 集患へ向けての地域との連携と広報活動
- ⑤ 地域包括ケアシステムの推進における病病・病診・看看連携の強化
- ⑥ 専門知識（看護師、MSW 等）を有する職員の育成

主幹 上原 美奈子

25-7 医師確保対策推進担当

(1) スタッフ

2名

(2) 年度報告

医師の確保に向けた取り組みとして、昨年度から続く新型コロナウイルス感染症の影響が更に拡大したことにより、群馬大学各教授へ挨拶文を送付し、新型コロナウイルス感染症の新規感染者数等が減少した頃合いをみて、院長、総務課長、経営政策課長、状況に応じて管理者にもご同行いただき、オンライン面談等も活用しながら、積極的に働きかけを行いました。教授訪問後に各診療科部長と院長面談を実施し情報共有等を図りました。

民間医局等も積極的に活用し医師確保を図り、結果として、令和4年度採用として、育児短時間勤務制度を利用する耳鼻いんこう科の常勤医師1名の増員に至りました。

(3) 今後の目標

医師の確保については病院の最優先事項ですので、引き続き関係大学等に継続した要望活動と、退職後の医師に再就職依頼、民間医局が可能な診療科には紹介会社を利用した医師確保及び医師の働き方改革に伴う、育児短時間勤務制度を利用する医師の積極的な採用など、多方面から行っていきたいと考えています。

医師確保対策推進担当（副） 石井 理彦

XV 病院施設及び医療機器

1 建設改良工事等

(1) 外来棟各科診察室天吊りファンコイル更新工事

外来棟1階の各診察室の天吊りファンコイルは老朽化が著しく、故障が頻発していることから、更新工事を行いました。

(2) 冷却塔 150Rt 系統空調機更新工事

冷却塔 150Rt で冷媒を冷却している空調システムが老朽化したことにより、更新工事を行いました。

2 病院施設設備の概要

設備名	設置機械	数量	規格及び内容
空調設備	ボイラー	4	ガス貫流式ボイラー 三浦工業(株) SQ-2000AS 定格出力 2,000kg/H、最高使用圧力0.98Mpa ガス消費量 113.4m ³ N/H
		1	ガス貫流式ボイラー 三浦工業(株) SQ-1200ZS 定格出力 1,200kg/H、最高使用圧力0.98Mpa ガス消費量 69.4m ³ N/H
	冷凍機	1	蒸気吸収式冷凍機 QAW-HS100FS 蒸気圧0.78Mpa、冷凍能力 100Rt
		2	蒸気吸収式冷凍機 TSA-DW-HS400FS 蒸気圧0.78Mpa、冷凍能力 400Rt
		1	ターボ冷凍機 三菱重工(株) ETI-20 冷凍能力 703.3kW / 200USRT 冷水流量 120.7m ³ /h 冷却水流量 141.9m ³ /h 電源 3相 400V 50Hz 電源容量 117kW
	冷水一次ポンプ	4	片吸込渦巻型 80×65φ×1,010ℓ/min×14mAq 1台 150×150φ×4,040ℓ/min×14mAq 2台 150×100φ×2,012ℓ/min×14mAq 1台
	冷却塔	4	超低騒音型 角型 冷却能力 200Rt (SDC-U200ASSD) 1台 400Rt (SDW-U405ASSD) 2台 100Rt (SDW-U100ASSD) 1台
	冷却水ポンプ	6	片吸込渦巻型 冷却水ポンプ 100×80φ×1,670ℓ/min×12mAq 1台 125×100φ×1,300ℓ/min×45mAq 2台 200×150φ×6,670ℓ/min×24mAq 2台 150×100φ×2,358ℓ/min×20mAq 1台
	冷水二次ポンプ	2	片吸込渦巻型 150×150φ×2,000ℓ/min×30mAq 1台 " (INV) 150×100φ×2,000ℓ/min×31mAq 1台
	熱交換器	3	蒸気温水交換熱量 1,320,000kcal/H シェルアンドチューブ式
温水一次ポンプ	3	片吸込渦巻型 200×200φ×4,450ℓ/min×10mAq 3台	
温水二次ポンプ	2	片吸込渦巻型 150×100φ×1,500ℓ/min×30mAq 1台 " (INV) 150×100φ×1,500ℓ/min×32mAq 1台	
冷温水ポンプ	3	片吸込渦巻型 150×100φ×3,200ℓ/min×30mAq 2台 " (INV) 150×100φ×3,200ℓ/min×32mAq 1台	

設備名	設置機械	数量	規格及び内容	
空調設備	真空給水ポンプ	2	複式型、相当放熱面積500cm ²	
	薬注装置	13	清缶剤用6台、脱酸剤用3台、防錆剤用4台	
	空調機	70	冷水コイル、温水コイル、冷温水コイル、加湿器組込 39台、パッケージ型空調機 31台	
	フィルタユニット	5	RI密閉型サイドアクセスユニット他	
	全熱交換器	12	380A 2台、150A 1台、100A 6台、65A 2台、30A 1台	
	ファンコイルユニット	750	冷温水コイル、個別制御方式	
	クリーンローユニット	69	天井セットコイル組込型 HEPAフィルター使用 冷暖房能力、風量調節スイッチ	
	ターミナルコイル	18	ダクト型冷温水コイル 3台、温水コイル 15台	
	定風量装置	22	電気式 給気 11台、排気 11台	
	給気、排気ファン	179	シロッコファン 他 給気ファン 35台、排気ファン 139台 (ブラスターファン 2台) 排煙ファン (片吸込リミットロードファン型) 5台	
電気設備	電力引込設備	2	本線 (清瀬線)、予備線 (三原線) 2回線受電 6.6kV 引込開閉器盤 (2面)	
	受変電設備	1	主変電室、第二変電室、X線変電室、外来変電室 主遮断機 2-PC方式 受変電設備容量 6,000kVA、契約電力 1,360kW	
	非常用 自家発電設備	1	ディーゼル16気筒、1,500rpm、 6.6kV50Hz、3φ3W、1,500kVA (1,200kW) 自動起動確立 40秒	
	無停電電源装置	1	CVCF装置 150kVA、100V、対処時間5分 蓄電池 MSE-800、UP400-12R	
	電話配管設備	1	端子盤 (MDF含) 46面、回線口 478口	
	院内PHS設備	1	PHS 313台	
	放送設備	3	一般及び非常用放送アンテナ 1,200W 各所ローカルアンテナ装置、非常時25回線一斉	
	ナースコール設備	1	ナースコール制御機10台、ナースコールホート型親機Z型60局5台、 80局5台、ナースコール子機535台、メテリカルアンテナ 55台	
衛生設備	給水設備	10	上水受水槽 180m ³ 1基 中間水槽 (除鉄除マンガン処理後) 21m ³ 1基 処理水槽 (井水処理装置設備) 2m ³ 1基 MF膜ろ過装置 (井水処理装置設備) 1基 雑用水槽及び消防用水槽 370m ³ 1基 上水高架水槽 36m ³ 1基 雑用水高架水槽 27m ³ 1基 感染症系統上水高架水槽 1.1m ³ 1基 感染症系統雑用水高架水槽 0.65m ³ 1基 消防用補給高架水槽 0.5m ³ 1基	
		給湯設備	14	ストレージタンク (鋼板製内面プレート) 5,000ℓ 3基 電気式湯沸器 (1φ×200V×3kW) 10基

設備名	設置機械	数量	規格及び内容
衛生設備	排水設備	1	(屋内)汚水雑排水分流式 (屋外)汚水雑排水雨水一管式 汚水集中ポンプ 10台、湧水ポンプ 12台、 雑排水ポンプ 20台、雨水ポンプ 4台 ※(排水処理施設)接触酸化方式 RI排水処理施設24.6m ³ /d 処理水量 厨房、化学排水処理施設56m ³ /d 処理水量 感染排水処理施設30m ³ /d 処理水量(散水3方式)
	都市ガス	1	中圧ガス 100φ(ボイラー用) 低圧ガス 100φ(厨房、検査用)
	中央集じん設備	1	乾式濾布方式集じん機、吸引弁 288個
	医療ガス設備	1	液体酸素タンク 1,690m ³ 1基、警報機 14基、 シャットオフバルブ 36個、アウトレット(ハットユニット含む) (壁付、天吊、リール式、シーリングモジュール) 1,144個
	人工空気	1	人工空気タンク 4m ³ 1基
	吸引機	3	吸引装置 2台、歯科用吸引装置 1台
消防用設備	自動火災 報知設備	1	R型受信機(R-24C)予備電源内蔵 550回線、表示機30回線13台、発信機P型一級 熱感知器、差動式 273個、定温式 267個 煙感知器、光電式 928個
	院内非常電話設備	1	電話機 59台(地下火災通報装置防災センター直通)
	屋内、屋外 消火栓設備	1	屋内消火栓 43台、屋外消火栓 5台 900ℓ/min×78m×18.5kW(屋内ポンプ 1台) 750ℓ/min×53m×11kW(屋外ポンプ 1台)
	スプリンクラー設備	1	ヘッド数 3,265個、流水作動弁 12個、ポンプ 1台 900ℓ/min×99m×30kW、ヘッド溶解72°
	ハロゲン化物消火 設備	1	ハロゲンガス 1301 容器 19本、FK-5-1-12 容器 1本、 噴射ヘッド数 18個、スプレーカー 12個
	防火、防排煙 設備	1	連動制御器 1台 自動開閉装置 245個(ダンパー、排煙口含む) 自動起動装置 119個(煙感知器、熱感知器) 音響装置(電子ブザー) 23個
	簡易粉末消火設備	1	厨房外消火用 簡易自動消火装置 12台

設備名	設置機械	数量	規格及び内容
昇降機設備	エレベーター	8	乗用 750kg 11名 90m/min 9stop 1台 450kg 6名 60m/min 9stop 1台 寝台用 1,000kg 15名 60m/min 9stop 2台 1,000kg 15名 45m/min 4stop 1台 荷物用 1,000kg 60m/min 9stop 1台 非常用 1,150kg 17名 90m/min 10stop 1台 " 2,000kg 30名 90m/min 10stop 1台 自家発電連動、火災地震停電時自動着床、 遠隔監視(東京)
	タムエーター	3	30kg 30m/min 2stop 2台、7stop 1台
中央監視設備	中央監視装置	1	Savic-net FX 監視用PC、23.8インチディスプレイ、カラーレーザープリンター、グラフィックボード、システム制御盤

3 主な医療機器購入一覧

申請部署	設置場所	医療機器名（規格）	製造会社名等	数量
内科	内視鏡室等	気管支鏡システム	オリンパス	1
小児科	NICU・GCU	黄疸光線治療器	アトムメディカル	1
外科・整形外科・脳神経外科・泌尿器科・産婦人科	手術室	高周波手術装置	アムコ	1
整形外科	手術室	デジタルエアータニケット	村中医療器	1
泌尿器科	外来	膀胱腎盂ビデオスコープシステム	オリンパス	1
	手術室	高周波焼灼電源装置	オリンパス	1
	手術室	プローブホルダー	ポストンサイエンティフィック	1
産婦人科	外来	顕微鏡Si 三眼、位相差システム	ニコン	1
	外来	汎用超音波画像診断装置	GEヘルスケア	1
眼科	外来	レフラクトケラトメータ	ライト	1
耳鼻いんこう科	外来	耳鼻咽喉ファイバースコープ	オリンパス	1
麻酔科	手術室	全身麻酔器	GEヘルスケア	1
リハビリテーション科	リハビリテーション室	超音波治療器	伊藤超短波	1
	リハビリテーション室	低周波治療器	テクノリンク	1
放射線科	撮影室2	一般撮影用X線撮影システム	島津製作所	1
臨床検査科	細菌検査室	恒温器	ヤマト化学	1
薬剤科	調剤室	全自動錠剤分包機	トーショー	1
中央検査科	検体検査室	全自動血液凝固線溶測定装置	LSIメディエンス	1
	生理検査室	超音波骨密度測定装置	富士フイルムヘルスケア	1
	病理検査室	自動細胞収集装置	サクラ精機	1
	細菌検査室	小型遺伝子検査装置（PCR法）	ロシュ・ダイアグノスティックス	2
	生理検査室	長時間心電図記録器	日本光電	1
臨床工学科	臨床工学科	ベッドサイドモニタ	フクダ電子	3
	臨床工学科	人工呼吸器	ドレーゲル	1
腎センター	機械室	多人数用透析液供給装置	日機装	1
中央材料室	中央材料室	高圧蒸気滅菌装置	サクラ精機	1
	中央材料室	ウォッシャーディスインフェクタ	ゲティンゲ	1
災害対策委員会	災害対策委員会	ポータブル超音波装置	GEヘルスケア	1

XVI 図書

1 受入図書

(1) 図書

	図書名
1	症例から考える代表的な8疾患 解答・解説付き /じほう
2	抗菌薬TDM臨床実践ガイドライン2022 /公益社団法人日本化学療法学会
3	術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン追補版 /公益社団法人日本化学療法学会
4	泌尿器科・病理・放射線科 前立腺癌取扱い規約 第5版 /日本泌尿器科学会・日本病理学会・日本医学放射線学会 編
5	レジデントのための感染症診療マニュアル 第4版 /医学書院
6	呼吸機能検査ハンドブック /メディカルレビュー社
7	感染症プラチナマニュアル Ver. 7 2021-2022 Grande /メディカルサイエンスインターナショナル
8	ここまで診る消化管エコー：エコー・内視鏡・X線検査の裏付け /医療科学社
9	品質保証・精度管理教本 /日本臨床衛生検査技師会
10	肝内胆管癌診療ガイドライン 2021年版 /金原出版
11	肝癌診療ガイドライン 2021年版 /金原出版
12	看護必要度Q&A 第5版 /オーム社
13	「重症度、医療・看護必要度」解説書 /日本看護協会出版会
14	マンモグラフィによる乳がん検診の手引き：精度管理マニュアル 第8版 /日本医事新報社
15	デジタルマンモグラフィ品質管理マニュアル 第2版 /医学書院
16	手術支援に役立つ3次元CT画像：どう撮り、何を作成する？ /メジカルビュー社
17	MRI安全性の考え方 第3版 /学研メディカル秀潤社
18	心電図検定公式問題集&ガイド：受験者必携！2級/3級 ：心電図スペシャリストへの第一歩！ 改訂3版 /メディカ出版
19	日本病理剖検輯報 第63輯 /日本病理学会
20	新麻酔科ガイドブック 改訂第3版 /真興交易(株)医書出版部
21	実践臨床麻酔マニュアル 第2版 /中外医学社
22	検査値に基づいた栄養指導：生活習慣病への取り組み 新改訂版 /チーム医療
23	嚥下障害ポケットマニュアル 第4版 /医歯薬出版
24	施設基準パーフェクトブック：実務で使える届出と管理 2022年度版 /経営書院
25	十二指腸癌診療ガイドライン 2021年版 /金原出版
26	時間をかけずに的確に行う強度変調放射線治療治療計画のコツ：IMRT /学研メディカル秀潤社
27	公立病院経営ハンドブック 令和4年度版 /ぎょうせい
28	大腸がん治療ガイドライン：医師用 2022年版 /金原出版
29	胃癌治療ガイドライン：医師用 2021年7月改訂 第6版 /金原出版
30	食道癌診療ガイドライン 2022年版 第5版 /金原出版
31	臨床・病理 食道癌取扱い規約 第12版 /金原出版
32	乳癌診療ガイドライン ①治療編 2022年版 /金原出版
33	子宮頸癌治療ガイドライン 2022年版 /金原出版

	図 書 名
34	膵癌診療ガイドライン 2022年版 /金原出版
35	患者さんのための肺がんガイドブック：悪性胸膜中皮腫・胸腺腫瘍含む 2021年版 /金原出版
36	患者さんのための大腸癌治療ガイドライン：大腸癌について知りたい人のために 大腸癌の治療を受ける人のために 2022年版 /金原出版
37	門脈圧亢進症取扱い規約 第4版 /金原出版
38	過活動膀胱診療ガイドライン 第3版 /リッチヒルメディカル
39	泌尿器外傷診療ガイドライン 2022年版 /医学図書出版
40	小児免疫性血小板減少症診療ガイドライン 2022年版 /診断と治療社
41	エビデンスに基づいた小児腸重積症の診療ガイドライン 改訂第2版 /へるす出版
42	看護に活かす 基準・指針・ガイドライン集 2022 /日本看護協会出版会
43	病気がみえる vol. 15 小児科 /Medic Media
44	臨床腫瘍薬学 第2版 /じほう
45	緩和ケアレジデントマニュアル 第2版 /医学書院
46	遺伝性乳がん卵巣がんを知ろう！：みんなのためのガイドブック /金原出版
47	がん化学療法レジメンハンドブック 改訂第7版 /羊土社
48	ケアする人の対話スキルABCD /日本看護協会出版会
49	乳癌診療ガイドライン ②疫学・診断編 2022年版 /金原出版
50	遺族ケアガイドライン 2022年版 /金原出版
51	がん医療における患者－医療者間のコミュニケーションガイドライン 2022年版 /金原出版
52	がん患者におけるせん妄ガイドライン 2022年版 /金原出版
53	がん薬物療法時の腎障害診療ガイドライン 2022年版 /ライフサイエンス出版
54	Pediatric Neuroimaging SIXTH EDITION /Wolters Kluwer
55	外国人用診療ガイド 改定2版 /公財)政策医療振興財団
56	肺癌診療ガイドライン：悪性胸膜中皮腫・胸腺腫瘍含む 2022年版 /金原出版
57	内科救急診療指針 2022 /総合医学社
58	子宮頸癌取扱い規約 病理編 第5版 /金原出版
59	子宮体癌取扱い規約 病理編 第5版 /金原出版
60	卵巣腫瘍・卵管癌・腹膜癌取扱い規約 病理編 第2版 /金原出版
61	OC・LEPガイドライン 2020年度版 /日本産科婦人科学会
62	産科婦人科用語集・用語解説集 改訂第4版 /日本産科婦人科学会事務局
63	今日の治療薬：解説と便覧 2023 /南江堂
64	子宮内膜症取扱い規約 第2部. 診療編 第3版 /金原出版
65	脳神経内科学レビュー：最新主要文献とガイドラインでみる 2022-'23 /総合医学社
66	COVID-19神経ハンドブック：急性期、後遺症からワクチン副反応まで /中外医学社
67	画像で診る遺伝性白質疾患診断の手引き /診断と治療社
68	小児滲出性中耳炎診療ガイドライン 2022年版 /金原出版
69	頭頸部癌診療ガイドライン 2022年版 /金原出版
70	めまい診療ハンドブック：最新の検査・鑑別診断と治療 /中山書店
71	G-CSF適正使用ガイドライン 第2版 /金原出版
72	がん薬物療法に伴う血管外漏出に関する合同ガイドライン 2023年版 /金原出版

	図 書 名
73	喘息診療実践ガイドライン 2022 /協和企画
74	症例から考える代表的な8疾患 2022-23年版 /じほう
75	薬学生のための病院・薬局実務実習テキスト 2023年版 /じほう
76	腎薬ドリル：腎臓病薬物療法の知識・理論を臨床に結びつけるトレーニング /じほう
77	薬剤師のための検査値判読ドリル：臨床検査専門医×薬剤師の視点 /じほう
78	調剤と情報 2022年10月臨時増刊号(Vol. 28 No. 14) 外来でよくみる29疾患の最新ガイドライン虎の巻 /じほう
79	今日の皮膚疾患治療指針 第5版 /医学書院
80	皮膚疾患診療実践ガイド：診察室ですぐに役立つ卓上リファレンス 第3版 /文光堂
81	呼吸器ジャーナル 2023年2月号(Vol. 71 No. 1) エキスパートに学ぶ 肺癌診療 悩ましいシチュエーションへの解決策 /医学書院
82	手外科診療ハンドブック 改訂第3版 /南江堂
83	スポーツ外傷・障害に対する術後のリハビリテーション 改訂第3版 /運動と医学の出版社
84	失語症のリハビリテーション：全体構造法 基本編 新版 /医歯薬出版
85	薬からの摂食嚥下臨床実践メソッド：シンプルなロジックですぐできる /じほう
86	臨床で使える半側空間無視への実践的アプローチ /医学書院
87	子どもの感覚運動機能の発達と支援：発達の科学と理論を支援に活かす /メジカルビュー社
88	発達障害の子の脳をきたえる笑顔がはじけるスパーク運動療育 /小学館
89	発達が気になる子へのソーシャルスキルの教え方：学校が楽しくなる！ /中央法規出版
90	臨床検査データブック 2023-2024 /医学書院
91	月刊薬事 2022年7月増刊号 (Vol. 64 No. 10) ハイリスク薬フォローアップ /じほう
92	最新！心臓デバイス攻略本—メーカーごとの機能・特徴を押さえたペースメーカ・ ICD治療をはじめよう /メディカ出版
93	はじめてナースの呼吸アセスメントBOOK： イラストで呼吸生理の基礎からみえる！つながる！強くなる！ /南江堂
94	心臓カテーテル介助スタンダードマニュアル /メジカルビュー社
95	アフェレシス療法ポケットマニュアル 第2版 /医歯薬出版
96	周術期管理チームテキスト 第4版 /日本麻酔科学会
97	がん・放射線療法2017 改訂第7版 /学研メディカル秀潤社
98	前眼部アトラス 【眼疾患アトラスシリーズ】 /総合医学社
99	後眼部アトラス 【眼疾患アトラスシリーズ】 /総合医学社
100	国民衛生の動向 2022/2023 /一般財団法人 厚生労働統計協会
101	病棟指示と頻用薬の使い方決定版 /羊土社
102	ICU/CCUの薬の考え方、使い方 ver. 2 /中外医学社
103	ICU実践ハンドブック 改訂版 /羊土社
104	産婦人科研修ポケットガイド /金芳堂
105	CT読影レポート、この画像どう書く？ /羊土社
106	患者さんのための胃がん治療ガイドライン 2023年版 /金原出版
107	患者さんのための乳がん診療ガイドライン 2023年版 /金原出版
108	がん診療レジデントマニュアル 第9版 /医学書院

	図 書 名
109	がん治療におけるアピランスケアガイドライン 2021年版 /金原出版
110	がん化学療法の薬はや調べノート 2023・2024年版 /メディカ出版
111	がん看護 2023年3・4月号 (Vol.28 No, 3) がん看護キーワード15～がん看護の基礎となる考え方～ /南江堂
112	ひとりだちできるがん化学療法看護 /学研メディカル秀潤社, 学研プラス (発売)
113	がん支持医療テキストブック /金原出版
114	がん患者の呼吸困難・痛み・精神症状を診るロジック /メジカルビュー社
115	Rosen's Emergency Medicine, 10th ed.1vol. /Elsevier
116	Rosen's Emergency Medicine, 10th ed.2vol. /Elsevier
117	標準病理学 第7版 【Standard textbook】 /医学書院
118	標準リハビリテーション医学 第4版 【Standard textbook】 /医学書院
119	標準臨床検査医学 第5版 【Standard textbook】 /医学書院
120	標準整形外科学 第15版 【Standard textbook】 /医学書院
121	標準小児科学 第9版 【Standard textbook】 /医学書院
122	標準耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 第4版 【Standard textbook】 /医学書院
123	標準組織学 各論 第6版 【Standard textbook】 /医学書院
124	標準組織学 総論 第6版 【Standard textbook】 /医学書院
125	標準小児外科学 第8版 【Standard textbook】 /医学書院
126	標準外科学 第16版 【Standard textbook】 /医学書院
127	標準法医学 第8版 【Standard textbook】 /医学書院
128	標準免疫学 第4版 【Standard textbook】 /医学書院

(2) DVD

	タ イ ト ル
1	摂食嚥下導入完全マニュアル DVD4枚組

2 購入雑誌

(1) 和雑誌

	科	タイトル	配架
1	内科	内科	図書室
2		胆と膵	
3		胃と腸	
4	精神科	臨床心理学	図書室
5		こころの科学	
6	神経内科	脳神経内科	図書室
7	循環器内科	Heart View	図書室
8	小児科	小児科	図書室
9		小児内科	
10		小児科診療	
11	外科	外科	図書室
12		手術	
13		臨床外科	
14		消化器外科	
15	整形外科	整形外科	図書室
16		臨床整形外科	
17		整形・災害外科	
18		日本整形外科学会誌	
19	脳神経外科	Neurological Surgery 脳神経外科	脳神経外科
20		脳神経外科速報	
21	皮膚科	皮膚科の臨床	皮膚科
22		臨床皮膚科	
23		皮膚病診療	
24	泌尿器科	泌尿器外科	図書室
25		臨床泌尿器科	
26		腎と透析	
27	産婦人科	産科と婦人科	産婦人科
28		周産期医学	
29		産婦人科の実際	
30	眼科	臨床眼科	図書室
31		あたらしい眼科	
32		眼科手術	
33		眼科ケア	
34	耳鼻いんこう科	JOHNS	耳鼻いんこう科
35	麻酔科	ペインクリニック	麻酔科
36		LISA	
37		臨床麻酔	
38		救急・集中治療	
39		INTENSIVIST	

	科	タイトル	配架
40	リハビリテーション科	理学療法ジャーナル	リハビリテーション科
41		作業療法ジャーナル	
42		理学療法	
43		Clinical Rehabilitation 臨床リハ	
44		総合リハビリテーション	
45	放射線科	臨床放射線	放射線科
46		画像診断	
47		INNERVISION	
48	病理診断科	病理と臨床	病理診断科
49	歯科・歯科 口腔外科	歯界展望	図書室
50		デンタルハイジーン	
51	臨床研修医	レジデントノート	研修医室
52	薬剤科	月刊薬事	薬剤科
53		薬局	
54		調剤と情報	
55		レシピプラス	
56	中央 検査科	臨床検査	中央 検査科
57		日本臨床検査医学会誌	
58		Medical Technology	
59		臨床と微生物	
60		検査と技術	
61		MTJ (メディカルテストジャーナル) 【情報紙 (タブロイド)】	
62	栄養管理科	臨床栄養	栄養管理科
63		Nutrition Care	
64	臨床工学科	Clinical Engineering	臨床工学科
65		みんなの呼吸器 Respica (レスピカ)	
66	看護部	看護	図書室
67		看護展望	
68		看護管理	
69		看護部長通信	看護部長室
70		月刊ナースマネジャー	
71		看護人材育成	看護部長室
72		OPE NURSING	手術室
73		重症集中ケア	I C U
74		透析ケア	腎センター
75		赤ちゃんを守る医療者の専門誌 with NEO	N I C U
76		小児看護	G C U
77		泌尿器 Care&Cure Uro-Lo	3 F
78		地域連携 入退院と在宅支援	4 東
79		助産雑誌	4 西
80		消化器ナーシング	5 西
81		Brain nursing	6 東

	科	タイトル	配架
82	看護部	リハビリナース	6 西
83		みんなの呼吸器 Respica (レスピカ)	7 東
84		HEART nursing	7 西
85		エキスパートナース	救急外来
86		外来看護	外来
87		病院安全教育	医療安全
88	図書室	日本医事新報	図書室
89		病院	
90		医学のあゆみ	
91		INFECTION CONTROL	
92		癌と化学療法	
93		感染対策ICTジャーナル	
94		臨床リウマチ	
95		全国自治体病院協議会雑誌	
96		日本病院会雑誌	

(2) 洋雑誌

	科	タイトル	配架先
1	内科	JAMA (The Journal of the American Medical Association)	図書室
2		New England Journal of Medicine	
3		The Lancet	
4		Hepatology 【オンラインジャーナル】	
5		Liver Transplantation 【オンラインジャーナル】	
6		Gastroenterology	
7		GIE (Gastrointestinal Endoscopy)	
8	神経内科	Annals of Neurology 【冊子+オンラインジャーナル】	図書室
9	小児科	Archives of Diseases in Childhood (including Fetal and Neonatal Edition)	図書室
10		The Journal of Pediatrics	
11		Pediatrics 【オンラインジャーナル】	
12	整形外科	Bone & Joint Journal	図書室
13		JBJS (The Journal of Bone and Joint Surgery. American Vol.)	
14		The Journal of Orthopaedic Science	
15	脳神経外科	Journal of Neurosurgery	脳神経外科
16		Neurosurgery	
17	産婦人科	Obstetrics and Gynecology	図書室
18		JOGR (The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research)	
19	放射線科	Radiology	放射線科

XVII 病 院 行 事

1 主な行事

実施年月日	行 事 名
R4 4. 1	新規採用職員辞令交付・昇格辞令等交付
7. 26	献血
8. 2	令和4年度病院事業 第4四半期及び決算監査
20	第25回市民公開講演「正しく知ろう！乳がんのこと～乳がん専門医・放射線科医・認定看護師がお答えします～
9. 8	防災避難訓練及び防火訓練
16	地域医療体験セミナー
10. 21	第 189 回桐生地域医療組合議会（定例会）
11. 10	登録医大会
15	令和4年度病院事業上半期（第1、第2四半期会計監査）
12. 15	献血
R5 1. 16	洪水時等の避難訓練
2. 10	永年勤続職員表彰式
15	関東信越厚生局による適時調査
17	第 190 回桐生地域医療組合議会（定例会）
3. 4	第26回市民公開講演「がん最新治療 ―腎がん・前立腺がん―」
16	防火訓練（夜間想定避難訓練）
22	令和4年度病院事業 第3四半期会計監査
30	医学部医学科をめざす高校生の職場体験セミナー
31	定年退職者感謝状贈呈式・定年退職者辞令交付
毎月1回（月末）	院内報告会

2 職員健康管理

実施年月日	行 事 名
R4 6. 10～16	職員定期健康診断（胸部X線撮影、血液・尿検査等）
9. 26～28	HBワクチン接種（第1回）
10. 11～17	インフルエンザ予防接種
11. 1～7	HBワクチン接種者抗体検査（1回接種者）
11. 14	歯周病疾患検診
12. 2～8	職員定期健康診断（深夜業務従事者、放射線業務従事者）
12. 22	がん予防検診（胃がん・大腸がん）
R5 1. 30	がん予防検診（乳がん・子宮がん）
毎月1回	栄養管理科職員検便

3 職員共済会

(1) 目的

地方公務員の規定に基づき、職員の福利厚生制度の適切な運営を図り、能率増進に資することを目的とします。

(2) 事業

1. 共済給付事業

- (1) 傷病見舞金 (2) 死亡弔慰金 (3) 出産見舞金 (4) 災害見舞金
(5) 結婚祝金 (6) 退会給付金 (7) 勤続祝金 (8) 成人祝金

2. 福利厚生事業

- (1) 福利厚生事業

(3) 専門部

1. 総務部
2. 厚生部
3. 体育部
4. 文化部

(4) 実施行事

専門部名	行事名	実施日
総務部	○新年顔合わせ会	中止
厚生部	○職員旅行（日帰り）	中止
体育部	○ソフトバレーボール大会	中止
	○ボウリング大会	中止
文化部	○クリスマスリース作成	中止
	○日帰り旅行	中止

XVIII 付 属 施 設 等

1 群馬県立赤城特別支援学校桐生厚生総合病院内教室

(1) 概要

当院の桐生厚生総合病院内教室は、群馬県立赤城特別支援学校の院内教室で、入院治療を要する児童生徒のために、継続して教育が受けられることを目的として設置されました。

設置に至る経緯は、昭和48年に入院治療中の一教師の献身さと、小児患者の保護者の熱意と病院の理解と協力により、開設されました。

(2) 沿革

昭和49年	3月	桐生厚生総合病院敷地内の旧看護婦宿舎西側1階の7部屋及び洗面所等(延面積175.5㎡)を病弱学級として改装し提供
昭和49年	4月9日	桐生市立昭和小学校病弱学級を開級(許可学級1、教諭2)
昭和50年	4月1日	桐生市立昭和小学校(病弱学級)となる。(許可学級2)
昭和52年	7月9日	分校の後援会「みずはなびの会」が発足
昭和53年	3月27日	分校初の卒業式(2名)
昭和54年	3月3日	中学部設置準備のため小学部の2階7部屋等(延面積175.5㎡)を改装し提供
昭和54年	3月31日	昭和小学校分校が県移管のため廃校
昭和54年	4月1日	群馬県立東毛養護学校桐生厚生総合病院分教室小・中学校設置(延面積351㎡、認可学級4、教諭4)
昭和55年	4月1日	群馬県立東毛養護学校桐生分校に昇格(認可学級5、教頭・教諭5)
昭和55年	7月18日	音楽室の使用(1階1部屋延面積17.6㎡)を開始する。
昭和61年	4月8日	入学式・始業式(認可学級6、教頭・教諭8)
昭和61年	8月28日	桐生厚生総合病院増改築工事に伴う新校舎竣工(平屋1棟面積582.71㎡)
昭和61年	9月1日	第2学期から新校舎で授業(使用)開始
平成元年	4月1日	認可学級6(小学部3、中学部3)教頭・教諭9人となる。
平成9年	4月1日	東毛養護学校及び西毛養護学校の統合により群馬県立赤城養護学校に校名変更となる。
平成17年	4月1日	認可学級5(小学部3、中学部2)教頭・教諭8人となる。
平成21年	4月1日	認可学級5(小学部3、中学部2)教頭・教諭7人となる。
平成27年	4月1日	群馬県立学校設置条例改正により、群馬県立赤城特別支援学校に校名変更し許可学級5(小学部3、中学部2)教諭5人となる。

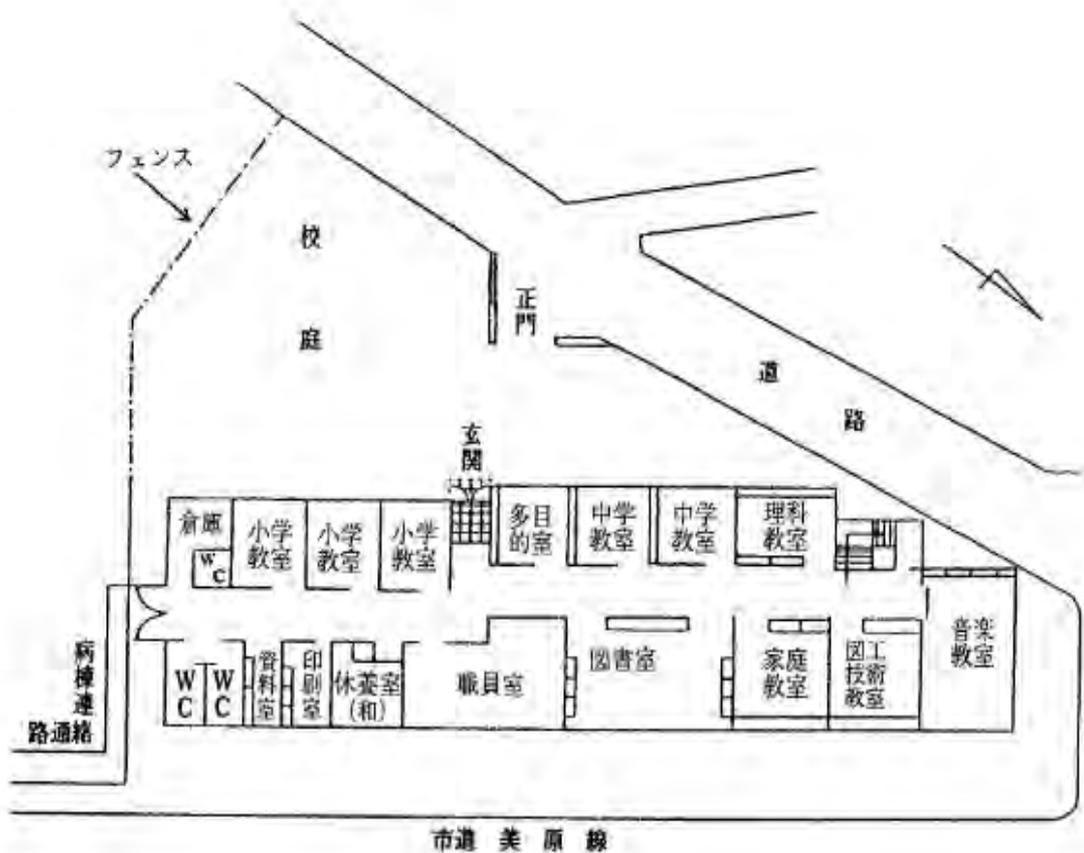
(3) 児童生徒数

年度 内訳	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
小学部	3人	4人	0人	3人	4人
中学部	0人	1人	3人	7人	1人
児童生徒数	3人	5人	3人	10人	5人
延在学者数	3人	5人	3人	11人	5人

(4) 連絡会議

桐生厚生総合病院内教室の円滑的運営に資するため、学校病院連絡会議を毎月(年 11 回)開催して相互理解を深め、児童・生徒の学校及び病院での生活、病状などの諸事項にわたり連携して指導、育成につとめています。

群馬県立赤城特別支援学校 桐生厚生総合病院内教室



2 感染症病床

(1) 病床の現況

平成 11 年 4 月 1 日から感染症及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 38 条第 2 項の規定に基づき群馬県知事から第二種感染症指定医療機関として 4 病床指定され、二次医療圏の中核病院として感染症患者の受入を行っています。

平成 14 年 12 月から翌年 2 月まで、群馬県の補助を受け感染症病棟の改修工事を着工し、平成 15 年 2 月 3 日から新病床の使用許可を受けました。

平成 15 年 12 月 20 日に桐生保健福祉事務所と合同による県内初の S A R S 対策シミュレーションを感染症病床にて試行いたしました。

平成 27 年 6 月 29 日及び 7 月 2 日に中東呼吸器症候群 (M E R S) 患者及び疑似症例来院時対応シミュレーションを同じく試行いたしました。

令和元年 9 月 19 日に桐生保健福祉事務所と合同で、新型インフルエンザ等医療提供訓練を実施し、患者受入れ時のシミュレーションを実施いたしました。

また、令和 2 年 2 月から、新型コロナウイルス感染症の診察に協力しています。

(2) 過去の受入状況

平成 12 年 9 月 21 日～平成 12 年 9 月 23 日 (腸チフス疑似)

平成 13 年 4 月 22 日～平成 13 年 5 月 8 日 (腸チフス)

平成 16 年 12 月 6 日～平成 16 年 12 月 8 日 (細菌性赤痢)

令和 2 年 2 月 11 日～ (新型コロナウイルス感染症)

XIX 編集委員・部員名簿

【編集委員】

役職名	職名	氏名
委員長	院長	加藤 広行
委員	副院長	曲澤 聡
〃	内科部長	菅間 一乃
〃	整形外科部長	斯波 俊祐
〃	リハビリテーション技術科長	勝山 典年
〃	放射線技術科長	磯 昌宏
〃	中央検査科長	梶田 幸夫
〃	栄養管理科長	小林 誠
〃	臨床工学科係長	三木 康正
〃	薬剤部部長	阿部 正樹
〃	看護部部長	粕川 由貴子
〃	医療安全管理者	高橋 紀子
〃	感染対策室看護師	山田 あゆり
〃	事務部長	関口 宏
〃	総務課長	新井 教弘
〃	契約管財課長	宇津野 貴
〃	医事課長	宮田 晋一
〃	地域医療連携室主幹	上原 美奈子
〃	総務課課長補佐	石井 理彦

【編集部員】

役職名	所属	職名	氏名
部会長	脳神経外科	副院長	曲澤 聡
部会員	整形外科	診療部長	斯波 俊祐
〃	リハビリテーション技術科	主査	石川 有理
〃	放射線技術科	科長補佐	小林 誠
〃	中央検査科	主任	大川 恭平
〃	栄養管理科	管理栄養士	辻 ころろ
〃	臨床工学科	主査	加藤 優典
〃	薬剤科	主任	下山 遥
〃	看護部	副看護部長	鈴木 由美子
〃	看護部	看護師長	深井 昌美
〃	総務課	課長補佐	石井 理彦
〃	総務課	課長補佐	劍物 裕司
〃	経営政策課	課長補佐	高草木 有里子
〃	契約管財課	係長	石原 孝泰
〃	契約管財課	主査	福田 豊和
〃	医事課	係長	本田 英之
〃	医事課	主査	古舘 千秋
〃	地域医療連携室	室長補佐	金子 孝進

【事務局】

総務課庶務係主事	大津 恵
----------	------